モ記事内容昔日ノ精彩ナク嘗テ同紙ノ誤(ママ)タリシ文芸記事ノ如キモ何等ノ新味無ク北京第一紙新晨報ニ対比シ見劣リスルコト甚タシ

（付記二）

上　海　発
本　省　3月29日前着

第二三五号

二十八日ノ事時新報ハ順天時報ハ発刊二十餘年ニ及ヒ支那ノ感情ヲ傷ヒタルコト甚シク為ニ購読者モ絶ヘ維持困難トナリ終ニ廃刊スルコトトナレリ順天時報及河北正報ノ廃刊ハ一般ハ奇異トスル処ナルモ一部人士ハ頗ル好感ヲ以テ迎ヘ幣原外交ヲ讃美スルモノサヘアリ又一般漢字紙ハ北平ノ地位変動シ日本トシテハ宣伝機関存置ノ必要ヲ認メサル結果ナリト評シ居レリトノ記事ヲ「關門大吉」ノ皮肉ノ見出ヲ以テ掲載セリ

南京、北平へ転電セリ





# 六　日中通商問題

## 488

昭和4年1月(2)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛(電報)

**王外交部長山東撤兵時期を明示せざる限り関税問題の単独解決には応ぜずとの態度表明並びに田中首相を非難について**

**別電一**　一月二日発在上海矢田総領事より田中外務大臣宛第二号

新輸入税率施行関係往復公文案

**二**　一月二日発在上海矢田総領事より田中外務大臣宛第三号

債務整理問題往復公文案

上　海　発
本　省　1月2日後着

第※一号

往電第一〇〇五号ニ関シ

上村及草野ハ二日朝帰滬シ報告スル処左ノ如シ

一日午前九時外交部ニ於テ周龍光ト会見シ先方係官ヲモ交ヘ本件案文ニ付別電第二号乃至第四号(編注)ノ通リ些少ノ修正ヲ行ヒ債務整理ノ案文ハ我方ノ希望通リ乙案ヲ採用スルコトニ談合ヲ遂ケ一応領事館ニ引揚ケタルカ後刻周ヨリ電話アリ王部長ハ午後三時面会致スヘシトノコトナリシニ付右時刻ニ王ノ官邸ニ赴キタルニ王ハ関税取極ニ関スル案文ハ先刻周司長ト御打合アリタル儘ニテ異議ナシ右ノ通一字一句モ動カスコトナク明日ニテモ交換スルコト一向差支ナシ但茲ニ明白ニ申上ケタキハ日本ニ於テ日支諸懸案ヲ解決スルノ誠意ヲ披瀝セサル以上本件丈ケノ単独解決ニハ断シテ応シ得サルコト之ナリ即チ日本カ日支国交ノ癌タル山東出兵ニ関シ撤兵ノ時期ヲ明示セサル以上本件取極ニモ応シ難キ次第ナリ尤モ撤兵ノ時期ノ明示アラハ即時談合ノ通関税ニ関スル公文ヲ発送スヘシ抑々田中首相ハ一定ノ主義ナクシテ多クノ策ヲ弄スル人ナリ自分ハ其「トリツク」ヲ充分洞察シ居レリ同首相ハ日支懸案ノ解決ヲ計ル誠意ナシ

関税取極ノ如キハ之ヲ以テ内元老ヲ欺キ国民ヲ惑ハシ外国民政府ヲ瞞著シ以テ今期議会ヲ切リ抜ケムトスル魂胆ニ過キス矢田総領事カ衷心ヨリ懸案解決ノ為努力シ居ル誠意ニ対シテハ敬服ノ外ナク従テ本日ハ元来ニテ休養スヘキ日ナルニモ拘ハラス貴下等ノ来寧ヲ聞キ直ニ会見シタル次第ナルカ明ラ様ニ申セハ御気ノ毒乍ラ矢田総領事ハ実ハ田中首相ニ利用セラレ其ノ手先ニ使ハレ居ルモノナリ張作霖若ハ張宗昌ナラハイザ知ラス自分ハ断シテ其ノ手ニ乗ルモノニアラス黄郛モ終ニ乗セラレタリ然レトモ最早自分ハ欺カレサルヘシ首相ノ対支外交ハ山東出兵ト謂ヒ済南事件ト謂ヒ東三省ノ易幟問題ト謂ヒ悉ク観測ヲ誤レルモノナリ而モ尚性懲モナク今又観測ノ錯誤ニ直面シ居レリ即チ三月十五日ノ全国代表大会ヲ期シ動乱勃発シ国民政府ノ崩壊アルヘシト期待シ撤兵問題モ其ノ後ノ形勢ニ依リ態度ヲ決セムトシ居ルモノナリ然レトモ自分ハ茲ニ其ノ期待ノ全然誤謬ナルヲ断言シテ憚ラス同首相カ斯ル妄執ニ捉ハレ居リ懸案解決ノ誠意ナキ限リ関税問題位解決スルモ日支国交ニ益スル処ナク却テ首相ノ策ニ乗セラレタルコトトナルニアラスヤトテ多少酩酊気味ナリシトハ言ヘ外交責任者ニハアル間敷キ暴言ヲ吐キタルヲ以テ上村及草野ヨリ交々駁ヲ如ヘ王ノ推測カ全然誤謬ナルコトヲ説明シ我方ニ於テハ懸案解決ノ誠意アルモ却テ王ノ斯ル態度ニ依リ何時モ解決ノ瀬戸際ニ於テ打壊シトナル次第ヲ指摘シ万一関税問題ニシテ今又斯ル王ノ態度ニ依リ決裂トナラムカ事態ハ重大化シ撤兵問題等ハ問題トナラサルニ至ルヘシト述ヘタルモ王ハ頓著ナク更ニ語ヲ次キ抑々山東駐兵ハ更ニ立場（脱）シ即チ民衆ノ眼中ノ瘡ニシテ之カ為苦悩シ居ルコト想像ノ外ニ在リ然レトモ自分ハ今日迄日本ニ対シ正式ニ撤兵ノ要求ノ公文等送リタルコトナク只管日本ノ大国タル面子ヲ立テ其ノ自発的撤兵ヲ希望シ居タリ

事件発生後各方面ヨリ之ヲ国際聯盟ニ提議スヘシトノ要求アリタルカ東洋ノ問題ハ東洋ニ於テ決スヘシトノ趣旨ニ基キ日支両国ノ間ニ於テ是ヲ是トシ非ヲ非トシ相互ニ誠意ヲ以テ之カ解決ヲ計ラムト努メタリ去レハ某団体カ国際聯盟ニ訴ヘ聯盟ヨリ自分ニ対シ右ハ貴下ノ意思ヲ受ケタルモノナリヤト照会シ来リタル際モ右ハ国民ノ一分子トシテ王正廷ノ意思ナルモ外交部長王正廷ノ意思ニアラスト回答セル程ナリ爾来今日迄日本トノ交渉ニ当リテハ能フ限リ妥協的



態度ヲ以テ充分ノ誠意ヲ示シタルニ拘ラス田中首相ハ故意ニ撤兵遷延ノ態度ヲ執リ居ルノミナラス

先月二十三日ノ大阪毎日ニ依レハ「王氏日本ニ泣キ込ム」ノ見出ノ下ニ如何ニモ自分カ日支交渉停頓ニ困シ果テ醜態ヲ演シ居ルカ如キ字句アリ右ハ日本政府ノ宣伝ナルヘシ自分ハ当年四十何才ノ男子ニシテ不肖乍ラ国民政府ノ外交部長ナリ何ヲ苦シンテ児女ノ如ク泣テ田中首相ニ訴フルノ醜態ヲ演セムヤ又田中首相ハ張宗昌ヲ援助シ之ヲ利用シテ口実ヲ作リ山東増兵ヲ行フトカ一旦撤兵スルモ此等ノ残党ニ擾乱ヲ起サシメ動乱ノ口実ヲ作リ再ヒ出兵セントスル計画アリトノ情報モアリ自分ト雖マサカトハ存スルモ煙ナキ処ニハ火ハ揚ラサルヘシ斯テ日本政府ハ終ニ我苦衷ヲ察セス今日ニ至ル迄撤兵ノ時期スラ之ヲ明示スルヲ避ケ居レリ斯ル態度ハ日本国民全体ノ意思ニアラサルコトハ充分諒解シ居レリ

即チ自分ハ日本ノ元老モ日本国民モ国民政府モ支那国民モ日支関係ノ回復ヲ翹望シ親善関係ノ確立ヲ勢望シ各種案件ノ解決ニ対シ充分ノ誠意ヲ有シ居ルニ拘ラス唯日本ノ現政府及軍閥カ誤レル観測ニ基キ徒ラニ小策ヲ弄シテ益々時局ヲ紛糾遷延セシメ腕ク程深ミニ陥リ脱却ノ途ヲ失シタル現状ナリト認メサルヲ得ス故ヲ以テ率直ニ言ハハ斯ル状況ニ於テ斯ル政府ヲ相手ニ関税問題等解決スルカ如キハ全ク無用ノコトナリトテ演説口調ニテ喋リ立テ上村及草野ハ種々言ヲ挟ミ其反省ヲ促スニ努メタルモ王ハ頑トシテ主張ヲ枉ケス時既ニ六時ヲ過キ之以上争フハ全然無益ナルノミナラス王ノ心底モ充分突止メタリト認メ王ニ対シ然ラハ之ニテ御暇致スヘシト今日会談ノ次第ハ其ノ儘矢田総領事ニ報告致スヘシトテ立チ上リタル処王ハ本件ノ解決ト否トハ全ク国民政府ニトリ実益ナシ仮令此ノ機会ヲ逸シ之カ為嘗テハ列国ニ率先シテ我関税自主ニ賛同シタル日本カ最後ニ取り残サルルノミナラス永久ニ解決不能ナリ日支関係更ニ悪化スルコトアルトモ右ハ自分ノ所為ニアラサレハ之亦致方ナシト挨拶シ最後迄何等誠意ノ認ムヘキモノナカリシ趣ナリ

**編注**　別電第四号見当らず。

（別電一）

上　海　1月2日後発
本　省　1月2日後着

第二号（至急、極秘）
(1)（新税率施行関係公文）
（来翰案）

中華民國外交部長……爲照會事竝送致中華民國海關進口税則一份此項税則定於中華民國十八年二月一日實行相應本部長代表國民政府照會
貴代理公使請煩查照爲荷須至照會者
右照會
日本帝國臨時代理公使堀義貴

外交部長王正廷

中華民國十七年十二月五日

(2)（註）

(イ)冒頭ニ「中華民國外交部長」及後段「爲荷」ノ下ニ「須至照會者」ノ両句ヲ挿入シタルハ先方カ外交部照会文ノ形式ニシタシト主張シタルニ依ル尚後段「代表國民政府」ハ不必要ニ付削除ス

(ロ)進口税税則「一份」トシタルハ支那文ノ語調ヲ整ヘル為ニシテ更ニ其下ニ「此項税則」ノ一句ヲ挿入シタルハ往翰後段ノ「右税率ハ」ト照応セシメタシトノ先方ノ希望ニ依ル

(ハ)末尾ヲ単ニ「外交部長王正廷」トシ「國民政府」ヲ削除シタルハ先方カ本公文ノ冒頭ニ「中華民國外交部長」トアルヲ以テ更ニ繰返ス要ナシト主張シタルニ依ル

(ニ)本公文ハ岡本領事ノ許ニ保管スル公文トスリ替ヘ前ノ公文ハ之ヲ外交部ニ返附スルモノトス

(ホ)岡本領事保管ノ公文添付ノ税率表ハ客年十二月十日附機密第一〇七九号拙信附属ノ税率表ト全然同一ニシテ備考等ノ註ナシ

(ヘ)税率表修正ニ関シテハ張関務署長トノ間ニ内交渉ヲ進メ差支ナキモ最終ノ取極ハ外交部トノ間ニ行フ様致シタシトノ先方ノ希望ナリ

二、（往翰案）

我方提案通即チ「施行致度旨云々」トス
但シ「二月一日ヨリ」ハ英文秘密協定冒頭 "on and after the date of February 1st" ト対応セシムル為一応「二月一日以後」トシ置キタルモ本省ノ御希望ニ依リテ



ハ「二月一日ヨリ」トスルモ差支ナキ旨ノ諒解ヲ遂ケ置キタリ
尚「帝国政府ノ命ニ依ル」ノ一句ハ削除シ宛名ハ「国民政府外交部長王正廷殿」トス

（別電二）

上　海　1月2日後発
本　省　1月2日後着

第三号（至急、極秘）
（債務整理問題公文）
一、来翰案

客年往電第九六八号来翰案乙案ノ通但往電第二号ト同様冒頭ニ「中華民國外交部長」及後段ニ「須至照會者」ヲ挿入シ「代表國民政府」ノ一句ヲ削除シ末尾ニ単ニ「外交部長王正廷」トス

二、（往翰案左記ノ通）

以書翰啓上致候陳者…月…日附以貴翰国民政府ハ無担保及不確実担保ノ債務整理ニ関シ中華民国…月…日左ノ通議決シタル旨並国民政府ニ於テ右議決ヲ切実ニ実行スル用意アル旨御照会相成候

(一)毎年該税率ノ増加税収額中ヨリ少クトモ五百万元（此ノ額ハ之ヲ増加スルコトヲ得）ヲ支出ス

(二)第一項ノ詳細ナル辦法ハ国民政府ニ於テ最近期内ニ債権代表会議ヲ召集シテ之ヲ討議ス

(三)該会議ノ速ナル解決ヲ促進スル為北平関税特別会議ノ討議ニ対シ正当ナル考量ヲ加フヘシ

本使ハ茲ニ右ノ次第了承ノ旨回答致候　敬具

昭和　年　月　日

日本帝国臨時代理公使　堀　義貴

国民政府外交部長　王　正廷殿

489

昭和4年1月2日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**日中関税交渉に対する王外交部長の態度豹変**
**新税率の中国側導入をめぐり一時帰朝打合わせ承認方請訓**

上　海　1月2日後発
本　省　1月2日後着

第五号（至急、極秘）
往電第一号王ノ言説ハ上村及草野ノ報告ニ基キ成ルヘク有リノ儘ヲ記載シ出来ル丈ケ真相ヲ伝フル様努メタル次第ニテ王ハ本官ト南京ニ於ケル最後ノ会見ニ於テ山東撤兵時期ノ明示ナキ限リ一切ノ交渉ニ応セサルモ関税問題丈ケハ本官ト宋トノ間ニ於テ交渉ヲ継続スルニ異議ナシト明言シ乍ラ愈交渉妥結間際ニ至リ突如本件交渉ヲ宋ノ手ヨリ奪ヒ再ヒ撤兵問題ニ引懸ケ依テ一切ノ交渉ヲ決裂セシメ日支国交ヲ悪化セシムルモ顧ミストノ態度ニ出テ無責任者ノ暴論ト何等選フ処ナキ言説ヲ弄スルカ如キ言語同断ト言フ外ナキモ既ニ王ニ於テ斯ノ如キ態度ヲ鮮明ニシタル以上今更其ノ反省ヲ求ムルモ効ナキコト明白ニシテ去リトテ交渉不成立ニ終ルモ二月一日ニ至レハ容赦ナク日本貨物ニ対シ新税率ヲ賦課スヘキハ先ツ疑ナカルヘク之ニ対シテハ豫メ対抗策ヲ考究スルノ要アルコト申ス迄モナシ他方王カ当初ハ日支関税交渉丈ケハ成立セシメムトシ居リタルニ最近ニ至リ態度ヲ豹変シ日支国交ヲ断絶セシムルモ差支ナシトノ意嚮ヲ抱クニ至リシ内情ニ付テハ本官観察ノ次第アルモ電報文書ニテハ腹蔵ナク巨細ヲ尽シ難キ事情モ有之且前掲対応策ニ付テモ至急篤ト御打合致シタク何レニスルモ二月一日迄ニハ帰任ノ必要アルニ付此ノ際二週間位ノ豫定ニテ一時帰朝方至急御発令相成様特ニ御詮議アリタシ
北京へ転電セリ

490
昭和4年1月2日　在安東岡田領事より
田中外務大臣宛（電報）

## 易幟問題未解決のため安東海関に新税率実施の訓令未着について

安東　1月2日後発
本省　1月3日前着

第一号
南京発貴大臣宛電報第七九七号ニ関シ
新税率実施ニ付当地海関側ニ何等カノ訓令アルコトト存シ注意シ居タルモ今ニ右訓令ニ接セル模様ナシ尤モ税関長ノ内話ニ依レハ当地税関ニハ未タ新税率ヲ送付シ来ラス唯十二月十四日附ヲ以テ総税務司ヨリ二月一日ヨリ新税率ヲ実施スヘキ旨ノ関務署名海関監督宛訓令写ヲ郵送シ来リタルニ付海関監督公署ニ右訓令ノ著否ヲ確メタルニ未著ナリト





ノコトナリト右ハ易幟問題未解決ナリシ為中央ニテハ直接在満海関監督ニ訓令スルヲ見合セ居リ奉天側ニテ手間取リ居リ遅延セルモノカト存セラル尚当地海関監督ハ米春霖任命サレ来任シタルモ数日ニシテ去リ更ニ李友蘭任命サレタリトノ説アリ
北京、上海、南京へ転電シ青島、奉天、哈爾賓、牛荘へ暗送セリ

491
昭和4年1月3日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

## 王外交部長は現田中内閣に反対しかつ中国内政からの配慮により関税交渉を中断する態度について

上海　1月3日後発
本省　1月4日前着

第七号（至急、極秘）
往(1)電第五号ニ関シ
王正廷カ愈図ニ乗リ将ニ成立セントスル関税交渉迄モ宋ノ手ヨリ奪ヒテ山東撤兵ニ引掛ケ日支間ノ総テノ交渉ヲ停頓セシムル態度ニ出テタルハ東三省ノ易幟問題トモ関聯シ居リ南北相呼応シテ我カ内閣ヲ窮地ニ陥レアハヨクハ政変ヲ惹起セシメントスル大芝居ナルコトハ既ニ御観取ノコトト存ス国民政府カ斯ル決意ヲ為スニ至レル内情ヲ忌憚ナク暴露スレハ要スルニ国民政府ノ苦手タル現内閣ニ関スル最近ノ情報ハ悲観的ナレハ此ノ際国民政府ノ出様如何ニ依リテハ新内閣ノ出現少クトモ現内閣ノ対支政策緩和等支那ニ有利ナル政局ノ発展アルヘシトノ誤レル期待ニ基クモノナルコト論ヲ俟タス抑々王ハ累次ノ電報ノ通田中総理ノ外交ハ変幻極マリナク捕捉シ難シ等常ニ非難ノ口吻ヲ以テ本官ニ対シテ迄公言シ居リ其ノ他政府要人ノ言説モ同様ニシテ国民政府ノ我カ内閣ニ対スル空気自ラ推察セラルヘキ処本邦ニ於テハ御大典モ済ミ議会モ召集セラレ愈政治季節ニ入リタルヲ以テ現内閣ノ対支政策ニ対スル反対党ノ攻撃モ盛トナレル而已ナラス本邦政客ノ渡来モ頻繁トナリ
現(2)政府ノ対支政策ニ対スル非難嘲罵ノ声モ自然国民政府要人等ノ耳ニ入リ政客ノ辞令ヲ将来ノ黙契アル如ク思込ミタル節モアルヘク此ノ際関税交渉ヲ決裂セシムルニ於テハ田中内閣ハ対支外交ノ失敗ニ依リ瓦解スルニ至ルヘク斯テ国

民政府ニ有利ナル新内閣ノ成立ヲ待テ更メテ日支国交ノ恢復ヲ図ル方可ナラスヤトノ空気国民政府部内ニ漸次醸成セラレタルモノト推測セラル

他方王ハ我政府カ王ノ外交部長就任ヲ喜ハス王排斥ヲ策動シテ失敗シタルモノト信シ居リ王ノ性質トシテ現内閣ニ一矢ヲ酬キントスル念深キモノアルニ依リ政客等ノ指嗾的言説ニ乗セラレ易キハ見易キ道理ナリ而モ近次王ニ対シテハ国民政府部内ニ於テモ相当反対擡頭シテ王ノ地位動揺説サヘ喧伝セラレ三月開催ノ第三次国民大会ニ於ケル王ニ対スル攻撃モ思ヒヤラレ何トカ人気転換策ヲ講セムト考ヘ居ル際

日支関税交渉将ニ妥結セムトシ田中内閣ノ運命ハ此ノ成否ニ懸ルモノト思ヒ込ミ現下支那国民ノ排外感情ノ焦点タル田中内閣ニ対スル強硬政策ハ取モ直サス自己ノ地位保持策ナルヲ信シタル折柄恰モ良シ党及政府幹部ノ意向亦此処ニ在ルヲ以テ之ニ迎合シテ右方針ヲ確立シ突如横合ヨリ本件交渉ヲ宋ノ手ヨリ奪ヒ撤兵時機ヲ明示セスムハ関税取極ニ応セスト大見エヲ切ルニ至レルモノナルヘク王トシテハ此ノ切札ニ依リ万一ニモ撤兵時機ノ明示ヲ贏チ得レハ大手柄ニシテ其ノ地位ヲ確保シ人気ヲ恢復シ得ヘク若又政客等ノ囁クカ如ク田中内閣ノ瓦解トナラムカ之王ノ夢想実現スルモノニシテ大々的成功ナルヘキハ論ヲ待タス

而シテ若シ此ノ大賭博惨敗ニ終リ却テ田中内閣ノ地位ヲ鞏固ニシ其ノ政策ヲ愈硬化セシメ延テハ王自身ノ辞職ヲ餘儀ナクセラルルトセムカ斯ク迄強硬ニ田中内閣ト戦ヒタリトノ履歴ハ却テ国民党内ニ於ケル其ノ地歩ヲ確立シ将来ニ生クル所以ナリト考フルモ彼ノ現在ノ立場トシテハ必スシモ不自然ナラスト推測セラル即チ今回ノ王ノ行動ハ王一身ノ打算的考慮ヨリ出発シ最近ニ於ケル本邦政客ノ辞令ニ惑ハサレ恃ムヘカラサルモノヲ恃ンテ大芝居ヲ打タムトシタルモノナルコトハ想像ニ難カラス

以上ハ上村領事等ノ会見ニ於テ王カ頻リニ元老、枢府等ハ内閣ノ対支政策ニ反対ナリト公言シ上村等カ之ヲ否定スルヤ自分ハ諸君以上ニ日本政局ノ内幕ニ付報告ヲ握リ居レリト得意気ニ語リタル等其ノ際ノ印象其ノ他最近蔣介石ニ会見シタル者ノ談、本邦政客、浪人等ノ所言等ヲ綜合シテ得タル結論ニシテ先ツ大体誤ナカルヘシト観察セラル

右卑見ハ本官帰朝ノ上口頭ヲ以テ申上クル所存ナリシモ其





ノ要点丈ケハ至急御内聞ニ達シ御参考ニ供スルコト然ルヘシト存シ不取敢電報ス

492　昭和4年1月4日　田中外務大臣より　在上海矢田総領事宛（電報）

**新税率導入問題等に関し上村領事をもって一時帰朝方訓令**

第三号*　本省　1月4日後5時30分発

貴電第五号ニ関シ

此ノ際貴官自身帰朝スルコトハ諸般ノ影響面白カラサルモノアルヘキニ付見合ハサレ上村領事ヲ約二週間ノ豫定ヲ以テ至急帰朝セシメ委細報告セシムル様御取計ヒアリ度シ尚二月一日ニ至リ支那側カ一方的ニ差等税強徴セムトスル場合ノ対策ニ関スル腹案等モ併セテ上村ニ申含メ置カレタシ

493　昭和4年1月7日　在中国堀臨時代理公使より　田中外務大臣宛（電報）

**王外交部長の発言により臨時弁法の施行は不可避延ては海関制度自体の危機に至るものと予想されることについて**

付記　昭和三年七月三十一日付　在中国日本公使館　在中国日本公使館手交日中通商航海条約に関する覚書

北平　1月7日後発　本省　1月8日前着

第一六号*

上海宛貴電第三号末段ニ関シ

一、上海発閣下宛電報第一号王正廷ノ陳述ハ一国外交責任者ノ言トシテハ稀ニ見ル暴言ニシテ啻ニ懸案解決ノ誠意ナキヲ示スノミナラス南京発閣下宛電報第七号周龍光ノ弁明ハアルモ此ノ儘ニ放置スヘキ筋合ニ非スト認メラルルニ付厳重反省ヲ促シ置ク必要アルヘキカト思考ス

二、万一日支交渉繞マラサル場合ハ支那側ハ先ニ日支条約廃棄セラレ臨時弁法ヲ適用スヘシト声明シタル関係モアリ必スヤ一方的ニ新税率ヲ施行スヘキカ海関ハ華府附加税ノ場合ト異ナリ「メーズ」カ最高幹部タル場合ハ勿論仮令「エドワーズ」カ居残ル事トナル場合モ必スヤ国民

政府ノ命令ヲ奉シテ海関ニ於テ新関税ヲ徴収スヘキハ殆ト疑ヲ容レス従テ我方トシテハ客年七月三十一日ノ覚書ノ手前モアリ適当ナル措置ヲ講スル必要アル処強力ヲ以テ飽迄海関ニ干渉シ徴税ヲ阻止スルカ如キハ事実日支貿易ノ杜絶ヲ来スヘク又其ノ他諸般ノ影響ヲ考察スレハ到底実行シ得ヘキ処ニ非サルカ故ニ華府附加税ノ場合ノ如ク抗議附ニテ納税セシムル外ナカルヘシ唯大連及安東等ニ於テハ我方ノ強力ヲ以テ差止メ得ル事必スシモ不可能ニ非ス

唯右様ノ措置ヲ執ル場合ニハ国民政府ハ右両海関ノ日本人税関長ヲ罷免シ其ノ他租借地及附属地ノ回収ノ声ハアカルコトトナルヘキモ前記我ノ声明ニ鑑ミレハ我方トシテハ新税率ノ適用ヲ阻止シ然ルヘキ範囲内ニ於テ之ヲ阻止セサルヲ得サルヘシ

三、若シ支那側カ一方的ニ新税率ヲ実施スルニ対シ日本カ現行条約ノ適用ヲ主張スル場合ニハ各国ト支那トノ条約ニハ関税又ハ噸税ハ総テ差別待遇ヲ受ケストノ条項アルニ鑑ミ各国ハ現行条約ノ適用ヲ主張シ得ヘキ立場ニアリ又英仏国境関税ハ日支国境関税ニ均霑シ得ヘク従テ右ノ如キ場合此等諸国ノ意向ヲ豫メ承知シ置ク必要アルヘシ

四、日支関税交渉ニ付テハ其ノ不調ノ場合ノ影響ヲ考フレハ此ノ際交渉ノ円満ニ纏マルコトヲ希望スル カ故ニ此ノ上共努力スヘキハ勿論ナルモ支那側ノ態度ニ鑑ミレハ或ハ不調ニ終ルヘシ其ノ場合ニハ我方ニ於テハ其ノ経過ヲ発表シテ我方トシテハ飽ク迄纏ムル意思ナリシモ支那側ノ態度ニ依リ纏マラサリシ次第ヲ明白ニシ同時ニ我方ノ今後執ルヘキ態度ニ付テモ声明シ置ク必要アルヘシ他方英国及必要アラハ其ノ他ノ諸国ニ対シ豫メ我方ノ態度ヲ内示シテ出来得ル丈ノ協調ヲ保ツノ要アルヘシ英国トシテハ客年在英代理大使発閣下宛電報第二七二号及往電第四号ノ如ク海関制度ノ保全ニ付最モ重キヲ置ケル関係モアリ支那カ一方的ニ新税率ヲ実施シ我方カ此レニ反対シテ海関制度ヲ危殆ニ陥ラシムルカ如キコトハ成ルヘク避ケントスル態度ニ出ツヘキヲ以テ或ハ英国側ハ追テ日支妥結方ニ斡旋スルニ至ルヤモ計ラレサルヘシ

（付記）

※覚書





日本帝国公使ハ日支通商航海条約ニ関スル昭和三年七月十九日附国民政府外交部長ノ照会ヲ接受セル処国民政府ハ右照会ニ於テ明治二十九年締結ノ日支通商航海条約及附属文書並前記条約附属議定書及明治三十六年締結ノ追加通商航海条約及附属文書ハ本年七月二十日ヲ以テ満期ニ達セリトシ為シ新条約ノ締結方ヲ提唱スルト共ニ其ノ締結ニ至ル迄ノ期間ニ在リテハ国民政府ノ宣布セル「中華民國ト各外国トノ旧条約既ニ廃棄セラレ新条約未成立前ニ於ケル臨時弁法」ニ照シ実行ヲ宣布スル旨ヲ通告セリ仍テ日本帝国公使ハ帝国政府ノ訓令ニ基キ左記ノ次第ヲ国民政府ニ回答スルノ光栄ヲ有ス

明治二十九年締結ノ日支通商条約第二十六条ニハ

締盟国ノ一方ハ本条約批准交換ノ日ヨリ十箇年ノ終リニ於テ税目及本条約ノ通商ニ関スル条款ノ改正ヲ要求スルコトヲ得然レトモ若シ最初十箇年ノ終リヨリ起算シ六箇月以内ニ両締盟国ノ何レヨリモ右要求ヲ為サス改正ヲ行ハサルトキハ本条約並税目ハ前十箇年ノ終ヨリ起算シ更ニ十箇年間其ノ儘効力ヲ有スヘシ而シテ其ノ後各十箇年ノ終ニ於ケルモ亦同様ナルヘシ

ト規定シアリテ何等廃棄又ハ失効ニ関スル規定無ク従テ両国間ニ特別ノ合意又ハ協定無キ限リ是レカ廃棄又ハ失効ヲ見ル能ハサルハ勿論ナルノミナラス現ニ右条文ニハ六箇月以内ニ改正商議ノ完了セサルトキハ条約並税目ハ更ニ十箇年間効力ヲ有スヘキ旨明記シアル次第ニシテ条約及税目ノ更ニ十箇年間効力ヲ延長シタルハ何等疑ヲ容ルルノ餘地ナシ右ハ夙ニ帝国政府ノ抱懐セル見解ニシテ曩ニ大正十五年十月北京政府外交部ヨリ通商航海条約改訂方ニ関シテ申出アリタル際之ニ対スル回答ニ於テ先ツ右見解ヲ明ニシ更ニ其ノ後数回ノ商議期間延長ニ当リテモ常ニ此ノ点ニ関シ支那側ノ注意ヲ喚起シ置キタル次第ナリ

以上ノ理由ニ依リ本年七月二十日商議期間ノ満了後ト雖モ前記諸条約及附属文書ハ依然トシテ其ノ効力ヲ有スルモノニシテ従テ商議期間ノ満了ヲ以テ条約ノ満期ナリトスル国民政府ノ見解ニハ同意セムトスルモ能ハサル処ナリ

加之今次国民政府通告中新条約締結ニ至ル迄ノ期間ヲ同政府ノ一方的措置タル所謂臨時弁法ヲ以テ律セムトスルカ如キハ尚有効ナル現条約ノ失効ヲ強ヒムトスルモノニシテ実ニ条約ノ正文ニ違反シ法理解釈上将又国際慣行上有リ得ヘ

カラサルコトニ属スルノミナラス国際信義ヲ無視スルノ暴挙ニシテ帝国政府ノ到底容認シ難キ処ナリ若シ夫レ条約ノ改訂ニ至リテハ帝国政府ハ其ノ屢声明セシ如ク支那国民ノ輿望ト日支間各般ノ密接ナル関係ニ顧ミ是カ商議ニ応スルノ誠意ト用意トヲ有スルモノニシテ右ハ曩ニ北京ノ非公式商議ニ於テ六箇月ノ改訂期間満了後モ屢商議期間ノ延長ニ応シテ改訂ノ達成ヲ計ラムトシタル事実ニ顧ミルモ明カナル次第ニシテ国民政府ノ夙ニ認識スル所ナルヘク此ノ間不幸ニシテ条約ノ改訂ヲ見ルニ至ラサリシハ主トシテ支那国内政情ノ不安定ニ基クモノナルコトヲ特ニ指摘セサルヲ得ス

之ヲ要スルニ条約改訂ニ関スル前記帝国政府ノ態度ハ今日ニ於テモ何等変更セル所ナク従テ国民政府ニシテ此ノ際篤ト国際ノ大義ト日支両国ノ友好善隣ノ関係ニ鑑ミ所謂臨時辦法実施ノ主張ヲ撤回シ現行条約ノ有効ナルコトヲ確認スルニ於テハ帝国政府ハ欣然改訂ノ商議ニ応シ其ノ適当ト認ムル改訂ヲ行フニ吝ナルモノニアラス若シ然ラスシテ国民政府カ依然現行条約ノ失効ヲ主張スルノ態度ヲ固持スルニ於テハ帝国政府ハ条約改訂ノ商議ニ応スルコト能ハサルノミナラス更ニ国民政府ニ於テ飽迄其ノ所謂臨時弁法ヲ一方的ニ強行スルカ如キコトアル場合ニハ帝国政府ハ条約上ノ権益擁護ノ為其ノ適当ト認ムル措置ニ出ツルノ已ムナキニ至ルコトアルヘキヲ茲ニ宣明ス

昭和三年七月三十一日

日本帝国公使館

494

昭和4年1月8日　在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛（電報）

**外交団会議において麦粉課税をめぐり各国と意見相違について**

北平　1月8日後発
本省　1月8日後着

第二三号

天津宛客年往電第一三三号ニ関シ[1]

八日外交団会議ニ於テ本件討議セラレタルカ先ツ首席公使ハ本件課税ハ上海及廣東ニ於テモ実行セラレツツアリ又華府附加税実施ノ際ニハ外交団トシテ何等行動ニ出テサリシ関係アリ（尤モ同附加税ハ輸入税ニ関スルモ今回ノ分ハ内





地税ナル点ニ於テ差異アリ）将又和蘭トシテハ既ニ過般ノ新条約ヲ以テ支那ノ関税自主ヲ認メ右ハ批准ハ未了ナルモ二月一日ヨリ実施ノコトニ約束済ナルカ故ニ特ニ其ノ点ヨリシテ理屈ヲ言ヘハ抗議スルコトヲ得ヘキモ右条約ノ精神ニ反スル行動ヲ執ルコト能ハサル旨ヲ述ヘタル処英、仏、伊各公使之ニ賛成シ米国公使モ之ニ大体賛意ヲ表シ唯本件ニ海関カ関係スルニ至レルハ支那麦粉商人カ内地税納付ヲ拒絶セル為国民政府ノ海関宛命令トナリタル結果ニ依ルモノナルカ最近ノ報道ニ依レハ支那商人モ之ヲ支払フコトトナリタル趣ナリト述ヘタルヲ以テ

本官ハ税関ニ於テ不法課税ヲ徴収スルコトヲ認ムルハ危険ナラスヤト指摘セルニ首席公使及他ノ公使ハ一斉ニ我々ノ見地ヨリスレハ実質的ニ言ヘハ右課税モ最早非法ナルモノニアラスト答ヘ更ニ首席公使ハ唯本件課税ハ支那各地ニ劃一的ニ行ハレ居ラサルニ付承認シ得ストノ趣旨ヲ南京ニ申入レテハ如何ト述ヘタルヲ以テ本官ハ斯ノ如キハ支那側ヲシテ天津ノ例ヲ各地ニ波及セシムルモノニシテ甚タ危険ナリトテ反対シタル上然ラハ此ノ際南京政府ニ対スル抗議ハ見合ハストスルモ米国公使所述ノ如ク支那商人カ既ニ内地税納付ヲ承諾セルモノナラハ最早税関ヲシテ斯ル不法措置ニ関与セシムルノ要ナカルヘシトノ趣旨ヲ南京政府ニ申入レテハ如何ト諮リタル処英国公使ハ其ノ立場上右ノ如キ措置ハ不要ナリ何トナレハ過般ノ新条約ニハ二月一日以後ハ内地税ヲ廃止スル旨ノ約束アレハナリト酬ヒ他ノ公使総テ乗気セス結局本件列国共同措置ハ採用セラルルニ至ラス

天津、上海、南京へ転電セリ

495

昭和4年1月11日　田中外務大臣より
在奉天林総領事宛（電報）

**翟文選奉天省長が輸出二分五厘付加税を日本未承認ゆえ交渉妥結まで排日、対日貿易断絶を命令との情報調査方訓令**

本省　1月11日　発

第五号（至急）

十日貴地発聯合ニ依レハ奉天省長ハ八日省長公署ニ財政庁長、省城税捐局長、交渉署長、省長公署各課長、財政庁各課長等十餘名ヲ召集シ二分五厘附加税率ハ列国既ニ承認セルニ拘ラス日本ノミ依然之ニ反対スルハ不当ナリトテ王交

渉署長ヲシテ再ヒ日本総領事ニ厳重交渉セシムルト同時ニ奉天所属各県知事、各総商会分会、各税捐局ニ訓令ヲ発シ日貨ノ販売ヲ検査シ又日貨ノ購入ヲ禁止セシメ飽迄日本カ反対スルニ於テハ中国全体ニ亘リ日貨ノ売買ヲ禁シ且ツ対日貿易ヲ断絶スルコトヲ決議シタル趣ニテ当地満鉄ニモ同様ノ情報アル処右ハ事実ナリヤ御取調相成度若シ事実ナリトセハ其ハ軽視スヘカラサル事柄ニシテ他ノ地方ナラハ兎モ角東三省ノ中心地ニ於テ省長カ部下ヲ集メテ排日運動ヲ使嗾シ対日貿易ヲ断絶スヘキコトヲ決議スルカ如キハ東三省ニ特殊ノ利害関係ヲ有スル我方ノ到底看過シ難キ所ナルヲ以テ貴官ハ至急學良ニ面会シ右ノ事実ヲ指摘シテ該決議ノ取消ヲ要求スルト同時ニ右ニ付省長ノ発シタル訓令ヲ撤回セシムル様厳重御交渉アリタシ尚状況次第ニ依リテハ貴官ノ裁量ニ依リ學良ニ対シ同省長ノ処分方ヲ要求セラルルモ差支ナシ

北京安東及牛荘へ転電アリタシ

上海南京転電セリ

496

昭和4年1月11日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**メーズの総税務司就任式は国民政府官吏の場合と同様に挙行された事について**

上　海　1月11日後発
本　省　1月11日後着

第二七号

往電第二三号ニ関シ

「メーズ」ノ就任式ハ豫定ノ通十日午前十一時国民政府代表財務庁長、関務処長張福運以下当地支那側官民各機関ノ代表者等約八十名列席ノ上張福運首席トナリ孫文写真及党旗、国旗ニ対スル礼拝、遺嘱ノ奉読、黙禱「メ」ノ宣誓、政府代表ノ訓示等全ク国民政府支那官吏就任ノ形トシテ挙行セラレタルカ「メ」ハ支那語ヲ以テ「予ハ総理遺嘱ヲ遵奉シ党規ニ服従シテ国家ノ法令ヲ奉シ心ヲ忠ニシテ職務ニ努力スヘシ尚経費ヲ節約シ無用ノ人員ヲ設ケス私利ヲ営ミ収賄スルコトナカルヘシ若シ此ノ宣誓ニ違背セル時ハ本党ノ厳格ナル処罰ヲ甘受スヘシ」云々ト述ヘタル由ナリ

北平、南京ヘ転電セリ



497

昭和4年1月11日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**王外交部長関税問題に関する公文交換の実行を承諾について**

上　海　1月11日後発
本　省　1月11日後着

第※二八号

貴電第七号ニ関シ

十一日王正廷ヲ本官官邸ニ呼ヒ午后四時ヨリ同六時半迄会見ノ結果王ハ結局関税問題ニ付テハ既ニ打合済ノ公文交換ヲ直チニ実行スルコトヲ承諾セリ

委細后電ス

498

昭和4年1月12日　在奉天林総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**関税問題に関し公文交換あるも実行されねば飽迄拒絶の方針を取るべきや措置振りに関し請訓**

**付　記**　一月十日付亜通係員研究事項
差等税を一方的に実施された場合の対策について

奉　天　1月12日後発
本　省　1月12日後着

第三八号

上海発閣下宛電報第二八号ニ関シ

王正廷ハ関税問題ニ関スル公文交換ヲ承諾セル趣ニシテ右ハ甚タ結構ノ次第ナルモ万一不幸ニシテ右実行ニ至ラサル場合ヲモ豫想スルノ要アルヘク其ノ場合ニ処スル我方ノ態度ニ付既ニ当地商工会議所ヨリ伺出ノ次第モアリ当方トシテハ出来得ル限リ飽迄拒絶ノ方針ヲ執ルヘキヤ措置振ニ関シ豫メ御指示ヲ得度シ

安東、牛荘、哈爾賓、間島ヘ暗送セリ

**（付　記）**

※差等税一方的実施ノ場合ノ対策

昭和四年一月十日亜通係員研究事項

国民政府ハ昭和四年二月一日ヨリ輸入品ニ付差等附加税ヲ全支海関ニ於テ徴収セムトスルノ計画ヲ有シ既ニ右趣旨ノ布告ヲ発シ場合ニ依リテハ我方ノ承認ヲ得サル場合ニモ一方的ニ之ヲ実施スルニ至ルヤノ虞アリ我方トシテハ固ヨリ斯ノ如キ一方的措置ヲ容認スヘキ限ニアラサルヲ以テ豫メ之カ対策ヲ考究シ置クヲ要スル次第ナルカ之カ対策トシテハ

一、関税正税ノミヲ領事館ニ供托シテ不法課税ヲ免ルル方法

二、主要税関ヲ占領管理シテ不法課税ヲ行ハシメサル方法

三、日本品ニ関スル限リ関税ヲ納付セサルノ方法

四、其他ノ報復手段例ヘハ主要港ノ平時封鎖ヲ行フ方法

五、支那側不法措置ヲ国際司法機関ニ出訴シ右判決ヲ見ル迄ハ我方商人ヲシテ抗議附納税ヲナサシムル方法

六、正式承認ニ至ル迄商人ヲシテ抗議附納税ヲ為サシムル方法

等ヲ考慮スルヲ得ヘシ今右六個ノ方法ニ付其効果並利害得失等ヲ考究スレハ大体左ノ通ナルヘシ尚如何ナル案タルヲ問ハス苟モ強力ヲ用フルカ如キ事態ノ発生スル場合ニハ排日排貨等ヲ覚悟セサルヘカラス

(一)領事館供托ノ方法（地理的或ハ貨物別ニ依ル供托ノ方法ヲ包含ス）

(イ)領事館供托ノ方法ハ税関カ租借地租界其他我方実力ノ及フ範囲内ニ所在スル個所ニ於テノミ実行可能ナリ（大連、安東、青島等）而シテ場合ニ依リテハ現在以上別途ニ強力ヲ用フルノ必要ヲ生スルコトアルヘシ

(ロ)内地仕向貨物ハ内地税局ニ於テ不当課税ヲ徴収セラレ又ハ没収セラルヘシ

(二)税関管理ノ方法

全支ノ税関ヲ我国ニ於テ占領管理スルコトハ事実上非常ナル困難ヲ伴フヲ以テ実際問題トシテハ大連、安東、牛荘、青島等ノ数ケ所ノ税関ヲ管理スルノ外ナカルヘシ右ノ場合ニ於ケル諸般ノ影響ニ付便宜上大体之ヲ(1)支那側トノ関係ト(2)列国トノ関係トノ二ニ別テ考慮スルヲ得ヘシ

(1)支那側トノ関係

(イ)全支ニ亘リ激烈ナル排日排貨運動起リ之カ為ニ我方対支貿易ハ少クトモ一時ハ極メテ困難ナル状況ニ陥





ルヘキノミナラス支那本部方面ノ我居留民ハ遂ニ引揚ノ止ムナキニ至ルコトアルヘシ

(ロ)本件税関管理ヲ行フ場合ニハ我方トシテ相当ノ兵力ヲ行使スルヲ要スルコト勿論ナルカ右ニ対シ支那側カ持久策ヲトル場合ニハ我方トシテハ長期ニ亘リ支那ニ相当多数ノ軍隊ヲ駐屯セシメサルヘカラサルコトヲ覚悟セサルヘカラス

(2)列国トノ関係

(イ)税関管理ノ結果ハ自然支那海関制度ノ系統ヲ紊シ其崩壊ヲ来ス虞アリ従テ海関制度ノ現状維持ニ最モ重大ナル利害関係ヲ有スル英国側ヨリ抗議シ来ルコトアルヘシ

(ロ)関税収入ヲ担保トスル外債ノ関係国側ヨリ担保権侵害ノ故ヲ以テ抗議シ来ルコトアルヘシ

(ハ)外国ノ輸入貨物殊ニ内地仕向ノモノハ我国ノ税関管理ニ依リ我方管理ノ税関ノ外支那側ノ別ニ設クヘキ税局ヲ通過スルヲ要スヘク之カ為手続ノ煩雑ヲ加ヘ商取引阻害セラルルニ至ルヘク之カ為ニ各国側トシテハ我方税関管理ニ対シ好意ヲ示ササルヘシ

(三)日本品ニ関スル限リ関税ヲ納付セサルノ方法

第三国トノ関係ヲ除ク外大体前記(一)及(二)ノ場合ト同様ナリ

(四)平時封鎖

相当ノ海軍力ヲ以テ主要港ヲ完全ニ封鎖スルニ於テハ報復手段トシテ有効ナルヘキモ第三国ノ船舶及貨物ノ出入ハ事実上之ヲ阻止シ難キコトトナルヘシ

(五)国際司法機関ニ出訴スル方法

(イ)国際司法裁判所ニ出訴シテ其公正ナル判決ヲ求メ支那側ノ反省ヲ促スコトハ最モ合法且穏和ナル措置ナルモ右ノ手段ニ依ル解決ハ急速ニ得ヘカラサル憾アリ

(ロ)一方支那側ニ於テハ二月一日ヨリ一方的ニ徴税ヲ実施スルトスレハ右判決決定ノ期ニ至ル迄ノ間ハ我方商人ハ名儀ハ「アンダープロテスト」ナリトスルモ実際上支那側ノ徴税ニ甘セサルヘカラサル次第ナリ

(六)正式承認ニ至ル迄商人ヲシテ抗議附納税ヲナサシムル方法

最モ穏健且容易ナル方法ナルモ我方トシテハ従来ノ方針ヲ一貫スル能ハサル嫌アルノミナラス現在交渉中ノ協定

成立ニ害アリ且今后各種ノ問題ニ付支那側ノ一方的措置ヲ促成スルノ因ヲ為ス等幾多ノ悪例ヲ将来ニ胎スノ虞アリ

499　昭和4年1月12日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛(電報)

**関税問題と済南事件解決交渉の分離を捉え、後者の交渉解決担当方意見具申**

上　海　1月12日後発
本　省　1月12日後着

※第三四号

往電第三〇号ニ関シ

王正廷ノ態度豹変ハ九日崔士傑本官ヲ来訪ノ際貴下カ王部長ニ面会サルルナラハ其態度ノ著シク好変シ居レルヲ認メラルルナルヘシト漏シタルコトアリシモ十一日ノ会見ニ於テ当初ハ王ハ依然タル強硬論ヲ唱ヘ例ヘハ本官カ新税率実施ノ如キ日本ノ同意ヲ経サレハ少クトモ大連、青島、安東ニ於テハ現行五分税ヲ維持セシムヘク其ノ為国民政府ノ収入ハ約年額一千万弗ノ減収トナルヘキノミナラス上海ニ於テモ例ヘハ「マンチエスター」貨物取扱商人カ高税ヲ納メテ日本商品ト競争シ得ル筈ナク必スヤ新条約中ノ最恵国条款ヲ援用シ日本品ニ均霑ヲ主張シ結局二月一日ノ実施ハ不可能トナルヘシト述ヘタルニ対シ

王正廷ハ激昂シ一千万弗ノ如キハ今日ノ国民政府トシテハ目腐金ナリ又国民政府ニハ之ニ対抗ノ方法モアリ列国方面ノ反対セサルコトニ付テハ自分ニ確信アリ日本モ結局追従ヲ餘儀ナクセラルヘシ貴下ノ本件ニ関スル豫想当ルカ自分ノ豫言的中スルカ其ノ内ニ明瞭トナルヘシト述ヘタルカ如ク意気昂然タルモノアリテ到底協調ノ餘地ナシト思ハレタルモ終リニ至リ態度ヲ一変セルハ既報ノ通リナリ右豹変ノ真因ニ付テハ更ニ各般ノ情報ヲ集メサレハ軽々ニ判断ヲ下シ難キモ往電第二九号本官「メイズ」ト会見セル際新税率実施ニ関シ日本不同意ノ場合上海ニ於ケル外国商人ノ態度ヲ質問シタルニ対シ「メ」ハ国民政府カ外国商人ヲシテ新税率ニテ支払ハシムルコトモ仲々困難ナルヘシト述ヘタル事実ニ鑑ミ此ノ点ニ付財政部方面ニテ多少不安ヲ感シ出シ我国トノ協定ヲ必要トスル空気濃厚トナレルコトモ原因ノ一ナルニアラスヤト想像セラル孰レニセヨ王ノ態度ノ変化





ハ当方ニ取リ頗ル好都合ナレハ此ノ好機会ヲ逸セス一気ニ本件解決方御手配アリタク次ニ済南事件並撤兵問題ニ付テハ本官ハ王正廷カ一日ノ所言ノ撤兵時期ノ明示ヲ以テ関税問題解決ノ条件トストノ意味ニアラスト放言セルヲ捉ヘ兎ニ角新税率実施期ノ協定ヲ済マシ日本政府ノ信用ヲ恢復シテ然ル後其ノ解決ヲ図ルコト国民政府ノ為得策ナルヘキコトヲ口ヲ極メテ説キ付ケタル次第ナリ

惟フニ仮令税率問題解決スルトモ山東問題其ノ儘ナレハ両国ノ感情融和セス各地ニ不祥ナル事件続出シ延テハ大事ヲ醸成スルヤモ計リ難ク若シ又幸ニシテ斯ル事態ヲ惹起セストスルモ遷延ニ遷延ヲ重ヌル結果膠済鉄道方面ニモ何日シカ国民政府ノ勢力浸潤シ来リ我派遣兵モ有耶無耶ノ内ニ漸次引揚クルコトトナリ済南事件其ノモノノ解決ハ長ク懸案トシテ閑却サルル事態トナル懼ナキニアラサルヘク此ノ際行懸ヲ棄テ英断ヲ下シ往電第三〇号王正廷ノ提案ニ御不満ナラハ更ニ対案ヲ御指示相成リ本官ヲシテ事件解決ニ当ラシメラレムコトヲ得策カト存ス

右本官一己ノ私情ニ基ク権宜ニアラス過去数ケ月ニ亘ル間断ナキ国民政府代表者トノ接触ニ依リ相当自信ヲ得タルヲ以テ自己推薦ノ非難ヲ恐レス進テ卑見申上クル次第ナリ

500　昭和4年1月14日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛(電報)

**新税率の導入は心配ない旨王外交部長談話について**

上　海　1月14日後発
本　省　1月14日後着

第四〇号（至急、極秘）

往電第三九号王正廷トノ会見ノ際本官ハ王ニ対シ新税率実施問題ニ関シ更ニ念ヲ押シタル処王ハ御心配ニ及ハス右ハ既ニ貴下トノ間ニ話シ済ミナレハ本件ニ関シ再ヒ貴下ヲシテ南京ニ足ヲ運ハシムルカ如キコト絶対ニナシト述ヘタリ為念

北平、奉天、南京へ転電セリ

501　昭和4年1月14日　木下（謙次郎）関東長官より田中外務大臣宛(電報)

**中国側単独で新税率の導入は不可なる旨を北**

## 代大連税関長に説示について

関東庁　1月14日後発
本省　1月14日後着

外第一号

一月十四日北代大連海関長来庁来ル二月一日ヨリ同海関ニ於テ新税率ノ実施方告示致シタキ旨申出テタルニ依リ係官ヨリ政府ニ請訓ノ上何分回答スヘキモ本件ニ関シテハ目下日支官憲上海ニ於テ交渉中ニ付結局其ノ帰結如何ヲ待ツコトトナルヘシ将又関東庁ノ同意ヲ経スシテ海関限リニテ告示ヲ為ストモ関東庁報ニ掲載周知セシメサルヘキヲ以テ事実上効力ヲ発生セサルヘク尚又大連海関ニ関シ根本法タル大連関設置ニ関スル協定並關東州税関仮規則ヲ告示ノ形式ヲ以テ支那側単独ノ意思ニテ変改スルコトハ断シテ容認シ難キ旨説示セシメ置キタリ本件ニ関シ何分ノ御回訓ヲ請フ

北京、上海、南京、奉天ヘ転電シ、牛荘、安東、鐵嶺、遼陽、長春、哈爾賓、天津、青島ヘ暗送セリ

〰〰〰

ナクセラルル次第ナルカ今回愈新税実施ニ対シテハ何等猶豫期間ノ取極ナキモノナルヤ当業者ヨリハ少クトモ二ケ月ノ猶豫ヲ設ケラレタシトノ陳情モアリ何分ノ御回電請フ

安東、牛荘、哈爾賓、間島、長春、鐵嶺、吉林、遼陽ヘ暗送セリ

## 504

昭和4年1月17日　木下関東長官より
田中外務大臣宛(電報)

### 新税率の導入を黙認し海関告示は差し控える事につき照会

関東庁　1月17日後発
本　省　1月17日後着

外第四号

貴電第三号ニ関シ支那側ヨリ公文接到後ハ新税ノ徴収ヲ黙認シ一方海関ノ告示ハ我方ノ正式承認手続完了迄即チ右承認カ二月一日以後トナル場合アルトモ之ヲ差控ヘシムル趣旨ト解シ然ルヘキヤ為念

支、奉天、安東、牛荘ニ転電セリ

## 505

昭和4年1月(21)(編注)日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

### 債務整理についての公文交換終了との在南京上村領事報告

上　海　発
本　省　1月21日後着

第*七一号

南京発本官宛電報第四二号

上村ヨリ

大臣発上海宛電報第三九号ニ関シ

二十一日午前南京着直ニ債務整理ニ関スル来翰ヲ外交部ニ持参シ右御訓令通「並擬定如下辦法云云」ノ「並」ノ一字ヲ「ナイフ」ニテ削取リ其ノ代リニ「茲政府」ノ三字ヲ挿入セシメ王部長ノ同意ヲ得タル後右公文ヲ受領セリ委細帰任ノ上報告ス

**編注**　原文は、一月一日着電とあるが、内容より一月二十一日着電と思われる。





## 506

昭和4年1月21日　在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

### 仏印・中国間の陸境関税制度は数ケ月間更新の予定との仏国公使談話について

北　平　1月21日後発
本　省　1月21日後着

第六七号(至急)

貴電第一六号ニ関シ

仏国公使ハ既定ノ通二十一日早朝出発南下シタルニ付参事官ニ会見御来示ノ諸点ヲ尋ネタルニ対シ其ノ説明スル処左ノ如シ

㈠客年末ノ仏支新条約ハ華盛頓条約トハ全然無関係ニテ作製セシモノニテ先ニ関税会議失敗ニ帰セル今日華盛頓条約ハ眼中ニ置カサル次第ナリ去リ乍ラ既ニ新条約ニ於テ支那ノ関税自主権ヲ認メタル以上ハ陸海関税ノ均一主義ハ仏国側ニ於テ当然之ニ附随シテ認メタルモノニシテ僅ニ拙信公第七号附属公文七頁ノ toutefois 以下ノ例外規定ヲモ受クル事ニ依リ短期間ノ現状維持ヲ約セシメタルニ過キス

㈡而シテ公第七号拙信附属文七頁ニ現状維持ト云フハ仏領印度支那ノ関スル限リ現行一般輸出入税ノ三分ノ二及華盛頓附加税ヲ納ムルノミニテ新税率ハ全然納メストノ意味ナリ

㈢右現状維持ハ最後ノ附属公文ニ依リ三月三十一日限リ打切ラルヘキ次第ナルカ斯テハ実際上不便ヲ生スヘキヲ以テ若シ安南条約ノ商議カ三月末日迄ニ終了セサレハ(「コスム」ノ意見ニテハ到底終了困難ナリト云ヘリ)「マルテル」ハ現状維持ヲ更ニ数箇月更新スルコトニ努力スル考ヘニテ南下シタルモ若シ右不成功トナラハ仏国ハ無論四月一日ヨリハ安南条約成否如何ニ拘ラス陸海均一ノ納税ヲ覚悟シ居ル次第ナリ

㈣新条約ハ支那ハ既ニ批准ヲ了シ仏国ハ先週来電ニ依レハ外相ハ既ニ大統領ニ対シ批准方申請済ナリトノ事ニテ本件ノ如キ簡単ナル条約ニ付テハ多分上下両院ノ議ニ懸ケス大統領限リニテ批准ヲ了スヘシト思考セラレ右批准ノ上ハ新税率ハ勿論二月一日ヨリ実施セラルルニ至ルヘシ

上海、南京へ転電セリ

507　昭和4年1月21日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛(電報)

**債務整理に関する日中新協定は日本の外交的成功との胡の談話について**

北平　1月21日後発
本省　1月21日後着

第六九号

上海発閣下宛電報第六〇号ニ関シ

胡霖両三日前他用ヲ以テ本官ヲ来訪セル際税率ニ関スル日支新協定ニ於テ日本カ支那側ヲシテ新税収入ノ一部ヲ割キテ債務整理ニ充当スルコトヲ約束セシメタルハ世間一般ニ日本ノ外交成功ト認メ居レルカ其ノ理由ハ裏面ニ西原借款アリト推定セラルル為ナリ蓋シ公然ト言及セハ国民政府ハ輿論ノ反対ニ依リ忽チ窮状ニ陥ルカ故ニ西原借款ノ名ヲ出サスシテ兎モ角其ノ整理ノ主義ヲ認メシメタルコトハ日本ノ成功ナリト語レルカ南京政府モ叙上輿論ノ手前南京電報ノ如キ気兼ヲ為スコトヲ餘儀ナクセラレ居ルコトト思ハル上海、南京ヘ転電セリ

508　昭和4年1月25日　田中外務大臣より在中国堀臨時代理公使宛(電報)

**新税率導入承認につき中国側への回答準備方訓令**

**別電一**　一月二十五日発田中外務大臣より在中国堀臨時代理公使宛第二一号

新税率実施についての日本側回答案文

**二**　一月二十五日発田中外務大臣より在中国堀臨時代理公使宛第二二号

五百万元債務整理へ充当方日本側回答案文

**三**　一月二十五日発田中外務大臣より在中国堀臨時代理公使宛第二三号

五百万元債務整理へ充当方日本側回答案文

(英文)

本省　1月25日　発

第※二〇号

往電(ママ)第二七号ニ関シ

本件支那側来翰ニ対スル我方回答案ハ夫々別電第二一号第二二号及第二三号ノ通リト致度目下御裁可奏請中ノ処右ハ二十四日枢密院精査委員会ニ於テ議了セラレタルヲ以テ多





分三十日本会議ニ於テ可決セラレ、同日中ニハ御裁可アルコトト思考ス就テハ右御裁可アリ次第其旨電報可致ニ付貴官ハ当方ヨリノ電報御接到ノ上ハ直ニ同日附貴官ノ名義ヲ以テ前記三件回答ヲ発スル様豫メ御準備置相成度回答御発送ノ上ハ其旨直ニ当方並上海南京ヘ電報アリ度シ

尚本件ニ付テハ一月二十三日附通一機密第八号ヲ以テ貴官宛訓令済ノ処右往信附属公文印刷中ニハ多少誤植アルニ付修正済ノ分更ニ郵送スヘキモ我方回答案中訂正ヲ要スルハ乙号中ノ「送附」ヲ別電第二一号ノ如ク「送付」ト改ムルノミナリ為念

**(別電一)**

本省　1月25日　発

第※二一号

以書翰啓上致候陳者客年十二月五日附貴翰ヲ以テ中華民國海関輸入税々率ヲ御送付相成右税率ハ中華民国十八年二月一日以降施行致度旨御申越ノ趣諒承致候此段照覆得貴意候

敬具

昭和四年　月　日

日本帝国臨時代理公使　堀　義貴

国民政府外交部長　王正廷殿

**(別電二)**

本省　1月25日　発

第※二二号

以書翰啓上致候陳者一月十八日附貴翰ヲ以テ国民政府ハ無担保及不確実担保ノ債務整理ニ関シ中華民国十八年一月四日第十四次国務会議ニ於テ毎年関税ノ新収入額中ヨリ五百万元ヲ支出シ内外債務ノ整理ニ充ツルコト及政府ニ於テ内外債委員会ヲ設立シ専ラ整理ノ責ニ任セムコトヲ議決シタル旨並ニ同政府ハ左ノ如キ辦法ヲ定メ切実ニ実行スルノ準備ヲ有スル旨御照会相成候

㈠毎年新税率ノ増加税収額中ヨリ少クトモ五百万元(此ノ額ハ増加スルコトヲ得)ヲ支出ス

㈡第一項ノ詳細ナル辦法ハ国民政府ニ於テ最近期内ニ債権代表会議ヲ召集シテ之ヲ討議ス

㈢該会議ノ速ナル解決ヲ促進スル為北平関税特別会議ノ討

議ニ対シ正当ナル考量ヲ加フヘシ

本臨時代理公使ハ茲ニ右ノ次第諒承ノ旨回答致候　敬具

昭和四年　月　日

日本帝国臨時代公使　堀　義貴

国民政府外交部長　王正廷殿

(別電ll)

本　省　1月25日　発

※第一三号

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of your note dated January 18th in which, referring to the new Chinese Import Customs Tariff intended to be enforced on and after February 1st, 1929, you confirm the understanding arrived at between Mr. S. Yada, Consul-General for Japan, and Mr. T. V. Soong, Minister of Finance as follows: -

(1)With regard to the Transit Duties, the Chinese Government intends to abolish likin within 2 years from the time New Traiff comes in force. When likin is abolished the Chinese Government will at the same time remove the Transit Duties of the Maritime Customs. Until then the 2.5% Transit Duties will be maintained.

(2)Besides the changes on cigars and cigarettes, tobacco leaf and petroleum, the Minister of Finance informs Mr. Yada that no changes is made on the New Tariff from the rate of the Tariff Schedule submitted to the Chinese Delegate by the Experts Commission of Japan, Great Britain and the United States of America of the Special Coference on the Import Tariff held at Peiping, in a Memorandum dated March 25, 1926.

(3)The collection of the Washington Surtax shall be discontinued when the New Tariff comes in force.

In reply, I have the honour to confirm the above understanding. I avail myself of this opportunity to renew to you, Monsieur le Ministre, the assurance of my highest consideration.

(Signed) Yoshiatsu Hori.





Dr. Cheng Ting T. Wang,

Minister for Foreign Affairs.

509

昭和4年1月29日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛(電報)

**張関務処長来訪日本側申出の新税率修正実施に対し異存ないと述べた旨報告**

上　海　1月29日前発

本　省　1月29日前着

第一〇三号

二十八日午前関務署長張福運本官ヲ来訪シ曩ニ上村領事ヨリ御申出ノ新税率表中修正ノ件ハ日本側ノ新税率承認ノ好意ニ酬ユル為大体承認スルコトニ決定シタルカ文字上ニ多少変更ヲ加ヘタル点アリ御諒解ヲ得度シト述ヘタルニ付本官ハ右ハ真ニ結構ナル次第ナリト応シタル後其ノ場ニテ直ニ加藤副領事ヲ立会ハシメ張ノ所謂修正承認内容ニ付点検セシメタル処支那側ニ於テ修正承認ノ意ヲ表示セルモノハ我方修正要求大別二十五項目中綿布「ケミカルス」「ヘビーケミカルス」ノ三項目即チ税番二十八、同三十四、同三七二、同三七三、同三七八、同三八〇、同三八五乃至三八九、同三九一ノ諸品目ニ過キス又我方トシテ最モ重要視セル税番四十六中ニ八枚繻子等加工物ヲ含マセムトスルモノニハ触レス其ノ代リ四十七番中ニa項「グレー」(七分五厘)b項其ノ他(一割)ヲ新設スルコト等ニシテ其ノ他諸項ニ関シテハ何等考慮ヲ加ヘ居ラサルコト判明セルニ付再考ヲ促シ置キタルカ張ハ右承認ニ引掛ケ青島、大連港輸出附加税徴収問題(往電第一〇四号参照)ヲ仄カシタルヲ以テ然ルヘク応答シ打切リ

他(2)方横竹商務官ハ午後英国商務官「ブレット」ヲ訪ネ本件成行ヲ話シ当方主張殊ニ四十六番修正ニ付援助方懇談シ大体其ノ諒解ヲ得タルヲ以テ其ノ足ニテ直ニ張ヲ関務署ニ訪ネ之迄数回ニ亘リ本問題ニ付討議セルコトヲ繰返シ新税率カ北京七種税率案ト相違セルコトヲ指摘説明シ北京案ニ基ケル我方修正要求全部ノ承認方交渉セシ処既ニ公布済税率ノ修正難ヲ口実ニ容易ニ肯セス僅ニ我方ノ重視セル四十六番ニ付テハ篤ト考慮スヘキヲ約シタルヲ以テ同官ハ話ヲ打切リ引揚ケタル趣ナリ張ハ両三日滞在ノ様子ニ付重ネテ交渉ヲ試ムル筈ナルモ当方ノ得タル印象ヲ以テスレハ既ニ修

正承認ノ意ヲ表示セル前記諸品目ヲ除キ四十六番カ稍餘地ヲ存スルノミニテ全部ニ対スル目的貫徹困難ナルカ如シ尚他国ヨリノ修正要求ニ対シ支那側ニテ取上ケ居ルモノハ目下ノ処英国関係トシテ「ヘビーケミカルス」（日本関係ト同一ノモノ）及米国関係トシテ乾葡萄税番二三九ノ従量ヲ従価ニ変更スルコト等ニ過キス

北京、南京ヘ転電セリ

510　昭和4年1月28日　在上海矢田総領事より　田中外務大臣宛（電報）

**大連、青島で輸出付加税および沿岸貿易付加税徴収との張福運関務処長申入れに対し反駁、抗議方請訓**

第一〇四号
往電（ママ）第一〇三号

上　海　1月28日後発
本　省　1月29日前着

張来訪ノ際従来大連及青島ニ於テハ輸出附加税及沿岸貿易附加税ヲ徴収セサリシ処今回国民政府ニ於テハ二月一日差等税率実施ト共ニ各地ノ内地税局ヲ廃止シ是等附加税ヲ海関ニ於テ徴収スルコトトナリタルカ各地ノ「ユニフオーミテイ」ヲ得ル為大連及青島海関ニ於テモ是等附加税ヲ徴収シタキニ付日本ノ同意ヲ得タキ旨申出テ尚輸出附加税ハ二分五厘ナレ共輸出税其ノモノカ八十年来其ノ儘ニテ現実ニ分位ニ当リ高率ト云フヘカラスト説明シタルカ午后横竹、張往訪ノ上日本トシテハ右附加税ヲ認メ難キハ勿論ニシテ仮令之ヲ認ムルトスルモ国内法上ノ手続ヲ必要トシ従テ二月一日ヨリ実施ノ如キ問題ニナラスト述ヘタルニ張ハ期日ノ点ハ敢テ固執スル次第ニ非サルカ支那政府内部ノ意見ニテハ日本以外ノ列国カ支那ノ関税自主ヲ認メタル今日輸出税ハ支那側ノ自由ニ決定シ得ヘク日本トシテハ之ニ反対スル条約上ノ根拠ナキヤニ認メ居レルモ「カーテシー」ノ点ヨリ豫メ日本ノ同意ヲ求ムル次第ナリト答ヘタル由ナリ右張ノ所論ニ対シテハ日支通商条約第九条英文“Tariff and tariff rules now in force”トアルニ基キ之ヲ反駁スヘク各地海関ニ於ケル徴収ニ抗議スルコト可然ヤニ思考セラルル処本件措置振ニ関シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

北京、南京ヘ転電セリ





511　昭和4年1月29日　木下関東長官より　田中外務大臣宛（電報）

**新税率実施に際し関東庁令および関東州租借地税関仮規則第二三条第一項第一号ヲ改正スルノ要アリ若シ改正ノ要アリトセハ本仮規則発布ニ至ル迄ノ経緯ニ鑑ミ一応支那政府ニ協議スルノ形式ヲ履ムヘキヤ将又如何ナル字句ニ修正然ルヘキヤ等ノ問題ヲ生スル処右ハ本協定カ従来ノ五分税ニ差等税ヲ合算シタル新税ノ徴収ヲ定ムルモノナルヤ或ハ差等税率ハ附加税ノ性質ノモノト見ルヘキヤ又右ハ暫行的ノ性質ノモノナリヤ否ヤ等ノ点ヲモ参酌シ考慮ヲ要スル儀ト思考スルモ上海ニ於ケル交渉ノ経過並交換公文ノ内容等一切当方ニ不明ノ為差当リ判断ノ資料ヲ缺クニ付前記ノ諸点ニ関シ何分ノ儀至急御回電煩シ度シ尚大正十四年水災救済ノ附加税徴収ノ際ハ仮規則ノ改正ヲ行ハス単ニ海関ノ告示ヲ関東庁報ニ掲載シタルノミナリ御参考迄**

外第一三号

新税率ニ関スル公文交換後大連海関ニ於テ新税ノ徴収実施ニ際シ明治四十年関東庁令第三八号關東州租借地税関仮規則第二三条第一項第一号ヲ改正スルノ要アリ若シ改正ノ要アリトセハ本仮規則発布ニ至ル迄ノ経緯ニ鑑ミ一応支那政府ニ協議スルノ形式ヲ履ムヘキヤ将又如何ナル字句ニ修正然ルヘキヤ等ノ問題ヲ生スル処右ハ本協定カ従来ノ五分税ニ差等税ヲ合算シタル新税ノ徴収ヲ定ムルモノナルヤ或ハ差等税率ハ附加税ノ性質ノモノト見ルヘキヤ又右ハ暫行的ノ性質ノモノナリヤ否ヤ等ノ点ヲモ参酌シ考慮ヲ要スル儀ト思考スルモ上海ニ於ケル交渉ノ経過並交換公文ノ内容等一切当方ニ不明ノ為差当リ判断ノ資料ヲ缺クニ付前記ノ諸

512　昭和4年1月30日　田中外務大臣より　在中国堀臨時代理公使宛（電報）

**新税率実施につき中国側へ回答発送方訓令**

本　省　1月30日　発

第*二七号
往電第二〇号ニ関シ

我方回答案三件共本三十日枢密院本会議ニ於テ可決直ニ御裁可アリタルニ付テハ往電第二〇号申進ノ通リ三十日ノ日附ヲ以テ回答発送方至急御取計相成度

尚関係国公使ニ対シテハ先方ヨリノ希望アルニ於テハ往電第一二号英国側ニ対スルト同様極秘扱トシテ本件内容口頭ニテ内報セラレ差支ナシ

513　昭和4年1月㉚日　在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

**新税率実施につき中国へ回答発送した旨報告**

北平　発
本省　1月30日後着

*第九八号

貴電第二七号ニ関シ

支那側来翰ニ対スル回答三件一月三十日附本官名義ヲ以テ発送済

514　昭和4年1月31日　田中外務大臣より
木下関東長官宛(電報)

**中国側新税率は七種差等税にて協定成立海関告示のみにて対処方訓令**

本省　1月31日後4時発

第一八号(至急)

貴電外第一三号ニ関シ

新税率中ニハ特ニ五分税及附加税ノ区別ヲ為シ居ラザルモ今回ノ商議ニ於テハ現行五分税ニ大体北京関税特別会議ノ成案タル七種差等税通リノ附加税ヲ増徴スル諒解ノ下ニ協定成立シタル次第ナルニ付貴電末段大正十四年水害附加税徴収ノ際ニ於ケルト同様仮規則ノ改正ヲ要セズ単ニ海関告示ヲ(海関側ニテ希望スルニ於テハ新税率表ヲ附シテ)関東庁報ニ掲載スルニ止メラレ度(一字分アキ)而シテ㈠右海関告示ノ内容ハ他地方ノ支那海関告示ト同様単ニ「国民政府ノ公布ニ係ル海関輸入新税率ヲ本年二月一日ヨリ実施スル」趣旨ノモノナルニ於テハ特ニ附加税ヲ徴収スル意味ヲ明示セズトモ其儘之ヲ認メラレ差支ナシ尚施行期間ヲ明示スルコトナキ様御注意アリ度㈡関東庁報ニ掲載スル税率表日本訳文ハ一月二十九日通一機密合第一九一号附属別冊乙号ト同一ナルヲ要スル義ナルニ付右未到着ナルニ於テハ税率表ノミハ右到着ヲ待ツテ公表スルコトニ御取計アリ度

北京奉天上海ニ転電アリ度

515　昭和4年1月31日　在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

**関税増収中よりの五百万元は無担保不確実債務整理のみに充当されるとは限らぬこと等について**





第一〇七号

往電第九五号末段ニ関シテハ

㈠五百万元カ無担保及不確実担保ノ債務整理ノミニ限ラレサル事

㈡右五百万元ハ毎年増加スルコトヲ得ル旨明記ナキコト

㈢債権代表会議ヲ開クコトヲ明カニセサル事

㈣関税会議ノ討議ニ対シ正当ナル考量ヲ加フル旨記載ナキコト

ニ対シ注意スルノ要アリト思考ス御気付ノ次第ト存スルモ為念

上海、南京ヘ転電セリ

516　昭和4年1月31日　在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

**宋財政部長は強硬なるも現在まで大連、青島にての輸出付加税徴収を発令していない旨張明について**

北平　1月31日後発
本省　1月31日後着

第一一二号(至急)

往電第一〇四号ニ関シ

三十一日加藤、張往訪ノ際輸出附加税ニ付質問セル処従来中国銀行内ノ内地税局ニ於テ先ツ輸出附加税ヲ支払ヒタル上ニアラサレハ中国銀行ニテ輸出正税ノ受入ヲ肯セサリシモノナルカ二月一日ヨリハ内地税局廃止ノ為中国銀行ニ於テ両者ヲ同時ニ徴収スル手続ヲ執ル旨答ヘ又青島、大連海関ノ輸出附加税徴収ニ付国民政府ニ於テ命令ヲ発セシヤ否ヤ質問セルニ対シ張ハ実ハ此ノ問題ニ付テハ宋部長ノ態度ハ極メテ強硬ナルモノアルモ自分ハ将来ヲ慮リ宋ヲ抑ヘ居ル次第ナリトテ暗ニ未タ発令シ居ラサルコトヲ仄カシ此ノ際日本側ニ於テ好意的考量ヲ加ヘラレムコトヲ望ム旨繰返セル趣ナリ

北平、南京、青島、関東庁ヘ転電セリ

往電第一〇四号青島、関東庁ヘ転電セリ

517　昭和4年1月31日　在漢口桑島総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**二分五厘輸出付加税等を税関で徴収との告示について**

漢口　1月31日後発
本省　2月1日前着

第七八号

当地税関ハ一月三十日附ヲ以テ二月一日ヨリ新輸入税率実施ニ伴ヒ従来附加税局ニテ徴収シ来レル外国輸入品附加税及奢侈税ハ同日以後之ヲ廃止シ沿岸貿易ノ外輸出附加税二分五厘及同輸入附加税一分二厘五毛並支那工場製品輸出税二分五厘ハ同日以後税関ニ於テ徴収ス但シ一月三十一日前ニ到着シ同日迄ニ申告ヲナササル外国輸入品ニ対シテハ旧税ト共ニ附加税及奢侈税ノ徴収ヲ税関ニ於テ取扱フヘキ旨告示ヲ発セリ

北平、上海、南京へ転電セリ

518　昭和4年2月1日　在奉天林総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**奉天側では新輸入税率の導入に平静な状況について**

奉天　2月1日後発
本省　2月1日後着

第一〇〇号

本日ヨリ新関税率実施ニ付当地支那側ハ一般ニ国旗ヲ揚ケ祝意ヲ表シタル外特別ノ催シ無ク極メテ平静ニシテ新聞紙モ上海方面ノ通信ヲ転載セルニ止マリ特ニ論評ヲ加ヘタルモノナシ尚新関税率本日ヨリ実施方三十一日国民政府ヨリ訓電アリタル趣ナリ

北平、上海ニ転電セリ

519　昭和4年2月2日　木下関東長官より
田中外務大臣宛（電報）

**輸出付加税導入差控方北代大連海関長に説示につき今後の対応方請訓**

付記　二月二日発大連商工会議所会頭佐藤（至誠）より田中外務大臣宛電報
二分五厘輸出付加税阻止方電請





関東庁　2月2日後発
本省　2月3日前着

外第一七号

矢田総領事発大臣宛電報第一〇四号ニ関シ

二月一日総税務司ヨリ大連海関ニ対シ同日ヨリ輸出税ニ対シ二分五厘沿岸貿易税ニ対シ一分二厘五毛「フアクトリー、プロダクト」ニ対シ二分五厘ノ附加税ヲ徴収スヘキ旨訓令ニ接シタル趣二日北代海関長ヨリ申出アリ依テ外事課長ヨリ本件ニ付テハ政府ニ請訓ノ要アル処張福運カ横竹ニ対シ期日ノ点ハ敢テ固執スル次第ニ非サル旨語リタル次第モアリ旁政府ヨリ回訓接到迄本件実施ヲ差控ヘラレ度キ旨説示シ置キタル趣ナリ就テハ何分ノ儀至急御回電アリタシ

北平、上海、青島、奉天、牛荘、安東へ転電セリ

（付記）

大連　2月2日後発
本省　2月2日後着

支那政府ハ同国輸出税ヲ更ニ二分五厘豫告ナク即時引上ケ実施ノ由之レ満洲輸出貿易ニ絶大ノ打撃ヲ与ヘ満洲経済界ヲ不振ナラシムルノミナラス我国ニ及ホス影響亦甚大ナルモノアルヲ以テ右計画ヲ阻止スル様速ニ支那政府ニ交渉相成度ク特ニ電請ス

520　昭和4年2月2日　在上海横竹商務参事官より
田中外務大臣宛

**輸出付加税は本邦輸出業者に影響を与える不法課税であることについて**

（2月14日接受）

商機密第三六号

昭和四年二月二日

上海駐在商務参事官
横竹　平太郎〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

輸出税附加税ニ関スル件

今般日支両国間ニ成立ヲ見タル日支関税条約ニ於テハ専ラ輸入税ニ関スル協定ニ限ラレ輸出税ニ就テハ何等触レ居ラザルトコロ支那側ハ輸出税ニ対シテモ是迄通リ附加税ヲ課スベク企図シ居ルトコロ

一、従前「アンダー、プロテスト」ニテ支払ヒ居ル地方ノ

分ヲモ協定スル必要アリ

二、又是迄右輸出附加税ヲ徴収セザリシ満州地方（大連、安東、營口、間島）及青島ニ於テ突然右ヲ徴収セラルルニ於テハ其本邦輸出業者ニ影響スルトコロ僅少ニ非ラザル可ク

之ガ対策ヲ講ズルノ必要アル処別紙ノ通リ意見何等御参考迄ニ及進達候条

御査閲相成度申進ス

写　芳澤公使　北京　上海

（別　紙）

摘　要

輸出附加税（本税ノ二分ノ一）ヲ不法課税トスル根拠

一、結論

輸出附加税ハ現行一八九六年及一九〇三年日清通商条約ニ依リ一八九六年以前泰西条約特ニ

一、南京条約第十条ニ依レバ

「……公平正格ナル輸出入関税其他ノ税率ヲ議定シ云々……」

二、英支条約一八五八年天津条約第二十四条

「関税定率表ハ規定セラレタル輸出税ヲ支払フ……云々」

三、同第二十六条

「南京条約第十条ニ依リ規定セラレタル輸出税ハ英支両国任命ノ委員ニ於テ改訂スベシ云々……」

トアルヲ以テ輸出税ハ支那ガ自由ニ輸出附加税ノ増徴又ハ変更（仮令七分五厘以内タリトモ）ヲナス事ヲ得ザルヤ勿論ナリ

二、抗議

今回日本政府トノ協定ハ輸入税ニ限ルモノニシテ輸出税ニ対シテハ協定ナシ

故ニ前項ノ理由ニ依リ支那ガ自由ニ輸出附加税ノ増徴又ハ変更ヲナスコトヲ得ザルモノトス

三、対策

一、今回ノ日支協定ハ単ニ輸入税ニ関スルモノナル故少クモ輸出附加税ヲ税関ニテ徴収スルコトハ中止スル様勧告スル事

二、支那側之ヲ肯ンゼズバ実力ニテ阻止スルコトヲ得ザ





ル土地ニ於テハ是迄通リ領事館ヨリ抗議シ「アンダー、プロテスト」ニテ納税セシムルノ外ナカルベシ

此増徴見積年額　一九〇九万弗

内大連　二九七万

青島　一〇九万

安東県　六〇万

間島　七万

合　計　四七三万弗

三、青島、大連、安東ハ多少趣ヲ異ニシ且ツ税関側ニ於テモ多少躊躇シ居ルヲ以テ不法課税トシテ海関ヲシテ徴収ヲ中止セシムルヲ可トス

但シ若シ税関側ニ於テ強制手段ヲ取レバ税関長ノ地位モ動揺ヲ免レザルベク外国特ニ英国ハ海関制度ノ動揺ヲ来スヲロ実ニ我方ニ抗議シ来ルヤモ保シ難シ此辺豫メ注意ヲ要ス

四、註

一、従量税ノモノハ殆ンド全部一八五八年ノ協定ナレバ今日ノ時価ノ二分程ニ当ル

二、従価税ノモノハ七分五厘ヲ支払フ事トナル

三、支那外交部ハ条約違反ニアラズト云フ意見ナル由

五、根拠

一、日清通商航海条約第九条（一八九六、七、二一）

「清国ト泰西諸国トノ間ニ実施スル税目及税則ハ日本国臣民ガ清国ヘ輸入シ若ハ日本国ヨリ清国ニ輸入シ又ハ日本国臣民ガ清国ヨリ輸出シ若ハ清国ヨリ日本国ニ輸出スル際一切ノ物品ニ適用スベシ云々」

故ニ其以前ノ該条約ニ均霑ス

二、追加日清通商航海条約第九条（一九〇三、一〇、八）

「日清両国間ニ現ニ存在スル凡テノ条約及約定ノ規定ハ本条約ニ依テ改正又ハ廃止セラレザル限リ茲ニ其ノ効力ヲ確認ス」

トアリ従テ其前年締結セラレタル英支（マカイ）条約第八条第七項

「……五分ヲ超エザル範囲内ニ於テ輸出税ヲ従量税ニ変更スル事ヲ得

但シ六ケ月ノ豫告ヲ以テスルニアラザレバ現行輸出税ヲ増加スル事ヲ得ズ」

ハ日本ニ適用スル事ヲ得ザルノミナラズ一歩ヲ譲リテ「マカイ」条約カ日支間ノ通商関係ニ適用セラルルト仮定スルモ同条約第八条ハ釐金廃止後ト同時ニ実施セラルルモノナレバ今日之ヲ実施スル事ハ条約違反ナル事ハ明白ナリトス

六、附論

若シ支那側ガ「マカイ」条約第八条第七項ヲ引用シテ支那ガ七分五厘以内ハ自由ニ輸出税附加税ノ徴収又ハ変更ヲナス事ヲ主張スル場合ニ対シテハ之ガ日清条約違反タル事前述ノ通リナレバ仮リニ一歩ヲ譲リ「マカイ」条約ハ日支間通商上適用セラルル事ヲ認ムルトスルモ

一、従量税ヲ変更スル場合ニハ六ケ月ノ豫告ヲ要ス

二、従価税品（現ニ五分ヲ支払フ）ニ対シテ更ニ附加税二分五厘ヲ増徴スル事ハ釐金ノ代償ナレバ未ダ釐金ノ廃止セラレザル今日ニ於テハ不法ナリ

三、何レノ場合ニ於テモ豫メ我方ノ承認ヲ受クルノ要アリ突然二月一日ヨリ強行スルガ如キハ不法ナリ

七、参考

一、日清通商条約第九条

支那ト泰西諸国トノ間ニ実施（ナウ、イン、フオース）スル税目及税則ハ日本ノ輸出ニ適用ス

二、一八四二、英支南京条約

三、一八四三、英支南京条約ニ関スル香港宣言

四、英支天津条約第二十四、六、七条

輸出税モ協定ヲ要ス

五、追加日清通商条約（一九〇三、一〇、八）

日清間現存条約ハ本条約ニテ改正又ハ廃止ノモノ以外ハ其効力ヲ確認ス

六、英支（マカイ）条約第八条第七項

輸出税五分以内支那制定自由但六カ月ノ豫告ヲ要ス

七、華府条約

輸出入五分協定国ハ特別関税会議ニ参加スルコトヲ得

521

昭和4年2月4日　田中外務大臣より
木下関東長官宛（電報）

**大連海関での輸出付加税徴収差し控える様尽力方訓令**

本　省　2月4日後5時30分発





第二三号

貴電外第一七号ニ関シ

今回在支公使宛往電第三四号ノ通リ訓令シタルニ付貴官ハ右御含ノ上大連海関ノ本件附加税徴収ヲ差控ヘシムル様御尽力アリ度尚本件処理上ノ参考ト致度ニ付従来満洲各地ニ於テ貴電御来示ノ諸附加税ヲ徴収セル内地税局ノ廃止ノ模様御取調ノ上電報アリ度

522

昭和4年2月4日　田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛（電報）

**輸出付加税の導入は海関制度破壊の端を開くもの故英国と協調して同税の廃止、海関での徴税阻止方訓令**

本　省　2月4日後6時45分発

第三四号

上海発本大臣宛電報第一〇四号ニ関シ

支那側ニ於テハ新輸入税実施ト共ニ内地税局ヲ廃止スル結果従来同税局ニ於テ徴収セル不当輸出附加税及沿岸貿易附加税ヲ海関ニ於テ徴収セントスル計劃アルコト上海汕頭漢口芝罘大連営口間島等ヨリノ電報ニテ御承知ノ通リナル処右附加税ハ華府二五輸入附加税ニ準シテ大正十五年来設定セラルルニ至レルモノニシテ我方ハ条約違反トシテ極力否認シ来レルモノナルノミナラズ今回ノ新税率実施ニ関シテハ輸入貨物ニ対スル華府附加税ノ廃止ヲ約シ居ルニ止マリ之ガ為輸出又ハ沿岸貿易附加税ヲ認メタルモノニ非ルコトハ勿論ニシテ而モ本件ノ如キ不当附加税ヲ海関ニ於テ徴収スルガ如キハ海関制度破壊ノ端ヲ開ク次第ニテモアリ我方ノ承認スル能ハサル所ナリ而シテ英国側ニ於テハ華府輸入附加税ハ之ヲ承認シ居ルモ今回ノ英支条約附属書第三ノ公文ノ精神ニ顧ミ本件ノ如キ附加税廃止ヲ希望スト認メラルルノミナラズ海関制度ノ維持ニハ重要ナル利害ヲ有スル次第ナルニ付テハ貴官ハ以上ノ諸点御含ノ上英国側ト協調シ本件附加税ノ廃止並海関ニ於ケル徴税阻止方ニ付御尽力アリ度シ

本電関東長官及関係領事へ転電セリ

523　昭和4年2月4日　田中外務大臣より在奉天林総領事、在上海上村総領事代理、在青島藤田総領事、在済南西田総領事代理、在ハルビン八木総領事、在汕頭別府領事、在雲南中野領事代理各宛（電報）

**関係国との協調を以て輸出付加税徴収阻止方訓令**

本省　2月4日後7時45分発

合第六九号

今回在支公使宛往電第三四号ノ通リ訓令シタルニ附テハ貴官ハ右御含ノ上関係国側トモ協調ノ上貴地税関側ノ本件附加税徴税ニ対シ極力抗議シ之ガ阻止方御尽力アリ度及本件交渉ノ経過ニ関シテハ随時電報アリ度シ

尚従来貴地ニ於テ華府二五附加税ヲ徴収セル内地税局廃止ノ模様御取調ノ上電報アリタシ

本電本大臣訓令トシテ関東長官並関係領事へ電報セリ

（上海へハ）長江沿岸各領事及蘇州、杭州、福州へ転電シ芳澤公使及横竹ニ転報アリ度

（青島へハ）芝罘へ転電アリタシ

（汕頭へハ）厦門、廣東へ転電アリタシ

（奉天へハ）間島、安東、牛荘へ転電アリタシ

〰〰〰

徴収ヲ出来得ル処迄遣ル積リナリト答ヘタルヲ以テ之ニ対シ然ラハ場合ニ依リテハ現場ニ於テ税関吏ト警察官吏ノ間ニ立廻リヲモ演スルコトトナルヘク而モ海関側ニ於テハ徴税ノ目的ハ到底達シ得ラレサルヘシ就テハ只今実力阻止ノ関東庁ノ意思ヲ表明シタル次第ナルヲ以テ貴下ハ此ノ新事態ニ基キ更ニ総税務司ニ請訓セラルル方得策ニアラスヤ斯ノ如ク海関内部ニ於テ手続上ニ付電報往復ヲ重ネ居ル内ニ日本政府ノ態度モ決定スルニ至ラハ好都合ナルヘシト勧説シタルニ北代ハ遂ニ之ヲ諾シ更ニ総税務司ヨリ回訓アル迄差当リ本日午後ノ告示及五日ヨリノ徴税実施ヲ延期スルコトヲ申出テタリ

事態右ノ如クナル以上政府ノ御回訓接到前徴収ヲ実施セムトスル場合ニハ実力阻止ヲ断行スヘキニ付御諒認アリタク又告示ハ実施ノ第一歩ニシテ万一短時間タリトモ海関側ニ於テ告示ヲ為スニ於テハ何時ニテモ徴税ニ着手シ得ル次第ニテ斯テハ事態ヲ紛糾セシムヘキニ付差当リ私服警官ヲ告示場ニ配備シ事実上告示ヲ阻止セシムルコトト為シタルニ付併セテ御諒承ヲ請フ

尚今回ノ支那側ノ遣口ハ乱暴極マルモノニテ輸出品ニ対スル子口半税ヲ海関附加税トスル点、満洲ニ於テハ輸出品ニ対スル子口半税ナキニ拘ラス他ノ土地並ニ海関附加税トシテ新タニ徴税スル点、大連海関設置ニ関スル規定上並日支条約第九条ノ規定上等ヨリ観テ明カニ条約違反ナルハ勿論経済上邦人ノ蒙ル打撃極メテ大ニシテ其ノ金額数百万円ニ上ルヘキニ付我国ノ満蒙ニ対スル特殊関係ニモ鑑ミ政府ニ於テ断然支那側ノ暴挙ヲ峻拒相成様廟議御決定アラムコト希望ニ堪ヘス

尚亦万々一国策上ノ見地ヨリ支那側今回ノ要求ヲ容レラルルカ如キ場合アリトスルモ輸出業者ノ緊切ナル利害ニ鑑ミ鮮クトモ六ケ月ノ猶豫期間（英清条約第七項但書参照）ヲ与フルコトト為スニアラサレハ当業者間ニ由々敷影響ヲ与フルコト必然ナリト思考ス

在支公使、天津、濟南、青島、上海、南京、漢口、奉天、安東、牛荘、長春、哈爾賓ヘ転電セリ

（付記）

奉天　2月4日後発
本省　2月4日後着





支那政府ハ輸出ニ対シ新タニ二分五厘ノ附加税ヲ徴収セムトシ既ニ各地海関ニ通達シ来リタリト仄聞ス斯テハ当地並奥地邦商ハ農産物輸出ニ付現ニ四、五月迄ノ先物契約アリテ其ノ利益タル僅ニ従価百分ノ一ヲ得ルコトサヘ困難ナルニ拘ラス若シ附加税ニシテ実施サレムカ猶一分五厘ノ損失ヲ免レサルナリ

以上ノ外畜産、鉱産、木材其ノ他輸出品亦之ト大同小異ニシテ其ノ損失計リ知レサルモノアリ既ニ我在満貿易商ハ本月一日ヨリノ輸入税実施ニ一定ノ猶豫期間ナカリシ為不測ノ損失ヲ蒙レルニ今亦突如輸出附加税ヲ徴収サルル如キハ啻ニ我輸出商ヲシテ窮地ニ陥ラシメ満洲財界ニ甚大ナル打撃ヲ与フルニ止ラス我国ニ影響スル処亦大ナルモノアリ仍テ政府ハ速ニ之カ阻止ニ付至急適当ノ措置ヲ執ラレムコトヲ望ム

526　昭和4年2月5日　田中外務大臣より　在上海矢田総領事宛（電報）

**輸出付加税阻止のため厳重交渉方芳澤公使宛訓令**

本省　2月5日後5時10分発

第七五号（至急）

安東発本大臣宛電報第九号及牛荘発本大臣宛電報第七号ニ関シ

芳沢公使ヘ左ノ通

本件課税ノ不当ナルハ北平宛往電第三四号申進ノ通ナルカ特ニ満洲各地ニ於テハ従来内地税局ノ本件徴税ヲ極力阻止シ来レル関係モアリ此際海関側ニ於テ本税ノ徴収ヲ強行スルニ於テハ関係当業者ニ対シ全然不測ノ損害ヲ与フルモノナルニ付テハ貴官ハ之カ阻止方ニ付厳重支那側ト御交渉ノ上結果回電アリ度

北平安東牛荘奉天ヘ転電セリ

本大臣ノ訓令トシテ南京ヘ転電アリタシ

527　昭和4年2月6日　田中外務大臣より　木下関東長官宛（電報）

**満州各地の内地税局廃止の模様について回電方依頼**

本省　2月6日後6時25分発

第二五号
貴電第一九号ニ関シ
一昨年一月当時ノ北京政府ハ大総統令ヲ以テ同年二月一日ヨリ華府関税条約二五輸入附加税徴収ノ為内地税局ヲ設立シ同時ニ貴電外第一七号御来示ノ附加税ヲモ南方政府ト同様徴収セント試ミタルガ大連及安東ニ於テハ之ガ徴収ヲ阻止セル次第アリ往電二三号後段ハ今回新輸入税率承認ノ結果支那側ニ於テハ右内地税局ヲ廃止スルコトニ成リタルニ付満洲各地ニ於ケル右税局存廃ノ模様貴地ニテ判明ノ分電報アリ度シトノ趣旨ナリ尤モ満洲関係領事ヘハ本件取調方訓電済

528　昭和4年2月6日　在奉天林総領事より　田中外務大臣宛(電報)

**輸出付加税徴収否認の条約上の根拠に関する見解回電方請訓**

奉　天　2月6日後発
本　省　2月7日前着

第一一五号
貴電合第六九号ニ関シ
六日内田ヲ交渉員ニ派シ輸出附加税廃止並ニ東三省内ニ於ケル内地税局撤廃要求ノ公文ヲ手交スルト共ニ口頭ヲ以テ篤ト事情ヲ説明セシメタル処交渉員ハ内地税ニ付テハ新税率実施ト共ニ廃止セラルヘキモノト信スルモ果シテ廃止セラレタルヤ否ヤ至急取調ノ上明日回答スヘシト答ヘ輸出附加税ニ付テハ事南京財政部所属総税務司ノ管掌ニ属シ奉天官憲ハ何等ノ訓令ニ接シ居ラサルニ付関係海関ニ付事情取調ノ上我方申出ノ次第ヲ南京政府ニ電報シ訓令ヲ仰クヘキコトヲ約シタリ
尚輸出附加税否認ノ根拠ニ付テハ客年十二月調印ノ英支新条約実施ニ至ラハ「マツケー」条約失効シ従テ同条約ニ均霑シ居ル我国トシテハ本件附加税ニ抗議スル条約上ノ基礎ヲ失フヤニモ思考セラルル処今後交渉上ノ都合モアルニ付本件附加税ヲ不当課税トスル条約上ノ根拠ニ関スル見解本官含迄至急御回電請フ
北平、上海、在満洲各領事、関東庁長官ヘ転電セリ
上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ





529　昭和4年2月(7)日　在安東岡田領事より　田中外務大臣宛(電報)

**輸出付加税阻止を通知する際の問題点につき請訓**

安　東　発
本　省　2月7日前着

第一五号
往電第一二号先年輸入二五附加税実施ノ場合ニハ反対ノ気勢ヲ揚ケ強硬ニ抗議シタル為支那側ニテハ実施不可能ト見日本人ヲ除外スル事トナリタル次第ナルモ南京政府ノ遣口ニ徴シ今回ハ気勢ト抗議ノミニテハ阻止困難ナルヤニ存セラルルニ付愈実施ノ告示ヲ為シタル場合ハ政府ノ命令ナリトテ前記往電ノ通緊急措置トシテ貨車ノ実力ニ依ル通過方税関長ニ通告シ之ニ依リ税関長ニ実施不可能ナル旨ヲ総税務司ニ電報セシメハ或ハ見合ハスコトトナルヤモ計ラレサルモ尚見合ハセサル場合ハ右通告通リ実施スルヨリ外致方無カルヘシ就テハ右布告ヲ為シタル場合
一、満鉄及当業者ニ対シ不当ナル附加税ヲ支払フヘカラサル旨通達シ差支ナキヤ
二、政府ノ命トシテ前記ノ通税関長ニ通告シ差支ナキヤ
三、愈徴税実施ノ場合関東庁及満鉄ト協力シ実力通過取計ヒ差支ナキヤ
四、又告示ヲ為シタルトキ日本側ノ断乎タル態度ヲ示ス為附属地内ニ放棄スルモ一策カト存セラルルニ付場合ニ依リテハ右差支ナキヤ至急御回訓ヲ請フ尚当地経由輸出貨物ハ日本ノモノ約九七「パーセント」ヲ占ム又右実施告示ニ付テハ海関監督ハ未タ同意セス税関長単独ニテ告示差支ナキヤ総税務司ニ電照セルモ未タ回電ニ接セサル趣ナリ
北京、奉天、上海ヘ転電セリ

530　昭和4年2月7日　在南京岡本領事より　田中外務大臣宛(電報)

**輸出付加税問題については宋財政部長から妥協交渉を開始について**

別　電　二月七日発在南京岡本領事より田中外務大臣宛第一三一号
輸出付加税問題に関する宋財政部長との会談内容

南　京　2月7日後発
本　省　2月8日前着

第一三〇号

往電第一三一号ノ如キ宋子文ノ態度ナル以上本件ノ円満解決ハ困難ト思料セラルル処加藤天津領事上海出発前芳澤公使横竹商務官ト協議ノ際成ルヘク妥協ノ方法ヲ講シ事態ヲ紛糾セシメサル様トノ御注意アリタル趣ナルカ他方本官本七日王正廷ニ対シ御訓令ノ趣旨ヲ申入ルルトモ御承知ノ如キ性格ヲ有シ特ニ事態ヲ良ク了解シ居ルヤ否ヤ疑ハシキ王カ本官ノ申入ヲ素直ニ聴従スヘシトモ思ハレサルニ付当初ノ方針通リ今一応宋子文或ハ張福運ヲ説得シ利害ヲ説キテ妥協点ニ付懇談ヲ遂ケタル上王正廷ト会見スルヲ得策ト思料シ特ニ加藤副領事ノミ昨六日宋子文往訪別電第一三一号ノ如キ会談ヲ遂ケ置キタル上約ノ如ク本七日朝本官加藤副領事ト共ニ王正廷ニ面会御訓令ノ次第篤ト申入レタル処王ハ例ニ依リ大連ハ支那ノ領土ナリトカ或ハ同方面ニ於ケル日本商人ヲシテ此ノ際本問題ニ依リヨリ良キ経験ヲ得セシムル事モ一方法ナリ等皮肉ヲ並ヘタルカ結局宋子文トモ談合セシト見エ御来示ニ対シテハ出来得ル限リ友好的考慮ヲ払フヘシトテ王ハ(一)日本政府ニ於テ国民ニ対シ輸出附加税ノ納付方命令セラルルニ於テハ実施後ノ二ケ月間ハ支那側ヨリ之ヲ払戻スカ或ハ(二)二月一日以前ノ契約品ニ対シ附加税徴収ヲ免除スルカノ二ノ内何レカ一ヲ実行スルコトニ同意スヘシト述ヘタルニ付加藤ヨリ本国政府ニ於テ承認スルヤ否ヤハ別問題ナルモ実際的立場ヨリ貴部長ノ考慮ヲ迎ヘント欲スル次第ナリト前提シ契約ハ普通五、六ケ月後ノ取引ニ対シ行ハレ居ル実状ヲ説明シ(二)ノミニ依ル事不可能ニ付少クトモ(一)及(二)ヲ併セ実行スルニ於テハ当業者ノ損害モ多少緩和セラルル旨ヲ述ヘ王ノ再考ヲ促シタルモ王ハ両者ヲ併セ行フ事ハ到底同意出来スト称シ応セス依テ王ニ対シ差当リ本件徴収ヲ実施セサル様措置方要求セル処王ハ此ノ点ニ付宋子文トモ相談ノ上何分ノ処置ニ出ツヘキヲ約束セリ

右様ノ次第ナルニ付今夕発上海ニ赴ク王正廷宋子文ニ対シ芳澤公使ヨリモ篤ト御申入ヲ得度ト存ス

奉天ヨリ牛荘、間島、安東、関東長官ヘ転電ヲ請フ

北平、上海、奉天、青島ニ転電セリ





（別　電）

南　京　2月7日後発
本　省　2月7日後着

第一三一号

往電第一二八号ニ関シ

往電第一三〇号ノ通加藤副領事六日午後九時宋子文ヲ私宅ニ訪ヒ約四十分間懇談セリ加藤ハ実ハ満洲並青島ニ於ケル附加税問題ニ付貴下ノ忌憚無キ意見承リ度シト冒頭シ附加税徴収ハ日本政府ノ未タ承認シ居ラサル処又当業者カ莫大ノ損失ヲ蒙ル事関東庁ヨリノ入電ニ依レハ事態ハ憂フ可キ状態ニアル事而シテ本日張氏ヲ通シ貴下ノ考慮ヲ求メタル処何等当方申入ニ対シ期待ノ結果ヲ得サリシ事ヲ述ヘ右ハ甚タ遺憾ノ次第ニ付再考ヲ煩度シト切出シタルニ宋ハ大連ニ於テ日本側カ実力ヲ以テ阻止セントシツツアル事ハ総税務司ヨリ入報セルカ本附加税徴収ハ政府ニテ決定発令セルモノニ付今更変更出来ス日本カ無理ニ力ヲ以テ拒否スルハ之支那海関行政ノ統一並権限ヲ阻害スルモノニテ其ノ為仮令事端カ発生シ様ト其ノ責ハ日本側ニ於テ負フヘキモノト思フ旨答ヘ不気嫌ニ見ヘタルカ加藤ハ輸出附加税ニ付日本ハ之ヲ不当ト認メ現ニ支那他地方ニ於テモ抗議付ニテ納付シ居ルモノ(ママ)此主義ハ満洲トテ変リ無ク殊ニ満洲ハ特殊事情存在セリ豫メ諒解無ク徴収ヲ開始セラレン事ニ対シテハ主義トシテモ実際経済上ノ理由ヨリシテ已ムヲ得ス阻止セサルヲ得サル次第ニアラスヤト詰リタルニ宋ハ既ニ他地方ニテ抗議付納税ヲ為シ居ル以上満洲ニテ同様支払ハレヌ理由無カルヘシト云ヘルニ付夫レハ満洲ノ地位ト日本ノ利害及同地貿易ノ実際上ヲ知ラヌ為ナリトテ特産物輸出カ恰モ季節ニ当リ商人側ハ五六ケ月先約定ノ下ニ多量ノ手当ヲ為シ居ル事ヲ証明セルモ頑トシテ動ク模様無ク且加藤ニ対シ貴君来談セラレタルハ日本政府ヲ代表シテカ乃至ハ公使総領事ノ命ニ依ルモノカト反問セルニ付

加藤ハ代表者ト云フ地位ニ非サルモ公使、総領事及南京領事トモ相談ノ上本附加税ニ対シ日本政府ハ絶対ニ承認出来サルニ付其ノ旨ヲ伝ヘ貴方ノ考慮ヲ促ス為来レルモノニテ特ニ芳澤公使ハ貴方カ出来レハ自発的ニ良ク本問題ヲ処理シ両国関係ノ円満ニ資セラレム事ヲ希望シ居ラレタル様自分ハ了解シ居ル次第テ此ノ際貴下ノ意ノアル処ヲ承リ紛糾防止ニ努力シ度ク又一面自分ハ商務官トシテ職務上此ノ種

問題ニ付外交交渉ト云フ厳密ナル意味ヲ離レヨリ一層自由ニ友誼的ニ問題ヲ討議シ相互ノ利益ヲ役立タム事ヲ希望シ居ル旨述ヘ宋ハ友誼的ニ討議スルコトハ大ニ賛成テアルトテ今迄ノ不機嫌ナ態度ヲ変シ極メテ打解ケ来レルニ付加藤ハ貴下ハ政府ノ命令タル以上如何ナル事端発生シテモ構ハヌ致方無シト餘リニ冷淡ナル言テアルカ元税関ノ統一税収ノ増加ノ見地ヨリセラレタル事ト思ハルル処今少シク実際的ニ効果ヲ得ル様考ヘラレテハ如何ト突込ミ宋ハ現状ニ於テハ最早何等辨法無シト言ヒ切リ此処ニ於テ加藤ハ自分一己ノ思付トシテハ仮ヘハ本日張氏モ云ハレシ如ク暫ク徴収ヲ延期シ疏通ヲ計リ関係国ノ了解ヲ得テ税率ノ修正ナリ或ハ適当豫告期間ヲ設ケ既約定品ヲ除外スル等ノ辨法モアラムカト思フカ是等ノ点ニ付テモ全然餘地無シトセラルルモノナリヤト反問セルニ宋ハ甚タ困ツタモノタト軽ク歎息シ話ヲ変シテ暫時雑談ヲ交ヘ軈テ宋ハ岡本領事ハ何時王氏ト会フヤト尋ネ明七日朝十一時会見ノ筈ナリト答ヘタルカ宋ハ兎モ角モ少シ考ヘ自分ハ其ノ前ニ王氏ト協議致置ク事ニスヘシト言ヒタルヲ以テ夫レハ甚タ結構ナリ是非王氏トモ相談シ解決ニ尽力アリタシト申入レ話ヲ打切リシカ最後ニ

宋ハ明七日頃上海ヘ行ク積リ今後トモ機会アル毎ニ種々ノ問題ニ付友誼的ニ「サゼッスション」ヲ請フ旨告ケタリ

芳澤公使、商務参事官ヘ御伝アリタシ

奉天ヨリ関東庁、安東、牛荘、間島ヘ転電アリタシ

北平、上海、奉天、青島、ヘ転電セリ

531

昭和4年2月8日　田中外務大臣より
在奉天林総領事宛（電報）

**輸出付加税否認の根拠について**

本省　2月8日後9時発

第二七号

貴電第一一五号後段ニ関シ

輸出附加税否認ノ根拠ハ日支通商条約第九条及同第二十六条ニ在リ即右第九条ニ於テ日支間ニ於テハ清国ト泰西諸国トノ間ニ現ニ実施スル（Now in force）税目及税則ヲ適用スベキ旨ヲ規定シ居リ右ハ一般最恵国条款ノ如ク現在又ハ将来ニ於ケル抽象的権利利益ノ均霑ヲ約セルモノニ非ズ条約締結当時支那ト欧洲諸国トノ間ニ実施セラレ居リタル具体的税率ヲ指示シタルモノニシテ税率表ヲ日支条約ニ附





属セシムルコトヲ略シタル次第ナリ右ハ同第二十六条ニ於テ税目及税則等ハ十箇年毎ニ改訂シ得ル旨ヲ明記セルコトニ照合スルモ明カナル所ニシテ若シ第九条ガ単ナル最恵国約款ナラバ税率ノ有効期間ヲ規定スル筋合ニ非ス尚日支追加条約第一条ニ於テ附加税徴収ニ付両国間ニ特ニ規定シ居ル処右ハ前記九条ニ定ムル協定税率ノ存在ヲ前提トスルカ為ナリ而シテ同条ニ於テハ主義上輸出入附加税ノ徴収ヲ認メ居ルモ右ハ釐金制度ノ全廃ヲ前提トシ居ルノミナラス其ノ税率ノ決定ニ付テハ各条約国（日本ヲ含ム）ト協議ノ上之ヲ決定スルコトヲ要スル旨ヲ規定シ居リ支那側ノ一方的附加税実施ヲ許容シタルモノニ非ス旁々我方ハ支那ト各国トノ条約関係ノ如何ニ拘ハラス全然独自ノ立場ニ於テ本件附加税ヲ条約違反トシテ拒否シ得ル次第ニ付右御承知ノ上今後共厳重抗議方可然御尽力アリ度尚又御来示ノ「マツケイ」条約トハ同条約第八条第六項ヲ指称セラルルモノト思考スルモ同項ハ同条第十五項ノ規定ニ依リ未タ効力ヲ発生シタルコト無シ加之昨年調印ノ英支条約ハ先般批准ヲ了シ効力ヲ発生シタル趣ナルヲ以テ何レニスルモ英支間旧条約ハ問題トナラズ其他ノ諸国就中仏国米国等ト支那トノ新条

約ハ未ダ効力ヲ発生シ居ラサル為仮令日支間ニ前記ノ如キ条約ノ明文無シト仮定スルモ何等支那側今回ノ附加税ヲ正当ト認ムル理由無キ次第ナリ貴官御参考迄

北平上海南京ニ転電セリ在満各領事、関東長官ヘ転電アリ度シ

532

昭和4年2月9日　田中外務大臣より
在安東岡田領事宛（電報）

**輸出付加税徴収を中国側強行の場合輸出正税の領事館供託方訓令**

本省　2月9日後5時40分発

第五号

貴電第一五号ニ関シ

輸出附加税ノ実施阻止方ニ付テハ南京及上海ニ於テ折角交渉中ナルニ付先ツ先方今後ノ出方如何ヲ確ムル要アル処若シ貴地海関側ニ於テ本件実施ノ告示ヲ為ス場合ニハ貴官ハ本税実施ノ条約違反ナルヲ指摘シテ厳重抗議セラレ（本大臣発奉天宛電報第二七号参照）大連同様中央ノ交渉終了迄徴税ヲ見合スコトニ御説得相成度若シ海関側ニ於テ右貴官

ノ御説得ニ不拘附加税ヲ支払ハザル貨物ノ輸出ヲ許サヾルカ如キ措置ニ出ル場合ハ輸出正税ヲ領事館ニ供托セシムルコトニ御取計ノ上（貨物評価ハ出来得ル限リ税関ヲシテ取扱ハシメ供托金ハ貴官勘定トシテ朝鮮銀行ニ預入レラレ度シ）海関側ニ対シテハ供托済貨物ハ通商条約第九条ニ基キ輸出ノ権利アルコトヲ通告シテ貴電(三)ノ通リ実力ニ依ル通過ノ方法ヲ講ゼラレ度右ノ場合貴電(一)ニ就テハ特ニ当業者ニ通達ノ要アラバ単ニ附加税納付ノ義務ナキコトヲ表示スルニ止メラレ(二)ニ就テハ前記措置ヲ執ル以上之ヲ必要トセズ(四)ニ就テハ附属地内ニ於ケル支那側ノ告示ニ限ルコト、致度シ

北京、奉天ヘ及貴電ト共ニ牛荘ヘ転電アリ度シ

上海ヘ転電シ貴電ト共南京(ニ欠カ)及関東長官ニ転電セリ

533　昭和4年2月9日　田中外務大臣より　木下関東長官宛（電報）

## 輸出付加税阻止のため在安東岡田領事および満鉄と協力方依頼について

本省　2月9日後6時発

第二六号

安東発本大臣宛電報第一五号ニ関シ

今般安東領事宛往電第五号ノ通リ訓令シ置タルニ付同地海関ニ於テ輸出附加税実施ノ措置ニ出ル場合ハ安東領事及満鉄側ト可然御協力相成様致度

安東ヘ転電セリ

（欄外記入）

（欄外記入）

関東庁及満鉄支社出張所ト打合済　西（印）

534　昭和4年2月9日　田中外務大臣より　在南京岡本領事宛（電報）

## 輸出付加税に関しあくまで抗議継続方訓令

本省　2月9日後6時40分発

第二三号

貴電第一三〇号ニ関シ

我方カ本件不当課税ヲ承認スル能ハサルコト北京宛往電第三四号ノ通ニシテ且之カ実施ノ為ニハ我方ノ正式承認ヲ要スヘキコト奉天宛往電第二七号ニヨリ御承知ノ通ナリ然ル





ニ本件従来ノ御交渉ニ於テハ在満当業者ノ焦眉ノ急ヲ救フコトニ重キヲ置カレタル為支那側ニ対シ一定ノ猶豫期間ヲ設クルニ於テハ我方トシテ本件附加税徴収ニ異議ナキカ或ハ之ヲ黙認スルカノ如キ感ヲ与ヘ居ルヤニ思考セラルル処如此キハ将来本件措置上甚タ面白カラサル結果ヲ来ス虞アルニ付貴官ハ右御含ノ上今後ノ御交渉ニ当リテハ在満当業者焦眉ノ急ヲ救フコトハ勿論ナルモ我方ガ支那全土ニ亘リ本件抗議ヲ継続スルノ趣旨ヲ失ハサル様御留意相成ル様致度シ

北平、奉天、青島、牛荘、間島、安東、上海及上海商務官ヘ転電セリ

535　昭和4年2月(9)日　在青島藤田総領事より　田中外務大臣宛（電報）

## 輸出付加税阻止のため抗議するも結局納付の外なき状況について

青島発

本省　2月9日後着

第三四号

往電第三〇号ニ関シ

当地税関ニ於テハ九日総税務司ヨリ輸出附加税徴収方電訓ニ接シタルヲ以テ同日附ニテ明十日告示シ旧正月休暇明ノ十四日ヨリ直ニ徴税開始ノ筈ナル趣副税務司ヨリ内報アリタルニ付我方トシテノ不取敢口頭ニテ税関長ニ抗議ヲ申入レタル処本件ニ関シテハ総税務司ヨリ抗議ハ一切中央政府ニ申出ツル様取計方電命ノ次第モアリ税関トシテハ我方抗議ニ対シテ如何トモ処置致シ難キ旨答ヘタル後税関長ハ此ノ種関税ヲ斯ク急速ニ実施スルコトハ全ク貿易ヲ kill スルモノナル趣附言シタリ

右様ノ状態ニテ抗議ノ効果モ覚束ナク去ラハトテ実力ニテ之ヲ阻止スルコトモ容易ナラス結局抗議附ニテ納付スル外詮ナカルヘキカト思考サルル処他トノ振合モアリ別ニ我方トシテ執ルヘキ適当ノ措置モアラハ折返シ御回示アリタシ

北平、上海、南京、関東庁長官ヘ転電セリ

536　昭和4年2月9日　在漢口桑島総領事より　田中外務大臣宛（電報）

## 輸出付加税については中国の関税自主を認め

**ているため何等抗議せざる旨英国領事説明について**

漢　口　2月9日後発
本　省　2月10日前着

第一〇五号

上海宛貴電合第六九号前段ニ関シ

本官昨八日英国領事ヲ問ヒ御電訓ノ趣旨ヲ述ヘ其ノ意見ヲ尋ネタルニ本件ニ付テハ一応在支公使ニ報告シタルカ何等訓令ニ接シ居ラス又自分一己ノ考ニテハ従来英国ハ輸出附加税ニ何等抗議セス納メ来リ更ニ最近ノ関税協定ニ於テ自主権ヲ認メ然モ輸出附加税及沿岸貿易附加税等ニ付何等ノ留保ヲ為シ居ラサルヲ以テ税関ノ右徴収ニ対シ抗議ノ根拠ナク若シ日本側ニ於テ右附加税ヲ拒否シ得レハ最恵国条款ニ依リ之ニ均霑シ得ルニ過キストテ大体ニ於テ在支公使カ堀代理公使ニ述ヘタル処ト同様ナリシニ付英支新関税協定附属書第三公文ノ精神ハ本件ノ如キ附加税ノ廃止ヲ望ミ居ラルルニ非スヤト反問シタルニ右公文ハ単ニ輸入品ニ対スル附加税其ノ他ノ課税ニ関スルモノニシテ輸出品ニ付御尋ネノ如キ意味アリトハ思ハレス尤モ桐油輸出附加税ニ付テハ一般関税ト異ナリ湖北省丈ノ地方税ナルヲ以テ在支公使ヲ経テ南京政府ニ抗議セリト答ヘタリ尚同領事ハ餘談トシテ近来諸外国人ハ勿論在留英国人スラ英国ノ対支方針餘リニ軟弱ナリト評スルモノアル処同領事ノ知レル限リ英国ノ対支政策ハ支那ノ状況ハ両三年来著シク変化シ到ル処ニ国民的新興気分起リツツアルニ鑑ミ実益ナキ権利ノ主張ヲ止メ支那ノ正当ナル新興気運ニハ成ルヘク干渉セス其ノ欲スル儘ニ進マシメ若シ其ノ結果ニ於テ干渉ヲ加フヘキ具体的事実発生ノ場合ハ初メテ英本国ノ輿論モ動カシ得ル時ナルニ付断乎タル政策ヲ講セントスルモノ換言セハ現在ハ「レット、ゼム、トライ」ノ方策ヲ執レルモノト認メ居レリト内話セリ右ハ果シテ英国ノ総括的方針ナリヤ否ヤ明カナラサルモ少クトモ今回ノ輸出附加税問題ニ対スル在支公使及当地領事ノ態度ハ前記餘談ノ趣旨トモ一致スル点ナキニ非ス事情右ノ次第ニ付本件抗議ニ関シ此ノ上英国側ト協調ノ餘地ナキモノト思料セラルルニ付本官ハ単独ニ支那側ニ抗議スルコトトセリ御含ミ置キヲ請フ

北平、上海、南京へ転電セリ





537　昭和4年2月11日　在安東岡田領事より田中外務大臣宛(電報)

**輸出付加税徴税の場合正税のみの支払いに対して実力行使を行うとの回答振りに関し請訓**

安　東　2月11日後発
本　省　2月12日前着

第一八号

貴電第五号ニ関シ

曩ニ税関長ト内相談ノ際中央ノ交渉終了迄徴収ヲ見合スコトハ税関長ノ権限上不可能ナルニ付当方ヨリ大連同様実力行使ノ意思ヲ通告シ税関長ヨリ日本側ニテ実力行使ノ場合税関トシテハ徴収ノ途ナキ旨総税務司ニ打電セハ或ハ大連同様ノ取扱トナルヤモ計ラレストノコトナリシニ付往電第一五号ノ通申進メタル次第ナルカ本日税関長ヨリ公信ヲ以テ日本側ハ税ノ Authority ヲ無視シテモ貨物ヲ通過センムル計画ナル噂アルモ右事実無根ナル旨言明ヲ得タシト申来レリ

右ハ回答ヲ与ヘサルモ差支ナキ儀ナルモ此ノ際日本ハ正税ノミ支払ヒテ輸出ヲ為ス権利アリ此ノ権利ト(ハカ)実力ニ依リテモ行使スヘキ旨回答スルモ一策ト存セラル何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

在支公使、奉天、上海、南京へ転電シ牛荘、関東庁へ暗送セリ

538　昭和4年2月12日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛(電報)

**ランプソン英国公使より輸出付加税に対する英国政府の意見接到の旨申越について**

北　平　2月12日後発
本　省　2月12日後着

第一五三号

往電[1]第一三三号ニ関シ

十二日英国公使ヨリ最近本官ノ貴電第三四号御訓令執行ニ対スル本国政府ノ意見接到セリトテ要領左ノ如キ aide-memoire ヲ送付越セルト共ニ右ハ口頭ヲ以テ説明セルモノト看做サレタキ旨申越セリ

(一)英国政府ノ意見ニ依レハ英国トシテハ輸出税及沿岸貿易税ノ増徴ニ反対スルハ賢明ナラス且英国ハ単ニ新条約

「アネクス」三ニ依リ輸入ニ対シテ制限ヲ設ケタル外支那ニ関税自主権ヲ附与セルカ故ニ事実上右ノ如キ措置ヲ執ルコト能ハサル立場ニ在リ

(二)日本ニ輸出セラレ或ハ日本人ニ依リテ輸出セラルル貨物ニ対シテ増税カ賦課セラレサル場合ニ英国ノ為シ得ル最大限ハ支那ヲシテ総テノ商業及総テノ港ニ於テ劃一税率ノ輸出税及沿岸貿易税ヲ徴収スルコトヲ容易ナラシムルカ如キ諒解ヲ日支間ニ成立セシメムカ為ニ英支新条約ノ最恵国条款ニ基キテ支那政府ニ対シ照会ヲ為スコト是レナリ

(三)英国政府ハ日本カ(イ)支那ノ輸出税率ヲ出来得ル限リ低率ナラシメ且(ロ)支那ヲシテ締約国双方ノ承認ニ依リ変更セラルル迄条約ノ規定ヲ遵守セシメムトスルコトヲ極メテ重要視シ居ル次第ヲ認識スルモ

同時[2]ニ右ノ目的ヲ達成スルニハ日本政府ノ提議セシ政策ト異ル政策ニ依ル方却テ効果アルニアラスヤト思ハシム即チ日本ノ主張スル条約ハ輸出税率ヲ従価五分ト定メタルモ支那ニ取リテハ輸出税率ヲ低クスルコトカ彼等自身ノ経済的利害トナルヘキカ故ニ従来支那ハ従量税率ノ引上ヲ企テタルコトナシ而モ右従量税率ハ事実大部分ハ従価五分ヨリモ低ク即チ一九二七年ノ海関統計ニ依ルモ平均輸出税率ハ二分乃至五分ナルノミナラス重要品ニ至リテハ実ニ一分五厘乃至二分ニ過キス従テ日本並ニ英国等ハ結局ニ於テ条約上ノ権利ニ立脚シテ交渉スル必要ヲ見スシテ低キ輸出税率ヲ獲得シ得ヘキヤニ認メラル何トナレハ仮令現行輸出税率ヲ五割増シトスルモ尚条約ニ基ク五分ノ制限内ニ在ルカ故ニ日本ハ何等叙上ノ諸点ヲ犠牲ニ供スルコトナクシテ今次ノ増徴ヲ承認シ得ヘキ何等「フオウミユラー」ヲ案出スルコト困難ナラサルヘシ

上海、南京、漢口、廣東、奉天、天津、青島、哈爾賓、汕頭、芝罘、牛荘、間島、安東、関東庁へ転電セリ

539
昭和4年2月13日　田中外務大臣より
在安東岡田領事宛(電報)

**輸出付加税中国側強行の場合には領事館にて輸出正税供託方訓令**

本省　2月13日前11時30分発

第八号



貴電第一六号及第一八号ニ関シ

海関側ノ告示ニ対シテハ貴官ハ往電第五号ノ趣旨ニヨリ至急厳重抗議セラルヽト共ニ（右抗議文ニハ通商条約第九条ヲ引用スルノミニテ差支ナシ）支那側カ尚其ノ態度ヲ改メザル時ハ輸出正税ヲ供托セシメテ輸出通過ヲ計ルヘキ旨併セテ通告セラレ度（一字分アキ）尚往電第五号ノ供托案ハ税関ノ正当ナル権限ノ行使ヲ否認セントスルモノニ非ズ税関側ニ於テ輸出正税ノミノ受領ヲ肯セズ条約ヲ無視スル附加税ノ納入ヲモ強要スル場合已ムヲ得ザル措置トシテ領事館ニ供托ヲ行ハシメントスルモノニシテ供托金ハ結局支那側ニ交付スベキモノナルハ勿論ナリ右ノ趣旨ヲ支那側ニ誤解ナキ様徹底セシメ置カレ度

北平、奉天、牛荘、関東庁へ転電アリタシ

上海南京へ転電セリ

540
昭和4年2月13日　田中外務大臣より
山梨（半造）朝鮮総督宛(電報)

**輸出付加税に対する抗議の状況について**

本省　2月13日後6時20分発

第五号

支那側ニ於テハ新輸入税率実施ト共ニ内地税局ヲ廃止スルコト、ナリタル為従来同局ニ於テ徴収シ来リタル輸出附加税、沿岸貿易附加税及工場製品ニ対スル附加税ヲ改メテ海関ニ於テ徴収セント計画シ二月一日ヨリ殆ト支那各地ニ亘リ之ヲ実施スルニ至リタル処右附加税ハ従来我方ニ於テ条約違反トシテ極力否認シ来レルモノナルノミナラス今回ノ新税率承認ニ当リテモ何等之ヲ認メタルモノニ非サルヲ以テ我方ハ目下支那側ニ対シ厳重抗議中ナルカ就中大連ニ於テハ現ニ実力ヲ以テ之ヲ阻止シ居リ又安東ニ付テモ曩ニ同地領事宛本税実施ニ対シ厳重抗議スルト共ニ若シ海関ニ於テ之ニ応セサル場合ニハ正税ヲ領事館ニ供託ノ上輸出手続ヲ実行スル様訓令シ置キタリ御参考迄

541
昭和4年2月13日　在ハルビン八木総領事より
田中外務大臣宛(電報)

**中ソ国境に関しては三分の一減税廃止とのハルビン税務司布告について**

付記　一月十三日発加藤(明)哈爾賓商業会議所会頭

より田中外務大臣宛電報
陸境特恵関税撤廃阻止方請願

ハルビン　2月13日後発
本　省　2月13日後着

第四三号

当地税務司ハ二月十二日附ヲ以テ総税務司ノ電命ニ依リ露支国境貿易ニ対スル三分ノ一減税ハ自今之ヲ廃止スル旨十三日布告ヲ発シタリ右不取敢北平、奉天、上海、安東ヘ転電シ長春、吉林ヘ暗送セリ

（付　記）

ハルビン　2月13日後発
本　省　2月13日後着

哈爾賓海関ハ総税務司ノ指令ニ基キ来ル十四ヨリ(日欠カ)陸路国境関税三分ノ一減ノ特典ヲ撤廃スルコトトナリ十三日布告ヲ出ス由確聞ス重ネ重ネノ暴戻ニテ北満経済界益々混乱ニ陥ル阻止方ニ付御尽力ヲ請フ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰



542

昭和4年2月13日　在安東岡田領事より
田中外務大臣宛（電報）

**輸出正税領事館供託に伴う強制通関実行に関する関係者との協議結果について**

安　東　2月13日後発
本　省　2月14日前着

第二〇号

貴電第五号ニ関シ

来ル十六日ヨリ強制通関実行ニ関シ関係者トモ協議ノ結果大体左ノ通ト致度御承認ヲ請フ

㈠支那税関ニテハ第二日以後貨物ノ検査ヲ拒ムコトトナルヘキ模様ニ付朝鮮税関ニ於テ検査ノ際朝鮮税関様式ノ申告書二通ニ検査済ノ捺印ヲ為シ一通ヲ当館ニ保管シ置クコトニ朝鮮税関長ノ諒解ヲ得タリ同時ニ支那税関様式ノ申告書ヲモ提出セシメ置キ後供託料ヲ支那側ニ渡ス場合ノ参考トスルコト

㈡強制通関ハ日本人ノ荷主タル鉄道貨物ニ限ルコトトシ支那人外国人ヲ除外スルモ万一外国人カ本国領事ニ正税ヲ供託シ依頼シ来ル場合ハ同一取扱ヲ為スコト但シ該本国



ト支那トノ条約上ノ関係ヲ考慮スルコト旅客手荷物ニ付テハ実際上問題トナルコト稀ナルヘキモ万一二分五厘附加税ヲ拒ムモノアル場合ハ前記貨物ト同一ノ取扱ヲ為スコト

㈢貨物ノ数量其ノ他課税ノ標準トナルコトニ付テハ朝鮮税関員ヲシテ検査セシメ又税額ノ決定ハ満鉄ノ通関代辦ヲ為シ居ル国際運輸会社ノ社員二名ヲ当館嘱託トシテ之ニ行ハシム

㈣供託正税ハ朝鮮側ノ税金取扱ノ為朝鮮税関構内ニ出張シ居ル朝鮮銀行員二名ヲ当館ニ嘱託トシテ之ヲ取扱ハシメ金銀相場ノ差ニ依リ他日供託総額ヲ支那側ニ交附スル際海関両トノ間ニ開ヲ生センコトヲ慮リ納税ハ一切清幣銀ヲ以テセシムルコトトシ（実際ハ多クハ満洲銀行ノ小切手トナルヘシ）当館ノ委託ニ依リ鮮銀之ヲ保管ス

㈤当館員右ノ両証ニ館印ヲ押捺シ館印捺印済ノ受領証ヲ以テ輸出許可証ト看做シ満鉄ハ之ニ依リ貨物ヲ発送ス但シ右ノ通リ貨物ヲ通過セシムヘキ旨当館ヨリ豫メ満鉄側ニ書面ヲ以テ伝ヘ置クコト

㈥橇ニテ氷上ヲ通過スル鮮人ノ少額ノ荷物ハ附加税ヲ納付スルヨリ外致方ナカルヘシ

㈦右国際運輸及鮮銀ノ嘱託ニハ多少ノ謝礼金ヲ出スコトトナルヘシ

満鉄ニテハ後日ノ為ヲ慮リ荷主ヨリ豫メ二分五厘附加税ニ相当スル金額ヲ徴収シ置キタキ旨提議アリタル処右ハ支那側ニ当方ノ腹ヲ見透サルル虞アルヲ以テ成ルヘク見合ス様回答シタルニ満鉄ニテハ本社ニ報告ノ結果閣下ヨリ満鉄社長ニ対シ右徴収見合方電請アリタキ旨申出タリ右ニ対シ可然御取計ヲ請フ

北京、上海、南京ヘ転電シ奉天、牛荘、関東庁長官ヘ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

543

昭和4年2月14日　田中外務大臣より
在奉天林総領事宛（電報）

**将来的に陸境特恵関税制度廃止は致し方ないと思われる故当業者に特恵存置の期待を持たさぬよう訓令**

本　省　2月14日前10時30分発

第二八号

貴電第一二一号ニ関シ
陸境軽減率ハ日支間現行協定（大正二年鮮満国境通過貨物減税取極及大正八年間島方面陸境関税軽減交換公文）ニ依リ実施セラレツツアルモノナルニ付英仏等ノ特恵税率廃止承認ニ拘ラス将来日本側ノ承認ヲ得テ前記協定廃止セラルル迄ハ現制度維持セラルヘキ次第ニ付右ニ御承知相成度尚今後条約改訂ノ商議ヲ為ス場合ノ本件対策ハ目下考究中ナルモ御承知ノ如ク我方ハ華府関税条約ニ於テ主義上海陸両境関税一律ノ原則ヲ認メ居リ且各国ニ於テ既ニ右廃止ノ取極ヲ締結セル関係モアリ支那側ヲシテ満鮮国境ニ限リ何等緩和策ヲ認メシムルコトハ相当困難ナリト思考セラルルニ付此際当業者ニ対シ条約改訂後ニ於ル特典存置ノ期待ヲ懐カシムルカ如キコトハ成ルヘク避クル様致度右貴官限リノ御含迄

（欄外記入）
北平及安東ニ転電アリ度シ

（欄外記入）
本電間島、吉林、関東長官、上海、南京ニ転電スミ

544　昭和4年2月14日　在安東岡田領事より　田中外務大臣宛（電報）

**輸出付加税については氷上通過および鉄橋を往来する者の物品に対してのみ徴税を認め鉄道貨物は除外することで妥協したき旨請訓**

安東　2月14日後発
本省　2月14日後着

第二一号（至急）
往電第一九号ニ関シ
其ノ後モ税関長ト種々懇談シタル結果弁法トシテ税関側ヨリ抗議附ニテ輸出許可証ヲ出スコト即チ税関ヨリノ納税告知書ニハ附加税ヲモ記入シ当業者又ハ領事館ニテ附加税ニ対シテハ支払拒絶ノ旨記入シテ正税ノミヲ納入シ税関ニテハ附加税未納ニ対シ抗議附ニテ輸出許可証ヲ出スコトトシタキ旨税関長ヨリ総税務司ニ電報アリ就テハ総税務司ニ於テ承認セサル場合ハ往電第二〇号(六)ノ橇ニテ氷上ヲ通過スル鮮人ノ荷物及鴨緑江鉄橋ヲ往来スル人ノ携帯スル物品（大部分ハ五銭十銭ノ税金ヲ納ムル少額ノモノ）ニ対シテハ当方ヨリ抗議附ニテ二分五厘ヲ納付スルコトヲ約シ鉄道



貨物ハ前ノ通取計フコトニ妥協ヲ試ミ度右差支ナキヤ至急御回電ヲ請フ右ニ案トモ支那側カ承諾セヌ場合ハ往電第二〇号ノ通取計フ外ナシ
在支公使、上海、南京、奉天、牛荘、関東庁長官ニ転電セリ

545　昭和4年2月15日　田中外務大臣より　在安東岡田領事宛（電報）

**輸出付加税の領事館供託手続につき訓令**

本省　2月15日後7時発

第九号（至急）
貴電第二〇号ニ関シ
往電第五号供託案実施手続トシテハ貴地ニ於テ汽車積ノ儘通過スル貨物タルト一旦倉入後輸出セラルヽモノトヲ問ハズ少クトモ一旦税関側ニ対シ従来同様納税手続ヲ為シ税関ヨリ納税告知書ヲ得テ之ニ記載ノ正税額ノミノ納入ヲ関税取扱銀行ニ申出テ之ヲ拒絶セラレタル場合初メテ右告知書ヲ朝鮮銀行ニ提示シ貴官勘定トシテ正税払込ヲ了シ正税納入済ノ証明書ヲ得タル上之ヲ関係書類ト一括貴官ニ提示セシメ之ニ対シ貴官ヨリ当該貨物ニ対シ『海関側カ正税納付ヲ拒絶シタルコト及正税領事館供托済ナルコト』ノ証明書ヲ発給セラルヽト共ニ其都度税関長宛往電第五号申進ノ通リ当該供託済貨物ハ通商条約第九条ニ基キ輸出ノ権利アルコトノ通告ヲ為シ然ル後貴電(五)ノ手続ニ依リ貨物ノ発送ヲ為シ得ル次第ナリ（昭和二年八月二十六日付上海発本大臣宛公第七二四号参照）尤モ入庫貨物ニ付テハ満鉄側ト税関側トノ間ニ特別契約等アル為満鉄ノ倉庫側ニ於テ其ノ引渡シヲ肯セサルガ如キ場合ニハ荷主ハ前記貴官ノ正税供託済証明書ヲ証拠トシテ領事裁判所ニ対シ入庫貨物引渡請求訴状ヲ提起シ右ニ基キ裁判所ハ満鉄側ニ対シ貨物ノ引渡ヲ為スヘキ旨ノ判決ヲ為シ之ニ依リ輸出手続ヲ完了スル筋合ナリ（右ノ場合上海ノ前例ニ依レハ民訴七二条並五〇三条ヲ適用シ訴訟費用ハ被告ノ負担トシ保証トシテ銀五十弗ヲ供託スル時ハ判決ノ仮執行ヲスルコトヲ得ベキ旨判決シ居レリ）従テ本件供託実施ニ当リテハ貴官ハ先ツ以上ノ如キ手続ニ依ラルヽコト、致度而シテ税関側ニ於テ輸出申告書ノ受理又ハ貨物ノ検査ヲ拒絶スルガ如キ場合ニハ其拒絶ヲ根拠トシテ貴電(一)(三)(四)及(五)ノ如ク我方ニ於テ検査其他ノ手続ヲ執ラレ差支ナシ尚貴電(二)ハ差当リ日本人ノ荷主ノ場合ニ

限ラレ度(六)及(七)ハ差支無之及貴電(七)後段ニ関シテハ満鉄側ト御来示ノ通リ打合済
北京上海南京ニ転電セリ奉天牛荘関東長官ヘ転電アリ度尚青島ヘハ貴電ト共ニ転電アリ度シ

546　昭和4年2月15日　田中外務大臣より在安東岡田領事宛(電報)

**輸出付加税問題に対する妥協案承認について**

本省　2月15日後7時発

第一〇号
貴電第二一号ニ関シ
御来示ノ二案共異議無シ尤モ支那側カ之ヲ承認セサル場合ニハ往電第九号通リ取計ハレ度シ
北京上海南京ニ転電セリ奉天牛荘関東長官ニ転電シ貴電ト共ニ青島ニ転電アリ度シ

547　昭和4年2月15日　田中外務大臣より在ハルビン八木総領事宛(電報)

**ソ中間国境関税に対し予告なき実施は損害を被ることを理由として実施延期交渉方訓令**

本省　2月15日後7時40分発

第一八号
貴電第四五号ニ関シ
露支国境ノ特恵税ハ両国間ノ特別協定（一八八一年露清陸路通商章程一八九六年東清鉄道会社条例等）ニ依リ施行セラレ我方ハ右協定自体及日支通商条約第二十五条ノ規定ニヨリ前記特恵税率ノ適用ヲ受ケ来リタルモノニシテ支那側ガ一方的ニ右協定中ノ関係条項ヲ廃止シ且露国ガ右廃止ヲ黙認スル以上我方ヨリ通商条約ヲ楯ニ抗議スルノ根拠ナク又突然ノ廃止ニ付テモ丁抹等ト異リ我方ハ未タ一九二三年ノ税関手続簡捷ニ関スル条約（本大臣宛北京来電第一四八号参照）ノ批准ヲ了シ居ラサル関係上之亦抗議ノ根拠ナキ次第ナルモ豫告ナキ実施ノ結果我方ノ蒙ムル損害ヲ理由トシ実施延期方懇談セラルヽト共ニ東支鉄道側ヲ慫慂シテ一定ノ猶豫期間設定方支那側ト交渉セシメラルル様致タシ
北平ヘ転電セリ
上海南京ヘ貴電ト共ニ転電セリ
奉天、安東、吉林、長春、満洲里ヘ転電アリ度シ





548　昭和4年2月15日　田中外務大臣より在ハルビン八木総領事宛(電報)

**ハルビンでの輸出付加税阻止は困難ゆえ既契約品のみにても課税を免れるよう実際的解決方訓令**

付記　二月八日付ハルビン日本商業会議所会頭加藤より田中外務大臣宛哈商発第二二二九号「支那生産品ノ輸出付加税徴収ニ関スル件」

本省　2月15日後8時発

第一九号
輸出附加税阻止方ニ付テハ南京上海ニ於テ交渉中ナルモ中央ニ於ル本件ノ急速解決ハ困難ナルヤニ察セラルルノミナラズ我方ノ実力及バサル貴地ニ於テハ大連安東ニ於ケルカ如キ対抗措置ヲ講スルコトモ困難ナリト思考セラルルニ付貴地ニ於テハ結局「アンダープロテスト」ニテ納付スル外差当リ名案ナシ尤モ貴地商業会議所ヨリ屢次実施延期ト既納税金ノ返戻トノ希望ヲ附シ本件阻止方陳情ノ次第モアリ出来得レハ既契約品ノミニテモ課税ヲ免カレシメ度ク就テハ右ノ次第御含ノ上貴地方ノ情況ニヨリ何等施スヘキ策モアラハ支那側ト適宜交渉セラレ本件ノ実際的解決ヲ計ルコトト致度シ尚本不当課税ニ依ル貴地当業者ノ損害見込額御取調電報アリ度

（付記）

哈商発第二二二九号　（2月13日接受）
昭和四年二月八日

哈爾濱日本商業會議所
会頭　加藤　明〔印〕

田中外務大臣殿

支那生産品ノ輸出附加税徴収ニ関スル件

拝啓首題ノ件ニ関シ五日附電請申上候処当地方ハ大連安東等ノ地ト事情ヲ全ク異ニシ純然タル支那ノ行政権下ニ在リ該暴令阻止ノ途無之候ニ付昨日重ネテ左記ノ通リ架電及請願候間何卒事情御諒察ノ上此上トモ要望ノ目的貫徹スル様御配意賜リ度伏テ奉懇願候也

左記

一、二月七日当所会頭発電文

（別　紙）

昭和四年二月七日　発電

哈爾濱日本商業會議所

会頭　加藤　明

田中外務大臣殿

支那生産品ノ輸出附加税ニ関スル件

電　文

曩ニ電請シタル輸出附加税問題ニ関シ北京総税務司ハ大連海関長ニ対シ関東庁カ実力ヲ以テ実施ヲ阻止スルトセハ之ヲ南京政府ト日本政府トノ交渉ニ移ス旨通知セル由確聞ス右ニ拠リ大連方面ハ両国政府ノ交渉解決スル迄事実上実施ヲ延期セラレタル次第ナルモ当地方面ハ実力抗争不可能ナル為メ布告当日ヨリ引続キ附加税ヲ強徴セラレツツアリ当地方ハ日本商人ニ依リ浦鹽経由日本向ケ発送セラルル豆粕、大豆、雑穀類ノ輸出最盛季ニシテ先物契約亦多大ナル為メ邦商ノ蒙ル損害甚大ナリ

今次ノ暴令カ前記ノ如ク日支両国政府ノ交渉ニ移ルモノトセハ当地海関ニ対シテモ交渉解決マテ大連ト等シク実施ヲ延期セシムルト共ニ今日迄ニ強徴セラレタル税金ヲ即時返戻セシムルコト当然ナリ

右御含ミ取急キ機宜ノ措置ヲ講セサレ度ク重ネテ懇請ス

哈爾濱日本商業會議所會頭加藤明

549

昭和4年2月15日　在安東岡田領事より　田中外務大臣宛（電報）

**輸出付加税問題につき安東税関と妥協のため文書交換承認方請訓**

安　東　2月15日後発

本　省　2月15日後着

第二二号（至急）

往電第二一号ノ辦法実施ニ関シ税関長ハ総税務司ニ電請セルモ総税務司ヨリ南京政府ニ照会ノ上回電ニ接スル事トナルヘク十五日中ニ回電ニ接セサル場合ハ税関長ノ責任ヲ以テ右辦法ヲ実施スル積リナル旨申出アリ当方ヨリモ同日中ニ貴大臣ノ回訓ニ接セサル場合ハ本官ノ責任ヲ以テ右辦法ヲ実施スヘキ旨回答シ税関長トノ間ニ日本人ノ輸出品ニシテ鉄道ニ依ルモノ鴨綠江鉄橋上ヲ通過スルモノ及日本郵便ニ依ルモノハ附加税不納ノ故ヲ





以テ税関側ヨリ抗議附輸出許可証ヲ出ス外一切ノ通関手続等従来通トスル事ニ外務大臣及総税務司ヨリ反対ノ訓電ニ接セサル限リ異議ナキ旨確認ノ文書ヲ交換スル事トセリ御承認ヲ請フ

尚支那郵便ニ依ル日本人ノ輸出品ハ殆トナカルヘシト存セラルルモ或ル場合ニハ抗議附ニテ附加税ヲ納付スル事トシ前記以外ノ輸出品ニ付テハ後ニ協議スル事トセリ

北平、上海、奉天、南京、牛荘、関東庁へ転電セリ

550

昭和4年2月16日　在上海上村総領事代理より　田中外務大臣宛（電報）

**メーズ総税務司と接近することによって中国側との関係改善等を計るため英国当局にメーズを支持している旨非公式に通達方芳澤公使意見具申**

付　記　三月十二日付上海日本商工会議所会頭米里（紋吉）より在上海重光総領事宛書翰

メーズ総税務司を支持、援助することによって本邦利益増進方請願

上　海　2月16日後発

本　省　2月16日後着

第一六七号（極秘）

往電(1)第一六六号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

今回ノ「メーズ」自身ヨリ其ノ地位ニ付日本政府ノ支持ヲ求メ来レルコトハ極メテ好都合ト謂フヘク我方ニ於テハ適宜之ヲ利用スルコト得策ト思考ス唯此ノ点ニ付考慮ヲ要スルハ㈠我方ニ於テ従来「エドワーズ」ヲ支持シタル行懸並ニ㈡我方ノ「ランプソン」始メ英国公使館ニ対スル従来ノ関係ナル処第一元々日本側ニ於テ「エ」ヲ支持シタルハ決シテ同人自身ニ対シ特ニ好意ヲ寄スルカ為ニアラスシテ海関制度ヲ維持シ以テ貿易上ノ利益ト債権ノ擁護ヲ計ラムカ為ニ外ナラス加之曩ニ「エ」ハ一昨年ノ本使「ランプソン」間ノ諒解ヲ以テ一片ノ紳士的協定ニ過キスト為シ自ラ之ヲ無視スルカ如キ不都合ナル態度ニ出テタル以上我方トシテモ「エ」ニ対シ最早義理立ヲ為スノ要ナキノミナラス「メ」カ正式ニ総税務司トシテ就任シタル今日ニ於テ我方ニ於テモ同人ノ地位ヲ認ムヘキハ当然ト致スヘク将又

「ラ」始メ英国公使館側ニ対スル関係ニ至リテモ「ラ」自身カ前記本使トノ諒解ヲ公然否認セサリシトハ言ヘ暗ニ之ヲ無視スルカ如キ態度ニ出テタルコトハ御承知ノ如クナルカ故ニ今日トナリテ我方ヨリ気兼スルノ要ナカルヘキノミナラス

仮令[2]「ラ」ト「メ」トノ間柄カ親善ナラストスルモ往電第一一六号ノ如ク英国政府ニ於テモ従前ノ総税務司同様「メ」ヲ支持スルノ意嚮ヲ有スルモノトセハ日本側ニ於テモ同人ヲ支持スルコト毫モ差支ナシト思ハル就テハ此ノ際「メ」ノ希望ヲ容レ今後同人トノ関係ヲ密接ナラシムルト同時ニ支那側トノ関係ノ好転ヲ計リ両々相俟テ海関ニ於ケル日本人ノ地位ヲ堅ムルコト得策ト信スルカ故ニ幸ヒ右賛認ヲ得ルニ於テハ在英大使ヲシテ英国当局ニ対シ我方ノ「メ」支持ノ内意ヲ非公式ニ通セシメラルル様御取計相成リタシ

尚本使ハ曩ニ北平ニ於テ「ラ」及「エ」等ヨリ「メ」カ如何ニモ人格下劣ニシテ且陰険ナルカ如ク聞カサレ居タルカ今回当地ニ於テ数回「メ」ト会談ノ際得タル印象ニ依レハ「エ」ヨリハ却テ人物善良ニシテ本使トノ会見重ナルニ従ヒ日本ニ対スル感情モ追々改善セラルルカ如ク感セラレ岸本ニ対スル態度モ案外穏当ト認メラルルノミナラス今日迄「メ」ノ国民政府ニ対シ執リ来レル態度ニ至リテモ一応尤モト領カルル点少カラサルヤニ考ヘラルルカ故ニ今後成ルヘク同人ニ好意ヲ表シ之ヲ適宜利用スルコト可然カト思考ス

北平、南京へ転電セリ

（付記）

拝啓

支那海関総税務司「メーズ」氏ニ関スル報告ノ件

同氏ノ件ニ関シ当会議所ヲ代表シテ本日別紙ノ通リ外務大臣へ報告致置候間御了承為シ被下度御参考迄ニ此許写同封致候

敬白

昭和四年三月十二日

上海日本商工會議所

会頭　米里　紋吉〔印〕

上海総領事　重光　葵殿





（別紙）

粛啓

支那海関総税務司「メーズ」氏ニ関スル報告ノ件

今回支那海関総税務司ニ新任セラレタル「メーズ」氏ニ関シ一部邦人間ニ於テ同氏ノ態度反日ノ傾向アルヲ以テ将来我国対支貿易上ニ及ボス不利尠ナカラザルベシトノ説ヲナスモノ有之哉ニ候ヘ共吾人ハ未ダ同氏ニ関シ何等此種ノ事実アリタルヲ確聞セザルノミナラズ却ツテ同氏従来ノ対日態度ハ頗ル良好ナル事ヲ如実ニ示シ居候様認メラレ候即チ同氏ガ先年天津税関長在任中同地ノ港域ヲ日本租界ニ拡張ノ件ニ関シ当時英仏側ノ強硬ナル反対アリシニ拘ラズ同氏ハ英仏租界港区ノ現状狭少ニシテ船舶ノ輻輳甚シク航行危険ナルコトヲ力説シテ遂ニ其主張ヲ貫徹シ万国橋ノ改造海洋船ノ日本租界河岸溯江ヲ実現セシムルニ至リタル次第ナルガ我政府ニ於テモ其功ヲ認メ彼ニ酬フルニ勲三等旭日章ヲ以テセラレ次デ最近上海ニ於テモ港務局 Berthing Officer 任命ニ関シ当時代理総税務司「エドワード」氏ノ反対アリタルニ拘ハラズ「メーズ」氏ノ尽力ニヨリ初メテ邦人一名ノ採用ヲ見タル事実モ有之候

同氏ノ人格識見並ニ政策等ニ関シ総税務司署総務課長岸本廣吉氏ノ意見ニ徴スルモ将亦最近同氏ニ会見親シク其抱懐セル意見ヲ聴取スルモ同氏ハ決シテ排日思想ヲ抱クモノニアラズ日本ノ実力ト立場ニ充分諒解ヲ有シ成ルベク日本ニ接近セントスルモノト認メラレ一部巷間ニ同氏ヲ目シテ排日家ト伝ヘラルヽハ何カ為メニセントスルモノノ誣言流説ニ外ナラズト認メラレ候殊ニ支那ニ於ケル最近著シキ事態ノ変遷ハ英国側ガ単独ニ海関制度ヲ維持スルコト困難ナル事情ニアリ切ニ我国ノ支持ヲ待ツコト甚大ナルモノアル現状ニ鑑ミ当会議所ハ「メーズ」氏今次ノ就任ハ我国ノ対支貿易上聊カモ不利ヲ蒙ル虞レナキヲ認メ寧ロ此際進ンデ同氏ガ我国上下ノ好感ヲ得ント焦慮シツヽアル感情ヲ利用シテ同氏ヲ援助シ我国ノ利益増進ヲ計ルコトヲ得策ト信ズルモノニ御座候

右当会議所ノ意見ヲ具シ御清鑑ニ供シ候

敬白

昭和四年三月十二日

上海日本商工會議所

会頭　米里　紋吉〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

右写送先

松平倫敦大使　芳澤北京公使　堀北京代理公使

重光上海総領事　横竹商務参事官

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

551　昭和4年2月17日　在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

**輸出付加税問題については済南事件解決の好機を捉えて王外交部長と交渉の考えなる旨メーズ総税務司に芳澤公使談話について**

上　海　2月17日前発
本　省　2月17日前着

第一六九号

芳澤公使ヨリ

上海発往電第一六六号会談ノ際「メーズ」ハ二分五厘輸出附加税問題ニ言及シ関東庁カ実力ヲ以テ之カ実施ヲ阻止シ居ル為大連税関長ニ於テ困リ居ル旨訴ヘタルニ付本使ハ之ニ対シ本課税カ条約上不法ナルニ顧ミ日本政府トシテハ不法課税ヲ關東州ニ於テ承認スルヲ得ス之カ為関東庁ハ実力ヲ以テ之ヲ阻止シ居ル次第ナリ乍併国民政府カ財政上ノ善後ニ応スル為本税ヲ実施セントスル動機ニ対シテハ同政府ノ立場ヨリ言ヘハ同情スヘキモノナキニ非サルカ故ニ何等カノ便法ヲ案出シタキ希望ヲ以テ本使一己トシテ目下考究中ナル処一面実際問題トシテモ満洲ニ於ケル日本商人カ多数ノ先物契約ヲ為シ居ル際突如本附加税ノ実施ヲ見ルトキハ莫大ノ損失ヲ蒙ルコトトナルヘキヲ以テ旁或時期迄之カ実施ヲ見合スヤウニシ度キ考ナリト述ヘタルニ「メ」ハ先物契約ヲ有スル商人カ損失ヲ蒙ルコトハ自分モ深ク同情ス従テ或時期迄之カ実施ヲ見合スコトハ頗ル道理アルコトナルカ唯自分トシテハ条約ニ関スル日支両国間ノ争ハ両国政府ノ間ニ解決シテ貰ヒ度ク税関トシテハ唯国民政府ノ命令ヲ実行スルノミナリト答ヘタルニ付本使ハ尤モノ次第ナリ本問題ハ既ニ日本政府ヨリ国民政府ニ交渉スルコトトナリ居リ実ハ自分ハ政府ノ命ニ従ヒ国民政府ト交渉スル考ナルカ御承知ノ通済南問題一時停頓ヲ来シ此ノ際王部長ニ本件附加税問題ニ付申出ツルモ手早ク処理シ呉ルルモノト思ハレサル為済南問題交渉ノ好転ヲ待チ居ル次第ニテ何レ該交渉好転セハ早速右ニ付王ト交渉スル考ナリト述ヘタルニ





「メ」ハ至極結構ナリト答ヘタリ

右何等御参考迄

北京、奉天、南京、関東長官へ転電セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

552　昭和4年2月18日　田中外務大臣より
在上海上村総領事代理宛(電報)

**輸出付加税問題に対し単独にても正式抗議提出方訓令**

本　省　2月18日後5時20分発

第一〇六号

九江ニ転電アリ度

第七号

貴電第一三号末段ニ関シ

関係国トノ協調如何ニ不拘此際単独ニテモ正式抗議ヲ提出シ置カレ度シ尤モ当業者ニ対シテハ「アンダー、プロテスト」ニテ納付セシメラレ差支ナシ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

553　昭和4年2月18日　在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

**メーズ総税務司が輸出付加税導入につき猶予期間設定を示唆した旨の横竹商務参事官報告**

上　海　2月18日後発
本　省　2月18日後着

第一七三号

横竹ヨリ

一、本官十八日朝総税務司「メーズ」往訪輸出附加税問題ハ目下中央ニ於テ交渉中ノコト故其ノ解決ヲ見ル迄兎ニ角大連、青島、安東、牛荘等各地夫々特殊事情存在スルコトナレハ此ノ際附加税徴収方ニ付総税務司ヨリ厳重ニ発令セラレサル様致シタシト述ヘタル処「メ」ハ貴下ノ要求ノ意味ハ充分諒解セルモ何分南京政府側ニテ取立ツル様ニトノコト故税務司ヨリ何度請訓シ来ルモ右取立方命令スルノ外ナキ事情諒承アリタク自分トシテハ如何トモ致シ難シト弁スル処アリ其ノ節本官ノ得タル印象ニテハ附加税徴収ニ付テハ命令ノ変更ハ出来難キモ附加税問題ニ捲込マレ正税ノ受入迄モ不可能ニ陥ラシムルカ如キハ考ヘ居ラサルモノノ如シ

二、又「メ」ハ青島ニテハ附加税ヲ正金ニ供託スルコトニ

ナリタル旨同地税務司ヨリ来報アリタルカ大連、安東其ノ他ノ地方ニテモ同様ノ取扱出来ヌモノカト語リ居タリ

三、尚単ニ自分（「メ」）ノ私見トシテハ適当ノ豫告期間ヲ設ケサリシコトハ妥当ヲ缺キ居ル様考ヘラルルカ此ノ点ニ付例ヘハ六ケ月ハ不可能ナルモ三ケ月位ノ猶豫ヲ与フルト言フカ如キ弁法ハ必シモ困難ナルコトニアラサルヘシトノ口吻ヲ洩ラシ居タリ

北平、南京、安東、牛荘、青島、天津、奉天、間島、関東庁ヘ転電セリ

〰〰〰

金ニ繰入ルルコトニ便宜協定シタリ

(三)将来ニ於ケル供託金ノ処分ニ関シテハ一ニ交渉ノ結果如何ニ依リ税関ニ納付スヘキモノナラハ供託金ヲ其ノ儘税関ニ引継キ然ラサル場合ニハ各納税者ニ税関ノ発給スル小切手ヲ以テ返還スルコトトシ尚供託金ニ対スル利子ハ前者ノ場合ニハ税関ニ後者ノ場合ニハ各納税者ニ帰属セシムルコトトセリ

556　昭和4年2月(23)日　在英国松平大使より　田中外務大臣宛(電報)

**メーズ総税務司への支持と海関制度の維持につきウェルスレー英国外務次官補に申し入れについて**

ロンドン　発
本　省　2月23日前着
第八三号

貴電第三七号ニ関シ

二十二日「ウエルスレー」ニ面会シ先ツ過去数年支那ニ於ケル日英協調カ淡白ニ云ヘハ不満足ノ点アリ為ニ日英双方ノ不利ヲ来セルノミナラス支那ニ対シテモ結局不利ノ状況ヲ起セル事モアリト思考セラル帝国政府ハ之迄再三種々ノ機会ニ於テ表示セル如ク日英間ニ於テ殊ニ支那問題ニ関シテハ出来ル丈協調ノ方針ヲ取リ度キ考ヲ有シ居レリトテ政府ノ御方針ヲ詳シク説明シ尚海関制度ノ維持及総税務司ノ支持ニ対スル過去ノ態度及将来ノ方針(貴電第三七号前半)ヲ話シタル処「ウ」ハ支那ニ於ケル両国ノ協力ニ関シテハ外相ニ於テモ此ノ上ナク歓迎スル処ナルカ実ハ関税会議ニ於テ日英米協同ノ陣立ヲ為ス積リナリシニ不幸ニシテ一致破レ爾来協調上不満足ノ事アリタルモ過去ノ問題ハ別トシ将来ノ協調ハ最モ望マシキ処ナリ蓋シ支那ニ於ケル日英ノ利害ハ必スシモ一致(identical)セサルモ保護ヲ必要トスル点ハ共通ナレハナリ而シテ出来得ル限リ支那ニ対シ寛大ニスヘキハ勿論ナルカ支那ノ不法行為ニ対シテハ列国殊ニ日英米カ共同シテ動セサル態度(フアームスタンド)ヲ取ル事必要ナリ又支那貿易ノ安全及債権確保ハ吾人ノ最モ重キヲ置ク所ナルカ之ニ関シテハ関税率ノ問題ハ第二次ノ問題ニシテ海関ノ運用カ正直且有効ニ行ハルル事カ第一ノ要件ナルカ故ニ現在ノ制度ヲ維持スル事必要ナリ此





ノ点ニ関スル日本政府ノ協力ヲ多トスル旨ヲ述ヘタリ依テ本使ハ「メーズ」ニ対スル英政府ノ態度ヲ質シタルニ「ウ」ハ「メ」ニ関シテ色々ノ風説アリ真相分ラサルカ同人ハ餘リ人気宜シカラサルモ真面目ニ其ノ職務ヲ引受ケタル事ハ確カニ看取シ得ヘク且南京政府ノ任命ニ対シ之ニ干渉スル事能ハサレハ将来其ノ不適任ナルコト暴露スル事アレハ格別夫迄ハ「メ」ヲ支持スル積リナリト答ヘタリ依テ本使ハ日本政府ニ於テモ亦従来通英ト協力シテ新総税務司ヲ支持スル考ナル旨述ヘタルニ「ウ」ハ感謝ノ意ヲ表シ外相ニ伝フヘキ旨申居リタリ

米、仏ヘ転電セリ

557　昭和4年2月23日　在間島鈴木総領事より　田中外務大臣宛(電報)

**陸境特恵関税撤廃のため多量手持ちの輸出大豆に損失を招くゆえ抗議付で輸出手続中なるが明確な対応方につき請訓**

間　島　2月23日後発
本　省　2月24日前着
第二三号

本月二十五日ヨリ国境三分ノ一減撤廃方総税務司ヨリ訓令アリタルニ付同日ヨリ実施スヘキ旨本日(二十三日)当地税関長「フヲウブス」ヨリ突然私信ニテ申越シタルニ付直ニ厳重ナル抗議ヲ申込ミタルカ当地当業者ハ往電第二一号ノ通附加税問題交渉中ナル為メ多量ノ輸出大豆ヲ手持中ナリシ処三分ノ一減ヲ二十五日ヨリ撤廃セラルルニ於テハ一刻モ早ク輸出手続ヲセサレハ附加税ノ上ニ更ニ三分ノ一ヲ課セラレ非常ノ損失ヲ招クヘキニ付手持中ノ輸出品ハ二十三日(二十四日ハ日曜ナルヲ以テ)抗議附ニテ這般輸出手続ヲ為シタリ

三分ノ一減ニ関シ中央ニテ何等御交渉ノ次第モアル義ナルヤ何分ノ御電訓アリタシ

北平、奉天、安東、上海、琿春ヘ転電セリ

558　昭和4年2月23日　在安東岡田領事より　田中外務大臣宛(電報)

**予告期間なき陸境特恵関税撤廃に対し抗議および領事館供託等の手段による実力阻止方請訓**

安　東　2月23日後発
本　省　2月24日前着

第二八号

往電第二四号ニ関シ

本日総税務司ヨリ陸境関税三分ノ一減廃止即時断行方税関長ニ電命アリタル趣ニテ本日告示ヲ為シ二十五日ヨリ実施ノコトトナルヘキ趣ナリ

右往電ニ関シテハ未タ御回訓ニ接セサル処本邦側ニ何等相談ナク豫告期間ヲ附セス即時廃止スルカ如キハ全ク本邦側ノ利益ヲ無視シ居ルモノニシテ当然御抗議アルヘキコトト存セラルルカ当地ノ如ク貨物カ日本ノ完全ナル行政権ヲ有スル附属地ノ外ニ一歩モ出スシテ輸出入サルル地ニ於テ右廃止ヲ黙視セハ廃止ヲ黙認又ハ承認スル形トナルヘキニ付一方ニ於テ抗議セラルル以上当地ニ於テハ実力阻止ノ挙ニ出ツルコト正当ト存セラルルニ付テハ右実施迄ニ反対ノ御回訓ニ接セサル限リ大体貴電第九号ノ御趣旨ニ依リ輸出入共ニ現在通リ三分ノ一ヲ減シタル税金ヲ領事館ニ供託セシメ貨物ヲ通過セシムルノ措置ニ出ツヘク御承認ヲ請フ右実力阻止ノ結果ハ当地税関ニ於テ輸出入貨物共ニ手ヲ触レタルコトトナルヘク税関事務ヲ日本側ニテ管理スルコトトナル次第ニ付総税務司側ニ於テモ相当報復ノ手段ニ出ツルナキヤヲ保セス支那各港ニ於テ日本ニ対シ Extra treaty privileges（例ヘハ輸入品全部ニ対シ輸入税納付後ナラテハ出港シ得サル筈ノ処二週間内ニ完納スヘキ旨証書ヲ入レシメ出港ヲ許可シ居ルコト等）ノ廃止等ヲ想像シ得ルモ恐ラクハ斯ル暴挙ニ出テサルヘク唯貨物到着地ニ於テハ東三省官憲ノ態度如何ニ依リテハ相当紛擾ヲ免レサルヘキニ付然ルヘク措置方沿線各領事ニ御電命ヲ請フ

在支公使、上海、奉天ヘ転電セリ

559

昭和4年2月23日　在安東岡田領事より
　　田中外務大臣宛（電報）

**陸境特恵関税廃止実施前に国民政府または総税務司と阻止方交渉要請について**

安　東　2月23日後発
本　省　2月24日前着

第二九号

往電第二八号ニ関シ





総税務司ヨリノ電訓ニ依レハ三分ノ一減税ハ海関監督ト協議ノ上即日廃止スヘシトアリタル趣ノ処監督不在ノ為福本ハ不取敢総税務司ニ対シ日本領事ハ政府ヨリ反対ノ回訓ナキ限リ実力ヲ以テ阻止スヘシト言明セルヲ以テ日支両政府間ニ諒解成立スル迄徴税ヲ見合スカ将又一時的ナリトモ鉄道貨物ニ対スル税関ノ監理権ヲ失墜スルノ危険ヲ冒シテ迄徴税スヘキヤニ付回訓方電請中ナル趣ニ付出来得レハ南京政府又ハ総税務司ニ交渉シ実施前ニ之カ阻止致度至急然ルヘク御手配ヲ請フ尚今回ハ抗議附許可書発給ノ便法ヲトラサル旨明言シ居レリ奉天ニ転電セリ

北京、上海、奉天ニ転電セリ

560

昭和4年2月25日　田中外務大臣より
　　在安東岡田領事宛（電報）

**輸出付加税納税の不承認を明確にした上で抗議付輸出許可状発給方訓令**

本　省　2月25日後3時発

第一四号

貴電第二五号(三)(イ)及(ロ)ニ関シ

本件海関側申出ハ之ヲ上海発本大臣宛一七三号二ノ事情ニ照シ支那側ハ抗議附許可証ノ発給ニヨリ将来附加税納付ヲ現実ニ要求セントスル意味合ナリト察知セラル、処御承知ノ通我方ハ現行条約ノ存続スル限リ将来ト雖モ本件附加税ヲ承認セザル意嚮ナルヲ以テ支那側カ右許可証ヲ抗議付ニテ発給スルコトニ貴官トノ了解成レリトスルモ右抗議ハ単ニ支那側ノ一方的行為ト承知シ居リ従テ将来モ附加税ヲ支那ニ納付スルコト、ナルベキヲ予想セザル次第ナルモ右趣旨ニテ回答スルニ於テハ却テ事態ヲ紛糾セシムル慮モアリ旁々税関側ニ対シテハ単ニ此場合ニ於ケル抗議付ナル意味ハ現ニ安東大連以外ノ支那海関ニ於テ本件附加税ヲ徴収シ居リ又最近迄支那各地内地税局ニ於テ二五華府輸入附加税ヲ徴収シタルニ対シ我方ガ抗議附納付ヲナシタル場合ノ抗議ト同様ニ解スル次第ナル旨ヲ回答セラルルニ止ムルコト、致度尚貴電(三)(ロ)ニ関シテハ後日ノ紛議ヲ避クル為税関側記録写ヲ貴官ニ送付セシムル様御取計置アリ度

北平上海ヘ転電セリ奉天牛荘ヘ転電アリ度

561　昭和4年2月25日　田中外務大臣より
在安東岡田領事宛(電報)

**鮮満陸境特恵関税廃止に対し領事館供託等具体的措置方訓令**

本　省　2月25日後4時45分発

第一五号(至急極秘)

貴電第二四号及第二六号ニ関シ

満鮮陸境特恵税ガ日支間現行協定ニ依リ実施セラレ従ツテ日本側ノ承認ヲ経テ右協定廃止セラルル迄ハ支那側カ一方的ニ右特典ヲ廃止シ得サルハ奉天宛往電第二八号ノ通ニ付万一支那側ガ一方的廃止ヲ強行シ来ルニ於テハ往電第九号供託ノ方法ヲ実行スルコトシ条約違反行為ハ飽マテ之ヲ阻止シタキ意向ナルニ付右御含置ノ上支那側ノ一方的廃止ノ場合ニ於ル具体的措置方ヲ考究シ置カレ度尚貴電末段供託案実施ニ因リテ生スヘキ困難ノ中貨物到着地ニ於ル紛擾ニ付テハ実際問題ノ発生シタル場合改メテ対策ヲ考究スルコトト致度又当方ノ承知スル処ニ依レバ満鉄ハ貨物ノ鉄道輸送又ハ倉庫引出シ等ニ付税関側ニ対シ何等保証状ヲ入レ居ラズトノ事ナルモ此点満鉄ニ就キ御確メアリ度シ

奉天ニ転電アリ度シ

貴電第二六号及奉天宛往電第二八号ト共ニ間島ニ転電アリタシ(貴電第二四号間島ニ転電セリ)

貴電第二四号第二六号及奉天宛往電第二八号ト共ニ関東長官ニ転電アリ度シ

北京上海ニ転電セリ

貴電第二四号及第二六号ト共ニ南京ニ転電セリ

562　昭和4年2月25日　田中外務大臣より
在青島藤田総領事宛(電報)

**輸出付加税問題交渉難航ゆえ供託金は当業者名義で横浜正金銀行に預け入れ税関と当業者間にて問題解決方訓令**

本　省　2月25日後8時30分発

第三九号

貴電第四六号ニ関シ

供託金ヲ税関勘定トシテ正金ニ預入スルコトニ貴官税関長間ニ取極メラレタルハ貴電御来示ノ如ク已ムヲ得サル当時ノ事情ニ因ル次第ト思考スルモ中央ニ於ケル本件交渉ハ差



当リ解決困難ノ状態ニ在ルノミナラズ将来ニ於テモ支那側ヲシテ我方ノ主張ヲ容認セシムル見込少ク旁々御来示ノ供託金ハ現在ノ取極ノ下ニ於テハ当業者側ニ返却セシムルコト至難ト思考セラル、ニ付出来得ベクバ此際貴電(一)税関長側トノ取極ヲ改メ本件附加税ハ当業者名義ヲ以テ正金ニ預入スルコトトシ且ツ本件ハ全然税関ト当業者間ノ問題トシテ解決方御取計ヲ得ハ好都合ト存ス右不能ノ場合ハ不得已現在ノ儘トスルモ此場合ニハ少クトモ当業者側ニ対シテハ右供託金ハ必ス返却セラルヘシトノ期待ヲ懐カシメサル様可然御説明相成ルト共ニ之カ為将来政府ニ於テ賠償補償等ノ責ニ任スルモノニ非サルコトヲ特ニ明確ニシ置カレ度本電往電第三四号及貴電第四六号ト共ニ北京天津上海南京ニ転電アリ度シ

563　昭和4年2月25日　在牛荘荒川(充雄)領事より
田中外務大臣宛(電報)

**営口における本邦輸出業者保護のため強制通関および駆逐艦派遣等による実力行使したき旨意見具申**

別　電　二月二十五日発在牛荘荒川領事より田中外務大臣宛第一二号
在営口邦商よりの輸出正税供託および強制通関方請願内容

営　口　2月25日後発
本　省　2月26日前着

第一一号

輸出附加税ノ徴収ニ関シテハ往電第八号ヲ以テ申進メタル通リ結氷中ノコトトテ郵便ニ依ルモノノ外未タ実際問題化シ居ラサルカ其ノ実施告示モ支那側郵便局ニ掲示セラレタルニ止マリ海関ニテハ今尚掲示セラレサルカ目下特産物出廻リ期ニ当リ開河物ノ取引季節ニアルニ拘ラス当地当業者ハ開河後ニ於ケル附加税徴収ヲ考慮シ取引捗々シカラサル有様ナルヲ以テ屢々当業者並ニ船舶業者等ヲ招致シ其ノ意見ヲ徴シ折角対策研究中ナル処当業者ニアリテハ大連及安東ニ対スル関係ト当地ノ特殊事情ヨリシテ最近別電第一二号ノ通強制通関実行方請願ノ次第アリタルヲ以テ本官ハ強制通関ハ適法ノ手続ヲ以テスル以上理論上不当ノコトニ非サルモ其ノ実行上ヨリ見レハ充分ナル実力ヲ備フルニ非サ

レハ不可能ノコトニ属シ且紛争続発ヲ免レサル為船舶ノ出入ニ支障ヲ生シ結果ヨリ見テ必スシモ有利ニ非ス出来得ヘクンハ何等カノ便法ヲ以テ実損害ヲ防止スルト同時ニ送貨ノ円滑ヲ計ルヲ得策ト思考セラルルニ付本省ノ訓令ヲ仰キタル上海関側ト協議シ可及的我方ニ有利ナル便法ヲ講スル所存ナルニ付当業者側トシテモ最悪ノ場合ヲ豫想シ極力買付其ノ他ヲ有利ニ導キ逡巡スルコトナク着々商談ヲ進メ出来得ル丈損害ヲ鮮カラシムル様心掛ケラレタシト説示シ置ケリ当地ハ永年衰退ヲ続ケ来リタル関係上特産商ノ如キモ十数軒中充分ノ資本ヲ擁シテ餘裕アル取引ヲ営ミ得ル者殆トナク多クハ無理算段ニ依リテ漸ク営業ヲ継続シ居ル有様ナルト開河期ニ於テ当地ニ出廻ル特産物ハ馬車搬出ニ依ル地方物ト京奉支線ニ依リ河北駅ニ到達スルモノニ限ラレ其ノ数量モ亦僅少ナル故他ニ損失ノ緩和ヲ求ムル餘地ナク従テ些細ノ損害モ当地当業者ニ取リテハ甚大ノ打撃トシテ感セラルル次第ニシテ大連安東カ附加税納付ヲ要セサルニ対シ当地ノミカ「アンダープロテスト」ニテ之ヲ納付スルコトトモナレハ当業者ハ倒産ノ窮状ニ陥ルニ至ルヘク尚斯ル例年当港ヲ経由シテ輸出セラルル沿線各地ノ特産物並ニ銑





ナル様見受ケラルルニ付テハ右便法流用不可能ノ場合ニハ餘儀無ク青島ニ於テ協定セラレタル如キ附加税供託ニ依ル外無キ処本青島便法モ中央ニ於ケル交渉ハ我方ニ有利ニ解決スル事ヲ前提トスルニ於テハ結果ニ於テ安東ニ於ケル便法ト殆ト異ナル事無シト信セラルルモ大連カ全ク附加税ヲ納付セス安東カ主タル鉄道貨物ニ於テ之亦附加税ヲ要セサル以上当地カ主タル船積貨物ニ於テ之ヲ供託スル事トナリテハ其ノ間甚タ不利ノ地位ニ立タサルヘカラス斯クテ沿線各地ヨリノ銑鉄其ノ他特産物ハ概ネ大連経由ニ変更セラレ当地ニ大打撃ヲ与フル事トナルヘク尚当地ノ当業者ハ前記ノ如キ窮状其ノ上附加税ヲ一時供託セシムルタニ殆ト困難ニシテ軈テ取引不可能ニ陥リ倒産ノ已ム無キニ至ルモノ多カルヘシト存セラルルニ付若シ本便法実施ノ場合ニハ少クモ例ヘハ政府ノ保障ノ下ニ供託銀行ヲシテ附加税ヲ中央交渉解決ニ至ル迄一時融通セシムルカ如キ救済策ヲ講スルノ要アリト認メラル此ノ点特ニ御留意ヲ請フ

因ニ当地当業者ノ先物取引済現在高ハ豆糟三十七万枚穀雑穀二百三十餘車滑石「タン（一字分アキ）ミヨウ」三百餘車ニシテ其ノ附加税増徴ニ依ル損害合計約一万五千円ニシテ開河期迄ニハ損害総計約三万円ニ上ル見込ナリ

以上ノ諸点ニ関シ附加税問題ニ対シ本官ノ取ルヘキ措置態度何分ノ御回訓煩度シ

北平、奉天、安東、上海、青島ヘ暗送セリ

（別　電）

営　口　2月25日後発
本　省　2月26日前着

第一二号

今回在満各関ニ於テ何等豫告ナク突如実施ヲ発表セシ二五輸出附加税ノ不当ナルハ日本政府ノ言明スル処ニシテ関東庁ハ既ニ実力ヲ以テ大連海関ニ於ケル布告ヲ阻止シ今亦本月十六日ヨリ実施ヲ発表セル安東海関ニ対シテモ安東領事ハ正税ヲ供托セシメテ強制通関ヲ断行セラルル趣ナルカ是誠ニ当然ノ措置ニシテ満蒙ニ於ケル我権益ヲ擁護スル為支那側今回ノ暴挙ハ飽ク迄阻止セサルヘカラサルモノト思料セラル営口海関ニ於テハ未タ実施ノ布告ヲナササルモ解氷期ノ船舶ノ入港問際ニ至リ発布ヲ見ルヘク目下結氷中ニテ輸出社絶シ居レトモ開河後ノ先物取引ハ此ノ期間ニ於テ盛

ニ行ハルルノ慣習ナルニ拘ラス附加税ノ将来ヲ疑懼シ在住邦商ハ先物契約ヲナシ能ハス袖手傍観日一日ト損害ヲ重ネツツ唯焦慮スルノ外ナキ有様ナリ将来若シ大連及安東二港ニ於テ附加税ヲ拒否シ得ルニ拘ラス営口ニ於テノミ徴収セラルルモノトセハ在住邦商取扱ニ係ル輸出貿易ハ全滅スヘク輸出貿易ノ衰退ハ必然輸入貿易ノ上ニ及ヒ在住邦商自滅ノ悲運ニ逢着スヘキハ明カニシテ甚タ憂慮ニ堪ヘス我等ハ累次ノ過去ニ於ケル苦キ（脱）照シ今回ノ輸出附加税カ営口ノ死活ニ重大ノ影響ヲ齎ラスヘキニ想到シ如何ナル犠牲ヲ払フモ之カ阻止ニ努ムヘク堅キ決意ヲ有ス去レハ営口海関カ附加税強徴実施ノ場合安東ノ例ニ準シ領事館ニ於テ正税ヲ供托シ強制通関ノ手続ヲ採ラルル様政府ニ対シ御請訓相煩シタシ云々

奉天、安東、上海、青島、北平へ暗送セリ

## 564 輸出付加税問題に対し抗議付にて輸出許可状発給方意見具申

昭和4年2月25日　在牛荘荒川領事より
田中外務大臣宛（電報）

営口　2月25日後発
本省　2月26日前着

第一三号

二十三日税関長本官ヲ来訪シ開河モ最早一個月ヲ出テサルヘケレハ開河後ニ於ケル輸出附加税徴収ニ関シ成ルヘク問題ヲ生セサル様前以テ準備シ置ク為私信ヲ以テ総税務司ト打合セタキニ付之ニ対スル我方ノ態度承知致シタシト申出テアリタルヲ以テ本官ハ貴大臣発奉天宛電報第二七号ノ趣旨ニ依リ本附加税実施ノ条約違反ナルヲ指摘シ我方トシテハ其ノ納付ヲ拒否スヘキ筋合ナルモ目下中央ニ於テ之ニ関シ交渉進行中ニモアレハ右終了迄徴収ヲ見合ス様取計ハレタシト答ヘタル処税関長ハ徴収延期等ハ自分限リニテ如何トモ為シ能ハサルコトナルヲ以テ一応総税務司ニ申送ルヘキモ各地方ノ状況ヨリ察スルニ其ノ許可ヲ取リ付クルコトハ到底困難ト思ハルルニ付「アンダープロテスト」ニテ納付願ハレマシキヤトノコトナリシヲ以テ本官ハ当地カ大連及安東ト鼎立シテ特産物ノ輸出ニ対シ競争ノ地位ニアルヲ以テ右両地カ附加税ヲ納付スルコトナク輸出ヲ行ヒツツアルニ対シ当地ノミ之ヲ負担スルカ如キ到底承諾シ得ヘキニ





アラスト答ヘ且当地ノ当業者ハ特殊ノ事情ニ支配セラレ居ル関係上斯クテハ倒産ノ餘儀ナキ窮地ニ陥ルノミナラス輸出ノ杜絶本邦船舶寄港ノ激減ヲ結果シテ遂ニハ営口ニ償フモ能ハサル大打撃ヲ与フルコトトナルヘキヲ説キ我方トシテハ正税ヲ納付シタル貨物ハ通商条約第九条ニ基キ輸出ノ権利アリト認ムルモノナルヲ以テ若シ貴方ニ於テ附加税ヲ支払ハサル貨物ハ如何ナル場合ニモ輸出ヲ許サスト固執サルルニ於テハ正税ヲ領事館ニ供託セシメ之ニ依リ出港免状ヲ交附セシムルヨリ外ナキニ至ルヘシサレト本附加税ニ関スル交渉ハ中央ニ於テ進行中ニモアリ又我方トシテハ徒ニ問題ヲ複雑ナラシムルヲ好マサル次第ナレハ何トカ双方ニ都合良キ便法ヲ講シタキモノナリト述ヘタル処税関長ハ適当ノ便法タニアラハ自分モ喜ンテ実現ニ努力スヘキヲ以テ何等カ良キ御考ヘ付ニテモアラハ伺ヒタシト申出シニ付本官ハ安東ノ例ニ倣ヒ正税ノミノ納付ニ対シ貴方ヨリ抗議附ニテ輸出許可証ヲ発給セラルルコトト為サハ貴方ノ立場モ充分ニ立チ我方トシテモ本省ノ承認ヲ得ル見込アリ当業者モ直ニ快諾ヲ内話セシ処税関長ハ安東現行ノ便法ハ単ニ鉄道貨物ノミニ限リ船積貨物ニ付テハ別ニ協定セラルヘキ筈ナレハ総税務司ニ於テ到底承認セサルヘシト思考スト述ヘタルニ付本官ハ安東ニアリテハ鉄道貨物カ主タルニ反シ当地ハ殆ト船積貨物ノミニ限ラレ居ルヲ以テ当地ノ船積貨物ニ安東ノ鉄道貨物並ノ取扱ヒヲ為シテコソ公平ト言ヒ得ヘシト駁シタル処税関長ハ貴説尤モニシテ能ク了解シタレハ私信ヲ以テ貴意ヲ詳細ニ総税務司ニ申送リ其ノ内意ヲ確メ之カ実現ニ努力シ見ルヘキモ総税務司カ果シテ之ヲ許諾スルヤ覚束ナシトノコトナリシヲ以テ本官ハ何分尽力ヲ請フ旨依頼シ我方トシテハ事端ヲ滋クスルコトハ甚タ好マサル処ナルモ当地カ特殊ノ事情ヲ有シ甚タ困難ノ立場ニアルヲ以テ成行次第ニテハ不本意乍ラ強制通関ヲ餘儀ナクセラルルカ如キコトアルヘキヲ以テ之ヲ諒トセラレタシト附ケ加ヘ置キタリ

右ノ会見ニ於テ本官ハ税関長カ単ニ自分ノ発意ニテ来訪セルモノニ非スシテ総税務司ノ内意ヲ受ケ当方ノ決意ヲ探ル為ニ来リシニアラスヤト見受ケラレタルヲ以テ大連安東ニ対スル当地ノ困難ナル立場ヲ強調シ置キタル次第ナリ当方トシテハ成ルヘク安東ニ於テ（脱）ニ実現セシメタキニ付安東ト相呼応シテ之カ貫徹ニ努力スル様上海ニ対シ当地カ

満洲ニ於ケル海港トシテ大連安東ト対立シ青島等トハ全ク其ノ事情ヲ異ニスル所以ヲ力説シ安東現行便法ヲ船積貨物ヘ延長承認セシムル様総税務司説得方御配慮ヲ請フ

上海、安東ヘ転電シ北京、奉天、青島ヘ暗送セリ

565　昭和4年2月26日　在上海上村総領事代理より田中外務大臣宛（電報）

**陸境特恵関税廃止は条約違反として張関務処長に抗議申入れについて**

上　海　2月26日前発
本　省　2月26日後着

第一九六号
横竹ヨリ

安東発大臣宛電報第二九号ニ関シ

加藤二十五日張福運往訪一九一三年彼我陸境関税協定全文ヲ突附ケ其ノ条約違反ヲ詰リタル処張ハ右ハ英支条約ニ依リ一切陸境減税撤廃ヲ規定セラレ居リ外交部ヨリ関係国ヘ通知セシ筈ナリト空恍ケタルニ付加藤ハ仮令英支条約ノ規定乃至通告ノ有無ニ拘ラス夫ハ条約ヲ一方的ニ勝手ニ廃棄スルモノニシテ日本トシテハ断シテ承認ノ限リニ非ス此ノ際至急安東税関長ニ対シ該命令取消或ハ実行延期ヲ発令セラルレハ兎ニ角然ラサルニ於テハ輸出附加税以上ニ「シリアス」ノ問題ニテ日本側トシテハ正税ノ領事館供託ヲ断行シ自由通関ヲ為スヲ辞セサル次第故気ノ毒乍ラ安東税関ハ遂ニ運用不可能ニ陥ル外無カルヘシ本件ニ付テハ何レ政府ヨリ正式ニ抗議ヲ為サル事ト思フモ自分ハ非公式ニ貴下ノ考慮ヲ促ス次第ナリト警告ヲ与ヘタルカ張ハ聊カ当惑ノ色ヲ見セ二十五日晩南京ヘ行クニ付財政部長其ノ他当局ヘ日本側意向ヲ伝ヘ相談致ス事トスヘシト答ヘタリ

外務大臣、奉天、間島、安東、南京ヘ転電セリ

566　昭和4年2月26日　田中外務大臣より在間島鈴木総領事宛（電報）

**間島では陸境特恵関税廃棄の阻止困難と思われる故輸出付加税と共に対策考究回電方訓令**

本　省　2月26日後0時30分発

第二三号
貴電第二三号ニ関シ



陸境関税廃止方ニ付テハ今日迄何等国民政府トノ交渉問題トナリタルコトナク従テ本件ニ関スル我方態度ハ奉天宛往電第二八号申進メノ通リ貴地ニ於テハ大正八年日支取極ガ其儘存続セラルベキ次第ナルガ支那側今回ノ態度ハ右取極ヲ一方的ニ廃棄セントスルモノナルガ故ニ今般別電南京宛往電第三一号ノ通リ中央ニ於テモ本件厳重抗議方訓令シタルニ付右ニ御承知アリ度尤モ貴地ニ於テ右廃棄ヲ阻止スルコトハ相当困難ナル事情アルベク結局抗議附納付ノ外ナカルベシト思考スルモ輸出附加税ノ阻止方ト共ニ何等カ有効ナル対策アラバ詳細御攻究ノ上結果回電アリ度

北京上海ヘ転電セリ貴電ト共ニ南京ヘ転電セリ

奉天安東琿春ヘ転電アレ貴電及奉天宛往電第二八号ト共ニ吉林ヘ又貴電ト共ニ朝鮮総督ヘ転電アリ度

567　昭和4年2月26日　田中外務大臣より在南京岡本領事宛（電報）

**陸境特恵関税撤廃については実力阻止の決心を有する旨を付言し厳重交渉による阻止方訓令**

本　省　2月26日後2時30分発

第三一号

安東発本大臣宛電報第二八号及間島発本大臣宛電報第二三号ニ関シ

満鮮陸境特恵税カ日支間特別協定ニヨリ実施セラレ従ツテ我方ノ承認ヲ経テ該協定廃止セラルル迄ハ支那側ガ一方的ニ右特典ヲ廃止シ得サルハ奉天宛往電第二八号ノ通ナル処前記来電ニ依レバ支那側ハ愈々一方的廃止ヲ実施シ来リタル趣ニ付不取敢安東宛往電第一五号及間島宛往電第二三号ノ通夫々訓令シタルガ尚貴官ハ南京政府ニ対シ右奉天宛往電ノ趣旨ニ依リ本件ハ彼我ノ協議ヲ以テ解決スヘク然ラサルニ於テハ我方カ実力ニ依ルモ本件条約違反阻止ノ堅キ決心ヲ有スル旨ヲ附言シ厳重ナル抗議ヲ提出セラレ極力本件不当措置阻止方御尽力アリ度シ

北京、奉天、安東、間島、哈爾賓、上海、芳澤公使、横竹商務官、朝鮮総督関東長官ヘ転電セリ

568　昭和4年2月27日　田中外務大臣より在牛荘荒川領事宛（電報）

**輸出付加税問題については当業者と税関との**

間で解決するよう交渉方訓令

本　省　2月27日後7時30分発

第五号

貴電第一一号ニ関シ

御来示ノ如ク貴地特種ノ事情モアリ解氷前何等適当ノ措置ヲ講シ置ク要アリト思考セラルル処領事館正税供託案ハ貴見ノ如ク実行困難ナル事情アリ結局(イ)安東同様抗議付輸出許可証発給ノ方法ニ依ルカ又ハ(ロ)青島ノ如キ供託案ヲ実施スルコトトスルモ本大臣発青島宛電報第三九号青島ヨリ転電ノ筈ノ如ク附加税ヲ当業者名義ヲ以テ預入スルコトトシテ本件ヲ全然税関側ト当業者間側ノ問題トシテ解決スル様支那側ト交渉シ右両案共妥結不可能ノ場合ハ抗議付納付ヲ為ス外無シト思考セラルルニ付貴官ハ右御含ミノ上支那側ニ対シ先ツ前記(イ)案実行方交渉相成リ右不調ノ場合ハ(ロ)案ニ依ル様御尽力アリ度シ尤モ此場合政府保障ノ下ニ供託金ヲ一時融通セシムルカ如キハ他地方トノ振合モアリ詮議ノ余地ナキニ付右ニ御承知アリ度シ

本電貴電ト共ニ

奉天安東上海青島北平南京及関東長官ヘ転電アリタシ

569

昭和4年2月27日　在安東岡田領事より田中外務大臣宛（電報）

陸境特恵関税については抗議付許可証の発給により妥協方福本税務司と同意について

付記　三月十四日付安東岡田領事より田中外務大臣宛機密第八五号公信

関税領事館供託実施具体案の送付について

安　東　2月27日後発

本　省　2月28日前着

第三一号

本日福本来訪総税務司ヨリ日本ハ華府条約ニ依リ陸海境関税ノ均一ヲ承認シ居ルヲ以テ現行三分ノ一減廃止方即時告示ヲ為スヘキ旨電訓ニ接セルニ付本日右告示ヲ為ス筈ナルカ一方日本側カ実力ヲ以テ阻止スル場合輸出附加税同様抗議附許可書発給ノ方法ニ依ル事ニ総税務司ノ諒解ヲ得居ルモ実際実力阻止ニ会ヒテ後右ノ方法ニ依ルモ愚ナリ税関側ヨリ日本側ノ意思ヲ確カムル公信ヲ出スヘキニ付差支ナキ限リ成ルヘク明カニ実力阻止ノ意嚮ナル旨回答ヲ得ハ夫レ





ニ依リテ抗議附許可書ヲ発給スルコトニ取計ヒタキ旨内話セルヲ以テ当方ニ於テモ右公信ニ接シタル場合成ルヘク先方ノ希望ニ副フ様然ルヘク回答スヘク抗議附許可証ノ方法ニ依ル解決方ニ付テモ本省ヨリ反対ノ回訓ニ接セサル限リ異議ナキ旨回答セリ

尚館員ヲシテ海関監督ヨリ税関長ニ宛テタル書翰ヲ内覧セシメタルニ英支間露支間仏支間ノ陸境減税廃止サレタル今日日支間ノ陸境減(税欠カ)モ問題ノ理由ナキニ依リ廃止スル旨南京政府ヨリ訓令アリ云々ト記シ華府条約ニハ触レ居ラサル趣ナリ為念

上海ヨリ南京ニ転電アリ度シ

北平、上海、奉天、間島、関東庁長官ヘ転電セリ

（付記）

機密第八五号　（3月18日接受）

昭和四年三月十四日

在安東

領事　岡田　兼一〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

関税領事館供託実施具体案送附ノ件

本件貴電第一五号ニ関シ当時朝鮮税関、満鉄、国際運輸、商工会議所、鮮銀及警察署ノ各代表者ト急遽凝議ノ結果一応別添ノ通関税領事館供託実施具体案ヲ作成セルカ本案ハ差当リ実施ヲ見サルコト、ナリタル為メ其ノ後研究ヲ重ネタルモ何等御参考迄報告申進ス

追テ貴電第一五号末段保証状ニ関シテハ昭和二年四月中安廣社長発本官宛来信ニ拠レハ満鉄ヨリ税関ニ対シ保証状ヲ差入レアル趣ノ処当地満鉄側ニテハ右保証状ヲ差入レ居ラスト思考スルモ尚取調フヘシトノコトナリ此段申添ユ

本信写送附先　在支公使　奉天総領事　間島総領事　牛荘領事

（別添）

関税領事館供託実施具体案

供託制実施ニ関シ当地ニ於テハ輸移出入年額一億七百万海関両内外ノ貨物ニ関スル税関事務ヲ取扱ハムトスルモノナレハ領事ヲ主脳トスル臨時海関事務取扱機関特設ノ要アリ但シ本供託案ハ事務窮極ニ際シテ執ラムトスル非常手段ナ

ルヲ以テ手続ハ簡便ナルヲ可トスルモ海関事務ハ素ト支那ノ国権ニ属スル行政ノ一部ニシテ普通一外国ノ管掌ヲ許サス問題解決ノ暁ニハ一切ノ供託事務ヲ支那当局ニ引渡スコト、ナルモノナレハ其ノ際手落ナキ様諸般ノ準備ヲ整フルヲ要ス即チ

一、供託制ニ依ル税関事務及通関手続ハ根本条件トシテ支那海関ノ規定ニ準拠スルコト

二、簡略セラルヘキ事務ハ供託制ニ於テ実行不可能ナルモノ又ハ実行スルモ効果ヲ期待シ難シト認メタルモノニ限ルコト

供託制実行機関トシテ領事館、朝鮮税関、満鉄、国際運輸、商工会議所、鮮銀及警察署ノ代表者ヲ以テ臨時海関事務管理委員会ヲ組織シ該委員ハ領事館ノ嘱託トシテ領事ノ命令並ニ監督ノ下ニ事務ヲ執行スルコト

本件実行機関並ニ之ニ必要ナリト思考セル分課及之ニ要スル委員ノ割当ヲ記セハ左ノ如シ

本件実行機関ヲ臨時安東海関事務管理委員会ト称スルコト

(一)臨時安東海関事務管理委員会ニ内班、外班及税金課(係カ)ヲ置キ夫々適当ノ管理委員ヲシテ所管事務ヲ分掌セシムルコト

(二)内　班

(イ)庶務係　(満鉄四人、国際運輸四人)

(ロ)税務係(輸出係　国際運輸八人、満鉄四人)
　　(輸入係　商工会議所三人)

(ハ)統計係

(三)外　班

(イ)検査係　(朝鮮税関十人)

(ロ)監視係　(警察二人、満鉄二人)

(四)税金係　(鮮銀四人)

(五)庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

会計、交渉、人件、諸照会、其他一般ノ庶務ニ関スル事務

但シ会計事務遂行上要スル諸費用ハ他ノ収支ト混同スルヲ許サス他日支那当局ニ事務ノ引渡シヲ行フ際関税収入中ヨリ当然必要ナル経費ヲ支弁シタルモノナル旨報告ノ義務アリ仍テ所要経費ハ必ス領事ノ承認ヲ経テ支出スルコトヲ要ス

(六)税務係ノ内輸出係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト



(イ)輸出貨物ニ関スル事務

(ロ)再輸出ニ関スル事務

(ハ)積残及積戻貨物ニ関スル事務

輸入係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

(イ)貨物ノ輸入ニ関スル一般事務

(ロ)積不足貨物ニ関スル一般事務

(ハ)保税貨物ニ関スル事務

(七)税金係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

(イ)輸出入税

(ロ)戻　税

(ハ)其ノ他ノ収入ニ関スル一切ノ事務

収入ノ内容ハ総テ此ノ係ニテ委細ヲ尽クコト(ス欠カ)ヲ要ス出納事務ハ鮮銀ニ於テ取扱ヒ領事館ニ対シ収納金保管ノ責ニ任ス但シ鮮銀ハ満銀ニ事務ノ一部ヲ委嘱スルコトヲ得其ノ細即(則カ)ハ両行間ノ特約ニ拠ルコト

(八)統計係

統計ハ海関ノ重要ナル事務ノ一ニシテ供託制ニヨリ海関事務ヲ管理スル以上其ノ取扱範囲ニ属スル出入貨車及輸出入貨物ノ統計ヲ整理スルコト

(九)検査係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

(イ)輸出入、再輸出入及積戻貨物ノ検査

(ロ)手荷物ノ検査

(ハ)申告価格ノ評価

(ニ)擬率事務

(十)監視係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ルコト

禁制品ノ密輸出入及税金ノ逋脱等ヲ防止ス右ハ警察官ヲシテ之ニ当ラシムルコト

## 570

昭和4年2月28日　在安東岡田領事より
　　田中外務大臣宛（電報）

### 安東税関では抗議の結果陸境特恵関税撤廃停止の告示が出た事について

安　東　2月28日後発
本　省　3月1日前着

第三三号

住電第三一号ニ関シ

本日税関長ハ三分ノ一減税ハ三月一日ヨリ廃止スル旨告示シ同時ニ公信ヲ以テ華府九国条約カ陸海境関税ノ均一ヲ認

メ居ルヲ以テ従来当地ニ於テ行ハレ居タル三分ノ一減税ヲ廃止スル事ヲ通報シ来リ且之ニ対シ本官ニ実力阻止ヲ為ス意嚮ナルカヲ尋ネ来リタルニ付本官ハ右減税ハ日支間ノ特別協定ニ基クモノニシテ支那側一方的ニ廃棄シ得ヘキニ非ス若シ支那側カ我方抗議及右協定ヲ無視シ減税廃止ヲ敢テスルニ於テハ必要ノ場合ハ実力ニ依リテモ我カ条約上ノ権利ヲ擁護スヘキ旨回答シタルニ税関長ハ抗議附ニテ我方ノ反対ニ屈従シ更ニ何分ノ訓令ニ接スル迄前記告示ノ実施ヲ中止スヘキ旨回答シ来リ且何分ノ訓令アル迄前記告示ノ実施ヲ停止スヘキ旨告示セリ

上海ヨリ南京ニ転電シ北京、上海、奉天、間島、朝鮮総督、関東長官ニ転電セリ

在満総領事、領事ニ暗送セリ

## 571 メーズ総税務司が本邦の英国政府への働きかけに対し謝意表示との芳澤公使報告

昭和4年3月1日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

上　海　3月1日前発
本　省　3月1日後着

第二一二号

往電第一六七号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

過日岸本本使ヲ来訪シ「メ」ノ伝言トシテ「メ」ノ地位支持方ニ関シ日本政府ニ於テ何等カ措置ヲ執ラレタル次第アリヤト尋ネタルヲ以テ本使ハ日本政府ニ於テハ本使稟申ノ趣旨ヲ容レ既ニ在英大使ニ対シ英国政府ニ申入方訓令済ナリトテ貴電第一〇八号中差支ナキ部分ヲ然ルヘク内話シテ「メ」ニ伝ヘシメタル処「メ」ハ之ヲ聞キ大イニ喜ヒタルモノノ如ク二月二十三日本使宛私信ヲ以テ深ク感謝ノ意ヲ表スルト共ニ将来税関ノ地位ハ其ノ支那ニトリ有用ナルコトニ依リテノミ維持セラルヘク従テ自分（「メ」）トシテハ今後能率ヲ維持シ大体現在ノ如キ税関制度ノ持続カ支那政府ニ有利ナルコトヲ示スニ努力スヘシトノ意見ヲモ附記シタリ（右書翰写郵送ス）

然ルニ其ノ後在英大使発閣下宛電報第八三号ノ転電ニ接到シタルニ付本使ハ右ノ次第ヲ「メーズ」ニ内話スルト同時





ニ此ノ機会ニ於テ岸本ノ地位ニ関シテモ「メ」ト意見交換シ置クヲ適当ト認メ二月二十八日「メ」ヲ訪問シ本日ハ重要且極秘ノ事柄ニ付御話スル為自ラ来訪シタリト告ケタレト一先ツ前記岸本ヲ通シ「メ」ニ伝言セシメタル件ニ言及シ更ニ右在英大使来電ノ中新総税務司援助ニ関スル同大使「ウエルズレー」間ノ談話ヲ適宜取捨シテ語リ極秘扱トセラレタキ旨念ヲ押シタル処「メ」ハ厚ク謝意ヲ表シタル後松平大使トハ天津ニ於テモ知合ニテ先般赴任ノ途次当地ニ立寄ラレタル節ハ晩餐ヲ共ニシタリト語リタル上「チエンバレーン」氏ニモ面談セラレタリヤト尋ネタルニ付其ノ事ハ未タ報告ニ接セサルモ「ウエスズレー」ハ「チエンバレーン」氏ニモ伝達スヘキ旨答ヘタル趣ニ付滞リナク同氏ニ伝達セラレタルコトト信スル旨ヲ告ケタル処「メ」ハ再ヒ謝意ヲ表シタル上英国政府ヨリハ「ラムプソン」ニ其ノ旨電訓スヘキヤト尋ネタルニ付其ノ儀ハ英国政府ノ事柄ナルニ付承知セサルモ何レ電訓セラルヘキ筋合ト思考スル旨答ヘ置キタリ

北京、南京ヘ転電セリ

## 572 海関内での本邦人登用をメーズ総税務司が承認した旨の芳澤公使報告

昭和4年3月1日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

上　海　3月1日後発
本　省　3月2日前着

第二一三号（極秘）

往(1)電第二一二号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

次テ本使ハ「メ」ニ対シ是ヨリ岸本ノ件ニ関シ少シク意見ヲ交換シタキ処本使ニ於テハ勿論税関内部ノ行政ニ容喙スル意嚮ナキモ日本ノ支那ニ於ケル重要ナル通商利益ニ顧ミ税関ノ本部ニ於ケル重要地位ニ日本人ヲ据置キタキ希望ナリ岸本ハ既ニ四月ヨリ賜暇帰朝ノ事ニ内定シ居レル処賜暇ヲ終リテ帰任スル場合重要ナル港ノ税務司ト為サントスル貴下ノ腹案ナリトノ事ナルカ岸本ノ話ニ依レハ賜暇帰朝ノ事ハ「エドワーズ」ノ提議ニ基クモノニテ岸本自身トシテハ必スシモ之ヲ必要トセル次第ニ非ストノ事ニモアリ旁同人ヲシテ賜暇ノ内定ヲ飜シ此ノ儘「チーフ」セクレタリ

ー」ノ地位ニ居据ハラシメ其ノ代リ「チーフ、セクレタリー」ニ擬セラレ居ル「ウオルシヤム」ヲ上海税務司ニ任命セラルル事トモナラハ本使ノ幸甚トスル処ナリ尚一言附加シタキハ御承知ノ通現在日支間ノ関係ハ寧ロ不良ノ状態ニアル次第ニテ且過日貴下ノ談ニ依レハ税関ニ於ケル重要吏員ノ任免ハ国民政府ノ承認ヲ要スルコトトナリタリトノ事ニ付右本使ノ提議ハ勿論濟南事件解決ノ上両国ノ関係改善シタル後トスルコトヲ条件トセルモノナリト述ヘタル処「メ」ハ日本ノ立場ハ良ク諒解シタルモ実ハ過日申上ケタル通リ自分トシテハ既ニ「ウオルシヤム」ニ「コミツト」シタルノミナラス同人ハ年齢モ既ニ六十ニ近ク税関内部ニ於ケル最古参者ニシテ順序ヨリ云フモ適当ノ任命ト思ハル且之ハ極秘ニ願ヒ度キコトナルカ国民政府ヨリハ廣東税務司「フアーガソン」ヲ「チーフセクレタリー」ニ任命方内密希望ノ申出アル次第ニテ自分トシテハ之ニ同意シ難キモ兎ニ角国民政府ヨリ申出アリタル事実ハ之ヲ無視スル能ハス旁岸本ヲ現在ノ儘「チーフセクレタリー」ノ地位ニ保持スルコトハ頗ル困難ニテ之ニ加フルニ岸本ハ「ビツグ、ポート」ニ勤務シタル経験ナクシテ「チーフセクレタリー」ニ対シ日本人ヲ入ルル事ノ希望ヲ有スルコトナキヤト尋ネタルニ付本使ハ日本ハ支那政府トノ間ニ右ノ如キ協約ヲ有セス又十年二十年ノ遠キ将来ノ事ニ付テハ勿論言明シ難キモ差当リノ処総税務司ノ地位ニ日本人ヲ出スノ野心ヲ有セス「チーフ、セクレタリー」ニテ満足スルモノナル旨答ヘタル処「メ」ハ十年二十年後ノ事ハ英国人ノ地位スラモ如何ニナルヘキヤ豫断シ難シト一笑セリ

「メ」トノ本件ニ関スル談話ハ大体右ノ通ニテ岸本ヲ此ノ儘「チーフ、セクレタリー」ニ居据ハラシムル事ハ客年北京発閣下宛往電第一七四五号ノ経緯ニモ顧ミ困難ニテ此ノ際「メ」トノ間ニ右以上ノ取極ヲ為スコトハ不可能ト思考セラル

尤モ二年後再ヒ岸本ヲ「チーフ、セクレタリー」ト為スノ保障ニ付テハ更ニ本使ヨリ「メ」ニ書面ヲ送リ之ヲ確認セシメタキ積リナリ

北平、南京へ転電セリ

573　昭和4年3月4日　在上海重光総領事より　田中外務大臣宛（電報）

## 間島においても陸境特恵関税廃止を中止について

上　海　3月4日後発
本　省　3月5日前着

（編注）第　号

本官発間島宛電報
第一号
貴電第一号ニ関シ
横竹ヨリ

去ル二日（土曜日）午後「メーズ」ヲ往訪不在ナリシ為岸本ニ面会三分ノ一減税存続安東同様取計ニ付尽力方申入レ置キタル処今四日朝同氏ヨリ総税務司ヨリ本官ヘノ伝言トシテ間島税関長ヨリノ報告モアリ若シ日本側ニ於テ実力阻止ヲ為サハ安東同様取計ヒ差支ナキ旨発令スル考ナリト内報アリ就テハ税関長ノ立場モアリ貴官ニ於テ改メテ貴地税関長ニ対シ厳重抗議並ニ実力阻止ノ意ヲ通告シ此ノ際安東同様取運方可然御交渉アリタシ

大臣、北平、南京、奉天、安東、營口、吉林へ転電シ、芳澤公使へ通報セリ

編注　電報番号なし。

トナリタル事ニ対シ兎角税関内部ニ於テ非難起リタル事実ニ鑑ミ一旦「ビツクポート」ニ勤務シタル後更メテ「チーフセクレタリー」トナスコト然ルヘク之ナレハ自分ニ於テ異存ナキノミナラス税関内部ニ於テモ非難ノ餘地ナカルヘシ且又現在ノ上海税務司「マイヤース」ハ極メテ事務ニ練達シ居レルカ故ニ今「ウオルシヤム」ヲ以テ同人ニ代フルコトハ出来難シト述ヘタルニ付本使ハ「ビツクポート」ニ於ケル在勤ハ何年位ナルヘキヤト尋ネタル処「メ」ハ一年ニテ結構ナルヘシ即チ賜暇帰朝ヲ一年トセム「ビツクポート」ニ於ケル在勤一年ヲ加算シ合計二年ニテ岸本ヲ再ヒ「チーフセクレタリー」トナシ得ヘシト答ヘタルニ付

本使ハ本使ノ希望ハ responsible representation in the Inspectorate ニアリテ貴下ニ於テ之ヲ記憶セラレ若シ二年ノ後岸本ヲ「チーフ、セクレタリー」ニ任命セラルルモノトセハ本使ニ於テモ満足スヘキ旨述ヘタル処「メ」ハ直ニ其ノ点ニ付テハ自分ニ於テ保障スト答ヘタル後更ニ英国ハ「マクドナルド」公使時代ニ総理衙門トノ間ニ総税務司ノ地位ニ付協約ヲ遂ケタルコトアルカ日本ハ支那政府トノ間ニ右ノ如キ協約ヲ有スルコトナキヤ将又総税務司ノ地位

574　昭和4年3月5日　田中外務大臣より
在間島鈴木総領事宛（電報）

**陸境特恵関税廃止に対し抗議の際輸出付加税の実力阻止も併せて税関に通告方訓令**

本　省　3月5日後6時40分発

第二四号（至急）
上海発貴官宛電報第一号ニ関シ
同電末段ノ趣旨ニ依リ貴地税関長ニ通告セラルル際ハ陸境特恵税ノミナラズ二五輸出附加税ノ実力阻止方ヲモ併セテ通告セラレ度シ
尚支那側カ我方再三ノ抗議ヲ無視シタル際ノ実力阻止ニ関スル具体案ニ就テハ目下朝鮮総督府ト協議中ナリ右貴官御含迄
奉天、安東、営口、吉林へ転電アリ度シ
（本電上海発貴官宛電報第一号ト共ニ朝鮮総督府へ転電アリ度シ）
北平、上海、南京ニ転電シ（芳澤公使、横竹参事官ニ転報セリ）

575　昭和4年3月5日　田中外務大臣より
在牛荘荒川領事宛（電報）

**営口においても安東同様輸出付加税導入阻止方訓令**

本　省　3月5日後7時10分発

第六号
貴電第一三号ニ関シ
間島宛上海発電報第一号ニ依レバ我方ノ態度如何ニ依リテハ貴地二五附加税モ安東同様ノ取扱ヲナサシムルコト不可能ニアラサルヤニ認メラルル処貴地満鉄埠頭ハ「ハーバーリミット」内ニ在リテ強制通関可能ノ趣ナルノミナラズ営口税務局ハ日本側ニ於テ実力阻止ノ声明ヲ為サバ安東同様ノ結果トナルヘキ旨洩シタル由ニ付貴官ハ右御含ミノ上前記貴電ノ趣旨ニ依リ目的貫徹方此上トモ御尽力アリ度シ
奉天安東青島へ転電アリ度シ
北平上海南京へ転電シ芳澤公使横竹参事官へ転報セリ
貴電第一三号南京ニ転電アリ度シ
本電貴電第一三号ト共ニ関東長官ニ暗送アリ度シ





576　昭和4年3月7日　在漢口桑島総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**漢口では依然内地税局存続につき英国総領事と共同抗議の予定について**

漢　口　3月7日後発
本　省　3月8日前着

第一六一号
重慶発本官宛電報第一二号
大臣へ転電アリタシ
第五号
貴電合第六九号ニ関シ
曩ニ当地ニ於ケル内地税局（二五附加税局）ハ二月一日ヲ以テ撤廃ノコトニ内達アリタルモ商務総会ニテハ当地二十一軍ニ対シ右附加税ヲ引当テニ軍費五百五十万元ヲ提供シ居ル関係上右債権ノ償還方申出テ若シ償還不能ナルニ於テハ全債権ノ回収ヲ見ル迄之カ存続方ヲ要求シ交渉中ナリシカ二月末日ニ至ルモ内地税局ノ撤廃ナク依然二五税ノ徴収ヲ停止セサルニ依リ目下交渉員ヲ通シテ厳重抗議中ナルカ更ニ本官昨五日英国総領事ヲ往訪シ協議ノ上近ク共同抗議スルコトトセリ

577　昭和4年3月(8)日　在間島鈴木総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**間島では陸境関税廃止を実力で阻止する事は困難ゆえ朝鮮側との協議結果等を含め回電方請訓**

間　島　発
本　省　3月8日前着

第二六号
貴電第二四号ニ関シ
（欄外記入）
実力阻止ニ関シテハ本件発生当時ヨリ種々考究シ又当業者側トモ度々協議ヲ遂ケタル処当地方ノ輸出入ハ大体天図鉄道ニ依ルモノナルカ天図鉄道ノ督弁ハ官制上税関監督タル交渉員（旧道尹）ニシテ輸出貨物ハ税関手続ヲ完了セサレハ同鉄道ニ於テ輸送ヲナサス故ニ実力阻止ヲナサントスレハ先実力ニ依リ天図鉄道ヲ占領シ従業員ヲモ日本人ヲ以テセサルヘカラス

陸路馬車ニテ穀物ヲ輸出スル石硯坪（朝鮮潼關鎮対岸）ニ於テ朝鮮側ニ実力ヲ備ヘ強制通関ヲ行ハントスレハ必スシモ出来得サルニアラサルモ同地ハ間島輸出ノ単ニ一部分ナルニ依リ全体ニ於テ解決上効果大ナラス又上三峰ニ実力ヲ備ヘ対岸地坊駅ヨリ穀類ヲ汽車ニ依ラス圖們江氷上ヲ馬車ニテ強制通関スルモ一方法ナルモ是亦単ニ間島輸出ノ小部分ニ止マリ効果少シ而シテ輸入ハ全部鉄道ニ依ルヲ以テ結局鉄道ヲ占領スルニ非サレハ難シ要スルニ間島ハ安東トハ全ク事情ヲ異ニスルヲ以テ平和的ニ強制通関ヲナサントスルモ方法ナシ支那側ニ於テモ状況ヲ知リ居ルヲ以テ只書面ノミニテ実力阻止ヲ通告スルモ直ニ徴収不能ナル旨総税務司ヘ上申スルモノトハ思ハレス日本ノ阻止準備ヲモ見タル上税関監督側ト篤ト協議ヲ遂ケ態度決スルモノト考ヘラル何等準備ヲナサス単ニ通告ヲナスモ本邦側ニ於テ実際着手セサルニ於テハ極メテ面白カラサル立場トナルヘキニ付朝鮮側ト御協議ノ結果阻止ニ関スル具体案大体ナリトモ豫メ御回示アリタシ

当業者側ハ仮ニ抗議付ニテ輸出入ヲナシツツアリ

北平、奉天、吉林、上海、安東、南京、朝鮮総督ヘ転電セリ

（欄外記入）

第一課長（西）　無理ハセヌガヨシ

578

昭和4年3月(8)日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**営口にても輸出付加税実力阻止可能との岸本内報につき横竹商務参事官報告**

上海　発
本省　3月8日後着

第二五八号

本官発牛荘宛電報

第一号

大臣発貴官宛電報第六号ニ関シ

横竹ヨリ

岸本ヨリノ内報ニ依レハ牛荘税関長カ日本領事ヨリ得タル印象ニテハ同地ノ輸出附加税ニ付日本側ハ多分実力阻止ニ出テサルヘシト万一実力阻止ニ出テタル場合ハ如何ニスヘリ





キヤト総税務司ヘ請訓アリタル処総税務司ハ之ニ対シ未タ何等申送リ居ラサル由

扱テ貴地ニテ若シ実力阻止ノ意ヲ税関側ニ通告スルニ於テハ安東同様ノ取扱ヲナサシムルコト困難ニ非サルヘク而シテ既ニ実力阻止ニ依ル以上（大臣発安東宛電報第九号参照）必スシモ日本人荷主ニ局限スル要ナカルヘク出来得レハ外国人全体ニ均霑セシムル方然ルヘク少クトモ日本国籍ノ船舶倉庫取扱ニ係ル凡テノ貨物ニ之ヲ及ホシ他国商ニ対シテモ其ノ利益ニ均霑セシムルコト得策ナリト思考セラルルニ付テハ（安東ニテモ同様）此ノ点御研究願ヒ度シ

芳澤公使ヘ通報セリ

大臣、北平、南京、奉天、間島、安東ニ転電セリ

579

昭和4年3月9日　在牛荘荒川領事より
田中外務大臣宛（電報）

**輸出付加税問題に対し強制通関を行いたき旨意見具申**

営口　3月9日後発
本省　3月10日前着

第一四号

貴電(1)第六号ニ関シ

㈠満鉄埠頭ハ附属地「ハーバーリミツト」内ニアルヲ以テ船舶ノ入港ニ付特別ノ許可ヲ要セス貨物積込ミ等ニ当リテモ支那側ノ妨害等ヲ受クル憂ナキモ河口迄十四哩ノ航行中支那官憲ヨリ停止ヲ命セラレタル場合之ヲ肯セサレハ強力抑留ヲ受クルカ如キコト全然ナシトハ保証シ難シ

㈡当地税関長カ貴電ノ如キ意向ヲ洩シタルヲ聞カス唯同人ハ本官ニ対シ税関ハ何等実力ヲ有セサルヲ以テ日本側カ強制通関ヲ実行スルコトアルモ之ニ対シ如何トモ為シ能ハスト語リタルコトアリ或ハ之カ誤伝ナラント存ス

㈢開河モ間近キコトト存セラルルニ付往電第一三号ノ趣旨ニ依リ税関長ト折衝スル所存ナル処右目的ノ貫徹ハ船舶入港ヲ見問題カ実際化シタル際強硬ナル態度ヲ以テ強制通関ノ決意ヲ示スニアラサレハ不可能ト存セラルルヲ以テ其ノ間如何ニシテモ税関側ニ於テ当方ノ希望ヲ容レサル場合ニハ行懸上強制通関ヲ決行スルヨリ外ナシト存スル処前掲㈠ノ通貨物ノ積込ニ支障ヲ生スル虞ナク支那側ヨリ船舶停止抑留等ノ為強力行為ニ出ツルコトモ万ナカ

ルヘシト存セラルル上当地当業者ハ到底附加税ヲ負担スル資力ナク船舶業者モ万一ノ場合ニ於ケル危険ヲ覚悟シテ出港ヲ強行スル決心ナルニ付大臣発安東宛電報第九号ノ手続ヲ履ミ輸出免許ヲ与ヘ差支ナキヤ勿論支那側万一ノ強力行為ニ対シテハ豫メ旅順海軍駐在武官トモ危険状態発生ノ場合ニ於ケル保護ニ遺漏ナキ様打合セ置度キ所存ナリ

(四)[2] 昨日税関長他用ヲ以テ来訪セルニ付附加税ニ関スル総税務司ヨリノ回答ノ有無ヲ質シタル処未タ何等ノ回訓ナシトノ事ナリ而シテ税関長ヨリ之ニ関スル日本政府ノ態度如何ト尋ネタルニ付本附加税ハ条約違反ニシテ納付ノ義務無キモノナレハ安東現行辦法以外妥協ノ餘地ナシト答ヘタルニ税関長ハ安東ニ於テモ船積貨物ニ対スル辦法未タ定マリ居ラサルノミナラス現ニ橇ニ依ル氷上運搬貨物ニ対シテハ「アンダープロテスト」ニテ附加税ヲ納メ居ルニ非ヤスト反問セルニ付往電第一三号ノ趣旨ヲ繰返シ置キタリ

(五) 客月二十七日附加税徴収ニ関スル二月八日布告写税関長ヨリ送付越シタルニ付直ニ大臣発奉天宛電報第二七号ノ趣旨ニ依リ文書ヲ以テ海関監督宛公示シ置ケリ

北平、上海、南京、青島、安東、間島ヘ転電シ奉天、関東庁ヘ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

## 580

昭和4年3月10日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

### 新税率承認に関する文書発表につき宋財政部長に申し入れた旨芳澤公使報告

上　海　3月10日後発
本　省　3月10日後着

第二六九号

往電第二六八号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

八日宋子文ト会見ノ際本使ハ宋ニ対シ貴部長ノ御註文ハ承ハルカ本使ノ方ヨリモ註文シタキ事アリ即チ第一、新税率承認ニ関スル三個ノ文書発表方ニ付テハ曩ニ上村領事ヨリ王部長ニ申入レタルモ王部長ハ貴部長ニ相談ノ上回答スヘシトノ事ニテ未タ右回答ニ接セサル処右ハ如何ニ相成タルヤト尋ネタルニ宋ハ此ノ問題ハ全然外交部長





ニ委セアリテ自分トシテハ外交部長ノ権限ニ餘リ立入ルコトヲ好マサル旨答ヘタルニ付本使ハ王部長ノ談ニ依レハ貴部長ニ相談スヘシトノ事ナリシニ付右ノ如ク御尋ネシタル次第ナルニ貴部長ハ右ハ全然外交部長ノ権限内ニアリト述ヘラレ我方トシテハ途方ニ暮レサルヲ得ス元来我政府トシテハ既ニ新税率承認協定ノ事ヲ発表シ居リ議会ニ於テ議員ヨリ協定ノ内容ニ付質問ヲ受クル事モアリ当惑シ居ル次第ナル上聞ク処ニ依レハ債務整理ニ関スル国務会議決議ハ既ニ他ノ関係公使館ニモ通知セラレタル処ナル以上今更発表ヲ遅疑セラルル必要ナキニ非スヤト述ヘタル処宋ハ自分ヨリ王部長ニ「リマインド」スヘシト答ヘタリ

第二、本使ハ債権代表会議ハ新税率取極後早速召集セラルル事トナリ居ル処未タ其ノ運ニ至ラサルハ如何ナル理由ナリヤト尋ネタルニ宋ハ本問題ニ付テハ国民政府ハ行政院長外交部長交通部長鉄道部長及自分ノ五人ヲ以テ債務整理委員会ヲ組織シ曾宋鑑ヲ書記長トナシ右委員会ハ先週木曜日第一回ノ会議ヲ催シ事業ニ着手シタル次第ニテ何レ遠カラス必要ノ措置ヲ執ルヘシト答ヘタルニ付本使ハ我方債権者ハ一日モ速ニ会議ノ開催ニ至ラム事ヲ翹望シツツアル次第ニ付出来得ル丈速ニ開催ニ至ル様取計ハレタシト述ヘタル処宋ハ之ヲ承諾セル旨答ヘタリ

北平、南京ヘ転電セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

## 581

昭和4年3月11日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

### 輸出付加税問題等に関する宋財政部長との会談につき芳澤公使報告

上　海　3月11日後発
本　省　3月12日前着

第二六八号

芳[1]澤公使ヨリ

数日前宋子文ヨリ税率問題ニ関シ本使ト会談シ度ニ付八日茶ニ招キ度旨申出アリ之ヲ承諾シ置キタルニ付当日同人ヲ訪問シタル処宋ハ先ツ二分五厘輸出附加税問題ニ就テハ日本政府ノ反対アル為大連等ノ税関ニ於テハ未タ之ヲ徴収スルコト能ハス困却シ居ル処元来本件ニ就テハ曩ニ自分ト矢田総領事トノ間ニ交渉ノ際或日ノ会合ニ於テ自分ヨリ本件附加税ノ実施ヲ継続シ度旨申出タル節同総領事ノ同意ヲ得

タリト了解シ居タル次第ナル旨述ヘタルニ付本使ハ日本政府ニ於テハ右様ノコトヲ承知セス右ハ何月何日ノ会合ナリヤト尋ネタル処宋ハ日附ハ確ト記憶セサルモ確カニ右様ノ会談ヲナシタルモノニテ其ノ節同シク列席ノ上村領事ハ夫レハ現状ノ儘即チ抗議附ニテ納付スルコトトナルヘシト述ヘラレタリト語リタルニ付

本使ハ此ノ点ハ後刻取調フヘキモ仮リニ口頭ニテ何等カ右様ノ意見交換アリタリトスルモ輸出附加税ノ徴収ヲ我方ニ於テ同意スル場合ニハ取極ノ中ニ記入スル筈ナルニ拘ラス其ノ記入ナキ以上ハ斯ノ如キ意見交換モ無効ナルニ非スヤト述ヘタル処宋ハ取極ハ輸入税率ニ関スルモノナルカ故ニ記入セサリシ迄ナリト答ヘタルニ付本使ハ我方ノ立場ハ条約ニ規定ナキ不法ニシテ不法税率ノ徴収ヲ税関ニ許スコトハ税関ヲ破壊ニ導クモノナリト認メ居ル次第ナリト述ヘタルニ宋ハ貴公使ノ言ハ餘リニ強硬ナリ支那側ニ於テモ輸出税ヲ増スカ如キハ本来ノ趣旨ニ非サルモ何分財政困難ナルカ為致方ナシトセル処ナリト述ヘタルニ付本使ハ本問題ニ付テハ日本政府ハ国民政府ノ不法措置ニ対シ本使ヨリ厳重交渉方豫テ訓令ニ接シ居ル次第ニ付濟南事件落着ノ上ハ本問題ニ付交渉ヲ遂ケタキ意嚮ナリシ旨述ヘタル処宋ハ何トカ日本政府ニ於テ同情ヲ以テ考慮セラレタキ旨訴ヘタリ

右ニ対シ本使ハ本件附加税カ不法ナル上満洲ニ於ケル日本商人等ハ先物契約ニ付多大ノ損害ヲ受クル事ト成ルヘキニ付即時実施ニ対シテハ特ニ我方ニ於テ反対シタル次第ナリト述ヘタル処宋ハ然ラハ四月一日ヨリ実施スルコトナラハ如何ト尋ネタルニ依リ本使ハ三月一杯ニテハ勿論不充分ナルカ兎ニ角篤ト考慮シ置クヘシト答ヘタル後更ニ三分ノ一陸境関税モ是亦同様ニテ華府条約ニ於テハ陸境関税ヲ海関税ト均等ナラシムル事ニ主義上同意シタルモ関税会議ニ於テ之カ為必要ナル取極ヲ為ス事ヲ前提ト為シタル次第ナルカ不幸ニシテ関税会議ノ失敗ニ帰シタル為右取極ヲ見ルニ至ラサル次第ナルニ拘ラス支那政府ニ於テ今直ニ右特典ヲ廃止スルハ同シク不法ノ措置ニシテ我方ニ於テ実力ヲ以テ阻止シツツアル所以ナリ

尤モ三分ノ一減税ニ就テハ何レ近キ将来ニ於テ条約改正ノ商議ニ入ルヘキニ付本使ノ私見トシテハ右商議ニ於テ適当ニシテ且双方ニ満足ナル取極ヲ為スヲ可ナリト信スル次第ナリト述ヘタル処宋ハ条約改正ノ商議ヲ待タス其ノ以前ニ





於テ右二分五厘附加税及三分ノ一減税ノ両件共好意的考慮ヲ加ヘラレタシト述ヘタルニ付本使ハ只今ノ処何等御答シ難キモ此ノ儘双方意見ノ不一致ヲ見送ルコトハ両国々交ノ為面白カラサルニ付篤ト考慮スヘシト答ヘ置キタリ

本問題ニ関スル宋トノ会談要領大体右ノ通ナルカ前顕矢田総領事ト宋トノ間ニ於ケル交渉ノ際宋ヨリ二分五厘附加税継続方ヲ申出タリトノ点ニ付帰宅後矢田総領事ニ確カメタル処同総領事ニ於テ同意ヲ与フルカ如キ口吻ヲ洩シタルコト絶対ニナキコトハ一月二十八日張関務署長(処カ)同総領事ヲ来訪シ輸出附加税承認方申出タル際ノ経緯（往電第一〇四号）ニ顧ミルモ明瞭ナルニ依リ十日朝同総領事ヨリ一応宋ニ確カメムトシタル処宋ハ既ニ赴寧セリトノコトニテ其ノ意ヲ得サリシカ

或ハ右ハ英文取極(三)「新税率実施ト共ニ華盛頓会議附加税ヲ廃止スヘシ」トノ条項ニ付宋ハ「華盛頓會議輸入附加税」ト明記シタキ旨提議シタルニ依リ矢田総領事及上村領事ヨリ斯テハ我方カ輸入附加税ヲ黙認シタル形トナリ面白カラスト反対シ尤モ右条項ハ輸入税ノミノ問題ナレハ之ヲ引用シテ輸出附加税ノ廃止ヲ要求スルカ如キコトナシト述ヘタル次第（矢田総領事発閣下宛客年往電第九三一号(二)参照）ヲ指称スルモノナルヤモ知レス要スルニ右ハ畢竟宋ノ一時逃レノ言訳ニ過キサルヘク且支那ニ於テハ従来内地税局ニ於テ徴収シタルモノヲ今回ハ更ニ一歩ヲ進メ海関ニ於テ徴収スルコト(ト欠カ)ナシ従来徴収セサリシ満洲ニ迄及ホサントシタルモノニシテ支那側ノ措置ハ勿論是認スヘキ限リニ非スト思考ス乍併実際問題トシテ之ヲ考フルニ第一支那側ハ徴収機関ノ問題ハ別トシ財政上ノ必要ヨリ是非共本件附加税ノ徴収ヲ計ラントスヘク且多少ノ列国カ既ニ支那ノ関税自主ヲ認メ居リ我方独リ反対スルモ満洲以外ニハ実力ヲ及ホスコト能ハサル現状ナルノミナラス

第(六)二過日大連商業会議所副会頭ノ本使ニ語リタル処ニ依レハ先物契約ニ関シ附加税実施ノ期日ヲ多少延期セラルルニ於テハ本件附加税ノ徴収ニ関シ日支両国政府間ニ於テ遂ケラルヘキ協定ニ異議ナシトノコトナリシコトノ二点ヲ考慮スルニ大体実施期日ヲ今後二三ケ月延期スルニ於テハ我方商権確保ノ見地ヨリ左シタル影響ナカルヘシト認メラルルル而已ナラス実力ヲ以テ阻止シツツアル現状ヲ此ノ儘無期限ニ見送ルコトハ面白カラサルニ付濟南事件解決後ニ於テ例

ヘハ実施期ヲ二三ケ月後トナスカ如キ条件ニテ本問題ヲ解決スルコト一策ナラスヤト思考ス

本(7)問題ノ解決案トシテハ支那側ニ別個ノ収入ヲ与ヘ本附加税ヲ中止セシムル方法トシテ例ヘハ㈠昨年北京物価編訂会議ニ於テ決定セル棉花及砂糖ニ対スル税率ヲ基礎トシ新輸入税率ヲ増加スル事ヲ黙認スル事又ハ㈡現行輸出税率平均現実約二分強ニ附加税ヲ加ヘ現実約三分程度ニ引直シテ行フ事ヲ承認スル事等ノ案アルモ前顕実施延期ニ依ル解決案ノ方妥当ナルヤニ思考セラルルニ付今後濟南事件愈解決ノ運トモ相成ラハ右ノ案ニ依リテ其ノ交渉方御詮議ノ上何分ノ御回訓アル様致シタシ尚三分ノ一減税ノ方ハ卑見ノ通通商条約改正商議ノ際ニ於テ解決スル方得策ト存ス為念申添フ

北平、南京、奉天ニ転電セリ

582　昭和4年3月14日　田中外務大臣より　在牛荘荒川領事宛（電報）

**陸境関税廃止について中国側が強硬な場合は領事館供託による通関採用方訓令**

本　省　3月14日後1時35分発

第七号

貴電第一四号ニ関シ

支那側ガ飽ク迄我方ノ主張ヲ無視スルニ於テハ貴電御来示ノ通リ開河後ハ安東宛往電第九号ノ供託手続ニ依ル通関方（欄外記入）取計ハレ差支ナキニ付右ニ御承知ノ上此上トモ円満解決方御尽力アリ度ク尚供託手続ノ実行方ニ付テハ予メ関係方面トモ充分打合セヲ遂ゲ遺憾ナキ様御手配置アリ度シ。

奉天、青島、間島、安東、関東庁へ転電アリ度シ

北平、上海、南京ニ転電シ上海ヨリ芳澤公使横竹参事官へ転報セシム

（欄外記入）

輸出付加税ヲ legalize スルコトニ関スル中央ノ交渉ハ別ニ考慮スルコトトシ差当リ本電供託ノ方法ニヨリ牛荘ガ安東大連ヨリモ不利ナル地位ニ置カルルコトヲ防止スルコトト致度

583　昭和4年3月14日　木下関東長官より　田中外務大臣宛（電報）



**輸出付加税徴収阻止の示威のため営口への駆逐艦派遣は可能について**

関東庁　3月14日後発
本　省　3月14日後着

外合第一三号
外第一四号

三月十三日三浦他用ヲ以テ北代税関長往訪ノ際北代ヨリ牛荘税関長ハ営口解氷ト共ニ附加税徴収ヲ実施セサルヘカラサル立場ニアル処其ノ際税関前ニ日本駆逐艦一隻ニテモ碇泊シ居ラハ日本側ノ実力行使ト看做シ徴収セサル積リナリト語リタルカ同税関長ハ内心之ヲ希望シ居ルモノノ如シト内話セリ尚客月二十八日本問題ニ関聯シ同課長ヨリ全然一己ノ心得迄ニ久保田駐在武官ニ対シ営口解氷ト同時ニ巡航ノ名義ヲ以テ駆逐艦ヲ一定ノ期間同港ニ碇泊セシムル事可能ナルヤ否ヤヲ問合セタルニ牛荘領事ヨリ外務大臣ニ稟申シ其ノ結果海軍ヨリ出先海軍ニ訓令アラハ可能ナル旨答ヘタル趣ナリ以上御参考迄

上海ヨリ南京ヘ、安東ヨリ間島ヘ転電アリタシ、大臣、北平、奉天、安東、上海ヘ転電セリ

584　昭和4年3月14日　在牛荘荒川領事より　田中外務大臣宛

**営口では中日実協会の名を以て日中両実業界が共同して中国側に輸出付加税廃止方請願について**

機密第七六号　（3月19日接受）

昭和四年三月十四日

在牛荘
領事　荒川　充雄〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

輸出附加税阻止方ニ関スル当地支那商ノ提案ニ関スル件

支那国民政府カ今般実施セル輸出附加税ハ当地カ大連、安東ト対立スル関係上当地支那側商民ニ与フル打撃モ多大ニシテ甚タ苦痛トスル処ナルヲ以テ曩ニ当地支那商務総会ノ名ニ於テ国民政府（張學良ヲ経テ）及総税務司ヘ右撤廃方請願セルモ峻拒セラレタル趣ナルカ今般同商務総会ハ当地日支実業両界ノ連鎖機関トシテ客年九月成立セル中日実協

会ノ名ニ於テ之カ阻止方支那側関係官憲並ニ本官ニ請願シタキ趣ヲ以テ別紙請願書草稿ヲ具シ本邦商業会議所側ニ協議越シ同会頭ヨリ其措置方ニ付キ指示ヲ求メ来リタルニ付本官ハ本件ノ如キ双方其立場ヲ異ニシ而カモ日本政府カ厳重抗議ヲ為シツツアル際ナレハ支那側ヲシテ独自ニ東三省ノ商務聯合会ヲシテ一斉ニ阻止運動ヲ起ス様仕向クルカ如キハ我方ニ有利ナランモ本邦商側カ支那側ト協同シテ支那官憲ニ請願スヘキ筋合ノモノニアラサルヲ以テ可然応酬スル様訓達シ置ケリ

別紙草稿及訳文相添ヘ右何等御参考迄報告ス

写送付先　在支公使、奉天、哈爾賓、吉林、間島各総領事、安東、長春、鐵嶺、遼陽、鄭家屯、赤峯各領事、新民府分館、関東長官

（別　紙）

訳文

拝啓以書翰啓上仕候陳者中央ニ於テハ関税自主ヲ宣布シ輸出二分五厘附加税ヲ徴収スルコトト相成候処本件ニ関シ大連各商ニ於テハ之カ阻止ノ為聯合運動ヲ起シ極力日本政府ニ市場保護ノ為抗議方ヲ願出テ居候本件ハ各新聞紙上ニモ登載セラレ何人モ已ニ知悉セルトコロニ有之将来右実施期トナリ課税サルル憂ナキニ至リ営口ノミ単独ニ附加税ヲ徴収セラルルニ於テハ豆粕、大豆、豆油其他雑穀ノ輸出ヲナセル営販売業者タル中外商人等ハ必スヤ相続ヒテ大連ニ赴キ重税ヲ免レントスルニ至ルヘク然ル時ハ既ニ頽廃疲弊セル営口商人等ハ更ニ此ノ重大ナル打撃ヲ蒙リ営業ノ前途ハ憂慮セラルモノアリ想フニ曩キニ輸入二五附加税徴収ニ当リ大連ニテハ之ヲ実施シ能ハサリシ為其影響ハ当市場ニ波及シ商店ノ倒産、閉店セントスルモノアリタルモ今回幸ニ関税自主ニヨリ右輸入附加税ノ徴収ヲ取消サレタルヲ以テ正ニ此ノ機会ニ於テ営業ヲ恢復セシメントセシニ今又突然輸出二五附加税徴収ヲ発表セラレ恢復ノ希望モ右ニヨリ既ニ不可能トナルニ至レリ従来豆粕、豆油、大豆等ノ輸出ヲ以テ生命トセル当地中外商人等ハ全ク絶望トナルニ至レリ之ニヨリテ之ヲ見レハ輸出二五附加税ノ影響スルトコロハ曩ニ取消サレタル輸入附加税ニ比シ更ニ甚大ナル影響アリ依テ茲ニ出願候条特ニ御詮議ノ上本輸出二五附加税実施期ヲ暫時延期セラレ大連同様ノ取扱方法ヲ以テ市場ヲ維持セシメラレ度願上候本信ハ各関係方面ニ提出セル外茲ニ貴公署税務司ニ願出候条御査照相成右何分ノ御回答相煩度此段及御願候也

敬具

日本領事館
山海關監督公署
山海關税務司
} 宛



585　昭和4年3月15日　在奉天林総領事より田中外務大臣宛（電報）

## 輸出付加税に関する満鮮商工会議所連合会の決議について

奉天　3月15日後発
本省　3月15日後着

第二一八号

上海発閣下宛電報第二六八号ニ関シ

輸出附加税及陸境関税問題ハ九日安東開催ノ満鮮商工会議所聯合会決議ニ見ルモ当地方一般当業者ハ前者ノ撤廃及後者ノ存続ヲ極力主張シ居リ当業者トシテ出来得ル限リ之ヲ希望スルハ尤ノ義ナリト雖モ輸出附加税ニ於テハ内実実害問題ヨリ寧ロ支那側カ条約ヲ無視シ且報告無クシテ突然施行セムトスル態度ニ憤慨スルト共ニ斯ノ如キ税金ノ突然ナル変更ハ取引ヲ不安ナラシムルモノトシテ反対ノ声ヲ上ケ居ル模様ニテ若シ支那側カ正当ノ手続ヲ踏ミ来ラハ敢テ甚タシキ反対モ無カルヘキヤニ存セラルルニ付輸出附加税ニ付テハ適当ノ機会ニ承認ヲ与ヘラルル事大勢上已ムヲ得サルヘキモ先物契約ハ六個月ニ達スルモノアルニ付約四個月ノ猶豫期間ヲ置ク事ト致度ク又陸境関税ニ付テハ当業者ニ於テ之カ撤廃ヲ好マサルハ勿論ナルモ華府会議ノ経緯及英仏ノ関係モアリ早晩撤廃ヲ免レサルモノトセハ右撤廃ハ貨物輸入系統ニ大ナル変動ヲ来シ当地方個人輸入業者ノ営業基礎ヲ脅ス事情モアリ出来得ル丈遅キヲ可トスルニ付芳澤公使御意見ノ通通商条約改正ノ際一括解決セラルル様致度シ卑見御参考迄

上海へ転電セリ

586　昭和4年3月22日　在上海重光総領事より田中外務大臣宛（電報）

**営口にては輸出付加税徴収不可能につき同地限りの税関長の弁法実施可能との岸本内話につき横竹商務参事官報告**

上　海　3月22日後発
本　省　3月22日後着

第二号（牛荘宛電報？）
横竹ヨリ
輸出附加税ニ関シ
本日岸本ヨリ本官ヘノ内談ニ依レハ牛荘税関長ヨリ日本側カ実力阻止ノ場合如何ニ取計フヘキヤトノ請訓アリタル趣ノ処総税務司トシテハ命令通リ徴税スヘシト言フ外適切ナル妥協方法ヲ授ケルコトハ困難ナリ
然シ貴官ノ御努力ニ依リ牛荘税関長ヲ説得セラレ既ニ安東、大連ノ実例モアルコト故支那総商会及日本商工会議所ノ反対ト日本官憲ノ実力阻止ノ決意等ニ依リ到底徴税不可能ト認ムルヲ以テ牛荘税関長ニ於テ例ヘハ安東発大臣宛第二一号ノ方法ニ依リ同第二二号ノ如ク総税務司ヨリ反対ノ回電ナクハ已ムヲ得サル措置トシテ税関長限リノ裁量ニ依リ弁法実施スヘキ旨（尚他ニ適切ノ方法アラハ夫レニ依ル旨）総税務司ニ報告セシムル様御尽力願ヘレハ好都合ナルヘシトノコトナリ
何分ノ御尽力請フ
大臣、北平、南京、安東、奉天、間島、関東庁ヘ転電セリ

587
昭和4年3月22日　在牛荘荒川領事より
田中外務大臣宛（電報）

**総税務司より輸出付加税問題に関し青島現行弁法による通関方応諾申し入れに対し安東現行弁法以外妥協の余地なき旨確答したことについて**

営　口　3月22日後発
本　省　3月22日後着

第二二号
往電第一四号ニ関シ
十九日更ニ文書ヲ以テ交渉員ニ抗議スルト共ニ同写ヲ税関長ニ手交シ安東現行辦法ノ承諾ナキ場合ハ強制通関ヲ決行スル旨通告シ回答ヲ促シ置キタル処二十一日税関長来訪総税務司ヨリ青島現行辦法ニ依リ通関方来訓アリ応諾アリタ





キ旨申出アリタルヲ以テ我方ニ於テハ安東辦法以外妥協ノ餘地ナキヲ確答シ税関長ハ更ニ総税務司ニ請訓スヘキ旨答ヘ引取リタリ
支、上海、青島、南京、奉天、安東ヘ転電セリ

588
昭和4年3月(23)日　在牛荘荒川領事より
田中外務大臣宛（電報）

**輸出付加税問題については輸出正税のみ納入しアンダープロテストにて輸出許可証発給の旨報告**

営　口　発
本　省　3月23日前着

第二三号
往電第二二号ニ関シ
本日原幇辦税関長ノ旨ヲ受ケ来訪総税務司ヨリ左ノ通回訓アリタル旨申出タリ
輸出申告書ニ荷主ハ日本国籍ヲ有スルモノニシテ輸出附加税ノ納付ヲ拒絶スル旨記載シタル貨物ニ対シ正税ノミヲ納入シ「アンダープロテスト」ニテ輸出許可証ヲ発給シ差支ナシ
北平、上海、青島、南京、哈爾賓、奉天、安東、鐵嶺、遼陽、長春、鄭家屯、赤峰、間島、関東庁ヘ転電セリ

589
昭和4年3月23日　田中外務大臣より
在間島鈴木総領事宛（電報）

**陸境関税廃止に対し朝鮮総督側は領事館供託による強制通関計画中につき具体的実力行使案回電方訓令**

本　省　3月23日後9時40分発

第三二号
貴電第二六号ニ関シ
本件実力阻止決行ノ有無ニ拘ラズ我方トシテハ日支通商条約第九条ノ条項ヲ無視シ又大正八年日支交換公文ヲ一方的ニ廃棄セントスル支那側ノ措置ハ極力否認スルノ態度ヲ反覆闡明シ置クノ要アル処貴電二一号及二三号本件抗議ハ右ノ趣旨ニヨリ文書ヲ以テ支那側ニ提出セラレタルモノナリヤ仮令右提出済ノ場合ニ於テモ更ニ支那側ノ反省ヲ促ス為此際重ネテ右ト同様ナル厳重抗議ヲ反覆セル文書ヲ提示セ

ラルヽト共ニ交渉員及税関側ト直接御交渉ノ上先方ノ応答振回電アリ度

当朝鮮側ニ於テハ本件実力阻止決行ノ場合ニハ朝鮮税関吏及警察官ヲ臨時領事館嘱託トシテ會寧対岸、天図鉄道終点開山屯、龍堂対岸、下汝坪対岸等ニ派出シテ強制通関ヲ計ルコトヽシ差支ナキ意嚮ナル所当方詮議ノ参考トシテ本件実力阻止ヲ実行スル場合最モ適当ナリト思考セラルル詳細ナル具体案貴方ニ於テ立案ノ上至急回報アリ度

奉天吉林安東朝鮮総督ヘ転電アリ度

北平上海南京ヘ転電シ芳沢公使横竹参事官ニ転報セリ

〰〰〰

ニ関シテハ何等反対スヘキ根拠ヲ有セスト言ヘルニ付本使ハ日支条約ニハ泰西諸国トノ現行税率ニ拠ルヘキ旨ノ規定アリ右ハ日支条約ノ規定ノ内容トナリ居ル次第ナリト駁シタルニ王ハ其ノ根本タル泰西諸国トノ税率廃止セラレタルカ故仮令日支条約有効ト見做スモ日本丈附加税ヲ免除セハ差別待遇トナル之ヲ要スルニ

㈠日本ハ関税自主ニ暗黙ノ同意ヲ与ヘタルノミナラス

㈡支那ト外国トノ条約改正ニ依リ旧来ノ関税条項ハ自働的ニ失効シタルモノト謂フニ帰着ストテ我田引水ノ議論ヲ繰返シタルニ付本使ヨリ税率ノ引上ハ必ス国際協定ノ形式ヲ以テ相手国ノ明白ナル承認ヲ要スル旨飽迄主張シタル処王モ最後ニ論鋒ヲ和ケ理論上ハ左モアラムカ実際問題トシテハ然ラス抗議附ニテモ可ナルニ付東三省ニ於テモ是非納付セラレ度飽迄反対セハ日本貨物差押ノ如キ不愉快ナル問題ヲ生スヘシト訴ヘタルニ付輸出附加税ニ付テハ何等カノ暫行措置ニ付政府ト相談中ナルニ付暫ク待ツヘキ様諭シタルニ王ハ理論ヲ離レ友誼的ニ解決シ度旨繰返シ述ヘタリ

北平、上海、奉天ヘ転電セリ

592

昭和4年3月31日　在間島鈴木総領事より
田中外務大臣宛

**間島では実力行使により輸出付加税および陸境関税の撤廃等を阻止することは困難なる状況について**

機密第三五八号　（4月8日接受）

昭和四年三月三十一日

在間島

総領事　鈴木　要太郎〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

輸出附加税并ニ国境関税三分一減撤廃ニ対スル強制通関ニ関スル件

本月二十三日発貴電第三二号御訓令ノ間島地方ニ於ケル附加税并ニ国境関税三分一減撤廃ニ対スル強制通関ノ件ニ関シ琿春分館主任并ニ当業者側トモ協議ヲ遂ケ左ニ申進ム

一、不当課税阻止ニ関シテハ当地ニ於テハ一昨年輸入附加税問題ニ付当業者大運動ヲ試ミ遂ニ税関倉庫ヲ破壊スル迄ニ至リタルモ不成功ニ終リ結局「アンダープロテスト」ニテ支払フニ至レリ（昭和二年八月二日附公信第六二五号拙信御参照アリタシ）支那側ハ之ヲ排日宣伝ノ資料トシテ全国ニ通電シ在留本邦当業者ト意思ノ疎隔ヲ来タシ其後当分ノ間商取引其他ニ不利尠カラサリシハ事実ニシテ之カ為メ当地当業者ハ今回ノ不法課税問題ニ関シテハ頗ル慎重ナル態度ヲ取リ勝算明カニシテ且ツ充分ナル政府ノ保護アルニアラサレハ実力的行動ニ出テサル方針ヲ取リ居レリ

税関及支那官憲ニ於テモ右ノ実例モアリ当地ニ於テハ実力阻止ハ容易ニ行ハレサル事ヲ熟知セルヲ以テ充分ナル阻止準備ヲ示スニアラサレハ税関長及税関監督ヨリ徴収不可能ナル旨上司ニ報告シ之ヲ中止スルカ如キ事ハアラサルモノト察セラル、又当地方ハ貿易地ニアラサル関係上在住支那商人カ我カ阻止運動ニ共鳴スル如キ情況ハ絶対ニ認メラレス

二、間島地方ニ於ケル輸入品ハ綿織物生金巾其他各種ノ諸雑貨ニシテ四季ヲ通シテ常ニ輸入セラレツツアリテ是等ハ殆ント全部天図鉄道ニ依リテ龍井村ニ搬入セラレ通関手続ヲナスモノナルカ天図鉄道ハ支那鉄道ナル上ニ同鉄道ノ督弁ハ官制上税関監督タル交渉員ノ兼務ナルヲ以テ間島ニ於ケル輸入品ニ対スル強制通関ハ先ツ天図鉄道ヲ占領シ充分ナル警察力ヲ停車場及其附近ニ配置シ支那側ノ警備ヲ排除スル準備ヲナスニアラサレハ行ハレサルハ前記一昨年ノ輸入附加税問題ノ経験ニ依リ明カナリ

間島ノ重ナル輸出品ハ大豆、雑穀及木材等ナルカ昨年ハ稀ニ見ル凶作ナリシ為メ雑穀ハ絶対ニ輸出セラレス大豆ハ例年ノ半額ニモ達セス輸出可能量ハ僅ニ三十五万袋位ニ過キサリシカ本年一月頃迄即チ不法課税問題前約二十万袋輸出セラレ尚ホ十五万袋位残留スルモノト認メラルル処二月二十五日ヨリ三分一減撤廃実行ノ為メ同日前俄ニ一二万袋輸出セラレシモ内地トノ相場ノ関係并ニ図們鉄道買収後ニ於ケル運賃ノ軽減サルルヲ見越シ其後ハ何レモ輸出ヲ差控ヘ居リ三月中ハ殆ント一袋モ輸出セラレス故ニ不法課税ヲ支払ヒタル実額ハ未タ多額ニ上リ居ラス

三、右ノ如ク間島輸出ノ大宗タル大豆ハ毎年十月頃ヨリ翌年三四月頃迄ニ輸出セラレ春期ヨリ収穫期迄ハ輸出セラレス而テ今後輸出セラルヘキ約十五万袋ノ残留大豆ハ大

部分天図鉄道ニ依ルヘキモ多少ハ国境地方ヨリ輸出スヘク其地ハ如何ナル地方ナルヤ又強制通関ヲナシ得ヘキヤヲ見ルニ

(1)會寧対岸

間島豊作ノ年ハ天図鉄道ノミニテ運搬シ能ハス陸路オランカイ嶺ヲ越ヘ會寧対岸ニ搬出シ復タ帰リ馬車ニテ多少ノ輸入品ヲ積ミ来ルモノアルモ昨年ノ凶作ノ為メ本年オランカイ嶺ヲ越ヘ搬出スヘキ数量ナキヲ以テ差当リ輸出入ト認ムヘキモノナキニ付阻止ヲ試ムヘキ価値ナキ場所トス

(2)上三峯対岸　開山屯（地坊）

目下同地天図駅構内ニ一万袋ノ大豆アリ之ヲ強制通関セントスレハ出来得ルモノト認メラル此ノ一万袋ヲ輸出シタル上更ニ輸出スヘキ大豆又ハ他ノ貨物アリヤヲ考フルニ殆ント見込ナシ上三峯ヨリ輸出スル穀類ハ主ニ南陽坪以南同地附近ノ生産ニシテ已ニ殆ント全部輸出シタルヲ以テ此上同地ヨリ輸出セラルルモノハ極メテ稀ナリ目下天図鉄道各駅ニアル約十万袋ノ大豆ヲ当業者側ニ於テ利害ノ打算ヲ度外シ一度開山屯駅迄輸送シタル上強制通関ヲナスニ於テハ相当貨物集マルヘキモ税関監督ヲ督弁トスル天図鉄道ニ於テハ強制通関ノ為メ之ヲ開山屯迄輸送スル事ハ関税豫納ヲナスニアラサレハ到底承諾セサルヘク結局強制通関ヲナシ得ルモノハ現在同駅ニアル一万袋ニ過キサルヘシト思ハルル而テ昨今已ニ解氷シタルヲ以テ氷上輸送出来サルニ付圖們江橋梁ノ上ヲ運搬セサルヘカラス然ルニ同橋梁ハ日支間ノ約束ニ依リ牛馬車ノ通行ヲ禁スルヲ以テ自働車「トラック」ヲ以テ運搬スルノ外ナシ此ノ費用一袋約五六銭ヲ要ス一袋ニ対スル不法課税ハ約十銭ナルヲ以テ差引四五銭ノ利益アリ

右強制通関ニ要スル税関員ハ四名位ニテ足ルヘキモ之ヲ保護スル警察官ハ朝鮮側ヨリ十五名当館南陽坪分署ヨリ五名合計二十名ヲ要ス此場合支那巡警及軍隊カ如何ナル態度ヲ取ルヤハ頗ル疑問ナルモ対岸上三峯ニ於テ憲兵及警察官之ヲ監視シ居ル態度ヲ示スニ於テハ多分何等行動セサルモノト認メラル

(3)鍾城対岸

目下輸出入ト認ムヘキ程ノモノナキヲ以テ阻止スルノ





価値ナシ

(4)潼關鎮対岸、石建坪

毎年十一月頃ヨリ三月頃迄ハ大豆ノ輸出相当多量アルモ已ニ出穀期ヲ経過シ解氷後ナルヲ以テ輸出行ハレス輸入ハ一二部落ノ需用品ニ止マリ数フルニ足ルモノナシ此地ハ冬期出穀期ハ相当ノ輸出地ナルモ四月以後ハ強制通関ヲ行フ価値ナシ

四、琿春地方ニ関シテハ同地分館ノ意見ヲ徴シ協議ヲ遂ケタル処元来琿春輸出入貿易ハ其ノ七割強ハ支那商人ニ依リテ取扱ハレ日本人朝鮮人取扱ノ部分ハ之ヲ合算シテ約三割ニ過キス雄基ヲ中心トシ下汝坪対岸回龍峯及龍堂対岸河口ヨリ輸出入スルモノナルカ圖們江解氷後ハ下汝坪ヨリ「ジヤンク」ニテ河口ニ至リ同地ヨリ輸入スルモノ大多数ニテ解氷後回龍峯ヨリ輸入スルモノハ黒頂子附近部落ニ於テ消費セラルル極メテ僅少ナル貨物ニ過キス故ニ差当リ強制通関ヲナサントスレハ河口ナルモ河口ハ単ニ貨物検査所ニシテ貨物検査ノ上運状ヲ交付シ琿春税関ニ至リテ税金ヲ支払フモノトス故ニ河口ヲ突破スルモ何等効果ナシ河口ヨリ琿春ニ至ル九哩間運状ナキモノハ途中支那巡警ノ為メ密輸入トシテ差押ヘラルル虞アルヲ以テ貨物ヲ積載スル支那馬車一台ニ対シ警察官二三名ヲ附シテ琿春ニ同行セサルヘカラス而テ琿春市ニ入ル時税関見張所ヲ再ヒ突破スルヲ要ス然ルニ琿春市ニハ支那軍隊及巡警多数アルヲ以テ相当衝突アル事ヲ豫期セサルヘカラス故ニ分館警察官総出ニテ保護スルヲ要ス仮リニ都合ヨク輸入者ノ店舗ニ入リ得ルモ朝鮮人ニ対シテハ支那巡警店頭ニ来リテ種々ノ口実ノ下ニ貨物ヲ調査スル等殆ント其ノ繁ニ堪ヘ兼ネ結局朝鮮人輸入者ハ保護ヲ迷惑トスルニ至ルヘク又輸出ニ関シテハ輸出者ハ琿春税関ニ税金ヲ納付シ放行単ヲ得テ河口ニ至リ更ニ検査ヲ経テ輸出スルモノニシテ輸出ニ関スル強制通関ハ琿春市ノ税関見張所ヲ多数警察官ノ保護ニ依リ突破シ途中九哩間警察官ヲ同行シ更ニ河口検査所ヲ突破スルモノナルカ目下日本人及朝鮮人ノ取扱フ貨物ハ極メテ少数ニシテ恐ラク毎日一二台ノ荷馬車（不法課税ハ一二円程度ナラン）ナルヘシト思ハルル処之ヲ保護スル為メ対岸朝鮮側多数ノ警察官及琿春分館警察官総出ヲ以テセサルヘカラサル実況ナリ又支那側モ相当ニ対策ヲ講スヘク例ヘハ支那馬車ニ対シ

日本人ノ貨物取扱ヲ禁止スル時ハ支那馬車夫ハ日本人ノ需メニ応セサルヘク之ニ代フル朝鮮牛車ヲ以テスル時ハ不法課税以上ノ高価トナルニ至ルヘク右等ノ諸点ヨリ考フルニ琿春地方ニ於テ強制通関ヲ行ハントスルモ容易ニ行ハレサルモノト認メラル

五、琿春国境ニ於ケル強制通関ハ容易ニ行ハレサルモ間島ニ於テハ十一月出穀ノ初期ニ当リ石建坪及開山屯ニ於テ之ヲ行ハントスレハ必スシモ行ハレサルニアラス之ヲ断行スルニ於テハ間島輸出大豆ノ三分一ニ相当スル徴税不能トナルヘキニ付支那側ニ対シ相当打撃ナルヲ以テ或ハ全部ノ撤廃ヲ承諾スルヤモ計ラレサルモ現下之ヲ行ハントスルモ僅ニ開山屯ニ於ケル一万袋ノ大豆ニ止マリ引続キ輸出スヘキ貨物ナキヲ以テ之ヲ実行スルモ本件解決ニ至ルモノトハ豫想セラレス殊ニ開山屯駅ニ於ケル強制通関ニ関シテハ天図鉄道日本人側幹部ニ於テハ右実行ノ場合ニハ曩ニ日本側ヨリ極力交渉ノ結果漸ク纏リタル貨車共通制度ノ廃棄ヲ支那側ヨリ主張シ来ルヤモ計ラレストテ憂慮シ居レリ是亦一考ヲ要スヘキモノト認メラル

間島琿春地方ハ輸出附加税ノ外三分一減ノ撤廃モアリ頗ル



不利ノ立場ニ在リ実ニ遺憾ノ次第ナルモ如何セン土地ノ状況上且ツ船舶ニ依リ輸出入セラレサル関係上差当リ強制通関ハ容易ニ行ハレス結局天図鉄道ヲ占領スルノ外適確ナル方法ヲ見出シ能ハス

本信写送付先　在支公使館、芳澤公使、奉天、吉林、哈爾賓、上海、青島各総領事、安東、營口、南京各領事、朝鮮総督、横竹商務参事官、管内各分館主任

## 593

昭和4年4月2日　外務・大蔵両省係官会議

### 対中国借款整理問題について

※無担保及不確実担保ノ対支借款整理問題ニ関スル外務大蔵省係官会議要領

昭和四年四月二日対支借款整理問題ニ関シ亜細亜局長室ニ於テ外務大蔵両省係官会議ヲ開キ大蔵省側ヨリ富田理財局長、公森事務官、青木国庫課長、外務省側ヨリ有田亜細亜局長、谷第一課長、田中事務官出席協議シタルカ議事要領左ノ通ナリ



一、関税収入ニ依ル借款整理問題

(イ)債権者組合組織方ニ関スル件

大蔵省側ヨリ此ノ際主ナル民間対支債権者ヲ網羅スル一ノ組合ヲ組織セシムルコトト致度ク斯ノ如キ組合成立ノ上ハ

(1)支那側ニ対スル関係ニ於テ対支債権者カ各自統一連絡ナク区々ナル方針ニ出ツルコトヲ防キ得ヘク又債権者全部ノ同意ヲ得スシテ私ニ自ラ斡旋交渉ヲ試ムルカ如キモノヲ排除スルヲ得ヘク

(2)政府トシテモ之ヲ債権者側ノ代表機関トシテ債権者全部ノ纏リタル意見ヲ徴スルニ便ナルヘク又場合ニ依リテハ対支非公式交渉ニモ利用シ得ヘク

(3)更ニ進ンテハ将来之ヲ借款整理組合又ハ対支投資組合トシテ利用シ得ヘク

諸般ノ関係上便益多カルヘキ旨ヲ提議シ外務省側之ニ賛同セリ

(ロ)債権者会議ニ対スル態度

関税協定所定ノ債権者会議ニ対シテハ

(1)先ツ日支間ニ大体非公式意見ノ交換ヲ遂ケタル上同会議ヲ開催スルカ又ハ

(2)斯ノ如キ非公式交渉ヲ行フコトナク右会議ノ開催ヲ促進シ同会議ノ開会ヲ俟テ我方主張ノ貫徹ヲ期スルカノ二方法ヲ考慮シ得ル処前者既(ママ)チ先ツ会議開催ニ先チ非公式意見交換ニ依リ大体彼我ノ合意ヲ遂ケ置クコト得策ナリト云フニ意見一致セリ

(ハ)公森大蔵事務官上海出張ノ件

国民政府ハ内外債整理委員会ヲ設ケテ債務整理ノ準備ヲ進ムルト共ニ米国等ヨリ財政顧問ヲ傭聘シ財政整理ノ具体的計画ヲ考究セシメ居ルヤニ伝ヘラルル処我方トシテモ前記(ロ)ノ見地ヨリ早キニ臨ンテ国民政府ノ財政状況ヲ詳知シ且債務整理ノ具体案作成ノ如キ場合ニハ之ニ対シ早メニ適当ノ機会ニ於テ豫メ我方ノ意見ヲ申入レ引続キ支那側ト密接ノ聯絡ヲ保チ寧ロ支那側ノ具体案ヲ我方ノ有利ニ指導スルコト緊要ト認メラルル次第ナルカ之カ為ニハ先ツ以テ大体ナリトモ我方ノ整理意見ヲ定ムルコト肝要ナリ然ルニ我方トシテハ未タ十分ナル準備材料ヲ有セサル次第ニ付此ノ際至急公森事務官ヲ上海ニ出張セシメ芳澤公使、重光総領事ト連絡協力ノ上国民政府ノ財政

状況乃至債務整理ニ関スル計画進捗ノ模様等ヲ調査セシメ且我方ト支那財政当局トノ間ノ密接ナル連絡ヲ計ラシムルコト然ルヘシト云フニ意見一致セリ

（尚追テ債権者組合ヨリモ代表者ヲ派遣スル場合ニハ之ト十分連絡ヲ保チ然ルヘク措置スルコト）

(ニ)債務整理資金五百万元控除積立方ニ関スル件

関税協定所定ノ債権者会議開催迄ニハ尚相当ノ時日ヲ要スヘキ模様ナルニ付差当リ本年二月以降実施ノ新関税率ニ依ル増収中ヨリ毎月債務整理ノ為年五百万元ノ月割割(額カ)ヲ控除シ出来得レハ右全額ヲ正金銀行ニ止ムヲ得サレハ之ヲ按分シテ正金、香上等ニ積立保管セシムルヲ要スト云フニ一致セリ

(ホ)整理スヘキ債権ノ範囲

整理スヘキ債権ノ範囲ニ付テハ過般関税会議当時ノ経緯ニ徴スルニ支那側ト外国側ト意見不一致ノ点モアルニ付キ先ツ第一段トシテ無担保及不確実担保債務ノ総額ヲ決定スヘキコトニ意見一致シ次ニ外務省側ヨリ第二段トシテ例ヘハ交通部関係借款、西原借款、塩余借款等別途整理ノ見込アルモノハナルヘク之ヲ除外シテ整理ハ範囲ヲ局限スルコト整理条件ヲ良好ナラシムル上ニ於テ得策ナルヘキ旨ヲ提議シタル大蔵省(ママ)側ハ我国内部ノ関係ハ兎モ角、外部ニ対シテハ借款ニ依リ区別ヲ設クルコトナク関税特別会議当時ノ方針通リ一律一併整理ノ主義ニ依ルコトトシ度ク尤モ利子計算ニ依リ総額ヲ或程度迄減少スルコトハ考慮シ得ヘシト述ヘタリ

(ヘ)対支債権ノ政府肩替案

支那側ヨリ得ヘキ整理資金ヲ引当トシテ政府自ラ公債ヲ発行スルカ又ハ其他ノ方法ニ依リ民間ノ対支債権ヲ政府ニ肩替リセラレ度キ旨民間債権者ヨリ時々願出ノ次第アル処右ニ対スル大蔵省ノ意向如何トノ質問ニ対シ大蔵省側ハ右ノ案ハ目下ノ所全然考慮ノ余地ナシト述ヘタリ

(ト)整理財源

債務整理ノ財源タル年五百万元ヲ将来如何ナル方法ニ依リ増額スヘキヤノ問題ニ関シ公森事務官ヨリ右増額ノ割合ニ付テハ関税収入増加額ノミナラス関税本税（五分）収入ノ担保解除額ヲモ併セ考慮シテ立案スヘキ旨ヲ提議シ一同異議ナシ

(チ)要之差当リノ措置トシテ公森事務官ヲ至急上海ニ出張





セシメ我方具体方針確立ノ為諸般ノ材料ヲ蒐集シ且彼我ノ連絡ヲ計ラシムルコトトナリ右ニ就テハ追テ芳澤公使ニモ電報スヘキコト勿論ナルカ差当リ公森事務官出張ノ使命ニ付キ大蔵省ニ於テ詳細研究準備ノ上最近再ヒ外務大蔵両省ノ会議ヲ開催シ協議スルコトトナレリ

二、塩余借款確保問題

塩余借款確保方ニ関シ芳澤公使ヨリ稟請アリタル高木、李銘案ニ付大蔵省側ヨリ先ツ左ノ諸点ヲ明確ニスルニ非レハ意見ヲ決定シ難キ旨ヲ述ヘタリ

(イ)高木李銘案ハ果シテ宋財政部長同意ノモノナルカヲ直接同部長ニ確カムルコト

(ロ)同部長ニ就テ其ノ内容及実行方法ヲ詳知スルコト

(ハ)塩余借款支払分ヲ地方按分醸出額ニ加算セスシテ実際上之カ支払ヲ確保スルコト不可能ナリト認ムル所如何

(ニ)殊ニ塩税収入カ両借款月割額ニ充タサル場合一千万元ニ喰込ミ両借款同列ニ按分支払ヲ受クルコトハ極メテ困難ト認メラルル所果シテ如何

依テ右ノ諸点然ルヘキ方法ニ依リ取調方直ニ芳澤公使ニ訓電スルコトトナレリ（四月四日電報済）

## 594

昭和4年4月5日　田中外務大臣より
在ハルビン八木総領事宛（電報）

**ハルビンにおいて輸出付加税徴収阻止は実質上不可能なる次第を同地商工会議所に対し説明方訓令**

本省　4月5日後3時25分発

第三四号

貴信機密第二一〇号ニ関シ

当地滞在中ノ庵谷ヨリ其後重ネテ貴地商業会議所ヨリ両税問題ニ付電報アリタル趣ヲ以テ（詳細加藤ニ付照会アリ度シ）右阻止方陳情ノ次第アリタルニ付同人ニ対シテハ実力行使不能ナル貴地方ノ問題ハ結局支那側トノ交渉ニ依リ解決スル外無キヲ以テ政府ハ今后共右交渉ニ於テ出来得ル限リ当業者ノ希望ニ副フ様努力スベキ旨説明シ尚本件損害ヲ政府ニ於テ補塡スルハ不可能ナルコト及青島ノ供託方法ハ同地限リニテ取極メタル便法ニシテ問題解決迄輸出附加税ヲ海関名義ニテ関税取扱銀行ニ供託スルモノナルヲ以テ将来供託金ヲ当業者ニ返還セラルルコト疑ハシク従テ右方法

ヲ貴地ニ於テ採用スルモ実効ナカルベキノミナラス実力ノ背景ヲ有セサル貴地ニ於テ支那側カ果シテ本便法ノ実施ヲ応諾スベキヤモ疑ハシキ旨内示シ置ケルニ付貴官ハ右ノ次第可然会議所側ニ説明シ置カレ度シ

595　昭和4年4月6日　田中外務大臣より　在間島鈴木総領事宛（電報）

**輸出正税の領事館供託案を以て輸出付加税徴収阻止方訓令**

本　省　4月6日後4時40分発

第四四号

貴電第三三号ニ関シ

本件ニ関スル我方ノ主張ハ往電第三二号申進ノ通リナルカ先方ニ於テ依然我方抗議ヲ無視シ中央政府ノ命令ヲ理由トシテ不当ナル徴税ヲ継続スルハ条約擁護上黙過シ能ハザル処ナリ、就テハ此際実力阻止ヲ決行スルコトヽ致度ニ付貴官ハ更ニ税関長及交渉員ニ対シ至急文書ヲ以テ「我方屢次ノ抗議ニ拘ラズ支那側ニ於テ日支間ノ条約ノ諸規定ヲ無視シ輸出附加税ノ徴収並陸境三分ノ一減関税特恵ノ廃止ヲ依然実行シツヽアルハ容認スル能ハザル処ナルニヨリ本通告ノ日ヨリ一週間内ニ右不当措置ヲ廃止スルヤ否ヤ確答ヲ与ヘラレ度右期間内ニ廃止ノ確答ニ接セザル場合ハ我方ハ日支通商条約第九条ノ規定ニ基キ正税ヲ領事館ニ供托シ実力ニヨリ貨物ノ輸出入ヲ計ルベキ旨」厳重申込ルヽコトヽ致度右申込ニ対シ前記期間内ニ支那側ガ我方ノ満足スル回答ヲ与ヘザル場合ハ右ノ趣回電セラルヽト共ニ貴官ハ大体安東宛往電第九号ノ趣旨ニヨリ領事館供托案ヲ実行スルコトヽ致度右実行方法ニ就テハ此際至急朝鮮総督府側トモ詳細御協議ヲ遂ゲラレ具体案至急電報アリ度

本電北平上海南京ニ転電シ芳沢公使横竹商務参事官ニ転報セリ吉林安東奉天朝鮮総督ヘ転電アリ度

596　昭和4年4月8日　在中国堀臨時代理公使より　田中外務大臣宛（電報）

**中国側債務整理が内債優先である事に対し英国公使不満の旨内話について**

北　平　4月8日後発

本　省　4月8日後着





第三二七号

八日英国公使トノ会談ノ際往電第八八号ノ件ニ関シ同公使カ強硬ナル意見ヲ持セル旨団体銀行側ノ消息ナリトテ正金代表者ヨリ報告ノ次第モアリタルニ付本件ニ話ヲ向ケタルニ同公使ハ外債担保ヲ踏ミ倒シテ内債ノミノ利益ノ為ニ新関税収入ノ大部分ヲ振向ケントスル支那側ノ傾向カ不徳義極マルモノナル事ハ問題無キモ之ヲ抗議スルモ何程ノ効果アリトモ思ハレス依テ自分ハ只本国政府ノ意見ヲ求メツツアル次第ナルカ此ノ事ニ関聯シテ目下自分ノ注意シツツアル処ハ近来支那ハ専ラ米国ヲ利用セントスル傾向アル事ニテ「ケメラ」一行顧問ヲ高給ヲ投シテ招聘セル底意ハ米国ノ金力ニ依頼シテ巨額ノ公債ヲ募ラントスル下準備ナル事ニ付テハ何人モ容易ニ想到シ得ル処ナルカ偖愈支那カ外債ノ募集ヲ米国資本家ニ申入ルル時米国資本家カ支那側ノ希望ヲ満足セシムヘシトハ思ハレス玆ニ於テ初テ支那ハ米国丈ヲ対手ニスルコト能ハサルヲ知リ国際聯盟ニ泣キ付クカ或ハ共同ノ資本団ニ話ヲ持チ掛ケ来ルカ何レカノ方法ニ出ツヘキカト思考セラレ其ノ時ニ至リ初メテ外債ヲ無視シ内債ノミノ利益ヲ計ルカ如キ態度ノ誤レル事カ支那政府ニモ判明シ来ルヘシ英国議会ニ於テハ未タ「ケ」顧問ノ傭聘等ニ付格別議論出テタル次第ニハ非サルモ自分ハ早晩議会ニ於テ此ノ点英国外交不振ノ批評出ツル事アルヘキヲ豫想シ政府ニ対シ前述ノ自分ノ見込ヲ報告シ何等騒ク必要無シトノ趣旨ヲ強調シ置キタルカ之ト同時ニ「フレデリク、ホワイト」顧問傭聘ノ如キモ自分ハ終始何等問題トセス只南京対「ホ」ノ話合ニ放任シ居ル次第ナリト内話セリ

上海、南京ヘ転電セリ

597　昭和4年4月9日　在上海重光総領事より　田中外務大臣宛（電報）

**芳澤公使より日中間の諸懸案事項を互譲的に解決方請訓**

上　海　4月9日後発

本　省　4月9日後着

第四六三号

芳澤公使ヨリ

御承知ノ如ク今後国民政府当局ニ対シテハ現ニ交渉中ノ南京、漢口両事件及条約廃棄問題ノ外塩餘借款、無線問題等

我方ヨリ解決ヲ迫ルヘキ幾多ノ問題アルト同時ニ他方支那側ヨリモ船舶臨検、輸出附加税、陸境関税等種々我方ニ好意的考量ヲ求メ居ル問題鮮カラサルニ付テハ我方トシテ或ル程度迄ハ先方ノ申分ニモ耳ヲ藉シ所謂 give and take ノ方針ニテ問題ノ解決ヲ計ル事ヲ得策ト考ヘラルル処往電第二六八号第四〇六号等ノ請訓ニ対シテハ未タ御回訓ニ接セサルニ付至急何分ノ御垂示ニ接シタク重ネテ申進ス

598　昭和4年4月9日　在安東岡田領事より　田中外務大臣宛（電報）

**営口同様輸出正税のみ納入アンダープロテストにて輸出許可証発給の旨総税務司より回電について**

安東　4月9日後発
本省　4月9日後着
第四四号

往電第四二号ニ関シ

本日総税務司ヨリ税関長ニ対シ回電アリ日支人ノ貨物トモ営口ト同様ニ取扱フコトトナレリ

北平、上海、南京、奉天、牛荘、間島、関東長官ヘ転電セリ

599　昭和4年4月10日　田中外務大臣より　在間島鈴木総領事宛（電報）

**営口では安東同様輸出正税のみ納入し税関より抗議付輸出許可証の発給を受ける様円満解決交渉方訓令**

本省　4月10日後7時10分発
第四八号

貴電第三九号ニ関シ

貴信機密第三五八号及貴電御来示ノ次第ハアルモ我方トシテハ当業者負担ノ実額如何ノ問題ヨリモ寧ロ主義上ノ問題トシテ本件我方主張ノ貫徹ニ努メ度意嚮ニシテ之カ為ニハ実力行使可能ノ範囲内ニ於テ阻止方ヲ講ズルコト将来ノ為ニモ望マシト思考シオリ差当リ国境対岸中有効ニ且ツ特別ノ支障ナク実力ヲ行使シ得ル地点例ヘハ開山屯ニ於テ輸出ニ付テナリトモ之ヲ決行致度ニ付右御含ミノ上本電及往電第四四号ヲ総督府側ニ転電ノ上具体案御協議相成至急右往





電通リ本件実行ニ着手セラレ度尤モ支那側ニ対シテハ実力阻止ヲ対岸地方ノミニ限ルベキ旨申入ル、コトハ不利ナルニ付先方ヨリ質問アラバ我方ハ必要ト認ムル何レノ場所ニ於テモ行動スベキ旨応酬セラレ度

尚申迄モナキ儀ナガラ往電第四四号領事館供托案ハ万已ムヲ得サル場合ノ措置ニシテ同電ニ申進シタル支那側ニ対スル通告モ之ニヨリ我方ノ断乎タル決意ヲ示シ先方ノ反省ヲ求メ以テ牛荘安東ノ例ニ倣ヒ当業者ヨリ正税ノミヲ支払ヒ右ニ対シ税関ヨリ抗議付輸出入許可証ヲ発給スルノ便法ニ出ツルコトトシ之ニ依リ事態ノ紛糾ヲ来スコトナク問題ヲ円満ニ解決スルコトヲ主眼トスル次第ナルニ付貴官ハ右御含ノ上前記ノ如キ解決方法ニ達スル様極力御尽力アリ度右為念申添ユ

貴電ト共ニ前電通リ転電アリ度

貴電ト共ニ北京、上海南京芳沢公使横竹商務官ニ転電セリ

600　昭和4年4月10日　在奉天森島総領事代理より　田中外務大臣宛

**陸境特恵関税廃止問題に対し限定相互的軽減制度の制定により日中間妥協方意見具申**

機密公第三六二号　（4月16日接受）
昭和四年四月十日

在奉天
総領事代理　森島　守人〔印〕

外務大臣男爵　田中義一殿

陸境関税軽減制度ニ関スル件

満鮮陸境関税軽減制度ハ早晩廃止ニ至ルヘキ諸種ノ事情アリト雖其廃止ノ当地方ニ於ケル邦商ノ地盤ニ及ホス影響甚大ナルモノアル為関係当業者側ニ於テハ極力其存続ヲ熱望シ居ル次第ハ屢報ノ通リナル処元来現行制度ハ一般的且片務的制度ニシテ我方ノミ広汎ナル範囲ニ渉ル利益ヲ享受シ支那側ハ何等ノ恩恵ニ浴セサルハ近来ノ一般平等的国際観念ニ背馳スル憾ミアリ支那側ノ本制度廃止主張モ此観念ニ支配セラルル処大ナルモノアルヤニ思考セラル若シ此一般片務的制度ニ相互実利的精神ヲ加味シ関税ノ軽減ヲ受クヘキ商品ヲ限定シ日支両国共ニ其軽減ヲ容認スル限定相互的制度ニ改メ以テ両国共ニ各其利ニ浴シ得ルモノト為サハ主義ニ於テモ之ヲ否認スルノ理由乏シク支那側モ敢テ反対ナ

カルヘキヤニ思考セラルル処右限定相互的案ノ骨子ニ付卑見ヲ述フレハ

一、支那側ハ安東、龍井村及琿春ヲ経由シ輸出入スル本邦（朝鮮ヲ含ム）及支那製左記品目ニ対スル関税三分ノ一ヲ軽減スルコト

輸入品

綿織物、綿糸、砂糖、皮革、毛骨角牙類、薬品、薬材、水産物、紙類

輸出品

粟、大豆、其他豆類、穀物、鉄

二、日本側ハ安東、龍井村及琿春ヲ経由シ輸入スル左記支那産品ニ対シ同様関税三分ノ一ヲ軽減スルコト

粟、大豆、其他豆類、穀物、鉄

右ニ依リ受クル収入減ハ大体別表参考表ノ如ク支那側百二十万円日本側百五十万円ナルモ其品目ニ付テハ慎重考慮ノ上両国収入減ノ均衡ヲ得ルコトトシ得ヘク又本邦側ハ本制度ニ依リ新ニ減収ヲ受クルコトト成ルモ右ハ極メテ僅少ニシテ我財政ニ打撃ヲ与フル程度ノモノニ非サルカ故ニ我商権ノ海外発展ノ為之ヲ忍ヒ得ヘク他方在満邦商ハ其地盤ヲ維持シ其基礎ヲ確立シ得ル次第ニ付適当ノ機会ニ我方ヨリ進ンテ支那側ニ対シ現行制度ニ代フルニ上述ノ如キ限定相互的軽減制度ノ協定ヲ提議スルモ一策ナルヤニ存セラルルニ付何等御参考迄此段卑見開陳申進ス

（別　表）

陸境関税協定相互制定ニ依ル収入源

（昭和二年度ノ統計ニ依ル）

支那側

| 日本及朝鮮ヨリノ陸境経由輸入品目 | 金　額 | 三分ノ一減ニ相当スル税額 |
|---|---|---|
| 綿　織　物 | 二七、一一八千両 | 六七五、二六三円 |
| 綿　織　絲 | 二、〇六五 | 五一、四二一 |
| 砂　糖 | 一、一六四 | 二九、〇一八 |
| 皮革毛骨角牙類 | 八七四 | 二一、七七七 |
| 薬品及薬材類 | 五二五 | 一六、一四三 |





| 水　産　物 | 八四五 | 一八、一一〇 |
|---|---|---|
| 紙　類 | 二三九 | 五、九八二 |
| 合　計 | 三二、八三〇 | 八一七、七一四 |

| 日本及朝鮮ヘノ陸境経由輸出品目 | 金　額 | 三分ノ一減ニ相当スル税額 |
|---|---|---|
| 粟 | 二八、九〇〇千両 | 二九五、六四七円 |
| 大　豆 | 一、三八七 | 一三、一四八 |
| 其他豆類 | 四、三八七 | 五〇、二二三 |
| 穀物（米ヲ含ム） | 四五〇 | 一一、二三五 |
| 鉄 | 三六五 | 四、三二六 |
| 合　計 | 三五、四八九 | 三七四、五七九 |
| 総　合　計 | 六八、三一九 | 一、一九二、二九三 |

（備考）一、コノ数字ハ安東、琿春、龍井村合計ナリ

二、一海関両ヲ一、五円トシテ換算ス

日　本　側　（昭和二年度ノ統計ニ依ル）

| 安東、龍井村琿春ヨリ陸境経由輸入品目 | 金　額 | 三分ノ一減ニ相当スル税額 |
|---|---|---|
| 粟 | 二八、八八一千両 | 九五九、〇一六円 |
| 大　豆 | 一、三〇二 | 八七、一九九 |
| 其他豆類 | 四、二三四 | 三八一、七二六 |
| 穀物（米ヲ含ム） | 四五〇 | 九五、七〇五 |
| 鉄 | 三六五 | 三、四六一 |
| 合　計 | 三五、二三二 | 一、五二七、一〇七 |

601

昭和4年4月12日　田中外務大臣より
在上海重光総領事宛（電報）

**輸出付加税問題に関し包括的な解決は日中通商条約改訂交渉で行うべき旨芳澤公使宛訓令**

本　省　4月12日後6時10分発

第二四五号

貴電第二六八号及第四六三号ニ関シ

芳沢公使ヘ

支那新輸入税率承認交渉ニ際シ我方カ本件輸出附加税ノ徴

収ヲ容認シタルコト無キハ御来示ノ通リナル処固ヨリ我方トシテハ本件附加税ニ付好意的考慮ヲ加フルニ吝ナラサル次第ナルモ支那側ニ於テハ最近更ニ輸出税改訂ノ計劃アルヤノ報道モアリ（横竹発三月十九日附商機密第七一号参照）頻繁ニ同一問題ニ付承認手続ヲ繰返スハ国内手続上面白カラサルノミナラズ此際支那側ニ対シ我方ガ未ダ関税自主権ヲ承認シタルモノニ非サルコトヲ徹底セシメ置クト共ニ此種条約違反行為ニ付篤ト反省ノ機会ヲ与フルコト将来ノ為必要ナルベク尚又我方ガ附加税承認ノ交渉ニ応スルトセバ本税ト同一告示ニ依リ海関ニ於テ徴収スルコト、ナリタル機械生産品税及沿岸貿易税附加税ノ承認ヲモ要求スルニ至ルヤモ計リ難ク旁々本件附加税ハ陸境関税問題ト共ニ将来通商条約改訂商議ノ場合ニ考慮スルコト、致度キニ付支那側ニ対シテハ右ニ依リ可然応酬シオカレタシ

南京ヘ転電アリ度シ、北京奉天ヘ転電セリ

602　昭和4年4月(13)日　在上海重光総領事より田中外務大臣宛（電報）

## 芳澤公使より日中通商条約改訂問題に関し一旦現条約の廃棄を前提として交渉再開について

別電一　四月十三日着在上海重光総領事より田中外務大臣宛第四八八号
国民政府外交部長より在中国日本公使宛照会文案

二　四月十三日着在上海重光総領事より田中外務大臣宛第四八九号
在中国日本公使より国民政府外交部長宛回答文案

上海　発
本省　4月13日後着

第※四八七号

芳澤公使ヨリ

堀内等十三日朝回滬報告スル所左ノ通

条約廃棄問題解決案ニ付テハ十一日午後ヨリ十二日午前午後ニ亘リ討議シタルカ当初先方ハ本件ニ関スル従来交渉ノ細目ヲ忘却シタル様子ナリシニ依リ昨年(編注)十一月八日矢田王間最後ノ討議ノ模様ヲ詳細説明シ我方往翰ニ付テハ全部意





見ノ一致ヲ見結局残ル所ハ支那側回答文中ノ三点ニ過キサルコトヲ想起セシムル様努力シタル結果先方モ大体ノ輪郭丈ケハ諒解シタルニ依リ我方ヨリ右最後ノ交渉ノ結果ニ基キ討議ヲ進メムコトヲ提議シ

（一）支那側回答案ノ審議ニ入リ

（イ）十一月八日ノ討議ニ於テ支那側ハ我方往翰末段「新条約完全ニ成立スル迄ハ其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控フルノ決意ヲ表示シ以テ現行条約ノ規定ニ依リ両国ノ関係ヲ律セントスル誠意」云々ノ一句削除ノ要求ヲ撤回スル代リ支那回答中ニ右ニ対応シ「該条約ノ効力問題ハ既ニ極メテ明瞭ニシテ贅述スルノ要ナキモ」ノ一句ヲ挿入方提議シタル次第ナルカ其ノ通リナリヤト我方ヨリ念ヲ押シタルニ「該条約ノ効力問題云々」ノ一句ハ日本側公文末段「新条約完全ニ云々」ノ字句ヲ支那側希望通リ緩和スルコトヲ前提トシタル次第ニテ日本側公文ノ文句ヲ原案ノ儘トスルニ於テハ別ニ対案アリトテ従来ノ話合ヲ全然無ニスルカ如キ対案ヲ提出シタルニ依リ我方ハ従来ノ経過ト本件解決ノ趣旨ヲ反覆説明シテ先方ノ態度ノ不都合ヲ詰リ其ノ反省ヲ促シタル結果先方モ遂ニ「条約ノ規定云々」丈ヲ生カシ「臨時弁法ノ適用云々」ノ部分ヲ削除スルニ於テハ支那側回答中ノ一句ハ「効力問題ハ既ニ極メテ明瞭ニシテ現在尚一ニ前回ノ趣旨ニ基クモノナルコト贅述スルノ要ナシ」トナシ差支ナシト迄折レタルニ依リ我方削除ノ点ニ付テハ「コンミツト」スルコトナク回答案中ノ「現在尚……基クモノナルコト」ノ一句ヲ削除セシムルコトニ努力シタル結果漸ク右一句ハ「尚前述ノ如ク」ト改ムヘキ旨申出タリ

（ロ）支那側回答文冒頭ニ「御来示ノ趣篤ト閲悉」ノ一句挿入ニ付テハ我方カ右（イ）末此所載「尚前述ノ如ク」ノ一句挿入方同意スルコトヲ条件トシ主義トシテ同意シタルモ漢文ニ是ニ全然合致スル文句ナキ為「照稱各節確經閲悉」ト記スコトトナレリ

（ハ）支那側回答中ノ「本問題ニ関スル法理上ノ喪失」云々ノ点ニ対シテモ先方ニ於テ種々先方ニ有利ナル字句ヲ附加シタルカ我方ヨリ強硬ニ反対シタル結果我主張通リトナリタリ

（二）右討議中支那側ハ未タ曾テ日本側公文ノ全部ニ同意ヲ与ヘタル事無ク且日本側第二回目提出ノ案文ハ当初矢

田、王間話合ノ案文ニ比シ頗ル径庭アルニ依リ前段議論ノ個処ハ当初話合ノ案文ニ依ル事トシ度キ旨我方主張牽制ノ意味モアルヘク執拗ニ主張シ更ニ「現行条約ノ規定ニ依リ云々」及「現行条約改訂云々」ノ「現行」ノ一句ハ如何ニモ条約ノ有効ナル事ヲ前提トスルカ如キ感ヲ与フルヲ以テ「現行」ヲ削除シ「中日」若ハ「既存」ノ如キ字句ヲ以テ代ヘム事ヲ主張シ押問答ヲ重ネ果テシ無カリシカ我方カ「現行」ノ二字ハ断シテ変更シ得スト強硬ノ態度ヲ持シタル結果先方モ渋々乍ラ若シ日本側ニテ前記（一）ノ（イ）未決定ノ点ニ同意ヲ与フルニ於テハ「現行」ノ二字ヲ存置スルモ差支無シト譲歩的態度ニ出テタルニ依リ南京宛客年貴電第九八号（一）及上海宛客年貴電特第九号中段ノ趣旨ヲ含ミ右申出ニ同意シタリ

即チ我方往翰ハ末段「其ノ一方的ニ制定セル臨持弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ表示シ以テ」ノ一句ヲ削除シ「新条約完全ニ成立スル迄ハ現行条約ノ条項ニ依リ云々」ト訂正シタル外ハ上海宛客年貴電第二九九号（一）ノ通トシ（但シ書翰体ニ改メ冒頭ノ日本帝国代理公使ヲ「本使」ト修正ス）又来翰案ハ別電第四八八号ノ通決定シ堀内及周問ニ一応「イニシヤル」ヲ附シ置ケリ

（三）右往復文トモ先方ノ希望モアリ仮リニ書翰（照会文）体トシ置タルカ本省ノ御希望ニ依リテハ覚書（節略）体トスルモ差支ナキ旨ノ了承ヲ遂ケ置タリ

（四）最後ニ先方ハ第三ノ公文（我方全権任命ノ通知）ヲモ確定シ置カンコトヲ提議シタルニ依リ今回ハ公使自ラ条約改訂ノ商議ニ当ル次第ナレハ全権任命ノ必要ナキコト一日公使ヨリ王部長ニ説明セラレタル通ニテ従テ右公文ノ必要モナクナリタル次第ナリト述ヘタルニ

先方ハ全権任命ノ個処ハ之ヲ削除スルモ差支ナキカ支那側回答中ノ希望ニ対シ一言挨拶スル処ナクムハ結末附カス而モ支那側ハ右ノ如キ日本側ノ回答ヲ得ンカ為今日迄本件ニ付努力シ来レルモノナレハ右公文ハ是非必要ナリト主張シタリ従テ右公文ハ矢田、王間話合ノ際ニ於テモ王ハ条件トシテ提出シタルモノニ非ス単ニ矢田総領事ニ対シ政府ニ「レコンメンド」セン事ヲ依頼シタルニ過キサルニ非スヤト応酬シタルニ右ハ事実ナルカ其ノ後同総領事ヨリ大体支那側希望ノ形式ニ依リ差支無キ旨政府ノ了解ニ接シタリトノ話アリ支那側ニテハ既ニ確定シタルモノト思ヒ居ル次第





ニ付枉ケテ同意アリタキ旨繰返シ述ヘ別電第四八九号ノ如キ案文ヲ示シタルカ尚同夜周ノ晩餐会ニ招カレタル際モ周ハ更ニ王部長モ右公文ハ是非確定シ置ク必要アリトノ意見ナルニ付是非共公使ニ伝達アリ度キ旨懇請セルニ付本官ハ兎モ角自分一己ノ計ヒニテ公使ヘ参考トシテ取次クヘシト述ヘ置キタリ

**編注**　『日本外交文書』昭和第Ⅰ期第一部第二巻583文書参照。

**（別電一）**

第四八八号※

芳澤公使ヨリ

（一）外交部長復日本公使照會文

爲照會事接准　月　日

照稱各節確經閱悉關於中日通商行船條約約文解釋所有國民政府之見解及一切之（主）張已於去年八月十四日本部長致

貴公使節略内詳晰申述該條約之效力問題仍如前述極爲明瞭無庸再贅關於本問題法理上爭執既經彼此諒解存而不論故國民政府當以至誠卽行従事開始協議希望於最短期間以平等及互尊重主權爲原則重新約並盼尅日進行相應照復

貴公使查照見復爲何須至照會者

（右訳文）

外交部長ノ日本公使宛回答譯文

以書翰啓上致候陳者　月　日附以貴翰後来示ノ各節篤ト諒承致候中日通商航海条約条文ノ解釈ニ関スル国民政府ノ見解及一切ノ主張ハ既ニ昨年八月十四日附貴公使宛本部長覚書ニ於テ詳晰ニ申述セルヲ以テ該条約ノ効力問題ハ尚前述ノ如ク極メテ明瞭ニシテ贅述スルノ要無之候本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ既ニ貴我ノ諒解ニ依リ敢テ之ヲ論セス故ニ国民政府ハ至誠ヲ以テ直ニ協議ヲ開始スルコトト致スヘク玆ニ最短期間ニ平等及主権互尊ヲ原則トシ新条約ヲ締結セムコトヲ切望シ併セテ日ヲ期シテ促進セシメラレムコトヲ希望致候

此段照会得貴意候　敬具

（別電二）
※第四八九号
芳澤公使ヨリ
外交部長宛日本公使ノ回答案
以書翰啓上致候陳者〇月〇日附貴部長公文ヲ以テ（外交部長照会全文挿入）ノ旨御来照ノ趣閲悉セリ依テ玆ニ貴部長御来示ニ係ル国民政府ノ新条約締結ニ対スル希望ニ副ハムカ為日ヲ期シテ商議ヲ開始シ以テ速ニ新条約ヲ成立セシメムコトヲ期スヘシ
此段回答得貴意候　敬具

603　昭和4年4月(13)日　在上海重光総領事より　田中外務大臣宛（電報）

**日中通商条約の一旦廃棄問題に関し日中間合意仮調印につき芳澤公使至急回電方請訓**

上海　発
本省　4月13日後着

※第四九〇号
往電第四八七号ニ関シ
芳澤公使ヨリ
（一）南京ニ於ケル下交渉ノ結果妥結シタル条約廃棄問題ノ解決案ハ右往電第四八七号及第四八八号ニ依リ御承知ノ通大体御訓令ノ趣旨ニ合致スルモノト認メラルルニ付此ノ儘本使及王正廷間ニ於テ「イニシヤル」スルコトト致度シ
（二）右往電第四八七号ノ（四）及第四八九号ノ公文ニ付テハ南京宛客年貴電第九八号ノ（三）ヲ以テ御訓令相成リ曩ニ矢田総領事ヨリモ右ノ趣旨ヲ王部長ニ披露シ置キタル経緯アルニモ顧ミ往電第四八九号冒頭ノ（外交部長照会全文挿入）ノ訂正ヲ変更シ支那側来翰ノ趣旨ヲ「コンファーム」スルカ如キ形式ヲ避クルト共ニ「貴部長御来示ニ係ル国民政府ノ新条約締結ニ対スル希望ニ副ハンカ為」ト言フカ如ク我方ヲ「コンミツト」スルカ如キ字句ヲモ避ケ大体別電第四九一号ノ如キ条約改訂ノ商議開始ニ応スルノ準備アル位ノコトヲ通知スルハ何等差支ナキ次第ナルニ依リ右別電第四九一号ノ趣旨ニ依リ先方ニ回答文ヲ送付スルコトト致度キニ付右二点ニ関スル御意嚮大至急御回電相成様致度シ





604　昭和4年4月14日　在間島鈴木総領事より　田中外務大臣宛（電報）

**間島では実力通関は困難でありかつ天図鉄道の貨車共通制度破棄問題に発展する懼れある状況について**

間島　4月14日後発
本省　4月15日前着

第四二号
貴電第四八号ニ関シ
其ノ後当業者ノ報告ニ依レハ開山屯ニ在ル大豆ハ清津會寧地方ニ於ケル商人ノ買附ケニ係ルモノナルカ殆ト全部二月二十五日前三分一減ノ特権ヲ得テ既ニ通関手続ヲ済マシタルモノニテ相場ノ関係上同地ニ積載シアル趣ニ付更ニ新ニ同地ニ集ムルニアラサレハ実力通関為シ能ハサル次第ナリ然ルニ目下ノ処急ニ集マル見込ナシ当地輸出入組合ハ仮令当地ニ輸出大豆多少集マルコトアリトスルモ実力通関ハ為ササル旨打合セ居レリ其ノ理由ハ僅カナル輸出大豆ヲ一回位実力通関シタレハトテ何等効果ナキハ明カニシテ之カ為支那側当局ヨリ天図及図們鉄道貨車共通制度ノ破棄ヲ提唱シ来ルヘキハ想像ニ難カラス若シ貨車共通制度破ルルニ至ラハ不法関税以上ノ打撃ナルノミナラス一昨年輸入附加税問題ノ例ヨリ見ルモ必ス排日運動起リ商人ハ種々ノ不利ヲ蒙ル虞アリト謂フニアリテ至極尤モノ次第ニシテ之ヲ切掛ケニ排日団体擡頭シ吉会線反対商埠地外行政警察官撤退等ヲモ提唱セントスル徴候モアリ事情頗ル複雑シ居レリ本官二、三日中当地出発スヘキニ付本件ハ帰朝ノ上詳細ノ事情陳述ス

605　昭和4年4月15日　田中外務大臣より　在上海重光総領事宛（電報）

**枢密院との関係上条約廃棄に関する交換公文仮調印方回訓延期について**

本省　4月15日後1時10分発

※第二四九号
貴電第四九六号ニ関シ
上海ヨリ芳澤公使及横竹参事官ヘ転報アリタシ、北平、奉天、吉林、安東、牛荘、朝鮮総督ヘ転電セリ

芳澤公使ヘ条約問題ニ関スル往復公文案ニ付テハ枢密院トノ関係上考究ヲ要スル点モアリ本十五日中ニハ回訓シ難キニ付右御承知アリタシ

606 昭和4年4月17日 田中外務大臣より在上海重光総領事宛（電報）

**覚書の形式により仮調印を行うと共に再び臨時弁法を適用されぬ様訓令**

別 電 四月十七日発田中外務大臣より在上海重光総領事宛第二六六号

覚書文案

付記一 日付不明

「通商条約改訂問題ニ関スル日支間往復文書ノ交換ト枢密院諮詢トノ関係ニ就テ」

二 四月十八日付

「芳澤公使王部長間ノ口頭陳述」

本 省 4月17日後5時50分発

第※二六五号

貴電第四九〇号ニ関シ

芳澤公使ヘ

一、我方往翰ハ貴電第四八七号御来示ノ通リ「其一方的ニ制定セル様致弁法ノ適用ヲ差控フルノ決意ヲ表示シ以テ」ノ一句ヲ削除シタル外客年往電第二九九号通リトスルコト又先方来翰モ支那文ハ貴電第四八八号ノ通リトスルコト、シ差支ナシ但来翰訳文ニ付テハ中段「貴我ノ諒解ニ依リ敢テ之ヲ論セサルコト、ナシタルカ」ノ一句ハ「貴我ノ諒解アルヲ以テ敢テ之ヲ論セス」ト改ムルコト適当ト認ムルニ付右ニ御承知アリ度

二、先方来翰ノ形式ハ書翰体ニテ差支ナキモ我方往翰ノ形式ヲ書翰体トナスニ於テハ貴電御来示ノ客年往電第二九九号冒頭修正ノ外尚修正ヲ要スル箇所アルノミナラズ本問題ニ付テハ前回ノ例ニ依リ覚書ニテ一貫スルコト形式上適当ト認メラルルニ付覚書トセラレ度（従テ右覚書ノ場合ハ前記往電冒頭ハ日本帝国公使トシ覚書ノ終リニ月日並日本帝国公使館ヲ附記ス為念）

三、貴電第四九一号ノ発送ハ已ムヲ得サルベキモ右ニ鬩悉ナル字句ヲ使用セバ先方来翰ニ同一ノ字句ヲ使用スル関係上諒承ノ意義トナリ先方来翰ノ主張ヲ承認スルガ如キ感ヲ





抱カシムルニ付之ヲ接受ト改メ其他ノ点ニ付テモ別電第二六六号ノ通リト改ムルコト、致度シ

四、本件条約問題ニ関スル公文ハ所謂交換公文ト称スベキモノニ非ズ一般外交交渉ニ於ケル普通ノ往復文書ニシテ「イニシヤル」ヲ附スルハ単ニ右文書ノ内容ニ付豫メ双方ニ於テ下打合ヲ為セルヲ示スニ過ギザルモノト諒解セラルヽニ付右文書ハ従来ノ例ニ従ヒ双方同時ニ之ヲ交換スルコトナク今後日附ヲ異ニシテ順次往復シ且南京漢口事件ノ解決ニ先チ之カ往復ヲ了スルコト、致度右ハ最近政府ト枢密院トノ関係ニ鑑ミ右文書ノ往復ヲ以テ国際約束ト看做サルヽコトハ可成之ヲ避クルト共ニ条約問題ノ解決ガ南京漢口事件ノ解決ト関聯シオルガ如キ観ナカラシメントスル趣旨ニ出ツルモノニシテ従テ右文書ノ発表モ両事件ノ解決ニ関スルモノト時ヲ異ニシテ之ヲ行ヒ度所存ナリ右ハ全ク南方内政上ノ理由ニ基クモノナルモ条約改訂ニ関スル当方ノ誠意ハ却テ明瞭トナル次第ニ付右ノ御含ニテ王ト可然打合ヲ遂ゲラレ結果回電アリ度シ

五、尚本件文書往復ハ新条約ノ締結ニ至ル迄支那側ガ事実上臨時弁法ヲ適用セズ現行条約ノ規定ニ依リ日支関係ヲ律スル誠意アルコトヲ条約改訂審議開始前ニ確実ニシ置ク趣旨ナル処最近済南事件解決後ニ於ケル排日取締等ニ関スル支那側態度ニ顧ミルニ先方ハ明ニ文書ニ取リ極メタル事項スラ充分ニ之ヲ実行セズ誠意ノ認ムベキモノ疑ハシキ次第ナルニ鑑ミ本件公文交換後或ハ再ビ臨時弁法適用等ノ措置ニ出ツルコトナキヲ保セズ旁々貴官ハ右文書「イニシヤル」ニ先立チ王ニ対シ前記ノ趣旨ヲ篤ト徹底セシムルト共ニ此点ニ関シ王ノ言質ヲ取リ付ケラルルコト、致度シ

（別 電）

本 省 4月17日後5時発

第※二六六号

日本帝国公使ハ日支通商条約改訂方ニ関スル昭和四年 月 日附国民政府外交部長ノ照会ヲ接受セル処右ニ対シ帝国政府ハ国民政府ト該条約改訂ニ関スル商議ヲ速ニ開始スルノ準備アル旨回答スルノ光栄ヲ有ス

（付記一）

※通商条約改訂問題ニ関スル日支間往復文書ノ交換

ト枢密院諮詢トノ関係ニ就テ

目下懸案中ノ日支間通商条約改訂問題ニ関スル往復文書ハ

一、現行日支間通商条約ノ有効ヲ高調シ支那側条約廃棄論ヲ反駁シ且ツ支那側カ現行条約ニ依リ両国関係ヲ律スルニ於テハ条約改訂商議ニ入ルニ異議ナキ旨ヲ記載セル別紙甲号ノ如キ我方往翰案、之ニ対シ右日本側ノ申出ヲ了承シタルコト及法理ニ関スル自己ノ主張ハ枉クル能ハサルモ彼我ノ了解ニ依リ法理ノ争執ヲ止メ速ニ条約改訂商議ヲ開始シタキ希望ヲ述ヘタル別紙乙号ノ如キ支那側来翰案並ニ右支那側来翰ニ対シ条約改訂開始ニ異議ナキ旨ヲ更ニ明ニシタル別紙丙号ノ如キ我方復往翰案三通トス而シテ前記三通ノ文書往復ハ次ノ如キ理由ニ依リ御諮詢奏請ノ要ナキモノトス

二、別紙甲号中条約有効ニ関スル我方ノ主張ハ支那側ノ主張ヲ反駁シ且我方従来ノ法理ヲ繰返シタルモノニシテ現行条約ノ変更乃至新約束ノ締結ニ非ルハ勿論条約解釈論ノ変更ニモ非ス旁々此点ニ付テハ何等枢府トノ関係ヲ考慮スルノ必要ナシ

三、我方ハ甲号末段ニ於テ支那側カ現行条約ノ条項ニ依リ両国ノ関係ヲ律スルニ於テハ支那側ノ条約改訂提議ニ応シ其ノ適当ト認ムル交渉ヲ開始スルノ誠意アルコトヲ示シ且別紙丙号ニ於テ更ニ支那側ノ希望ヲ容レ速ニ商議開始ノ準備アルコトヲ述ヘ居ル処如此ハ枢密院官制第六条第四項ニ所謂条約及約束ニ該当スルモノニ非ス抑々一般条約ニ於テ其ノ有効期間ヲ定メタルハ相手方ノ同意無クシテ之カ廃止又ハ改訂ノ提議ヲ為シ又ハ一方的ニ之ヲ廃止又ハ変更ヲ為シ得サルコトヲ明カニセルモノニシテ右有効期間内ニ於テ両締約国ノ合意ニ依リ改訂又ハ廃止ヲ為スコトヲ禁止スルノ意ニ非ス

従テ我方カ現行条約ノ有効ヲ前提トシテ支那側ノ条約改訂商議ニ応スルコトハ何等現行条約ト扞格スルモノニ非ス本件ハ法理上条約ノ存立トハ全然別個ノモノト見做ササルヘカラス

右ノ如キ約束カ御諮詢奏請ノ要無キコト恰モ帝国政府ガ国際会議参加ノ申入ヲ受ケ之カ応諾ヲ約スル場合ニ於テ右約束ニ付御諮詢ヲ必要トセサルト同様ニシテ如此行為ハ外交機関ニ専属スルモノトス曩ニ日支条約商議期間延長ノ場合ニ於ケル覚書ノ交換ニ際シテモ我方ハ右ノ趣旨ニ依リ何等





枢府ノ御諮詢ヲ仰カサリシ次第ナリ

四、只別紙乙号支那側来翰案ニ於テ「本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ貴我ノ諒解ニ依リ敢テ之ヲ論セサルコトトシタル」旨ヲ記載シ又我方往翰案丙号ノ前段ニ於テ「御来照ノ趣閲悉セリ」ト記載セル関係上少クトモ法理論ヲ唱ヘサルコトニ付テハ或了解ヲ与ヘタルコトトナルヘキモ右ハ我方カ支那側カ現行条約ニ依リ両国ノ関係ヲ律スヘキコト（現行条約ノ有効黙認）ヲ条件トシテ従来ノ法理論ハ何等変更スル能ハサルモ只之カ主張ヲ暫ク見合スヘキコトヲ約シタルモノニシテ寧ロ我方根本ノ主張ヲ貫徹セントスル手段ニ過キス如此コトハ外交機関ニ専属スル日常ノ行為ニシテ是ヲシテ枢府ノ諮詢ヲ要ストセハ外交機関ハ殆ト全部ノ行動ヲ拘束セラルルコトトナルヘク其ノ奏請ノ要無キコト前述条約改訂交渉応諾ノ件ト何等異ラス

五、之ヲ要スルニ本件公文ノ交換ハ現行条約ノ改廃ニ非ス且解釈ノ変更又ハ新ナル解釈ヲ附加スルモノニモ非ス只一般外交機関ニ専属スル行為ヲ為スニ過キサルモノナルヲ以テ枢府御諮詢ノ要無キモノトス

六、尚今回ノ芳澤、王ノ交渉ハ条約廃棄問題ノ解決ニ要スル彼我ノ往復文書ノ内容ヲ豫メ打合セオク程度ノモノニシテ南京漢口事件ノ解決ニ関スル交渉トハ其性質ヲ異ニス従テ右交渉ハ結局芳澤王ノ「イニシヤル」ニテ終了スヘク「イニシヤル」シタル往復文ヲ順次日附ヲ異ニシテ今後往復スルコト可然、此趣旨ハ一応芳澤公使ニモ電訓シオキタシ

**（付記二）**

※芳澤公使王部長間ノ口頭陳述

昭和四年四月十八日条約問題ニ関シ芳澤公使王部長間ニ左ノ通リ問答アリタリ

芳澤公使曰ク

条約問題ノ論争ハ既ニ結末ヲ告ケタルニ付テハ本使ハ速ニ新条約締結ニ関スル商議ヲ開始スルモ可ナリ

尤モ本使ハ国民政府ニ於テ新条約成立ニ至ル迄日支関係ニ臨時弁法ヲ適用セサルモノト了解ス

王部長曰ク

新条約締結ノ為不日商議ヲ開始スルコトハ極メテ賛成スル処ナリ余ハ新条約ノ速ニ成立セムコトヲ期待スルカ故ニ臨時弁法ハ之ヲ適用セス現状ヲ維持スヘシ

芳澤公使曰ク
然ラハ本使ハ不日貴部長ト右商議ヲ開始スヘシ
王部長曰ク
賛成ス

607　昭和4年4月(19)日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

## 日中通商条約廃棄覚書に仮調印したる旨芳澤公使報告

上海　発
本省　4月19日前着

第五三五号*
芳澤公使ヨリ
今十八日午後五時半ヨリ十時迄王部長ト会見条約廃棄問題ニ関シ貴電第二六五号御訓令ノ趣旨ニ依リ談合ノ結果昨年貴電第二九九号日本側覚書及往電第四八八号ノ（一）国民政府外交部覚書ノ案文ニ「イニシャル」ヲ了セリ
貴電第二六六号ノ日本側第三次覚書案ハ見合セトナシ臨時弁法ヲ適用セサル事及新条約締結ノ為速ニ商議ヲ開始スルコトノ二点ヲ双方口頭ニテ陳述シ筆記スルニ止メタリ詳細後電ス



608　昭和4年4月(19)日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

## 日中通商条約を廃棄する覚書の仮調印および交換に関する芳澤・王会談報告

上海　発
本省　4月19日後着

第五四九号*
往電第五三五号ニ関シ
芳澤公使ヨリ
貴電第二六五号及第二六六号ハ十七日ノ会見後接到シタルニ付昨十八日午前堀内ヲシテ周ト会見下交渉ヲ行ハシメタル処
一、堀内ハ先ツ日本政府ハ枢密院トノ関係等ヲモ顧慮シ第三次覚書ヲ発送スルコトハ甚タ困難トスルカ故ニ成ルヘク見合セタキ考ナルカ支那側ニテハ断念シ得スヤト尋ネタルニ周ハ支那側ニ執リテハ条約問題ノ往復文書中此ノ覚書コ



ソ骨子トモ云フヘキモノナレハ是非共発送ヲ希望スト反覆懇望シタルニ付堀内ハ然ラハ一応公使トモ相談シ見ルヘキモ案文ハ是非共我方ノ註文通リニ定メサルヘカラスト告ケ此ノ問題ハ暫ク其ノ儘トナシ置キ他ノ点ヲ先決スルヲ得策ト考ヘ
二、次ニ我方往翰中「臨時弁法ノ適用」云々ノ一句削除ノ問題ニ移リ右ハ日本政府ノ頗ル躊躇スル処ナルモ若シ支那側ニ於テ事実上臨時弁法ヲ適用セサル意見ヲ明示セハ政府モ安心シテ右削除ニ同意スヘシ其ノ点ハ大丈夫ナリヤト述ヘタルニ周ハ国民政府カ今日迄臨時弁法ヲ適用シ居ラス又今後モ適用スル考ナキコトハ日本側ニテモ既ニ充分承知シ居ラルル事ト思考ス現ニ昨年上海ニ於テ臨時弁法適用問題起リ
国民政府司法部ニ於テ係官ノ協議行ハレタル際自分ハ外交部長ノ命ヲ受ケ外交部ヨリハ未タ曾テ日本人ニ対シ臨時弁法適用方ヲ司法部ニ通牒シタルコトナキ旨（丁抹人等ニハ適用スヘキ旨通牒セリ）説明シテ司法当局ヲ納得セシメタル程ナレハ此ノ点ハ安心アリタシ併シ尚王部長ニモ良ク話シ置クヘシト答ヘ
三、往復文書ノ形式ニ関シテハ周ハ若シ日本側カ本件ニ関シ是迄覚書ニ依リ居ラルルナラハ今回モ夫レニテ差支ナク支那側モ覚書トナスヤ否ヤハ一応取調ノ上確答スヘシト述ヘ
四、本件往復覚書ニ関シテハ日本政府ハ日附ヲ異ニシ南京、漢口両事件ノ解決ニ先立チ往復ヲ了スルコトトナシタキ考ナルカ右ハ却テ支那側ニトリテモ好都合ト思考スト堀内ヨリ述ヘタル処周ハ此ノ点ハ王部長ニ於テモ異議ナカルヘシト答ヘタルニ依リ
五、堀内ハ再ヒ第三次覚書ノ問題ニ立戻リ貴電第二六六号ノ案文ヲ示シ之ハ絶対ニ変更ノ餘地ナシト説明シタル処周ハ一読ノ後前段ハ困難ナカラ同意スル代リ後段ハ是非共往電第四八九号ノ支那案ノ如ク改メラレタシト述ヘタルモ堀内ヨリ字句ノ変更ヲ要スルナラハ右覚書ノ発送ハ到底政府ニ於テ承諾セスト撥附ケ此ノ点ハ其ノ儘トシテ別レタル趣ナリ然ルニ午後本使ト王トノ会見ニ先立チ周ハ更ニ別室ニ於テ堀内ニ懇談ヲ求メ午前中ノ下交渉ノ諸点ニハ王部長モ同意シタルカ只第三次覚書案ノ字句ノミハ修正セラレタシトテ

（一）「日支通商条約」及「該条約」ヲ単ニ条約ト改メ
（二）「改訂」ヲ「重訂」ト改メ
（三）後段中ニ「速ニ新条約ヲ成立セシメ」云々ト記入シ
（四）「準備アル」ノ語ヲ削除スルコト
等ヲ提議シタルニ依リ堀内ハ到底同意シ難キ旨ヲ答ヘタルニ然ラハ案文ハ「改訂」ヲ「重訂」ト改ムル外ハ日本案ニ依ルコトトシ芳澤公使ハ一時帰朝前一回丈ニテモ条約改訂交渉ヲ始メラルル事ト又妥協案ヲ申出テタルモ堀内ハ一応公使ニ話シ見ルヘシト答ヘタル儘ニ本使王間ノ会見ニ移レリ

王ハ周ノ報告ヲ受ケ日本側第三次覚書案ヲ一読シタル上右ハ「該条約改訂」ト記載シ如何ニモ日支条約ハ有効ニシテ而モ右条約ヲ基礎トシテ改訂セントスルカ如キ印象ヲ与ヘ再ヒ条約ノ効力ニ関スル議論ヲ蒸シ返スノ嫌アリテ不満ノ意ヲ洩シ周ハ其ノ意ヲ受ケテ更ニ対案ノ作製ニ取リ掛リタルニ依リ

本使ハ若シ右案文カ不満足ナルニ於テハ第三次覚書ノ発送ハ之ヲ止メ本使ハ条約問題ヲ開始スルモ可ナル旨口頭ニテ声明スルコトトシ之ニ対シ貴部長ハ日支関係臨時弁法ヲ適用スルノ意思ナキ旨同様口頭ニテ声明スルモ案ナルヘシト述ヘタルニ王ハ単ニ口頭ノ回答ノミニテハ後ニ証拠トシテ残ラス甚タ心許ナシトテ右ヲ会議録ニ記シ本使トノ間ニ「イニシヤル」シ置キタシトカ覚書ニ認メ置キテハ如何トカ種々註文ヲ述ヘタルカ本使ハ我方ニ於テ枢密院トノ関係モアリ国際約束ト見ラルルカ如キ形式ハ之ヲ避ケ度キ趣旨ナルニ依リ会議録覚書ノ如キ文書ヲ作製スルコトニハ同意シ難シ単ニ口頭ノ問答ヲナスノミナラハ差支ナシト述ヘタルニ王ハ然ラハ自分ト貴公使トハ単ニ口頭ニテ問答シ之ヲ筆記セシメ確カニ斯ル問答アリタルコトヲ認証スル為堀内書記官、周司長ニ於テ右筆記ニ「イニシヤル」ヲ附シ置クコトトシテ折合タシト述ヘタルニ依リ本使モ右程度ナラ差支ナシト思考シ之ヲ承諾シ次テ問答ノ文句ニ付種々ノ議論ヲ費シタル後漸クニシテ意見ノ一致ヲ見、別電第五五〇号ノ通ノ問答ヲナシ堀内及周ハ前記話合ノ通右筆記ニ「イニシヤル」ヲ附シタリ

続テ本使ハ王ニ対シ本件ハ御承知ノ通昨年七月貴部長ノ条約廃棄声明ニ端ヲ発シ之ニ対シ我方ハ覚書ヲ以テ反駁シ貴方ハ更ニ覚書ニテ一矢ヲ酬ヒ来レル次第ニテ今回ノ我方覚





書ハ右貴方覚書ニ対スル回答ニシテ貴方ハ更ニ之ニ回答シテ本件論争ニ鬼ヲ附ケントスル次第ナレハ南京及漢口事件ノ解決案トハ其ノ性質ヲ異ニシ公文交換ト謂フヘキモノニアラス単ナル往復文書ニ過キサルヲ以テ北平ヨリ公使館々印ヲ押捺シタル用紙到着次第我方覚書ヲ送付スヘキニ付貴方ハ我方覚書ノ日附ヨリ一両日後ノ日附ニテ回答ヲ発セラレ右ニ依リ本件ヲ解決スルコトト致シ度シト述ヘタルニ王ハ承諾セル旨答ヘタリ依テ本使ハ更ニ先程堀内書記官及周司長間ニ「イニシヤル」シタル問答ハ単ニ口頭陳述ヲ筆記シタルモノナレハ国際約束ト謂フヘキモノニアラス従テ発表モセサルコトト致シタシト念ヲ押シタルニ王ハ之ニモ同意ノ旨答ヘ尚王ハ自分ハ今夜南京ニ赴ク筈ナルカ南京及漢口両事件調印ノ為ニハ貴公使ノ来寧ヲ煩シタク其ノ際条約交渉ノ第一回会見ヲ為シ支那側ニテ作成セル日支新条約草案ヲ御渡シ致スヘシト述ヘタルニ依リ何レモ異及（ママ）ナキ旨答ヘ置キタリ

芳澤（編注）公使曰ク

条約問題ノ論争ハ既ニ結末ヲ告ケタルニ付テハ本使ハ速ニ新条約締結ニ関スル商議ヲ開始スルモ可ナリ尤モ本使ハ国民政府ニ於テ新条約成立ニ至ル迄日支関係ニ臨時弁法ヲ適用セサルモノト了解ス

王部長曰ク

新条約締結ノ為不日商議ヲ開始スルコトハ極メテ賛成スル処ナリ余ハ新条約ノ速ニ成立セムコトヲ期待スルカ故ニ臨時法（弁欠カ）ハ之ヲ適用セス現状ヲ維持スヘシ

芳澤公使曰ク

然ラハ本使ハ不日貴部長ト右商議ヲ開始スヘシ

王部長曰ク

賛成ス

**編注**　「芳澤公使曰ク」以下は、在上海重光総領事より田中外務大臣宛別電第五五〇号に相当するものと思われる。

609

昭和4年4月21日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**東三省にも輸出付加税を実施し中国関税制度統一を計りたい旨王外交部長談話に関する芳**

## 澤公使報告

上　海　4月21日前発
本　省　4月21日後着

第五六一号
芳澤公使ヨリ

十五日王部長ト会見ノ際王ハ本使ニ対シ輸出附加税及陸境関税問題ニ関スル日本政府ノ意嚮ヲ承知シタシト申出タルカ当日ハ討議ニ入ルノ餘裕ナカリシ処十七日ノ会見ニ於テ再ヒ王ヨリ本件ヲ持チ出シタルニ依リ本使ハ輸出附加税問題ニ付テハ曩ニ宋部長ヨリモ申出ノ次第アリ其ノ節政府ニ報告スルト共ニ本使ノ意見ヲモ上申シ置キタル処今回右ニ対スル政府ノ回訓ニ接シタリトテ貴電第二四五号ノ趣旨ヲ適宜敷衍説明シタル処王ハ陸境関税ニ付テハ別ニ討議スヘキモ

㈠輸出附加税ハ華府条約ニ依リ既ニ列国ノ承認ヲ得之カ実施手続ヲ定ムル為北京ニ特別関税会議ヲ招請シタルカ何等決定スル処ナカリシニ依リ右手続ヲ省略シ同会議ノ後ヨリ二分五厘ノ附加税ヲ実施シ既ニ二年ヲ経過シ列国何レモ事実上納付シ居リタル次第ナルカ只東三省ニ於テハ当時未タ南方ノ政権及ハス之カ実施ヲ延期シ居タル次第ナル処同地方モ昨年末ヨリ国民政府ノ下ニ統一シタルヲ以テ新輸入税率ノ実施ト共ニ東三省ニモ実施シ支那関税制度ノ統一ヲ計ラムトシタル次第ナリ従テ曩ニ岡本領事及加藤副領事来訪ノ節モ豫告ナシニ実施シタル点ニ付苦情ヲ述ヘタルニ過キス

斯ク主義上列国モ承認シ事実上納附シ来レル附加税ヲ日本ノミ独リ兵力ヲ擁シテ其ノ実施ヲ阻止スルカ如キハ日支国交ノ上ヨリ云フモ甚タ面白カラス一般ニ対シテハ日本ハ軍隊ノ力ニ依リ支那ノ関税ニ干渉シ其ノ統一ヲ阻害スルカ如キ印象ヲ与フヘシ

㈡日本ハ未タ支那ノ関税自主権ヲ認メ居ラストノ事ナルカ此ノ点ノ論議ハ勢ヒ条約ノ有効無効論ニモ亘ラサルヲ得サルニ付玆ニハ述ヘス唯列国カ既ニ支那ノ関税自主権ヲ認メタル今日斯ル議論ヲ述ヘラルルハ甚タ時代遅レト云ハサルヲ得ス

㈢輸出税全般ニ亘ル改訂ノ計画アリヤ否ヤハ自分モ知ラサルカ仮令改訂ノ場合ニモ輸出奨励ノ趣旨ヨリ減税スル事コソアレ増税スル筈ナキヲ以テ支那関税制度統一ノ為切



ニ公使ノ考慮ヲ希フ次第ナリト述ヘタリ

依テ本使ハ関税ノ統一ニ付貴国政府ヲ援助セム事ハ勿論本使ノ躊躇セサル処ナルカ本件ノ如ク条約ニ基ク事項ニ付テハ合理的ニ援助スルヲ要スル次第ナリ然ルニ貴部長ハ本件ノ条約上ノ根拠ニ付テハ根本的ノ誤解ヲ有セラルル如クナルニ付此ノ点ニ付一応反駁シ置クヘシト前提シ

㈠列国ハ華府条約ニ依リ輸出附加税ヲ承認シタルモノニ非ス従テ北京関税会議ニ於テハ問題トモナラサリシ次第ナリ支那官憲カ二分五厘輸出輸入附加税ヲ実施スルヤ列国ハ直ニ不法課税トシテ抗議シ支那側モ条約ニ基ク正当ナル課税ニ非サルカ故ニ海関ニテ徴収スルヲ得ス

最近迄内地税局ニ於テ徴税シ来レル次第ナリ然ルニ過般新輸入税率ヲ海関ニ於テ徴収スルコトトナルヤ輸出附加税ヲモ海関ニ於テ堂々トシテ徴収スルコトトシ且従来全ク徴収セサリシ満洲ニ於テモ何等ノ豫告ナシニ徴税ヲ強行セントシタルカ故ニ我方ハ厳重抗議ヲ提出スルト共ニ我方実力ノ及フ範囲内ニ於テハ此ノ不法行為ヲ阻止シツツアル次第ナリ

曩ニ岡本、加藤両官ノ貴部長ニ対スル抗議モ右ノ趣旨ヲ述ヘタルニ過キス

㈡関税自主権ニ付テモ貴部長ハ甚タシキ誤解ヲ有セラルルカ如キモ日本ハ未タ曾テ支那ノ関税自主権ヲ認メタルコトナキハ明白ニシテ議論ノ餘地ナシ

㈢輸出税改訂ノ事アルモ減税スルノミナリト云フモ二分五厘附加税ヲ強行スルカ如キ現状ニ於テハ今後増税スルノ懼大ニアリト云ハサルヲ得ス

然レトモ我方トシテモ本件附加税ニ付好意的考量ヲ加フルニ吝ナラサル次第ニシテ且本使一己ノ考トシテハ条約改訂ニ際シ先ツ関税問題ヨリ開始セム意嚮ナルニ依リ旁本件ハ条約改訂商議ノ際ニ討議スル方可ナラスヤト思考スル旨述ヘタルカ時間ナカリシ為右ニテ討議ヲ打切タリ

然ルニ十九日周ハ堀内ニ対シ王部長ハ昨夜赴寧ニ際シ輸出附加税問題ニ付テハ公使ト充分討議スルノ時間ナカリシモ公使ニ於テハ本件ニ付議論ハ議論トシ事実上ハ相当好意ヲ有セラルル様印象セラレタルニ依リ重光総領事及貴官トモ懇談ノ上本件ヲ事実的ニ解決方公使ノ好意的考量ヲ御願スヘキ旨申残シ置キタリト語リタルニ付堀内ハ本件ハ相当複雑ナル問題ニテモアリ公使ハ漢口、南京事件調印ノ上ハ一

時帰朝ノ筈ニ付其ノ際政府トモ篤ト協議シ条約改訂商議ノ際解決ヲ計ル事トスル方可ナルヘシト軽ク応酬シ置キタル趣ナリ

北平、南京、奉天ヘ転電セリ

610 昭和4年4月22日 在上海重光総領事より 田中外務大臣宛（電報）

**陸境関税撤廃問題および輸出付加税問題解決尽力方中国側依頼に対し未だ中国側が対日ボイコットの取締をみざる現状を指摘して反駁について**

上海 4月22日後発
本省 4月23日前着

第五六六号

往電第五六一号末段ニ関シ

周龍光十九日本官来訪ノ際陸境関税及輸出附加税ニ関シ屢々陳述シ王部長ノ意嚮モアリ特ニ本官ノ尽力ヲ煩度シトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ此等ノ問題ニ付テハ何レ条約問題ト共ニ日本側ノ考量ニ上ルヘキモ最近支那側ノ態度ヲ見ルニ排日ノ問題ノ如キ部長及貴下ニ於テ其ノ取締ニ付テ度々ノ確言アリ特ニ王部長ハ十三日ノ談話ノ際一週間待タレ度ト本官ニ対シ述ヘタル期間ハ将ニ過キ去ラントシ却テ救国会ヲ中心トスル反日運動ハ一層刺戟セラレ居ル有様ニシテ支那政府ノ取締ノ実ナキ現状ニアラスヤ斯ノ如キコトニテハ現ニ南京問題、漢口問題ヲ片付ケ進ンテ条約問題ニモ入ラントスル日本側ノ誠意ヲ無視スルモノニシテ此ノ上交渉ヲ進ムルノ無意義ナリトモ云ヒ得ル次第ニ付貴下ニ於テモ日本側カ御希望ニ応シ得ル様ニ努力セラレンコトヲ望ムト述ヘ置キタル次第ナリ

右追電ス

支、南京、奉天ニ転電セリ

611 昭和4年4月25日 田中外務大臣より 在上海重光総領事宛（電報）

**具体的な日中通商条約改訂商議については後日に譲るよう芳澤公使宛訓令**

本省 4月25日後9時30分発

第※二八四号





往電第二七五号前段ニ関シ

芳澤公使ヘ

貴官赴寧ノ機会ニ於テ差当リ一回条約改訂会議ヲ開催セラルルコトハ支那側ヲシテ其ノ希望ヲ満足セシムル上ニ於テモ将又我方ノ誠意ヲ認メシムル上ニ於テモ適当ノ措置ト思考セラルルモ本件条約改訂ノ重要性ニ鑑ミ其ノ具体的商議ノ開始期、改訂ノ内容及順序商議方法等ニ付テハ尚慎重考慮ノ要アリ旁々此等具体的方針ハ貴官御帰朝后決定スルコトト致度ニ付前記会議ニ於テ条約改訂ニ関スル我方ノ誠意ヲ疑ハシメサル趣旨ニテ可然応酬シオカレタシ、実ハ曩ニ貴官当地御出発ニ際シ内訓ノ次第ハアルモ右供其後発生シタル諸般ノ事態ニモ鑑ミ其儘之ヲ維持スル能ハサル事情アルニ付右会議ニ於テハ先方ヨリ条約草案ノ提出アラハ之ヲ受理シ疑問ノ点ニ付適宜質問セラルヽ等主トシテ我方準備ノ目的ニ資スルタメ先方ノ意嚮ヲ突止メ置クニ止メラレ、我方ノ態度ニ付テハ何等「コムミツト」セラレサル様致シタキ次第ナリ従テ手続上ノ問題ニ付テモ例ヘハ各種専門委員会ノ設置ノ如キ条約ノ内容ト関聯スル事項ハ後日ノ協議ニ譲ルコトトセラレ度シ

612 昭和4年5月(3)日 在南京岡本領事より 田中外務大臣宛（電報）

**中国側より中日通商航海条約案提出について芳澤公使報告**

南京 発
本省 5月3日前着

第※四六六号

往電第四六三号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

二日午前王部長トノ会見ニ於テ南京及漢口両事件解決文書ノ調印ヲ終ルヤ王ハ改メテ本使ニ対シ茲ニ済、漢、寧三案ノ解決ヲ見タルハ自分ノ最欣快トスル処ニシテ両国々交ノ増進ニ資スル処頗ル大ナルヲ疑ハス貴公使ノ今日迄ノ努力ニ対シテハ敬服ト感謝ノ念ニ堪ヘサル次第ナルカ一ツ残サレタルハ条約問題ナリ就テハ曩ニ御約束シタル通支那側ニテ作成シタル条約草案ヲ御渡シ致スヘキニ付篤ト御研究相成度貴公使ニハ一旦帰朝ノ上今月末ニハ再ヒ渡来セラルルトノ事ナレハ孫総理ノ祭典後商議スルコトト致度シトテ右

草案一部ヲ本使ニ手交シタル上更ニ語ヲ継キ抑モ本草案ハ相互平等ノ精神ニ基キ作成シタルモノニシテ其ノ一部ハ既ニ外国トノ間ニ協定調印シタルモノアリ或ハ目下外国トノ間ニ商議中ノモノモアリ要スルニ孰レノ国ニ対シテモ同様ノ取極ヲ為サムトシ居ルモノナル処貴公使及貴国政府カ国民政府ニ同情ヲ寄セ国民政府ノ要請ニ対シ援助ヲ吝マサル事ハ自分ノ深ク確信スル処ナルニ依リ右草案御研究ノ上ハ貴公使ニ於カレテモ今日迄諸懸案解決ノ為示サレタル互譲妥協ノ精神ヲ以テ速ニ本件改訂ヲ完成セシムル様セラレム事ヲ希望ス

是ヲ独リ自分ノミノ言ニ非ス国民政府ヲ代表シテ希望スル処ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ条約改訂ニ関スル我方ノ態度ハ過日御届ケシタル条約廃棄問題ニ関スル我方覚書中ニ明示シタル通ナルカ貴方草案ヲ受領シテ研究シ政府トモ相談スルコトハ差支ナシ本使ハ一旦帰朝ノ上再ヒ来寧シテ孫総理ノ祭典ニ参列シ其ノ後荷物整理ノ為北平ニ赴テ帰来後貴部長ト条約改訂ノ商議ヲ始ムルコトト致シタシト述ヘタルニ王モ同意ノ旨答ヘタリ右草案ハ漢文ニテ認メ中日通商航海条約ト題シ二十三個条ヨリ成リ其ノ内容ハ大体北平ニ於ケル条約改正談判ノ際支那側ヨリ提出セルモノト同様ナルモ全文邦訳ノ上上海ヨリ電報スヘシ

尚王ハ新聞記者等ニ発表スヘキ事項打合ノ際条約草案ヲ本使ニ手交シタル旨公表シタキ口吻ヲ洩シタルカ本使ハ之ヲ抑ヘ新聞ニハ本日会見ノ際条約改訂問題ニモ入リタル位ハ発表シ差支ナキモ条約草案ヲ手交シタルコトハ何等触レサル様打合セ置キタリ

## 613 昭和4年5月3日 在中国堀臨時代理公使より 田中外務大臣宛(電報)

### 治外法権問題は一般通商条約問題と切離し中国側と商議したい旨の英国側意向に関しランプソン同国公使と意見交換について

北平 5月3日後発
本省 5月3日後着

第四二一号(極秘)

往電第四一五号ニ関シ(1)

五月二日英国公使ノ談ニ依レハ同公使ハ七日漢口ヲ経テ上海ニ至リ孫文ノ葬儀ニ列シタル上其ノ後事宜ニ依リ宜昌長





沙辺ニ立寄ラサル限リ遅クトモ六月初旬迄ニ帰平スル豫定ノ由ナルカ右南下ノ用向ニ関シ語ル処左ノ如シ

英支通商条約改訂問題ニ関シ昨年十二月自分南下ノ際王正廷ニ対シ差当リ治外法権問題ノ商議ハ之ヲ断念スヘキコトヲ慫慂シタルモ同人ハ之ニ応セス結局一般通商条約問題トハ切離シ(即チ独立ノ問題トシテ同時ニ)商議スト云フ程度迄譲歩セシメタルヲ以テ自分ハ本国政府ニ対シテ此ノ機ヲ逸セス先ツ以テ一般通商条約ノ相談ヲ支那側ニ提示シテ其ノ商議ヲ開始スル方治外法権問題ノ解決ヲ後日ニ引延ハス点ニ於テ上策ナリト思考スル旨申送リタル処漸ク数日前愈本国政府ヨリ治外法権問題ヲ除外セル通商条約ノ草案(各省ノ熟議ヲ経タルモノニアラス商務省限リノ草案)ヲ電報シ来リ自分ノ裁量ヲ以テ何時ニテモ支那側ト商議ヲ開始シ差支ナキ旨訓令アルト同時ニ右草案ノ内容ニ関シ意見アラハ申出ツヘキ旨申聞ケアリタルニ依リ

自分(2)トシテハ意見ヲ申送リタル一方不取敢南下シ茲数日中ニ到着スヘキ自分ノ意見ニ対スル政府ノ回訓ヲモ参考トシ右草案ニ対スル支那側ノ意見ヲ求メ若シ商議カ紛糾スルカ如キ形勢トナラハ自分トシテハアッサリト切上ケ其ノ後ニハ商務参事官「フヲックス」ヲ残シテ商議ヲ継続セシムル方針ナリ云々

本官ハ右草案ノ要点及之ニ対スル公使ノ修正意見ヲ質問シタルニ公使ハ右草案ノ要点ハ(イ)一般通商事項ニ関シテハ現在ノ開港地ヲ網羅セル Schedule ニ記載シアル各「ポート」ニ対スル英国人ノ居住来往営業土地租用其ノ他ノ権利ハ大体現在ノ制度ヲ継続スルコトトシ(ロ) upcountry agency(外国商人カ内地ニ赴テ土貨買出シヲ為シ倉庫ヲ設クル等ノ事業)ノ権利モ現在ノ条約規定ヲ其ノ儘トシ(ハ)航行権ノ問題ニ付テハ沿岸貿易(現在ノ開港場間ノ航路全部ヲ含ム)ハ之ヲ現在通リ外国ニ開放ス純粋ノ内水航路ハ支那法政及支那ノ登録船籍ノ下ニ於テノミ英国ニ之ヲ認メシメ(ニ)内地ノ土地所有権ノ問題ハ完全ナル相互主義ノ下ニ之ヲ認ムル等ナルカ

之(3)ニ対シ自分ハ今回ノ商議ニ於テハ治外法権問題ヲ切離スコトヲ以テ最モ緊要ト為スニ依リ其ノ趣旨ニ副ハサル事項ハ成ルヘク之ヲ避クル必要アルカ故ニ先ツ upcountry agency ノ問題ハ動モスレハ法権問題ノ論議ヲ引致スル危険アリ若シモ此ノ問題ヲ提議ストセハ内地商業ニ対シテハ

課税其ノ他ノ点ニ於テ支那人以上ノ特権ヲ要求セサルコトヲ明白ニシタル上ニテ之ヲ為ス外ナカルヘキ意見ヲ具申シ置ケリ

航行権ノ問題ニ付テハ到底英国ノ希望通ニハ行フヘクモ見ヘサルニ依リ純粋ノ沿岸貿易ノ問題丈ケヲ完全ニ喰止ムル最後ノ腹ニテ例ヘハ長江筋ノ開港場間ノ航行等ニ特許制度ヲ設クルカ如キ譲歩ノ必要ヲ述ヘ

土地[4]所有権ノ問題ハ之ヲ提議スルコトハ直ニ治外法権問題ニ関聯スルカ故ニ不利ナル旨ノ意見ヲ呈シ置ケリ云々ト答ヘタリ依テ本官ハ愈支那側ヨリ治外法権問題ノ公文ヲ発送シ来リタル今日右英国側ノ註文通リニ行カスシテ支那側ニ於テ飽迄法権問題ヲ同時ニ商議センコトヲ主張シ来ル場合ニ之ニ応スル準備アリヤト問ヘルニ同公使ハ斯カル場合ニハ支那側ニ対シ右公文ハ目下受領セルノミナレハ英国政府ニ於テ充分考慮スル暇ナキニアラスヤト突放スノ外ナシト答ヘタル後本官ニ対シ日本ハ満洲ニ関スル限リ法権放棄ノ準備アリト仄聞スルカ果シテ決定セリヤト問ヘルニ付本官ハ何等決定ノ由ヲ承知セス殊ニ最近南京事件ノ方針トシテ伝ヘラルル如ク日本カ旅大及満鉄附属地ヲ放棄セサル限リ法権放棄ノ対償トシテ伊、白ニ対スルカ如ク土地所有権ヲ与フル能ハスト云フカ如キ態度ナラハ日支間ニ於ケル本件ノ解決ハ前途遼遠ナリト思考セラルル旨答ヘ置キタリ

次[5]ニ公使ハ法権問題ヲ他ノ研究事項ト切離シテ商議スル方針ニ対スル本官ノ意見ヲ求メタルニ依リ本官ハ通商条約全般ニ亘リ改訂商議ヲ応諾シタル日本トシテハ之カ処理上英国以上ニ困難ナルヘキモ希望トシテハ右ハ甚タ結構ナリト思考スル旨答ヘ置ケリ本官カ貴公使今次ノ商議ハ条約問題ノ最大難関ニテ今後各国ノ開始スヘキ通商条約改訂談判ノ前例トモナリ非常ナル興味ヲ以テ之ヲ注視シ居ル旨述ヘタルニ対シ公使ハ従来英国ノ対支商業カ到ル処退嬰ニ退嬰ヲ重ネ悲境ニ陥リシ際ニハ或意味ニ於テ戦時気分ニテ挙国一致的ニ対支外交ヲ国論カ後援シタル為処置シ易カリシモ今ヤ一般ノ対支貿易ノ形勢モ一通落着キ従テ本国及在支英人ノ対支外交ニ対スル期待モ贅沢ニナリタル此ノ際通商条約ノ談判ハ愈難関ニ懸ルコトトナリ自分トシテモ大ニ覚悟シ居レリ若シ列国カ単ニ支那ニ対シテ既得地位ノ放棄丈ヲナシテ満足スルモノニ非サル限リ例ヘハ法権問題航行問題ノ如キ内部ニテ各国間ニ適当ナル意見ノ交換ヲ為シツツ支那





トノ商議ニ当ル事ハ甚タ望マシキ事ト思フトテ本官ノ意見ヲ求メタルニ付本官ハ右ハ全然同感ナル旨答ヘ置ケリ

上海、南京ヘ転電セリ

614　昭和4年5月9日　田中外務大臣より　在上海横竹商務参事官　在ニュー・ヨーク原（明治郎）商務書記官　宛（電報）

## 金解禁に対する意見報告方訓令

本　省　5月9日後発

合第二八七号

金解禁問題ハ我朝野ニ於ケル年来ノ懸案ナル所本問題ノ是非ニ関シ貴地方ノ事情ニ基ク商務官トシテノ御意見当方参考迄ニ承知シタキニ付大要電報委細郵報アリタシ尤モ本問題ニ関スル政府部内ノ方針ハ往電合第二八号ノ通ニシテ実行ノ時期等ニ付テハ慎重ノ考慮ヲ要スル為未タ全然決定シオラサル次第ナルヲ以テ此点誤解ナキ様御注意アリタシ

（紐育ヘ（ハ）本大臣ノ訓令トシテ在倫敦商務参事官ニ転電アレ

615　昭和4年5月(9)日　在上海重光総領事より　田中外務大臣宛（電報）

## 中国外交部が上海臨時法院回収に関する照会を英・米・仏・蘭・ノルウェーおよびブラジル代表に発した旨の中国紙報道について

上　海　発

本　省　5月9日後着

第六四六号

九日当地支那新聞ノ所報ニ依レハ外交部ハ八日上海臨時法院回収ニ関スル照会ヲ英、米、仏、和蘭、諾威、伯剌西爾ノ六国ニ対シ上海南京ニ外交代表アルモノハ外交部ヨリ派員手交シ其ノ他ハ在北平ノ外国公使ニ宛テ発送シタル由右照会文ノ内容ハ各国同一ノモノニシテ全文約三百字内外ヨリ成リ其ノ要旨ハ上海臨時法院ハ会審衙門ヲ改組シタルモノニシテ当時上海領事団ト孫傳芳時代ノ江蘇省政府トノ協定ニ依リ（脱？）国民政府成立以来此ノ種組織ハ中国ノ司法組織及様式ト適合セス且華洋人共ニ改善ノ必要ヲ認メ居ルモノナルカ故ニ国民政府ハ華洋人平等親善ノ見地ヨリ速ニ之カ改善辦法ヲ商議スル為貴公使ノ来京ヲ請フ次第ナリ

尚華府会議ノ際提出シタル治外法権回収ニ関シ直接間接ニ賛助ヲ表示セラレタルハ中国政府ノ特ニ感銘スル所ニシテ国民政府ハ十九年一月一日民法商法ヲ頒布シ司法組織ノ統一ヲ期シツツアリトノ趣旨ヲ含メタルモノニシテ本月十七日頃公表セラルル筈ナリト云フ

北平、南京へ転電セリ

616　昭和4年5月(10)日　在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

**上海臨時法院回収問題交渉につき照会ないところ我が方の対応につき請訓**

北平　発
本省　5月10日後着

第四五八号

上海発閣下宛往電第六四六号ニ関シ

右ニ付関係国タル当方ニ照会無キハ支那側ニ於テ日支通商条約満了シ日本側ニ治外法権無シトノ見解ヲ取レルニ依ルモノナルヘク右見解カ当方ニ於テ容認シ得ヘカラサルハ勿論支那側カ現行ノ回収章程ノ協定当事者タル日本ヲ無視スルコトハ当方トシテ許容スヘカラサルモノト思考セラルル次第ナルカ本件ハ曩ニ治外法権撤廃ニ関スル通牒ノ場合ノ如ク何レ右五個国代表者会議ニ於テ討議セラルヘキニ付往電第四四三号ノ件ト併セ本官ノ取ルヘキ態度御回訓相煩度シ

尚南京発閣下宛往電第五〇七号ニ依レハ右照会発送先ニ日本モ加ヘラレ居ル様ナルカ当地新聞報ニハ上海発閣下宛往電第六四六号ノ通日本ハ見当ラサルニ付為念

上海、南京へ転電セリ

617　昭和4年5月12日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

**福本安東税務司が陸境関税および輸出付加税を抗議付通関したるに対して中国側の批判が多い旨岸本より聞き込みについて**

上海　5月12日後発
本省　5月13日前着

第六六四号(極秘)

十一日午后岸本本官ヲ来訪シ今回愈一年間ノ休暇ヲ与ヘラ





レ明日出発帰朝スルコトトナリタルカ直ニ東京ニ赴キ得ルヤ否ヤ判明セサルニ依リ只今御話ノ件ハ東京ヘ報告ヲ願ヒ度ト前置シ安東県税関ニテハ陸境関税及輸出附加税ニ就キ「アンダープロテスト」ニテ通関セシメ居ルコトハ御承知ノ通ナル処福本税務司ヨリ安東日本領事トノ往復文書写ヲ添ヘ最近報告シ来リタル処右往復文書ニ依レハ抗議附通関ノ件ハ文書ヲ以テ福本カ日本領事ニ「サジエスト」セル結果ニ出テタルモノナルコト明トナリタリ然ルニ最近税関内部ニ於テハ支那側ノ勢力増大シ人事問題ニ迄容喙スル様ナリタル程ナルニ右ノ如キ報告ヲ提出シタル為右報告ハ支那側吏員ノ目ニモ触レ痛ク其ノ感触ヲ害シ斯カル土地ニ日本人ノ税務司ヲ置クハ弊害アリトノ議論盛トナリ「メーズ」モ岸本ニ対シ斯クノ如キコトヲ文書ヲ以テシ而カモ之ヲ其ノ儘報告スルハ無考モ甚シク自分トシテモ支那側ノ憤慨ヲ抑ヘ得サルヤモ知レスト云ヒ居レリ尚福本ハ曩ニ輸出税徴収ニ関聯シ鴨緑江ノ「ジヤンク」検査ノ問題起リタル際日本カ支那ノ領水中ニ在ル「ジヤンク」ヲ強力ニテ通関セシムルハ固ヨリ支那ノ主権侵害ナルモ支那側カ泣寝入セハ問題トナラサル旨海関監督ニ対シ文書ヲ以テ申越セリ之ヲ其ノ儘報告シ来リ弱ラサレタルコトアリ自分トシテハ万一福本ヲ代フルトセハ更ニ日本人ヲ後任トシ度旨述ヘ居ルモ支那側ハ安東ノ如キ地ニハ利害関係ナキ日本人以外ノ者ヲ任用スルヲ要スト主張シ居レル旨ヲ話リ兎角海関内日本人ノ不成績ナルヲ嘆シ居タリ

北京、南京ニ転電セリ

618　昭和4年5月14日　田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛(電報)

**関係国公使による上海臨時法院回収問題の会合に適宜参加方訓令**

本省　5月14日後1時発

第一三七号

貴電第四五八号ニ関シ

本件ニ付テハ列国トシテモ此際具体的ニ対策ヲ講ズルノ要アリ而シテ対策ヲ講ズルニ当リテハ本邦ヲ除外シ得ザル次第ト思考セラルル一方本件ハ地方的具体問題ナルニモ顧ミ関係国公使ノ相談会ニ本件ガ上議セラルル際ハ適宜之ニ参加相成様致度シ

上海、南京へ転電アリ度シ

619　昭和4年5月16日　田中外務大臣より
在上海重光総領事宛（電報）

**輸出付加税問題が本邦人税務司の地位に累を及ぼさぬ様注意方訓令**

本省　5月16日後6時発

第三三三号（極秘）

貴電第六六四号ニ関シ

安東陸境関税廃止及輸出附加税徴収問題ニ関スル我方対策遂行方ニ関シテハ本件交渉ノ当時福本ノ地位ニ累ヲ及ホスカ如キコトナキ様我方ニ於テ慎重措置シ来レルニ拘ラス今日ニ至リ支那側ニ於テ御来示ノ如キ議論ヲ生ズルニ至リタルハ遺憾ナルガ本件安東領事ト福本トノ往復文書（写郵送ス）ヲ審査スルニ福本ガ抗議附通関ノ件ヲ安東領事ニ「サヂェスト」シタリト云フハ恐ラク二月十四日附ノ福本ノ書翰ヲ指スモノト思考スル処安東領事ヨリハ右ニ先ダチ同十一日附福本宛公文ヲ以テ輸出附加税ノ条約違反ナルコトヲ抗議シ更ニ我方ノ訓令ニ基キ（安東宛第五号及八号）十四日附ヲ以テ支那側ニ於テ我方ノ抗議ニ拘ラズ該附加税ヲ強要スル場合ニハ我方ニ於テ輸出正税ヲ供托セシメ輸出通過ヲ計ルノ已ムヲ得ザルベキ旨ヲ通告シ且同日ノ同地新聞ニ我方ガ本件実力通過ノタメ安東海関ノ手ヲ経ズ我方限リニテ貨物ノ評価及正税ノ徴収ヲ行フベキ旨ノ記事アリタルニ対シ福本ヨリ前記十四日附書翰ヲ以テ我方ノ強硬ナル態度ニ鑑ミ右通関ノ手続ハ従前通リ安東海関ニテ之ヲ行ヒ抗議附輸出許可証ヲ発給スルコトトシタキ旨ヲ申出デタルニ過ギズ右ハ支那側税務司トシテ海関行政維持ノタメ執ルベキ当然ノ措置ニシテ之ガタメ何等福本ガ日本ノタメヲ計リタルモノニハ非ルハ言ヲ俟タザル処ナリ又福本ガ本件交渉ニ文書ヲ用ヒタルハ問題ノ重要性ニ鑑ミ双方ノ態度ヲ明確ニシ後日誤解ナキヲ期セントスルモノニシテ之亦非難ノ限ニ非スト思考ス然ルニ支那側ガ之ヲ以テ安東日本人税務司存置問題ヲ云々スルハ畢竟同地日本人税務司ノ排斥ヲナサムガタメノ口実ニ過ギズト認メラル、ニ付貴官ハ適当ノ機会方法モアラバ「メーズ」等ニ対シ右ノ事情ヲ篤ト誤解ナキ様説明セラレ福本以外ノ何人ガ安東税務司タリシトスルモ其ノ採ルベキ措置ハ福本ト同一ナルベカリシコトハ牛荘ノ





輸出附加税問題ガ安東ト同一ノ結果ヲ見タルニ徴シ（牛荘領事来電第二三号参照）明瞭ナル旨ヲ附言シ安東税務司更迭問題ノ此上具体化スルコトナキ様御配慮アリタシ尤モ本件支那海関内部ノ問題ガ岸本ヨリ我方ニ内報アリタルコト判明スルニ於テハ更ニ累ヲ岸本ニ及ボス次第ナルニ付本件取扱ニ付テハ細心ノ注意ヲ要スヘク為念申添ユ

北平ニ転電セリ南京ニ転電アリ度シ

貴電ト共ニ安東ニ転電セリ

620　昭和4年5月16日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**上海における金解禁の影響に関する横竹商務参事官報告**

上海　5月16日後発
本省　5月16日後着

第六八〇号

貴電合第二八七号[1]ニ関シ

横竹ヨリ

(一)上海市場ヨリ見レハ現在日米「クロス」四十四弗四分ノ三

対日電信為替七十四両二分ノ一銀塊二十五片十六分ノ三ヲ称シ解禁ニ依ル変動ハ理論上日米四十九弗十六分ノ五即チ現在ヨリ十「パーセント」上ケ対日八十二両見当トナルヘキカ他方銀塊ハ日米昂騰ノ影響ニテ必然一片位即四「パーセント」方下押スモノト思ハレ結局対日為替ハ十四「パーセント」方昂騰八十五両見当（票金四百十一両見当）トナラム之レ大正四年秋対日為替九十三両ニ対照シ架空ノコトニ非ス

併シ仕手関係ヨリスル実際ヲ思ヘハ当地支那人筋ハ日米四十八弗半位ヲ値頃トシ利喰売ニ出ツヘク銀塊モ二十四片半ニ止リ為ニ対日為替モ八十一二両辺ニ止ラム最近支那人投機者ノ勢力昔日ノ面影ナキヲ以テ解禁後現物売渡ノ目的ヨリシテ一時ニ巨額ノ輸入ヲ計ル事ナカルヘキモ投資的意味合ヨリシテ相当期間ニ約三千万円位ノ金輸入ヲ見ルニ至ルヘキヤモ知レス

(二)現在始終円貨売越二千万円位アリ若シ解禁見極メ付カハ其ノ買埋メト思惑買モノニテ差引六七千万円位ノ買越状態ヲ出現スルコト豫想ニ難カラス併シ支那人ノ資力モ限

リアリ相当値頃ニ利喰売又已ムヲ得サルヘク其ノ際若シ解禁実行上ノ不安ヲ抱カシムルカ如キ場合アラハ反動的ニ売叩カレ円価惨落ヲ来シ結果却テ将来ニ悪影響ヲ残ス虞アリ

(二)[2] 次ニ為替変動ニ伴フ一時対支輸出商談ノ不利ハ我国々内物価ノ下落ト共ニ半年乃至一ケ年間ニハ緩和サルヘク左シテ懸念ニ及ハサルヘキカ若シ無豫告ニ行ハレ急激ナル変動ヲ生スルトキハ仮令為替市場投機者ノ策動ヲ防止スル上ニハ効果アリトスルモ他方輸出入商取引ヲ一時投機化セシメ混乱ニ陥ルル虞アルヲ以テ相当期間ノ準備ヲ与ヘ且排貨或ハ支那時局混乱等為替ニ対スル支持力ヲ薄弱ナラシムル作用モアリ此ノ点考慮ノ要アリ

(四) 尚解禁カ我経済界ヲ根本ヨリ立直ス所以ナレハ成ルヘク早ク実行ノ要アルコト勿論ニテ其ノ時期準備等ニ関シ当局トシテモ既ニ充分御研究ノコトト思フモ一九二五年英国ノ解禁カ当時一般ニ豫想サレ英米為替ノ如キ「パリチー」ニ九十八%方迄鞘寄セタル際豫期ヨリ稍早ク四月末突然断行セラレタルト我国ノ現状ハ稍趣ヲ異ニシ居リ特ニ資金移動ニ関係アル金利ノ如キ米国ノ変則的ニ高率ナルニ対シ我国モ亦例外的ニ低率ナルカ如キ逆勢ヲ示シ居リ且英国ト雖当時米国ニ於テ三億弗ノ「クレジット」ヲ設定シ万一ニ備ヘタル例モアリ我国トシテモ相当考慮ノ要アルカ上海市場ニ関スル限リ左シタルコトナカルヘシトハ思ハルルモ万一ノ場合支那人筋ノ投売ニ対抗スル邦人銀行側資金手当トシテ上海（或ハ大阪）ニ銀資約二千万円位ヲ準備シ駐支財務官監督ノ下ニ利用ノコトトセハ頗ル妙ナルヘシ

要スルニ解禁準備期中実行上ニ不安ヲ与フルカ如キハ甚タ悪影響アルモノナレハ凡ソ一ケ年位ノ準備期間ヲ豫告シ決定ノ上ハ万難ヲ排シ断行スルコト必要ニテ同時ニ極力通貨ノ収縮物価低落ヲ計リ徹底的財界恢復ヲ計ルコト肝要ナリト思フ委細文

支ニ転電セリ

621
昭和4年5月20日　在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

**債権者会議の召集は当分見込なき模様なる旨**
**曾宗鑑談話について**





上　海　5月20日後発
本　省　5月20日後着

第七〇〇号

十八日曾宗鑑ノ本官ニ語ル処ニ依レハ財政整理委員会ニ於テ何人モ真面目ニ整理ノ仕事ニ手ヲ染メ居ルモノナシ宋子文ノミ勉強シ居ルモ彼モ財政部ノ目前ノ雑務ニ追ハレテ事実何モ手ニ付カス従テ債務整理ニ関シテハ成案ハ勿論債権者会議ノ召集ノ如キモ差当リ見込ナク自分モ現在ニテハ仕事モナク無意味ナルニ付数個月仏国ニテモ外遊シタキ考ナリ事情右ノ如クニシテ債務整理ノ為二月ヨリ保留セラレタル年額五百万弗ノ支途ハ勿論整理ノ為ニ之ヲ増額スル等ノ計画ハ何人モ提案スルモノナキ状況ナリトテ甚シク悲観的口調ヲ以テ内部ノ事情ヲ語リ尚本官ノ宋財政部長トノ過日ノ談話ノ件日本財務官ノ来滬ノ件等ニ付質問アリシニ付本官ハ適宜之ニ答ヘ且債務整理ハ関税協定ノ際既ニ約束済ニテ又財政部長モ数個月内ニ債権者会議ヲ召集スルコトヲ語リタルニ付日本ハ之ニ対シ準備ヲシ且必要ナルニ於テハ何時ニテモ意見ヲ提出致スヘシトテ先方ノ準備ヲ促スニ努メ置ケリ

北平、南京へ転電セリ

622
昭和4年5月21日　田中外務大臣より
在上海重光総領事宛（電報）

**債権者会議開催前に関税増収分の五百万元を**
**流用されぬよう横浜正金銀行に積立方訓令**

本　省　5月21日　発

※（電報番号欠）
対支不確実担保及無担保債権整理問題ニ関シ五月十三日附貴電末段ニ依レハ債権者会議ノ開催迄ニハ尚相当ノ時日ヲ要スヘキ模様ナルカ日支関税取極所定ノ初年度五、〇〇〇、〇〇〇元ハ其間他ニ流用セラルル虞アルニ付差当リノ措置トシテ二月以降ノ分ハ此際直チニ又今後ノ月割額ハ毎月貴地正金等ニ積立保管セシムルコトト致度ク右ニ対シテハ日支関税協定ノ手前支那側ニ於テモ格別反対スヘキ理由ナシト思料セラルルニ就テハ公森財務官トモ協議ノ上適当ノ機会ニ然ルヘク支那側ニ申入レ右様取計ハシメラレ度シ

623
昭和4年5月22日　在天津岡本総領事より
田中外務大臣宛

**在中国我が方商工業者に対する資力補救並びに之が発展策に関する建議書送付について**

機密第三六〇号　（5月30日接受）

昭和四年五月二十二日

在天津

総領事　岡本　武三〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

在支商工業者ニ対スル資力補救並ニ之カ発展策ニ関スル建議案ノ件

五月二十一日当地日本人商業会議所第二十二回定期総会ノ席上同会議所会員金山洋行主金山喜八郎ハ別紙写ノ通リ当地有力商工業者四十二名ノ賛成ヲ得タル在支商工業者ニ対スル資力補救並ニ之カ発展策ニ関スル決議案ヲ提出シ本総会ノ決議トシテ之カ可決方懇望ノ次第アリ仍テ協議ニ入リタルカ結局之ヲ本総会ノ決議トセス本総会建議案トシテ役員会ニ附託スルコトニ意見ノ一致ヲ見右ノ通リ決定セルカ其内役員会ニテハ該案ニ付更ニ審議ヲ重ヌヘキ模様ナリ

右御参考迄報告ス

本信写送付先　在支公使、在奉天、青島、漢口、廣東、上海各総領事、在上海商務参事官

（別紙）

在支商工業者ニ対スル資力補救並之カ発展策ニ関スル件

在支各地ノ居留民団及商工業団体相互間並日支貿易ニ関係深キ日本各地ノ公共団体間ニ聯絡ヲ執リテ統制アル一組織ヲ構成シ以テ排日運動対策ヲ実行シ又治外法権撤廃及租界回収其ノ他在支居留民カ居住営業ノ基本的権利ニ重大ナル影響ヲ及ホス諸件ニ付一致ノ歩調ヲ執リテ意見ヲ発表シ其ノ実行ヲ期成スル件ニ関スル決議案茲ニ提出致候但シ提出ノ理由ハ口頭ヲ以テ説明可致候也

昭和四年五月二十一日

提出者　金山洋行　金山喜八郎

天津日本人商業会議所会頭

砂田　實殿

在支商工業者ニ対スル資力補救並之カ発展策ニ関スル件

在支各地ノ居留民団及商工業団体相互間並日支貿易ニ関係深キ日本各地ノ公共団体間ニ聯絡ヲ執リテ統制アル一組織ヲ構成シ以テ排日運動対策ヲ実行シ又治外法権撤廃及租界回収其ノ他在支居留民カ居住営業ノ基本的権利ニ重大ナル影響ヲ及ホス諸件ニ付キ一致ノ歩調ヲ執リテ意見ヲ発表シ其ノ実行ヲ期成スル件ニ関スル決議

本年衆議院ニ於テ可決セラレタル在支商工業者ニ対スル資力補救並之カ発展策ニ関スル建議ニ基キ其ノ趣旨ノ貫徹スル様今期議会ニ於テ具体的法律ノ制定方ニ付キ政府当局其ノ他各方面ニ代表委員ヲ特派シテ請願スルタメ又日支貿易上ノ癌腫タル排日運動ノ対策ヲ自衛上実行スルタメ又治外法権撤廃及租界回収其他在支居留民カ居住営業ノ基本的権利ニ重大ナル影響ヲ及ホス諸件ニ付キ直接利害関係者トシテ支那ノ実状ニ基ク堅実ナル意見ヲ発表シ其ノ実行ヲ期成スルタメニ本商業会議所ハ先ツ天津居留民団ト協議ノ上在支各地ノ居留民団及商工業団体ト聯絡シテ在支居留民全体ノ輿論ヲ喚起シ在支居留民団及商工業団体聯合会ヲ組織シ更ニ進ンテ日華実業協会、日華経済協会、日本経済聯盟会、日本商工会議所、東京、大阪、京都、名古屋、横濱、神戸其他日支貿易ニ関係深キ各重要地ノ商工会議所同業組合、紡績聯合会等ト密接ナル聯絡ヲ執リテ此等ヲ連衡シタル統制アル一大組織ヲ構成シ以テ一致団結シテ前掲ノ目的達成ニ努ムル様最善ノ尽力ヲ為スヘシ

右決議ス

賛成者　東洋綿花株式会社天津支店

淺山伊三郎

外四十一名

**編注**　五月三十日付で当該建議書は衆議院で可決されている。

〰〰〰

対する私見

※昭和四年五月二十四日発送済

機密訓(ママ)令第四一号

在京中　芳沢公使　　田中大臣

日支通商条約改訂商議方針ニ関スル件

日支通商条約改訂商議ニ関シテハ別紙記載ノ方針ニ依ルコトト致度キニ付委細右ニテ御了知ノ上貴官御帰任ノ上ハ適当ノ時期ニ本件支那側トノ交渉ヲ開始セラレ度此段訓令ス

（別　紙）

日支通商条約改訂商議方針

一、日支通商条約改訂ニ関シテハ支那側ノ提案ニモ顧ミ我方トシテモ全般的改訂ヲ行フ建前ニテ交渉ヲ開始シ各般ノ条約事項ニ亘リ討議ヲ試ミ可成全般的条約ノ成立ヲ期スルコト但シ右ニ付テハ交渉上種々困難ナル事態ニ逢着スヘク従テ長日月ヲ要スル虞アルノミナラス列国トノ協調問題モ考慮ノ要アルヘキヲ以テ交渉ノ経過如何ニ依リテハ全般的事項ヲ包含スル条約ノ一部トシテ特定事項ニ関スル条約ヲ成立セシムルコトトシ差支無シ例ヘハ先ツ第一着手トシテ関税事項ニ関スル条約又ハ関税及治外法権（内地開放ヲ含ム）ニ関スル事項ヲ主トスル条約ノ成立ニ努ムルコト差支無シ

二、支那側草案ハ日支間ノ緊密ナル通商経済関係ヲ確保スルニ付殆ト何等ノ保障ナキヲ以テ討議ノ基礎トスルニ適セス依テ我方トシテハ関係各省トモ尚協議ヲ遂ケ其ノ確定ヲ俟テ送付ノ筈ナル日支通商条約改訂方針大綱ニ基キ適宜応酬シ適当ノ時機ニ於テ我方作製ノ条約草案ヲ提示シ商議ヲ進ムルコト

三、改訂交渉ノ経過ハ日支双方トモ之ヲ極秘ニ附シ会議ノ都度必要ニ応シ簡単ナル「コムミユニケ」ヲ発スル外之ヲ絶対ニ発表セサルコトトシ交渉ノ内容経過ヲ以テ排日運動等ニ利用セラルルカ如キコトナキ様会議ノ初ニ於テ篤ト支那側ノ注意ヲ喚起シ置クコト

（付記一）

※日支通商条約改訂方針案大綱

（昭和四年五月十八日）

現行条約ノ改訂ハ大体ニ於テ一般通商航海条約ノ例ニ依リ相互平等ノ基礎ニ於テ之ヲ行フコト

但シ日支両国間ノ緊密且特別ナル関係ニ鑑ミ特ニ左記大綱ニ依リ適当ノ調整ヲ加フルコト

一、治外法権ハ条約改訂ト共ニ支那全土ニ亙リ且全般的ニ撤廃スヘキモ必要ニ応シ地域ヲ限リテ撤廃スルモ妨ケサルコト但シ右撤廃地域ニ於テハ撤廃ニ付左記ノ保障並ニ例外ヲ取付クルコト

(イ)民刑事ノ実体法、其手続法及裁判所構成法ヲ完成実施スルコト

(ロ)帝国臣民ノ原告又ハ被告タル事件ハ両国間ニ協定スル支那ノ新式裁判所タル法院ヲシテ管轄セシメ且帝国臣民ヲ収容スル監獄及看守所ニ付テモ両国間ニ協定スル新式ノ設備ノモノニ限定スルコト但シ新式裁判所ノ存在セサル地方ニ於テハ帝国臣民ノ希望ニ依リ軍事裁判所ニ非サル其ノ他ノ裁判所ヲシテ管轄セシムルモ差支ナキコト

(ハ)帝国臣民ハ自国民タル弁護士ヲ訴訟代理人トシ及其ノ適当ト認ムル通訳ヲ帯同スルヲ得ルコト

(ニ)帝国臣民タル刑事被告人ハ公安ヲ害セスト認メラルル限リ常ニ保釈又ハ責付ヲ許サレ且自国民其ノ他ノ者トノ面会又ハ通信ヲ許サルヘキコト

（註）帝国臣民ニ対スル民事拘留ハ之ヲ認メサルコト

(ホ)帝国臣民ニ対スル司法警察処分並ニ裁判及其ノ執行ニシテ帝国官憲ニ於テ不当ナリト認メタルモノニ対スル救正ニ関シ支那国政府ヲシテ何等カノ保障ヲ約束セシムルコト例ヘハ不当裁判ニ付テハ再審理ノ手続、不当ナル司法警察処分及裁判ノ執行ニ付テハ不当課税ニ対スル救済ト同様ノ保障ヲ約束セシムルコト

(ヘ)共同居留地、専管居留地、満鉄附属地及公使館区域ニ付テハ治外法権撤廃後ト雖モ現行行政制度ハ当分ノ内之ヲ維持スルコト

（註）法外法権撤廃後モ引続キ現行行政制度ヲ維持スル地域ニ居住スル帝国臣民又ハ支那人ニ対スル支那裁判所ノ司法事務ノ執行ニ付テハ別ニ司法上ノ共助ヲ取極ムルコト

二、入国、居住、旅行、営業（商業、製造業、産業、生業及職業）並ニ財産ノ取得占有処分等ニ付日支両国民間ノ経済提携ヲ促進スル趣旨ニ依リ相互的ニ広キ範囲ノ自由

ヲ保障スルコトトシ

(イ)法外法権ヲ撤廃シタル地域ニ於テハ本邦人ニ対シ内地開放ヲ認メシメ且土地所有権ノ外農業、畜産業、林業、漁業等ノ原始産業ニ従事スル権利ヲ認メシムルコト但シ此等ノ事項ニ付テハ出来得ル限リ相互的ノ規定ト為スコト

(註) 本項産業権ノ範囲ニ関シテハ支那ヲシテ本邦人ニ対シ鉱業権ヲ許与セシムルコトト致シタキ処之ヲ相互的規定トスルコトニ付我方トシテハ支那人ニ対シ本邦鉱業権ヲ開放スルハ何等異存ナキモ其ノ結果ハ最恵国条款ノ適用上英米仏白等ノ国民ニ対シテモ之ヲ許与スルコトトナルヘク(日米条約ノ関係上米国ニ於テ本邦人ノ権利ヲ認メサル限リ我方ニ於テ米国民ニ権利享有ヲ認ムルヲ要セサルモ)右ハ到底我方ノ認メ難キ所ナルヲ以テ在支邦人ヲシテ支那ノ鉱業権ヲ享有セシメ同時ニ本邦ニ於テ此等各国民ノ均霑ヲ避ケ得ル様適当ノ措置ヲ講スルコト

(ロ)許可営業ノ範囲ヲ成ルヘク制限シ本邦人ニ対シ差別待遇ヲ為サシメサル様適当ノ考慮ヲ払フコト

(ハ)支那人労働者ノ本邦人国(入カ)ニ付テハ経済上社会上ノ実情ニ鑑ミ適当ノ制限ヲ為シ得ルノ自由ヲ留保スルト共ニ本邦人特ニ鮮人労働者ノ支那入国ノ自由ヲ著シク制限セシメサル様措置ヲ講スルコト

(ニ)帝国臣民ニ対スル不当課税(内国税及関税ヲ含ム)ノ改正ニ関シ支那政府ヲシテ何等カノ保障ヲ約セシムルコト

三、関税及噸税事項ニ関シテハ左記方針ニ依ルコト

(イ)支那ノ関税自主ノ原則ヲ認メ国定税率ノ実施ヲ承認スルト共ニ右国定税率ノ実施ト同時ニ実施セラルヘキ特定品ニ関スル互恵税率ヲ協定スルコト

(ロ)輸出入税ヲ納付シタル輸出入品ニ対シ一切ノ内地通過税其ノ他同種ノ負担ヲ課セサル旨ヲ相互的ニ保障スルコト

(ハ)輸出税ニ付テハ出来得ヘクハ国定税率ノ実施後ニ於テハ速ニ之ヲ廃止スヘキコトヲ約セシムルト共ニ其ノ廃止前ニ在リテハ現実五分以上ニ増率セサルコトヲ保障セシムルコト

(ニ)輸出入税率及其ノ他関税ニ関スル一切ノ事項ニ付最恵





国及内国民ニ許容セラルル所ト同様ノ待遇ヲ与フル旨ノ相互的規定ヲ設クルコト

(註) 自主権回復後ノ関税収入ト対支不確実担保又ハ無担保債権ノ整理問題トノ関係ニ付テハ別途考究ノコト

(ホ)輸出入禁止制限ニ付テハ輸出入自由ノ原則ヲ認メ成ルヘク禁止制限ノ範囲ヲ縮少スル趣旨ニテ相互的ノ規定ヲ設クルコト

(註)本件具体的規定決定ニ際シテハ現存防穀令ノ撤廃ヲ直ニ要求セサルコト

(ヘ)満鮮陸境関税ニ付テハ一定期間後之ヲ廃止スルコトヲ条件トシテ現行軽減制度ヲ暫ク維持スルコト但シ交渉ノ都合ニ依リテハ局地的相互主義ニ依リ特定品目ニ対シ軽減ヲ行フ趣旨ニテ相互的ノ取極ヲ為シ差支ナキコト

(ト)支那ノ噸税ニ関スル現行条約上ノ制限撤去ヲ認ムルト共ニ噸税及之ニ関スル一切ノ事項ニ付最恵国及内国待遇ヲ与フル旨ノ相互的規定ヲ設クルコト

四、船舶関係ニ付テハ大体ニ於テ一般条約ノ規定ニ準シ相互的規定ヲ設ケ内水航行及沿岸貿易ノ開放ヲ相互ニ保障スルコト但シ開港場及内地間航行ニ付テハ適当ノ譲歩ヲ為シ差支無キコト

五、排日排貨ヲ防止スル旨ニテ適当ノ形式ニ依リ支那側ヲシテ営業及通商等ノ自由ヲ阻害スルノ行為取締ノ為必要ナル措置ヲ講スヘキコトヲ保障セシムルコト

**(付記二)**

前略※　大分御無沙汰シタ、公信トスルニハ未熟ナ点ガアルカラ私信デ二ツノ件ニ付テ御意ヲ得ル、通商条約商議ノコトト太平洋関係学会ノコトダ

A、通商条約談判ハ去年ノ夏モ君ニ一寸話シタト思フカ事項別ニシテ幾ツカノ単独条約トスルコトハ望マシイガ支那トシテハ全部ノ商議ガ済マネバ調印ヲ肯ンジマイ仲々纏リガ六ケ敷カロウト思フ、日本ノ方デモ出来ル丈ケノ譲歩ヲシテ纏メルコトヲ努力スルダロウガ何ヲ考ヘテモ治外法権ヤ航行権ノ問題デ支那ノ全部ノ要求ヲ容レル用意ハナイダロウシ、ソコニ一二点纏ラナイ所カ残ル様ニ思フ、此ノ「デツドロツク」ニ乗リ掛ケタ時ノ引込ヲ何

フ付ケルカ、下手ヲヤルト排日騒ダロウ、ソレニ就テノ僕ノ思付ヲ述ベサシテ貰ヒタイ

先ツ第一ニ談判正使ノ芳沢サンガ条約ガ出来ル迄ハ滞在スルト云フ立前デ上海ニ乗込マルルコトハ今回ハ策ノ得タモノデナイ様ニ思フ成程之レ迄ノ所ハ済南事件其他排日運動ノ手前日本トシテ捨テ置ケヌ問題デアツタノデ多少ノ無理ヲシテモ之ヲ片付ケル迄ハ公使ガ滞在セラルルコトヲ絶対ニ必要トシタケレド今ヤ諸種ノ不快ナ懸案ハ一掃セラレ一方仏蘭西ノ安南条約モ引懸リ英、米、仏其他モ治外法権ノ証文ヲ突付ケラレテ思案ニ暮レテ居ル云ハバ日本ノ立場ト列国ノ立場ト支那人ノ打算点カラスレバ同一トナリ日本丈ケガ焦慮ル必要ハ従来程ニハナイノダカラ日支通商条約ノ商議モ日本トシテ従来ノ如キ不真面目ナ商議態度ニ出デズ譲歩出来ル極限ノ点ハ真面目ニ之ヲ究メテ日本ノ案ヲ用意シ支那ニ提示スルコトハ勿論必要ダケレトモ公使ガ之ヲ提ゲテ南下セラルル際上海滞在ハ一時的ト云フコトニシ談判ガ膠着シ相ナ形勢ニナル場合寧ロソレニ先ンジテアツサリト家事、気候、健康其他ニカコ付ケテ容易ニ北平ニ引揚ケラルル様ニシタイ、

其ノ為ニハ芳沢夫人ニ北平ニ来テ居ツテ戴ク方ガヨイ様ニ思フ、ソシテ後デ重光君ナリ堀内君ナリニ非公式ノ努力ヲ続ケサセ若シソレデ端緒ガ開カレレバ公使ガ再南下ヲサレルシ若シ端緒カ見付カラネバ見付カル迄何日迄モ非公式ノ商議ハ続ヒテ居ルコトニ世間体ヲ作ル、仏蘭西ガ現ニ其手ヲヤツテ居ルシ、英国公使モ今度其手ヲヤル考ラシヒ英国公使ハ旧臘ノ関税協定ノ際ニモ滞在日数ヲ豫メ限定シ「クリスマス」迄ニハ協定ノ成否如何ニ拘ラス帰ルト云フ気勢デ談判ヲ開始シテ支那側ヲ釣リ—寧ロ脅カシ—其ノ為談判不利ナル形勢ヲ最後ノ瞬間ニ自分ノ方ニ有利ニ導ヒタ様ナコトヲ云フテ居ル日本ノ方ハ状況ハ大分違フケレド多少参考ニナラヌデモナイ、兎ニ角芳沢公使ト云フ大官ガ「デツドロツク」ニ陥ツテカラ尚上海ニ残ラルル場合ニハ世間ヘノ影響ガ大キクナリ過ギル。

第二ニ右様ナ立前デ談判ヲ開始シ其間一二回公使ガ南船北馬ヲ繰返サルル間ニ商議ノ進行ヲ見レハ誠ニ結構ダガ何レニセヨ日本ト支那ノ要求ノ懸絶ハ殆ンド必然的ニ「デツドロツク」ヲ招来スルト思ハレル是ヲ豫想シテ多



少ナリトモ支那ノ感情ノ融和ヲ計ツテ置クコトカ必要ト思フ、其ノ融和剤ハ色々考ヘテ見ルニ多クナイカラ是ヲ尤モ有効ナ時期ト方法ニ使フ必要ガアル、第一ハ国書捧呈ダ、コレハ芳沢サンノ国書捧呈ハ前ニ直隷系ノ時ニ済ンテ居ルト云フ反対モアロウケレドソンナコトハ構フモンカ、何度デモ役ニ立ツナラヤルカ良イ、多分仏蘭西ガソンナ計画ヲ考ヘテ居ルノデヤナイカト思ハレルコトハ電報シタ通リデアル、今一ツノ融和剤ハ芳沢サンカラ稟議セラレタ大使交換ダ、コレハ今ノ処尤モ支那ノ悦ブモノダカラ取テ置キノ種トシテ最モ有効ニ使ヒタイ、僕ノ考デハ之ヲ例ノ葬式ト関聯サセテ早ク交換シテ仕舞フノハ勿体ナイ、先ツ日本側ノ条約案ヲ極メテ大綱丈ケ規定スルモノトシ（難件ノ法権ヤ航行権ハ主義丈ケ認メテ其ノ実行ヲ他ノ細目協定ニ譲ル）此ノ提案ヲスル際ニ右大綱条約カ出来上ツタラ大使交換ヲ実行スルト云フ豫告ヲシ談判ニ掛ルノガ第一策ダ、此ノ提案ハ出来ルナラハ葬式前ノ方ガヨイト思フ、然シ僕ニハ日本側ノ条約案ノ如何ナルモノナルカモ判ラヌカラ此ノ第一策ヲ強テ固執スル必要モナイ、或ハ葬式前ニ大使交換ヲ実行シテモ前ニ

云フタ「デツドロツク」ニ際会シテ悪化スル懸念ノアル日支風潮ニ豫メ一服ノ融和剤ヲ投スルト云フ効能ハ確実ニアル、何レニセヨ大使交換ハ日本ノ今ノ所殆ンド第一ノ切札ダ、有効ニ使ツテ貰ヒタイ、ソシテ方針ガ決ツタラ列国ニ内報スルト同時ニ電光石火的ニ行ツテ欲シイ、以上条約問題ハ天羽君ニハ一寸話シテ置イタ、芳沢公使ニハ二重ニ申上ゲヌカ若シ必要アラハ君カラ申上ゲテ呉レ給ヘ、

B、今秋ノ太平洋関係学会カ可成リ揉メハセヌカト云フ心配カ各方面ニアル様ダ、ソノコトハ公信デ報告ハシテ置イタ、就テハソノ際多少共平素カラ私的交際ヲシテ居ル者カ居テ緩衝ノ役目ヲシテ呉レルト良イト思フ、ソレニハ北平ノ金井清君ハ北平カラ出ル委員ノ連中ハ米国人ニモ支那人ニモ「ロータリー」ノ関係デ大分知合ニナツテイル、同君ハ御承知ノ通リノ理想家デアルカラ誰レカラモ疑惑ヲ受ケスニ殊ニ支那人ヲ怒ラセズニ自説ヲ立テテ行ク取柄ガアル、蠟山、高木両教授辺リカラ出席スル様ニ勧メラレ今鉄道省トノ交渉ニ移ツテ居ルラシイガ外務省カラ口添ヲスレハ良イト思フ、前ニ云フタ同君ノ理想

家癖ヲ或ハ亜細亜局デモ毛嫌ヒサレルカモ知レヌガ事柄ノ軽重ハ判ル人ダカラ小サナ問題デ支那人ヲ喜ハセ「ヴアイタル」ノ点ハ要領ヨク扱ツテ呉レルト思フ、御考ヘヲ請フ、

匆々敬具

昭和四年五月七日

堀　義貴

有田八郎様　侍曹

625

昭和4年6月8日　在上海重光総領事より田中外務大臣宛(電報)

**王外交部長の輸出付加税および陸境関税問題早期解決方申し出に対し輸出付加税問題については応議しかるべき旨回電方芳澤公使請訓**

上　海　6月8日後発
本　省　6月8日後着

第七五九号

芳澤公使ヨリ

七日王正廷ニ会見ノ際王ハ陸境関税及輸出附加税問題ヲ持チ出シ速ニ之カ解決ヲ期シタキ旨申出タルカ本使ハ本問題ハ先般帰朝中本使ヨリ部長ノ希望ヲ詳細政府ヘ報告シ目下政府ニテハ関係官庁トノ間ニ協議シ研究中ナル旨答ヘ尚当時本問題ハ来ルヘキ通商条約商議ノ際一括解決スヘシトノ一部ノ意見モアリタリト附言シタルニ王ハ一般支那商及外国商人モ異議ナク規定通納税シ居ル関係上此ノ上荏苒時日ノ経過ヲ許ササル状態ニアリ従テ通商条約商議ノ時期迄ハ到底待チ切レスト述ヘ尚最近政府内ニテ一部ノモノハ日本側カ反日ノ取締ヲ頻リニ要求スルニ拘ラス本問題ノ如キ他国ノ承認セル課税ヲ批准セサルハ不都合ナリトテ反日取締ノ必要ナシトノ説ヲ為スモノアリ自分ハ固ヨリ斯ノ如キ説ニ与スルモノニアラス従テ本問題ノ早期解決ヲ以テ反日取締ノ条件トナスカ如キ意思ハ毛頭ナキモ自分ノ立場上ヨリモ成ルヘク速ニ解決セムコトヲ期待シ居レリトテ暗ニ反日取締問題ニ引掛ケムトスルカ如キ口吻ヲ示シタルカ本使ハ目下日本政府ニ於テ折角研究中ナル処尚申出ノ点ハ政府ニ取次クヘシト軽ク応酬シ置ケリ

本件ニ付テハ陸関税ノ方ハ別トシ輸出附加税問題ハ結局応議スヘキ運命ニアルノミナラス一般ノ振合及当業者ノ利害関係等ヨリ見ルモ此ノ際支那側ノ希望ヲ入レ通商条約商議





ノ時期迄待ツコトナク早目ニ解決スル方寧ロ機宜ニ適スルヤニ認メラルル処此ノ点ハ本使在京中通商局長ニ於テモ斯テ異議ナキヤニモ見受ケラレタル節モアリ更ニ御詮議ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ

北平、南京、奉天、天津ヘ転電セリ

626

昭和4年6月(8)日　在上海重光総領事より田中外務大臣宛(電報)

**新税率取極の往復公文発表に関し宋部長渋々同意について芳澤公使報告**

上　海　発
本　省　6月8日後着

第※七六〇号

芳澤公使ヨリ

七日会見ノ節王正廷ヨリ陸境関税及輸出附加税問題ヲ提起シ来リタルニ依リ本使ヨリモ新税率取極ノ公文発表問題ニ言及シ支那側ノ回答ヲ督促シタルニ王ハ此ノ問題ハ曩ニ宋財政部長ニ打合セタル処宋ハ右取極ハ既ニ四ケ月前ノコトニシテ今更事新シク発表スルノ必要ナシトノコトナリシカ自分モ亦同感ニテ且支那側ハ嘗テ其ノ内容ヲ大略新聞記者ニ話シ置キタル次第モアリ今更メテ発表スルニモ及ハサルヘシトテ曖昧ナル返事ヲナシタルニ付本使ハ然ラハ必要アラハ発表シ差支ナキ意嚮(ママ)ナリヤト突込ミタルニ王ハ支那側ニテハ此ノ上発表ノ必ナキモ日本側ニ於テ必要ナラハ発表シ差支ナシ但シ全文ヲ発表スルコトナク各公文ノ要領ノミヲ発表スルコトトセラレタシトテ我方ノ要求ニ対シ渋々応諾セリ

627

昭和4年6月(10)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛(電報)

**法権撤廃に賛成することは延いて日本の満蒙権益喪失につながる旨意見具申**

北　京　発
本　省　6月10日後着

第※六〇五号

在英大使宛貴電第一八四号ニ関シ僭越乍ラ御参考迄卑見左ニ上申ス

一、支那側ノ治外法権撤廃要求ニ対シテハ単ニ法権会議ノ

勧告ノ趣旨ニ則リ行動スヘシト謂ハハ何レノ国モ甚タ異議ナキ筈ナルカ若シ進ンテ勧告第三項ノ趣旨ニ依リ支那司法制度ノ現状ヲ直視シツヽ何等ノ漸進的撤廃方法ヲ協定スルニ努力スヘシト主張スルニ於テハ茲ニ初メテ意見政策ノ相違ヲ生スヘシ

二、日本ヲ除ク各国ノ態度ハ概シテ勧告ノ原則的部分（例ヘハ第一項第二項ノ如キ）ノ履行ヲ支那側ニ要求シテ撤廃ノ遷延ヲ図ルニアル事ハ少クトモ当地ノ代表者会議ニ現ハレタル処ニ於テハ疑ヲ挿ム余地ナキ処ナリ（往電第五三八号参照）然ルニ独リ日本カ勧告ノ寧ロ例外的部分ト推スヘキ第三項ヲ盾ニ部分的撤廃案ヲ協定セムトスルハ決シテ列国以上ニ支那司法制度ノ現状ニ満足スヘキ理由ヲ発見シ得タルカ為ニ非ス只此方法ニヨリ日支間多年ノ懸案タル内地開放問題ヲ勧告ノ前文末項ノ趣旨ニ依リ解決セムトノ希望カ最重要ナル観念タラスンハアラス

三、然ルニ日本ノ此ノ希望カ来ル条約商議ニ於テ達成シ得ヘキヲ考究スルニ遺憾ナカラ右ハ甚タ困難ナリト謂ハサルヲ得ス非公式ニ発表セラレタル支那政府側ノ意見（啻ニ南京政府当局ノ意見タルノミナラス北京政府時代ヨリ既ニ屢次ノ意見カ存在シタルコトハ昨年十二月四日附報告機密第一三〇九号王蔭泰談話参照）ニ依レハ日本カ満蒙ニ於テ法権撤廃ノ代償トシテ土地所有権ヲ享有スル為ニハ関東州ヲ返還シテ日支間ノ外交関係ヲ全然平等ノ基礎ニ置クコトヲ必要トスト謂ヘリ即チ白耳義、伊国、丁抹ニ与ヘタル程度ノ権利（此等ノ各国ノ得タル権利カ最近ノ公文交換ニ依リ何等ノ実質的価値ナキモノニ変化シタルコトハ御既承ノ通）スラ関東州ノ現状ヲ維持スル建前ニ於テハ日本ニ之ヲ与ヘストノ方針ヲ有スル南京側ニ向テ当方ヨリ進ムテ法権撤廃並内地開放ヲ説クハ恰モ支那側ノ希望セル旅大問題ノ討議ヲ誘発スルノ危険ヲ冒スニアラスヤ

四、在英大使宛御訓令ニ於テ政府ハ英国ノ回答案ヲ批評シテ「此ノ際支那ノ現状ニ於テハ近ク治外法権撤廃ノ望ナキカ如キ感触ヲ与フルハ大局上一考ヲ要ス」ト述ヘ居ラルル処試ニ米仏両国公使案ヲ採リテ英国政府案ニ比較スルニ支那側ニ具体案ノ提示スラ求メサル点ニ於テ英国案以上遙ニ冷淡ナルノ観アリ即チ現在ノ処保守的傾向ニ依ラムトスルハ英米仏等諸国ニ共通ノ態度ト見テ差支ナキ



処今彼等ニ向テ其ノ採ラントスル政策ヲ日本側カ反対ノ方向ヨリ批評センカ其ノ結果ノ如何ナルモノナルヤハ遽ニ豫断シ難キ処ナルモ少クトモ政変后ノ英国政府ヲシテ今日以上ノ自由主義ニ突進セシムル懼アルコトハ過去数年間ニ於ケル日英両国ノ対支政策ニ現ハレタル相互的因果関係ニ鑑ミテ是認セサルヘカラス

五、卑見ニ依レハ日本ハ通商条約締結商議ハ其ノ全般ニ於テモ又特ニ治外法権問題ニ付テモ事情ノ許ス限リ促進的態度ヲ避クルニ努ムヘク而シテ出来得ヘクンハ明春支那カ進ンデ一方的ニ列国全部ノ治外法権撤廃ヲ声明スルノ時期ヲ待チ改メテ法権問題ニ付テハ我既定方針ニ依リ驀進スル外関税問題ニ付テモ英支条約ニヨリ暫定税率ノ期間満了シテ支那カ完全ニ自主権ヲ施行スルニ至ル以前ニ互恵税率ノ協定ニ全力ヲ傾倒スル事有利ニシテ少クトモ他ノ方策ヨリモ困難ノ程度鮮カラサルカト信ス何トナレハ支那ノ一方的法権撤廃声明ハ一時列国ノ対支政策ヲ硬化セシメ支那ヲシテ日支条約ノ成立ニ多大ノ期待ヲ抱カシムルニ至ルヘキヲ以テナリ又仮リニ土地問題ノ解決ヲ此ノ際逸スルモ将来ノ機会ヲ捉フル事必スシモ絶望ニ非サルヘシ

六、右本官卑見ノ主要点ハ此ノ際列国側ニ向ツテ法権問題ニ対スル意見ヲ鼓吹スル事ノ可否ニ関スル疑問ニ帰着スル次第ナルカ既ニ在英大使ニ於テモ訓令ヲ執行セラレタルヘキニ付本官意見ハ兎モ角貴電第一八三号御訓令ハ遅滞ナク英国参事官ニ面会シテ執行スル豫定ナリ

628

昭和4年6月11日　在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

## 周龍光が輸出付加税および陸境関税問題につき日本の譲歩方要請について

南　京　6月11日後発
本　省　6月11日後着

第六五六号

往電[1]第六五五号本官周龍光ニ面会ノ際周ハ陸境関税及輸出附加税ニ言及シ王部長ハ上海ヨリ帰寧後中央全体会議ニ出席シ未タ面会ノ機会無キ為王部長ト芳澤公使トノ間ニ如何ナル話合アリタルヤ承知セサルモ従来王部長ハ自分ニ対シ屢芳澤公使ハ他ノ各種問題ニ関シテハ支那側ニ対シ好意ヲ

寄セラレ居ル如キモ独リ陸境関税及輸出附加税ニ付テハ一向考慮ヲ加ヘラルル模様ナキ処本問題ハ列国トノ関係モアリ支那側トシテハ体面ニモ係ハル次第ナリト屢慨歎シ居タルカ去リトテ王部長ハ対日外交軟弱ナリトノ非難高キニ鑑ミ本件交渉経過ヲ公表スル訳ニモ行カス頗ル当惑シ居レリト語リタルカ周ハ軟弱外交非難ノ一例トシテ曾テ外交部ヨリノ各地交渉員ニ対シ排日運動勧止方訓令セル処党部内ニ於テハ外交部長ニ何ノ権限アリテ斯ノ如キ内容ノ訓令ヲ発セリヤトテ攻撃セラレタル事アル旨ヲ述ヘ本件課税問題ヲ未解決ノ儘永ク放任スル事ハ外交部トシテ対内対外的ニ甚タ困惑スル次第ニ付日本政府ニ於テハ出来得ル限リ速ニ解決セラレム事ヲ希望スト申出タリ依テ本官ハ本件ニ関シ当初本官ヨリ財政外交両部ニ対シ抗議セル行懸モアリ事態ハ充分承知シ居ル処

帝(2)国政府トシテハ主義上之ヲ容認シ難キノミナラス之カ実行方法モ甚タ唐突ニシテ支那側ノ暴状ニ対シ不愉快ヲ感シ居リ支那側ニシテ斯ノ如キ態度ヲ持続スル以上在支那人カ不測ノ損害ヲ蒙ルノミナラス帝国政府ニ於テハ国民政府ト諸般ノ商議ヲ開始スルモ果シテ貴国政府ニ誠意アリヤヲ疑フニ非スヤト考ヘ居レリ兎ニ角支那側ニ於テハ自ラ為スヘキ処ヲ為サスシテ只要求ノミヲ為ス風アリ日本側トシテハ国民政府ノ立場ニ同情ハスルモ一面甚タ不満ヲ感スル次第ナリ例ヘハ反日運動取締振ノ如シト重ネテ反省ヲ促シタル処周ハ反日運動ハ縷説ノ通誠意ヲ以テ取締居ルモ只満足セラルル迄ニ行カサルハ遺憾ナルカ勿論全然別個ノ問題ナルモ陸境関税及輸出附加税ニ付日本政府ニ於テ好意的考慮ヲ加ヘヤルルヲ得ハ何カニツケ一層好都合ナリト語リ且周ハ若シ本問題ニ付芳澤公使北平御滞在中ニ日本政府ニ於テ何等意思表示ヲセラルルコトトモナラハ自分ハ差迫リタル私用モアルニ付交渉ヲ口実ニ一度北平ニ赴キタク考ヘ居レリ何分近来自分ニ対シ各方面ヨリ攻撃中傷スルモノ多ク当惑シ居レルカ此ノ際本問題ニ付日本政府ニ於テ好意的考慮ヲ加ヘラルレハ幸甚ナリト繰返シ居タリ

支、上海、奉天、天津ヘ転電セリ

629

昭和4年6月19日　在安東芝崎領事代理より　田中外務大臣宛

**陸境特恵関税撤廃の影響に関する調査報告**





機密第一九二号　（6月24日接受）

昭和四年六月十九日

在安東
領事代理　芝崎　路可〔印〕

外務大臣男爵　田中　義一殿

陸境関税軽減制度撤廃ノ影響調査方ノ件

本件ニ関シ四月十二日附通一機密合第三七九号貴信ヲ以テ御申越ニヨリ左記ノ通リ調査セリ御査閲相成度

本信写送附先　北在(ママ)支公使、奉天総領事、上海総領事、哈爾賓総領事

記

一、鮮満陸境関税軽減率廃止ノ我満洲貿易ニ及ホス影響

現行ノ陸境関税ノ軽減カ廃止セラレタル場合之ヲ昭和三年度ニ於ケル貿易統計ヨリ見テ将来軽減率廃止ニ依ル負担増加額ヲ算出スレハ左ノ如シ

昭和三年中安東海関関税収入中鉄道ニ依ルモノ

| 輸入税 | 輸出税 | 合計 |
|---|---|---|
| 七二二、三六三両五 | 二四四、一三一両 | 九六六、四九四両五 |

右負担増加額ヲ邦貨ニ換算スルトキハ昭和三年中ノ海関両対邦貨相場ヲ一(円カ)、五三銭トスレハ百四十七万八千七百三十七円トナリ而モ其ノ大部分ハ日本内地及朝鮮トノ貿易ナルヲ以テ右負担額ノ増加ハ日満貿易ニ大ナル影響ヲ与フルモノト推断スルコトヲ得ヘシ

二、右廃止ノ結果貿易経路変動ノ豫想及其ノ各地ニ及ホス影響

現在満洲ニ輸入サルル綿糸布ハ約六千万両ニシテ其ノ大部分ハ安東ヲ経由シテ奉天等ノ奥地ニ輸送サレ居ル処右ハ三分ノ一減税ノ特典アルカタメナルコト勿論ナルカ今大阪—安東—奉天間ノ陸路ト大阪—大連—奉天間ノ海路トノ諸掛ヲ現在ト三分ノ一減税撤廃後トニ分チ調査スルニ左ノ如シ

綿布（大尺布）（小口扱百斤）

| 陸路（大阪—安東—奉天） | 海路（大阪—大連—奉天） |
|---|---|
| 運賃　三、(円)一六五 | 運賃　二、(円)九一一 |

三分ノ一減税廃止ニ依ル負担増加額

| 輸入税 | 輸出税 | 合計 |
|---|---|---|
| 七二二、三六三両五 | 二四四、一三一両 | 九六六、四九四両五 |

関税　一〇、五〇〇　　関税　一三、五〇〇
計　一三、六六五　　計　一六、四一一

綿糸（小口扱百斤）

陸路　　海路
運賃　三円一六五　　運賃　二円八一五
関税　三、八五〇　　関税　四、九五〇
計　七、〇一五　　計　七、七六五

即チ三分ノ一減税ノ特恵ニヨリ現在綿布ニ於テハ陸路ハ海路ニ比シ二円七十四銭六厘綿糸ニ於テハ同様七十五銭ノ利益アリ従テ三分ノ一減税廃止サルルトセハ綿布ニ於テ陸路ノ諸掛ハ計十六円六十六銭五厘トナリ海路ニ比シ二十五銭四厘ノ不利トナリ綿糸ニ於テハ同様三十五銭ノ缺損ヲ生ス

故ニ減税撤廃後ノ輸入品ハ大連廻リトナルヘキモ陸路ノ運賃ハ世上一般ノ想像スル如ク高率トナラス加フルニ鉄道輸送ハ海運ニ比シ日数短縮シ従テ金利安ク代金ノ回収モ自然速カナル利益モ有ル次第ナルヲ以テ一時多少ノ影響ハ免レストスルモ為メニ全然貿易経路ヲ異ニスルカ如キコトナカルヘシト思考ス

其ノ他果実就中林檎、水産物、砂糖及木材ノ如キ産地ヲ朝鮮ニ有スルモノハ当地通過ニ変更ナカルヘシ

輸出品ニ関シテハ粟ヲ除クノ外ハ豆粕、雑穀等其ノ品質ノ関係上従来ト同シク其ノ多クハ海路輸送タルニ変更ナカルヘシ

三、右廃止ノ結果日本品ト外国品トノ競争力ニ及ホス影響

本邦輸入品ノ大宗ハ綿糸布ニシテ砂糖、木材、地下足袋、水産物、毛皮類ヲ之ニ次クモノトス之レカ三分ノ一減税廃止ノ結果外国品トノ競争力ニ及ホス影響ニ就テ観ルニ綿糸布ニ於テハ外国品ハ運賃、保険料等ニ於テ日本品ニ対抗シ得サルヲ以テ減税廃止後モ日本品ニ打勝ツコトヲ得サルヘク殊ニ大尺布、綿糸中ノ細糸並綿製加工品等ハ殆ト日本品ノ独占ニシテ其ノ領域ヲ侵サレサルヘキモ細布類ハ上海産本邦品ト同志打ヲ演シ其ノ他ノ土布類モ漸次擡頭シツツアルヲ以テ減税撤廃セラルヽ場合ハ支那品ニ刺戟ヲ与ヘ将来日本品トノ競争ハ免レサルヘク砂糖、水産物及果実ノ如キハ殆ト朝鮮産ナルヲ以テ輸送距離モ近ク蜜柑ノ如キハ日本内地産ナルモ満洲ニハ産出セス旁々廃止後モ外国品ニ圧迫サルヽコトナカルヘシ

次ニ毛皮類ハ既ニ新輸入税率ノ引上ケアリ此ノ上更ニ減税廃止サルヽトキハ輸入税高率トナリ従テ支那産之ニ代ルヘク木材モ同様輸入減退スヘク地下足袋ハ輸入数量漸次増加シ加フルニ未タ支那産外国産ノ競争ナキヲ以テ粗製品ヲ供給セサル以上輸入ノ減退ナカルヘシ

四、鮮満国境関税調整策並ニ陸境関税廃止ノ場合ニ応スル対策如何

朝鮮及満洲ノ如ク歴史上、経済上往昔ヨリ密接ナル関係アル地域ニ於テハ関税軽減制度ノ存続ヲ主張スルモ失当ニアラスト思考ス現ニ一億両ニ達スル安東貿易ノ殆ト大部分ハ日本トノ取引ナリ

事実鮮満間ヲ一貫スル鮮鉄及安奉線ハ不凍港ヲ有セサル満洲東辺ニ於ケル唯一ノ貿易交通ノ動脈ヲ為セルコト現在ニ於ケル英支、仏支、露支等ノ貿易路ト同一ノ論ニアラサルヲ以テ三分ノ一減税ヲ存置スルコト必要ト存スルモ之レカ存置不可能ノ場合ニハ貨物或ハ税率ヲ主トシテ減税ノ範囲ヲ定ムル所謂特別協定ニ依ルカ若クハ互恵的トスルヲ可ナリト思考ス即チ左ノ如シ

(一)減税貨物ヲ或ル範囲ニ止ムルコト

(二)右減税率ハ物品ニ応シ適当ニ定ムルコト

(三)陸境関税ヲ互恵的ニスルコト

右ノ内(一)、(二)ノ場合ニ対シテハ例ヘハ安東貿易ハ輸入品ニ於テ綿糸布輸出品ニ於テ粟ヲ主トスルヲ以テ是等ニヨリ適当ノ取極ヲ為スコトヲ得ヘシ

次ニ陸境関税廃止ノ場合ニ応スル対策トシテハ第二項貿易経路変動ノ場合ニ於テ述ヘシカ如ク減税撤廃トナルトモ陸路運賃ハ海路ニ比シ左迄高率トナラサルヲ以テ右差額ニ対シ可能ノ範囲内ニ於テ更ニ鉄道運賃ヲ割引セシムルノ必要アリ現在綿糸布一噸ノ大阪長春間運賃ニ対シテハ本邦内地、朝鮮及満鉄ノ三鉄道ニ於テ運賃ノ割引ヲ為シ内、満鉄ノ所得トシテハ普通十一円九十九銭ナルヲ約半額ノ五円十銭ニ割引シツツアリ又輸出品ニ於テ満鉄ハ粟ト石炭トノミニテ年約七八十万噸ヲ朝鮮ニ向ケ輸送シ居ル処同社ハ大連港集中主義ヲ採ル結果安奉線ヲ特定運賃ノ範囲内ニ置カス為メニ前記輸出品ノ如キモ長春―大連間ノ本線ニ比シ高率ノ運賃ヲ支払ヒ居ルヲ以テ減税撤廃ノ暁ニハ前顕綿糸布等ノ輸入品ト併セテ是等輸出品ニ

比シ相当ノ運賃割引ヲ為サシムルノ餘地アリト思考ス
尚概括的ニ言ヘハ一旦減税撤廃トナレハ陸路鉄道一線ノ輸送ノミニ眷恋セス海運ヲ盛ナラシメ以テ新ニ命令航路ヲ開拓シ輸入貿易ノ進展ヲ図リ減税撤廃ニ依ル創痍ヲ医スルモ一方法ナリト思考ス

630 昭和4年6月24日 外務・大蔵両省係官打合会議

**債務整理問題等について**

債務整理問題等ニ関スル外務大蔵両省打合会議※

要領

重光上海総領事ノ帰朝ヲ期トシ昭和四年六月二十四日亜細亜局長室ニ於テ外務大蔵両省打合会ヲ開催、外務省側ヨリ重光上海総領事、谷亜細局第一課長、田中事務官、大蔵省側ヨリ富田理財局長、青木国庫課長出席セリ議事大要左ノ通

一、九六及山東国庫証券確保問題

重光総領事ヨリ高木李銘案ハ宋子文カ絶対反対ナル為見込ナク又仮ニ努力交渉ノ結果宋子文ヲシテ之ヲ承諾セシメタリトスルモ一千万元制度ノ実績ニ顧ミ実際何程ノ効果アリヤ疑アリト述ヘ大蔵省側モ従来九六及山東国庫証券ニ付英仏側債権ト同一取扱方ヲ強硬ニ主張シタルハ一千万元制度ノ実績不明ナリシ以前ノコトニシテ右制度カ極メテ不成績ナルコト判明セル今日ニ於テハ従来ノ主張ハ幾分其ノ根拠ヲ失ヒタル次第ナリト述ヘ結局本件九六及山東国庫証券ニ付テハ本来ノ契約通リノ権利ヲ主張スルコトトシ支那側ヨリ現実支払ノ具体案ヲ提出シ来ルニ及ンテ改メテ条件緩和等ノ問題ニ付考慮スルコトニ一応纏リタリ

二、債権代表会議ニ関スル件

重光総領事ヨリ無確実(担保カ)及不確実担保内外債整理ノ為ノ債権代表会議ハ何日頃開カルヘキヤ見当ツカサル処嚮ニ本省ヨリ訓令アリタル通リ此際五百万元月割額積立方ヲ交渉スルモ支那側トシテハ右積立ハ関税協定上ノ直接ノ義務ニモアラス国民政府ハ日本ニ強制セラルル迄モナク現ニ支那銀行ニ関税収入ハ預入レアリト抗弁スヘクカクノ如キ末節枝葉ノ問題ニ付相争フヨリモ寧ロ国民政府宛ノ公文ヲ以テ関税協定ニ「レフアー」シ債権代表会議開催





方ヲ正面ヨリ堂々ト督促スルコト一層有効ナルヘシト述ヘ一同異議ナシ

三、漢冶萍接管問題

富田局長ヨリ六月十七日ノ執監全体会議ニ於テ「漢冶萍公司ハ国民政府ヨリ専員ヲ特派シ整理ニ任セシメ且委員会ヲ組織シ指導監督セシム」ト決議シタル趣ナルニ依リ大蔵省ヨリ在上海公森財務官宛電報ヲ以テ其真相詳細問合セタルニ対シ二十三日同財務官ヨリ回電アリ右全体会議ノ決議ハ支那側カ漢冶萍公司接管ノ従来ノ態度ヲ飜ヘシ穏健ニ向ハムトスルモノト解スヘキモノナリト申来リタルカ何分支那ノコトナレハ此上共十分警戒ヲ要スヘシト述ヘタリ

四、駐支財務官ニ関スル件

重光総領事ヨリ公森財務官ハ其上海ニ於ケル活動ノ範囲ヲ拡クル為現在ノ北平事務所ヲ縮少シ出来得レハ公使館ノ一室ニテモ借受ケ北平ノ事務所ハ引払ヒ度キ希望ナルカ如シト述ヘ富田局長モ公使館ノ一室カ借受ケラルルコトトナラハ誠ニ好都合ニテ人員ノ方モ公使館書記生ノ一人ヲシテ財務書記ヲ兼任セシメ北平ニ於ケル財務官事務所ハ名儀丈ケノモノトシ実質ハ上海ニ移スコト時宜ニ適スヘシト述ヘ尚本件詳細ニ付テハ現ニ大蔵省ニ於テ考究中ナリト述ヘタリ。

631 昭和4年6月28日 田中外務大臣より 在中国芳澤公使宛(電報)

**輸出付加税問題等の解決は日中通商条約改訂商議の際一括して行い中国側の排日取締ヲ交換条件化する意図に応ぜざる様訓令**

本省 6月28日後4時発

第二一〇号

上海発本大臣宛電報七五九号ニ関シ

輸出附加税及陸境関税問題ニ付テハ従来比較的冷淡ノ態度ナリシ支那側カ右来電及其後屢次ノ南京領事電報ノ通近次頻ニ其ノ解決ニ焦慮スルニ至リタルハ貴電第六三三号仏国側ノ態度ニ因ル義カトモ推察セラルル処我方トシテハ輸出附加税ノ関スル限リ正税ヲ加ヘテ現実三分ニモ達セサル本件課税ノ存廃ヲ強テ厳重ニ取扱フ意嚮ナキハ勿論若シ大局上ノ利害打算上必要ノ場合ハ条約商議前ニ承認ヲ与フルコ

トモ異議ナシト思考シ居ルモ御承知ノ通我方ハ現行条約ノ存続ヲ立前トスル関係上之ガ承認ニハ国内法上差等税率ノ承認ト同様ノ手続ヲ必要トスルノミナラズ支那トノ関係ニ於テモ条約商議前我方ヨリ進ムデ現行条約存続ノ立前ヲ破壊スルハ甚タ不得策ナルハ言フヲ俟タサル次第ニシテ加之特産物ノ先物取引六ケ月ニ及ブヲ例トスル満洲方面ノ実際ヲ考察スルニ之ヲ承認スル場合ニモ一定ノ猶豫期間（例ヘバ三ケ月乃至六ケ月）ヲ設クルコト絶対ニ必要ナルノミナラズ安東其ノ他ノ税関ニ於テ抗議付ニテ納税ヲ受入レ居レル関係モ一応考慮シ置カサル可カラス旁々今直チニ本件交渉ヲ開始スルモ支那側ノ希望スル如ク即時実施可能ノ見込ナキノミナラズ交渉容易ニ妥結ノ見込ナキ義ナリ従テ輸出附加税モ主義上ノ問題トシテハ兎ニ角実際問題トシテハ今后条約改訂商議ノ際他ノ関税事項ト一括シテ解決ヲ計ル外今日ノ処方法ナキモノト認メラル尚前記上海来電ニ依レハ支那側ハ本件解決ヲ排日取締ノ交換問題タラシメントスル口吻ヲ洩シ居ルモ自ラ国際約束ヲ履行セスシテ我方ニ条約上ノ譲歩ヲ強ヒントスルガ如キハ謂レナキ措置ニシテ排貨未ダ歇マサルヲ理由トシ条約商議ノ開始スラ拒否セムトスル一部ノ国論アル此際ニ於テ我方トシテ到底之ニ応シ難キ事情アルハ支那側トテモ諒解ニ難カラサルヘシト思考セラル就テハ右ニ御承知ノ上支那側ニ対シテハ可然御説示置相成度

天津ニ転電アリ度

奉天、上海、南京ニ転電セリ

632　昭和4年7月(3)日　在南京岡本領事より
幣原外務大臣宛（電報）

**王外交部長が本年中は領事裁判権撤廃の一点に向け努力する旨演説したことについて**

南京　発
本省　7月3日前着

第※七三〇号

七月一日外交部ニ於ケル紀念週ニ於テ王正廷ハ大要左ノ如キ演説ヲ為セル趣ナリ

一、本年中ニ条約改修スヘキモノハ都合十一ケ国アリ英国ノ如キハ満期前ニ改修セントスルモノナルカ最等(是カ)改約事務ハ外交部ヨリ直接交渉スルモノヲ除キ墨西哥ハ同国駐



在公使ヲシテ又洪牙利ハ在独公使希臘ハ在仏公使ヲシテ夫々弁理セシム

二、目下外国ニ対シ提議スヘキ問題多岐ニシテ繁雑ナルモノアル処外国側ハ常ニ我方提案ヲ以テ乱雑ニシテ世間ノ思惑ヲ混乱セシムル点多シト為シ交渉遷延ヲ謀ル風アルニ鑑ミ本年中ハ領事裁判権撤廃ノ一点ニ努力セントス此ノ難関ヲ突破センカ其ノ他ノ問題ハ期セスシテ解決シ得ヘシ

三、外国側ハ法院ノ不完全ヲ口実ニ法権撤廃ニ反対スルモ其ノ実支那ノ法院ハ決シテ不完全ニ非ス唯法院全国ニ普及セサル為県長ヲシテ司法官ヲ兼ネシムルノミ而モ今ヤ法院ノ規則ヲ整頓シ設備ヲ拡張シツツアルヲ以テ領事裁判権ヲ取消シタル後始メテ法律ヲ改正セル土耳古ニ比較センカ外国側ノ口実ハ成立セス

四、国防上ノ武器ハ武力ト経済力トニアリ救国ノ為ニハ我国民政府ハ軍事智識ヲ有シ銃器ヲ取リ得サルヘカラス空言ヲ放チ抵制反抗ヲ為スカ如キハ実益ナキノミナラス弱国民タルコトヲ表現スルニ過キス領事裁判権撤廃以前ニ於ケル日本ハ今日ノ我国ト異ナル処ナカリシカ国民ノ決心ト憂国トハ遂ニ目的ヲ達セリ嘗テ一日本人ハ外国人ノ圧迫ニ憤慨シ某国人ヲ殺害セントシ遂ニ其公使館ニ赴キ切腹シタルコトアル処其勇敢想見スルニ足ラン吾人ハ日本土耳古ニ学フ要アリ云々

633　昭和4年7月3日　上海各路商会聯合会より
濱口(雄幸)総理大臣宛

**濱口内閣に対する日中親善のため上海各路商会聯合会より要望事項について**

(編注)(訳文)

拝啓陳者日支ハ同文同種ニシテ又地域関係ヨリ唇歯ノ間柄ニ在リ共存共栄ノ為親善ニ努力スヘキニ貴国歴代ノ政府ハ常ニ強暴ニシテ侵略ヲ事トシ種々ノ悪劣ナル事実ハ正義公道ニ違背シ屢々我国人心ニ不快ナル感情ヲ与ヘ居候近年貴国田中軍閥内閣ハ一層甚シクシテ再度山東ニ出兵シ我国民革命軍ノ北伐ヲ阻止シ我外交官吏ヲ惨殺シ無数ノ我軍民ヲ殺害致候邦交ヲ破壊スル之ヨリ甚シキハ無之候我国人ハ寛大ヲ素志トシ平和ヲ愛好スルニ依リ痛苦屈辱ヲ忍ヒ僅カニ貨物抵制ヲ以テ貴国政府ノ覚醒ヲ促シタル処正義公道ハ遂

ニ勝ヲ制シ強権暴力ノ田中内閣ハ傾覆致候
今般閣下組閣ヲ拝命シ閣員ハ皆有為果敢ノ士ナル趣電報ニテ拝承致シ欣賀ニ堪ヘス候依テ日支親善ノ為欣賀ノ餘リ以下ノ陳述ヲ為ササルヲ得サル次第ニ有之候
我国々民革命ノ目的ハ支那ノ自由平等ヲ求ムルニアリ這ハ総理孫中山先生ノ既ニ我国民ニ明示スル処ニ有之我国人モ亦全力ヲ尽シテ之ヲ達成スヘク他ハ顧サル処ニ有之候閣下果シテ日支関係ヲ改善セムト欲セラルレハ又然ラサルヲ得ス則チ田中内閣ノ政策ヲ飜シ速カニ親善ノ具体的表示ヲ為サレムコトヲ希望スル次第ニ有之候
(一)日支間不平等条約ニシテ既ニ満期取消ト為リタルモノハ速カニ全権代表ヲ派シ我国ト主権尊重相互平等ノ友好通商条約ヲ修訂シ一切ノ特権ヲ放棄スヘシ
(二)既ニ租借期限ヲ逾エタル旅順大連ヲ我国ニ返還スヘシ
(三)南満洲鉄道ヲ我国民政府鉄道部ノ管理ニ帰セシムヘシ
(四)台湾澎湖列島等ノ割譲地ハ原持主ニ返還スヘシ
以上ノ四項ヲ閣下カ即時実行セラルレハ日支親善ハ実現セラル可ク然ラサレハ我国人ノ国民運動ハ朝日ノ昇ルカ如ク国民政府モ亦既ニ強固有力ニシテ自由平等ヲ求ムル故ニ如何ナル犠牲モ惜ム処ニアラス閣下ニシテ我国人ノ希望スル如クンハ断然以上ノ四項ヲ施行致サレ度候然ラハ則チ日支間ノ商務ハ長足ノ進歩ヲ為シ共存共栄ノ目的ニ到達シ得ヘキコト疑無之候
特ニ茲ニ以上ヲ具陳シテ亮察ヲ請フ次第ニ有之候　敬具
民国十八年七月三日
上海各路商會總聯合會
濱口先生閣下

**編注**　本文見当らず。

## 634
昭和4年7月4日　在中国芳澤公使より　幣原外務大臣宛(電報)

### 濱口内閣成立に関する中国新聞論評について

北平　7月4日後発
本省　7月5日前着
第七一〇号
貴電第三七八号ニ関シ
濱口内閣出現ニ関シ当地漢字新聞ノ論調ヲ綜合スルニ三日





京報ハ田中内閣ノ瓦解ハ寧ロ其ノ遅カリシヲ憾ムモノニシテ濱口内閣ニ於ケル幣原外交ハ穏和手段ノ点ニ於テ聊カ歓迎スヘキモ日本ノ対支根本政策ハ伝統的ナルニ顧ミ内閣ノ更迭ニ依リ遽ニ之カ変更ヲ来スカ如キコトアリ得ヘカラサルカ故ニ革命政府トシテハ田中タルト濱口タルトヲ問ハス所信ニ向ツテ努力スルヲ要スト為シ又三日北平日報ハ濱口氏ハ宜シク大ナル眼孔ヲ以テ政治外交ニ当リ真摯ナル態度ヲ以テ商約及満蒙諸懸案ヲ解決スルヲ要シ且互譲ノ精神ヲ以テ共存共栄ノ方策ヲ講スルニ於テハ既往ノ悪感ハ変シテ好感トナリ延テ東洋並ニ世界ノ平和ヲ招来シ反日運動ノ如キ活動ノ余地ナキニ至ルヘキハ明カナリト論評セリ
上海、南京、奉天ニ転電セリ

## 635
昭和4年7月(7)日　在上海上村総領事代理より　幣原外務大臣宛(電報)

### 宋財政部長が第一回内外債整理委員会開催を言明について

上海　発
本省　7月7日着

※(電報番号ヲ欠)
債務整理問題ニ関シ南京政府ハ本月九日開催セラルヘキ内外債整理委員会ノ会議後直ニ債権代表会議ニ対スル招請状ヲ発スヘシトノ旨聞込ミタルニ依リ六日宋子文ト会見シ其ノ実否ヲ質シタルニ宋ハ債権代表会議ノ開催ノ遅レタルハ自分ニ於テモ頗(ママ)ル心苦シク存シ居ル次第ナルカ武漢及廣東地方ノ後始末モ漸ク片付キタルヲ以テ兎モ角九日第一回内外債整理委員会会議ヲ招集シ爾后引続キ毎週委員会ヲ開キ債権代表会議ニ対スル会議事項其ノ他ヲ協議シ大体ノ準備ナリタル上ニテ招請状ヲ発スル積リナルニ付招請状発送ノ日取ハ目下ノ処確言シ得ス只出来得ル尤速ニ其運ニナル様努力シ居レリト答ヘ尤モ関税取極所定ノ五百元(万欠カ)月割額ハ中央銀行ニ積立テ居ルニ付御安心アリタシト申添ヘタリ
右月割額積立ニ付テハ嚮ニ御訓令アリタルカ此ノ際ハ持出スヲ差控ヘ宋ノ言ヲ聞キ置クニ止メタリ

## 636
昭和4年7月8日　在上海上村総領事代理より　幣原外務大臣宛(電報)

### 輸出付加税率の改訂あるも最高率五分を越えざる旨の張福運内話について

上　海　7月8日後発
本　省　7月9日前着

第八三七号

南京宛往電第七九四号張福運ト会談ノ際本官ノ質問ニ対シ同人ノ内話セル処左ノ通

一、輸出税ノ全般的改正ニ付テハ財政部長ヨリ特ニ命令アリタル次第ニハ非サルカ國定税則委員會ニ於テ自発的ニ研究シ居リ其ノ要諦ハ現行ノ五分税及二分五厘附加税ヲ廃止シ現実五分近クニ引直サントスルモノニシテ自分一己ノ意見トシテハ輸出奨励ノ趣旨ヨリ或ル品目ニ付テハ減税若ハ免税スル事可然ト存スルモ未タ何等決定シ居ラス何レニセヨ最高ト雖現実五分迄ニハ至ラサルヘシ目下ノ豫定ニテハ後三四ケ月ニテ委員会ノ議ヲ纏メ財政部長ニ対シ委員会ノ意見トシテ提出スル積リナルカ果シテ明年一月ヨリ実施セラルヘキヤ否ヤハ全然未定ナリ

二、明年一月ヨリ国定税率実施セラルヘシトノ説ハ根拠ナキ事過般御話シタル通リナルカ税則委員会ニ於テハ新税率実施後ノ事実上ノ経験ニ基キ分類其ノ他ノ技術的方面ニ付研究ヲ重ネタル結果修正ヲ要スト認メラルル点ヲ発見シタルニ依リ此ノ点亦財政部長ニ委員会ノ意見トシテ稟申スル事トナルヘシ云々

北平、南京ヘ転電セリ

637

昭和4年7月13日　在中国芳澤公使より
幣原外務大臣宛（電報）

**王外交部長が日本共産党佐野學引渡問題を陸境関税および輸出付加税問題の懸引材料としたことについて**

**付記一**　六月二十五日発田中外務大臣より在中国芳澤公使宛電報第二〇七号

佐野學は共産党事件真相究明に必要ゆえ当地方面に出向く予定の蔣介石に至急引渡交渉方訓令

**二**　六月二十六日発田中外務大臣より在中国芳澤公使宛電報第二〇八号

佐野學引渡に対し租界内で潜伏中の中国共産党委員引渡の先例を交渉上使用方訓令



北　平　7月13日後発
本　省　7月14日後着

第七六〇号

往電(1)第七五四号ニ関シ

十二日王正廷ヲ訪問シ先ツ佐野學ノ速時引渡方申入レタル処王ハ本問題ハ目下外交部法律科ノ手許ニ於テ研究中ニシテ自分トシテハ右研究ノ結果ヲ俟ツヨリ致方無キ次第ナルカ実ハ法律上頗ル興味アル問題ナリト認メ居レリ即チ日支両国ニ於テハ共産党ハ政治犯ニ非サルモ英、独等ノ国ニ於テハ共産党員ト雖モ議会ニ議席ヲ有スル程ニテ是等ノ国ヨリ引渡方ノ要求ヲ受クルカ如キ場合如何スヘキヤ等諸種ノ点ヨリ考察スル必要アリト考ヘ居レリト述ヘタルニ付本使ハ英、仏、独等ノ共産党員ハ支那ニ来ルコトアリトスルモ是等ノ諸国ヨリ引渡ヲ求ムルカ如キコト無カルヘク日支両国ノ関スル限リハ政治犯人ニ非サルニ付引渡スコト当然ニテ而カモ先例モアル次第ナリトテ貴電第二〇八号御来示ノ事実ヲ説明シタル上（王ハ一々手帳ニ書取リタリ）蔣主席モ既ニ同意セル事柄ナルカ故ニ至急南京ニ電報シ法律上ノ調査ヲ速了シタル上引渡方取計ハレ度旨要求シタル処王ハ電報発送方一応承諾シタルモ続テ陸境関税及輸出附加税問題ヲ持出シタルニ付本件ハ貴電第二一〇号ニ基キ御来示ノ内容ヲ篤ト説示シタルニ王ハ大ニ失望ノ色ヲ表ハシ日本政府ハ畢竟解決ヲ遷延シテ商人側ノ利益ヲ計ラントスルモノノ如ク差等税率協定ノ際ハ関税自主権ノ回復ヲ認メ(acquiesce)且各国カ既ニ同意シ居ルニ拘ラス日本独リ不同意ヲ表シ居ルハ面白カラサルコトナリト述ヘ自分(2)モ財政部長ニ対シテ弁明ノ辞ナシ等述ヘタルニ付本使ハ差等税率協定ノ際自主権回復ヲ認メタルコトナク又二分五厘輸出附加税及陸境関税ノ特典廃止ニ同意シタルコトナク之等ハ我方ニ於テハ条約上ノ改廃ナリト心得居レリ支那側ニ於テハ排日取締ノ約束スラ履行セスシテ条約事項ノ譲歩ヲ強ヒムトスルハ甚タ理由ナキコトナリト述ヘタル処王ハ排貨運動ハ漸次好転シツツアルモ若シ日本政府ニシテ輸出附加税及陸境関税問題ヲ解決スルニ於テハ自分トシテハ排貨運動ニ付完全ナル終熄ヲ告ケシムル様尽力シ得ヘキ立場ニ立チ得ル次第ナルニ拘ラス日本側ニ於テ斯ノ如キ態度ヲ尚継続スルモノトセハ自分ニ於テモ充分ノ努力ニ出ツル能ハサルヘキ旨述ヘタルニ付本使ハ右ハ不条理ノ甚シキモ

ノニシテ関税事項ハ条約事項ニシテ排日取締トハ混同スヘカラスト述ヘタル処王ハ感情上ヨリモ面白クナシト答ヘ本使カ別ルルニ臨ミ佐野引渡問題ニ付呉々モ至急取計方念ヲ押シタル際王ハ態度ヲ一変シテ発電方スラ躊躇ノ色ヲ示シタルニ付本使ハ極力発電方ヲ要望シタルニ対シ只最善ヲ尽スヘキ旨答ヘタルカ他ノ約束アル旨ヲ以テ頻リニ外出ヲ急キ居リタル為右ニテ引取リタリ

佐野問題ニ関スル王ノ応酬振ハ大体右ノ次第ナルカ先方ニ於テハ心中懸引ノ好材料ヲ得タルモノト看做スモノノ如ク我方ニテ督促スレハスル程引渡ヲ実行セサル心底ナリト察セラレタリ兎ニ角懸引ノミヲ事トスル支那側ナルカ故佐野引渡問題ノ前途ハ頗ル困難ナリト思ハル

上海、南京ニ転電セリ

**（付記一）**

本　省　6月25日後2時発

第二〇七号（至急、極秘）

佐野學引渡問題ニ関スル支那側トノ交渉ノ模様ハ上海発南京宛電報第七五四号及本大臣発上海宛電報第三八六号ニ依リ御承知ノ通ニテ政府ニ於テハ内地ニ於ケル共産党事件ノ真相ヲ究明スルガ為メ是非トモ同人ヲ引致取調ヲ必要トスル次第ナル処幸ヒ蔣介石近ク貴地方面出向ノ趣ナルヲ以テ蔣ニ対シ特ニ本大臣ノ伝言トシテ直ニ右引渡取運ヒ方上海ヘ至急訓令スル様申入相成リタシ

上海南京ヘ転電アリタシ

**（付記二）**

本　省　6月26日後3時50分発

第二〇八号（至急）

往電第二〇七号ニ関シ

共産党員引渡ノ先例ヲ見ルニ一昨年七月日本共産党員中野尚夫カ露国汽船ニテ漢口ヨリ浦潮間航行ノ途次十八日上海立寄ノ際露支人十三名ト共ニ支那側ニ拘引セラレ又昨年三月十二日台湾共産党員黄和氣、江水得及陳氏類玉カ上海支那町ニ潜伏中支那側カ我方ト共助逮捕シタル際何レモ我カ要求ニ応シテ引渡シ又外国側ニ於テモ上海発本大臣宛電報第七九三号事例ノ外昨年三月漢口仏租界官憲カ同租界居住支那共産党員ヲ支那側ニ引渡セシ事実モアリ先例上モ共産





党員ヲ政治犯ト観ルノ理由ナキ次第ニ付貴官ノ蔣ニ対スル御申入ニ当リテハ右先例可然御利用アリタシ御参考迄

上海、南京ニ転電アリタシ

〰〰〰

(四)内河航行権ハ各国ノ例ヲ見ルニ権利ヲ他国人ニ与ヘ居ルモノト与ヘ居ラサルモノトアル処支那ハ許可ヲ与ヘサル主義ヲ取ル積ナリ

(五)租界及租借地モ亦領事裁判権撤廃後之カ回収ヲ為スヘク要スルニ(二)(四)(五)ノ三項ハ明年之ヲ整理スル豫定ナリ

三、(2) 不平等条約ノ廃止ハ固ヨリ排斥ヲ意味スルモノニ非ス平等ノ態度ヲ以テ支那ニ通商ヲ営マントスル者ハ固ヨリ歓迎スルモ居留外人ニシテ造謡挑発ヲ事トシ政府ヲ侮辱スル者ニ対シテハ何等仮借セス「アーベンド」ノ如キ其ノ一例ナリ

四、政府ハ露国ニ対シテモ友誼ヲ表シ通商セントスルモノニシテ何等他意アルナシ但シ第三国際ノ宣伝活動ハ放任スルヲ得ス之カ宣伝者ハ逮捕シ又ハ駆逐スヘシ若シ露国ニシテ支那ニ於テ共産主義ヲ宣伝セサル事ヲ声明シ且之ヲ実行スルニ於テハ直ニ国交ヲ恢復スヘシ

五、日本ハ隣国且同種族ニシテ関係最密接ナリ吾人ノ日本ニ希望スル処ハ嘗テ不平等条約ノ苦痛ヲ経験シタル日本カ同様ノ苦痛ヲ排除セン為奮闘シ居ル支那ニ対シ上下一致シテ同情援助ヲ与ヘラレン事之ナリ云々尚王ハ右談話ノ外記者側ノ質問ニ対シ(一)哈爾賓事件ハ共産宣伝ノ確証ヲ握リタル為今回ノ挙ニ出テタルモノニシテ正当ノ行為ナルカ故ニ国交上何等問題ヲ発生セサルヘシ(二)天津、白耳義租界ノ回収ハ前日白耳義公使来訪シ返還方承認アリ今朝先方ノ委員モ赴津シタルニ付本日会議開カルヘシ(三)公使館区域ノ回収時期ハ豫定シ居ラサルカ之カ根本問題ハ先ツ辛丑条約ヲ廃スルニ在リ(四)英支通商条約ニ関シテハ本日英国公使ノ談ニ依レハ目下本国政府ニ請訓中トノ事ナルカ英国内閣改組早々ノ事ニテ恐ラク急ニ訓令来ラサルヘシ等語リタル趣ナリ

尚王ハ十三日朝離平南下セルカ天津ニ於テ数時間張學良ト会合シ更ニ濟南ヲ経テ青島ニ至リ同所ニテ仏国公使ト会合シ同道上海ニ向フ由ナリ周龍光及ヒ江華本ハ王ト同行セス尚数日間当地滞在ノ趣ナリ

成都ヲ除ク在支各総領事南京ニ転電セリ

## 639

昭和4年7月18日　幣原外務大臣より　在南京岡本領事宛(電報)

### 中国側が通商条約の効力問題に言及する場合





### は請訓の上措置し引続き先例を引き簡単に佐野學引渡督促方訓令

本省　7月18日後6時30分発

第一二〇号

在支公使発本大臣宛電報第七五四号ニ関シ

支那側カ政治犯問題ヲ理由トシテ日本人タル犯人ノ引渡ヲ渋リタルハ今回ヲ以テ嚆矢トス右ハ畢竟日支通商条約ハ満期失効セリトノ支那側ノ立場ヨリ出テタルモノト察セラル、処日支間ニハ通商条約ノ効力存続問題ニ付既ニ一応ノ解決着キ居ル今日仮令佐野カ政治犯人ナリトスルモ支那側ニ於テ之カ引渡ヲ拒ムコトハ理由無キ所ナリ唯斯カル理窟ヲ以テ争フコトハ条約ノ効力問題ヲ繰返スノ端ヲ啓キ当面ノ目的ハ却テ達セラレサルヘキ虞アルニ付共産党員引渡ノ先例ヲ以テ簡単ニ目的ヲ達セムコトヲ期シ在支公使宛往電第二〇七号及第二〇八号ノ通訓令シタル次第ナルカ今後本件ニ関シ支那側トノ折衝ノ曲折ニ伴ヒ条約ノ効力問題ニ論及セサル可ラサル場合アリトスルモ右ノ場合ニハ請訓ノ上措置セラレ度尚本件ニ関シテハ引続キ支那側ヲ督促シ出来得ル限リ速ニ引渡サシムル様此上トモ尽力アリ度シ

上海、北平ニ転電セリ

## 640

昭和4年7月23日　在南京岡本領事より　幣原外務大臣宛(電報)

### 周龍光司長と会見し佐野學引渡問題に対し王外交部長が付加税問題を駆け引き材料としたるを抗議について

南京　7月23日後発

本省　7月23日後着

第八二一号

王正廷帰任セルヲ以テ佐野引渡問題督促ニ兼ネテ東支問題ノ成行ヲ聴取スヘク会見ヲ申入レタルモ多忙ノ故ヲ以テ二十四日迄延期アリタシトノ事ナリシニ付本二十三日周龍光ニ会見至急佐野ノ引渡ヲ要求シタル処周ハ「敢テ故意ニ引渡ヲ遷延セル次第ニ非サルモ日本政府ニ於テ兎角我方ノ要求ニ耳ヲ藉サス過般北平出張中公使始メ館員諸氏ニ対シ附加税問題青島警察官問題等ノ解決ヲ求メタルモ単ニ誠意ヲ有ストノミニテ要領ヲ得ス特ニ附加税ニ関シテハ曩ニモ御話シタル通王部長ノ面目ニモ関スル重大問題ニシテ最苦痛

トスル処ナリ」過般在支公使宛貴電御来示ニ基キ本官ノ説明ニモ拘ラス周ハ切メテ問題丈ニテモ速ニ好意的考慮ヲ払ハレタシト繰返セリ

依テ本官ハ貴司長ハ我方ノ誠意ヲ充分諒解シ乍ラ王部長ノ指示ニ依リ小策ヲ弄サルルモノト解スル処右ハ本来貴司長ノ本意ニ非サルヲ承知セル自分トシテハ寧ロ同情ニ耐エス乍併貴国ニ満腔ノ同情ヲ有シ且諸君ノ信頼スル現内閣ニ対シ此ノ種ノ手段ニ出ラルルハ決シテ貴国ノ為策ノ得タルモノニ非スト云ヘル処周ハ苦笑シ居タルカ屢次報告ノ如キ狡猾ナル王正廷ハ本問題ヲモ附加税問題ニ利用セントスル底意アルハ明カナルカ如キヲ以テ他ニ適当ノ方法ヲ講シ度考ヘ居レリ不取敢

北平、上海ニ転電セリ

641

昭和4年7月27日　幣原外務大臣より在上海重光総領事宛（電報）

**中国側が通商条約の効力問題を持ち出すも従来の経過を説明引渡遅延を警告し佐野學引渡実現方訓令**

（付記）八月三日発在南京岡本領事より幣原外務大臣宛電報第八四八号

佐野學を単なる刑事犯として引渡す旨周龍光司長より通知について

本省　7月27日後6時10分発

第四二四号

在南京領事発本大臣宛電報第八二一号ニ関シ

佐野引渡問題ニ付支那側ニ於テハ政治犯云々ノ口実ノ下ニ今日迄引渡ヲ肯セス殊ニ輸出附加税問題迄ヲ持出セルカ如キハ頗ル不都合ニシテ此儘放任スルニ於テハ引渡ノ時期豫測シ難キノミナラス将来ニ悪例ヲ貽シ甚面白カラサルニ付貴官ハ最近ノ機会ニ於テ王正廷ニ面会シ支那側カ佐野ヲ逮捕シテ以来既ニ四十日ヲ経過セルニ不拘今以テ日本官憲ニ引渡ササルハ如何ナル根拠ニ基クモノナリヤ政治犯云々ノ如キハ勿論何等ノ理由トナラス若シ支那側ニ於テ此上引渡ヲ遷延スルニ於テハ乍不本意再ヒ面倒ナル論争（条約廃棄問題ノコト）ニ立チ入ラサル可ラサルコト、ナル可ク如斯ハ日支双方ノ為メ極メテ好マシカラサル義ニ付此際ハ兎角ノ口実ヲ抜キニシテ速ニ引渡ヲ実行スル様厳重ニ申入レ其





確答ヲ求メラレ度将又本件ニ関聯シ日支条約ノ効力論ニ渉ルコトハ従来成ル可ク之ヲ避クルノ方針ナリシモ支那側ノ態度ニシテ今日ノ如クナル以上已ムヲ得サルニ付若シ先方ニシテ猶政治犯云々ノ口実ヲ以テスルニ於テハ条約廃棄問題ニ関スル成行ヲ説明スルト同時ニ佐野カ仮令政治犯人ナリトスルモ条約上我方ニ於テ引渡ヲ求ムル権利アル次第ヲ強調セラレ日本人ヲ四十日ニ亘リ拘束シテ引渡ヲ敢テセサルハ事態甚重大ナル旨特ニ警告セラレ度尚輸出附加税問題ニ付テハ近ク条約改訂商議ノ際他ノ関税事項ト一括シテ解決ヲ計ルヘキ旨既ニ芳澤公使ヨリ王ニ申入済ナル次第ヲ指摘シ（在支公使発本大臣宛電報第七六〇号参照）在支公使宛往電第二一〇号ノ趣旨ヲ以テ可然説示セラレ度

北平、南京ニ転電アリタシ

（付記）南京　8月3日後発

本省　8月3日後着

第八四八号

往電第八二一号ニ関シ

爾来機会アル毎ニ外交部ニ督促スルト共ニ戴天仇ヘモ斡旋方ヲ求メ置キタル処愈昨二日引渡スコトニ決シタル旨周龍光ヨリ通知アリタリ

尚本三日上海交渉員ノ請訓ニ対シ訓令スルノ形式ヲ以テ刑事犯ナルカ故ニ引渡シ差支ナシト申送ルコトトスヘシトノコトナリシニ付本官ハ既ニ政府ニ於テ引渡ニ決定セル以上其ノ憂ナカルヘキモ又復無用ノ論議ヲ醸スヤモ測リ難シ何等ノ理由ヲ附セサル方安全ナルヘシト注意シ置キタリ然シ長キニ亘リ議論ヲ続ケタルコトニモアリ結局ハ前記ノ通刑事犯云々ヲ理由トスルニアラスヤト思料セラル不取敢支、上海へ転電セリ

642

昭和4年7月31日　在上海重光総領事より幣原外務大臣宛（電報）

**内外債整理委員会第一回事務会議で債務整理を急ぐ宋・王両部長と漸進主義をとる胡漢民間で意見対立と曾宗鑑談話について**

別電　七月三十一日発在上海重光総領事より幣原外務大臣宛第九二一号

内外債整理委員会第一回事務会議において交通部および鉄道部借款に関し調査方決定について

上　海　7月31日後発
本　省　8月1日前着

第九二〇号

在南京領事発貴大臣宛電報第八三六号及同第八三九号ニ関シ

三十日草野ヲ曾宗鑑ノ許ニ派シ種々質問セシメタル処曾ハ右ニ対シ二十六日南京ニ於テ同委員会ヲ開キタルハ事実ナルカ同日他ノ会議ハ比較的簡単ニテ自分ハ財政整理委員会ノ経過ニ付報告ヲナシ十一ケ条ヨリナル内外債整理委員会事務規則案（秘書長、秘書、評議委員部専門委員部ノ設置等ヲ骨子トス）ヲ議決シ整理ノ範囲、進行方法、新債権者ニ対スル通告及整理基金ノ保管方法ニ関スル大綱ノ決定ヲ見タルノミナルカ各新聞ニハ同会議ニ関シ誤報多ク一般ヲシテ誤解セシムル懼アルニ鑑ミ一種ノ「ステートメント」ヲ発表スルコト適当ト認メ自分ノ手許ニ右案文ハ既ニ起草ヲ了シタルモ本日宋子文病気ノ為未タ其ノ同意ヲ得ルニ至ラサル次第ナリ（右「ステートメント」三十日別電第九二一号ノ通発表セラル）元来宋部長及王外交部長ハ頗ル整理ノ進行ヲ急キ居ルモ中央党部ノ有力者胡漢民ノ如キハ政務会議ニ対シ意見書ヲ提出シ漸進主義ニテ整理ヲ急カス先ツ調査ヲ充分ニシ整理ニ当リテハ国民党式ノ整理方法ヲ執ルヘシト主張シ居ル模様ニテ目下政務会議ニ於テ方針研究中ナレハ整理ノ進行ハ右決定アル迄暫時停頓ノ形トナレリトテ右会議記録ヲ示シ今次ノ会議ハ宋部長ノ指金ニテ第一回常務会議トスヘシトノコトニテ第一回整理委員会全体会議ハ二ケ月前自分等ノ知ラヌ間ニ五分間ノ短時間ニテ開催済ニテ同会ニテ内外債整理委員会委員長ハ譚延闓ニ決定セル形式トナレルカ同氏ハ目下頗ル重態ニテモアリ宋部長ニ於テ事実上委員長ノ地位ニ立ツヘク是亦宋部長ノ魂胆ノアル処ナリ秘書長其ノ他役員ノ人選ニ付テハ未タ決定セス次回ノ開会期日モ孫科不在ノ関係モアリ未定ナリト語リ宋子文再度ノ辞表提出説モ之ヲ否定セル趣ナリ

尚曾ヨリ入手セル同会議記録ハ別途郵報ス

別電ト共ニ支、南京ヘ転電セリ





（別　電）

上　海　7月31日後発
本　省　7月31日後着

第九二一号

内外債整理委員会第一回事務会議ハ七月二十六日南京ニ於テ開催セラル会長譚延闓病気欠席ノ為財政部長宋子文会議ヲ司会セリ其ノ他ノ出席会員ハ外交部長王正廷、農鉱部長孔祥熙、交通部長王伯群、鉄道部長孫科代理及秘書長曾宗鑑ナリ会議ハ先ツ事務規則ノ起草ニ始マリ（右ハ正式ニ可決セラル）尚秘書処及技術院ノ組織ヲ決定シ又委員会ノ一般的豫定計画ヲモ取極メタリ委員会ノ重要決議トシテハ交通部及鉄道部借款ヲ同会ノ計画範囲ニ包含スルコトトナレル点ナリ

委員会ハ政府カ借款整理ナル特殊目的ノ為新関税増収ヨリ毎月振向ケテ目下中央銀行ニ預入シツツアル基金ノ監理ヲ正式ニ引継ケリ会議ノ他ノ重要項目ハ各部ニ於テ委員会ニ対シ技術専門家ヲ指名シ当該部ノ借款調査ニ当ラシメムトスル決議ナリ斯ノ如クシテ結局各部ノ借款ニ対シ数個ノ小委員会設定セラル

次回会議ハ鉄道部長ノ南京帰来ヲ待テ開催セラルヘシ

643

昭和4年8月3日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

**中国側の債務整理に対し、我が方有利に導くため至急関係者と協議取計方について**

付　記　昭和四年九月二十日付

「在北京対支借款団団体代表者南遷ノ件」

上　海　8月3日後発
本　省　8月3日後着

第九三一号

支那側ノ債務整理計画ハ兎モ角進行シツツアルモノト見得ヘク我方トシテモ公私ノ関係ニ於テ支那側トノ連絡ヲ密接ニシ之ヲ鞭撻シ以テ右計画ヲ少シニテモ我方ニ有利ニ展開セシムルコトヲ努ムルヲ要スル処従来当地ニ於ケル関係者ノ支那側トノ接触ハ甚タ手薄ニ付此ノ際左記ノ点ヲ考慮スルノ要アリト思考セラル御承認ヲ得ハ至急関係者側トモ御協議ノ上右実現方御配慮相煩シタシ

一、当地正金支店ノ如キハ目下財政借款問題ニ関スル専門

的智識ヲ有スルモノナキ実情ナルニ付従来北京ニアリタル借款係リノ如キモノヲ当地ニ設ケ各種ノ財政事項特ニ塩税関係其ノ他支那政府収入ニ関スル調査、債権及償還ニ関スル計数事務ニ当ラシメ又

二、日本興業銀行等三銀行モ本件整理計画ニハ重大ナル利害ヲ有スル次第ニ付適任者（例ヘハ岡部三郎氏）ヲ当分当地ニ派駐シ前記事項ノ外特ニ支那内国ニ関スル調査並支那側及外国側トノ私的聯絡ニ当ラシムルコトトシタシ尚其ノ地当地ニ滞在セル大会社ノ代表者等ニシテ此ノ方面ニ関係アルモノハ本官ニ於テ直接指導スルハ勿論ナルカ是等債務整理等財政方面ニ関シテハ公森財務官ノ尽力ニ待ツヘキモノモ多キニ付同官ハ都合付キ次第帰任セシムルコトニ致度シ

（付　記）

在北京対支借款団団体代表者南遷ノ件

（昭四、九、二〇）

在北京対支借款団団体代表者南遷ノ件ハ国民政府首都南京移転以来右団体代表者間ニ屢々話題ニ上リタルモ支那政局ノ安定未タ充分ナラス且又外交団モ依然トシテ北京ニ駐在シ居ル関係上右ハ未タ時期尚早ナリトノ意見有力ニテ其儘トナリ居レル趣ノ処昭和四年七月二十九日右団体代表者会議ニ於テ支那政局安定ノ情勢ニ顧ミ各代表者カ南遷スルコト時宜ニ適スルモノト認ムル旨私見トシテ議決シ之ヲ夫々各団体本部ニ稟申スルコトトナリタル由ニテ本邦側団体代表者正金銀行ヨリ右ニ関スル政府ノ意向伺出アリタル処他方在支芳澤公使、在上海重光総領事ヨリモ本件南遷時宜ニ適スル旨稟申ノ次第アリ旁々政府ニ於テモ諸般ノ関係殊ニ支那側ノ債務整理計画ノ進行等ノ関係ニ顧ミ本件南遷ノ時期至レリト認メ右ノ趣旨ニテ正金銀行ニ指示シ置ケリ

644

昭和4年8月㉕日　在中国堀内臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

**中国側は上海臨時法院回収交渉より我が方除外の意向なるも本件参加の方針維持につき請訓**

北平　発
本省　8月25日前着





第九七五号
往電第九四八号、第九五二号及第九六四号ニ関シ今春上海臨時法院問題ニ関シ王正廷最初ノ照会ヲ発シタル際相手国ヲ六国ニ限リタル経緯更ニ往電第九五二号末段ノ情報等ニ鑑ミ錢泰ハ恐ラク日本側ニハ特ニ諒解ヲ求ムルコトヲ為ササルヘキモ何レ本件ニ関シテハ近ク外交団会議ニ於テ協議セラルルコトト思ハルル処我方ノ立場ヨリ之ヲ見ルニ㈠支那側ハ今尚少クトモ表面上日支条約ノ失効ノ解釈ヲ執リ居ルカ如ク臨時法院問題ニ関シテモ恰モ日本ニ発言権ヲ認メサルカ如キ素振ヲ示シ居ル事実ニ鑑ミ本件交渉ニ関シ日本側ノ参加ニ異議ヲ挟ミ今後一悶着起スノ虞ナキニ非ス就テハ我方トシテハ飽迄モ国民政府対外交団ノ関係ニ於テ本件ヲ処理スルノ建前ヲ維持シ従テ其ノ第一階梯トシテ上海領事団ヲシテ豫備交渉ニ当ラシメムトスル従来ノ方針ヲ維持スルヲ得策トスヘク八月二日附首席公使回答モ外交団ヨリノ回答ナレハ日本モ当然之ニ参加シ居ル次第ニシテ支那側ニ於テ六国ノミヲ相手トスヘキ筋合ニ非サルコトヲ支那側ニ徹底セシメ置クノ要アルヤニ思考セラル㈡万一英米仏等ノ主要国ニ於テ支那側ノ希望ヲ容レ関係国公使又ハ其ノ代表者ヲ南京ヘ派遣シ本件交渉ニ当ルコトニ同意スルカ如キ形勢トナリ日本独リ之ヲ阻止シ得サルカ如キ場合ニハ是等委員ハ関係国個別的ニ非スシテ外交団ノ委任ヲ受ケタル資格ニ於テセシムルコト適当ナルヤニ思考ス㈢往電第八一九号首席公使書翰末段ニ所謂具体的提案ナルモノハ交渉ノ基礎タルヘキ法院自体ニ関スルモノヲ意味シ錢泰カ「パーキンス」ニ述ヘタルカ如ク単ニ交渉ノ段取ヲ指ス意味ニ非サルコト勿論ナルニ付外交団トシテハ更ニ此ノ点ヲ指摘シテ支那側ヨリ右提案方改メテ申入ルルコト然ルヘキカト思ハル今後本件協議ニ際シ大体右ノ方針ニ依リ他ノ同僚ト応酬シ差支ナキヤ何分ノ儀至急御回訓相成タシ

上海、南京、奉天ヘ転電セリ

645

昭和4年8月29日　幣原外務大臣より
在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

**上海臨時法院回収交渉に公使または代表者派遣の際には我が方も参加につき関係国と応酬方訓令**

本省　8月29日後6時50分発

第二七七号
貴電第九七五号ニ関シ
当方ニ於テモ貴電ト同意見ナルニ付右ニテ措置セラレ度尤モ主要国ニ於テ公使又ハ其代表者ヲ南京ニ派遣シ本件交渉ニ当ラシムルカ如キ場合ニ於テハ出来得ヘクンハ我方ニ於テモ代表者ヲ交渉委員中ニ参加セシメ度ニ付右御含ノ上関係国側ト応酬セラレ度シ
上海、南京、奉天ヘ転電アリ度シ

646　昭和4年9月11日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)

**外交団会議において中国側による原料および既成品の輸出に二分五厘の輸出付加税課税に関し討議について**

北平　9月11日後発
本省　9月11日後着

第一〇三一号
先般首席公使ヨリ回章ヲ以テ輸出附加税問題ニ関スル仏国公使来翰ヲ回覧ニ附シ来リタル処右書翰ノ内容ハ支那側ハ原料及既製品ノ輸出ニ当リ二分五厘ノ輸出附加税ヲ課シ居ルカ嚢ニ関税会議ニ於テ支那側委員ハ輸出ノ原則ハ廃滅ニ帰シタリトノ意ヲ漏シタルコトアルニ鑑ミ本年二月ノ新関税率実施ニ当リテハ本税ノ廃止ヲ見ルモノト思考シ居タルニモ拘ラス今ヤ啻ニ輸出税ハ廃止セラレサルノミナラス其ノ附加税ヲ課セラルルニ至リタルハ喫驚ニ値ス就テハ本附加税カ列国ニトリテモ関係スル処大ナルヘキニ顧ミ近ク外交団会議ニ於テ討議シ度シト云フニ在リ本件ハ十日ノ外交団会議ニ上議セラレタル処先ツ仏国公使ヨリ自分ハ条約上ノ問題トシテ抗議セントスル趣旨ニハ非スシテ寧ロ経済政策上ノ見地ヨリ本件附加税ノ支那側及外国側双方ニトリ甚タ不得策ナルコトヲ指摘シテ国民政府ニ対シ外交団ヨリ警告ヲ与ヘントノ趣旨ナリト述ヘタル処英国公使ハ輸入税ニ関シテハ条約上ノ制限アルモ輸出税ニ関シテハ自主権ヲ承認シタル今日ニ於テ抗議ノ基礎無キモノト思考スルモ唯経済上ノ見地ヨリ警告スルノ意味ナラハ別問題ナリト述ヘタリ次ニ本官ヨリ貴電第二一〇号御訓令ノ趣旨ヲ含ミ我方従来ノ態度殊ニ本件附加税ノ徴収ヲ正当化スル為ニハ日支間ノ協定ヲ必要ト看做シ居ルコト並満洲及其ノ他ノ地方ニ於





ケル本邦商人ノ処置振ヲ説明スルト共ニ本問題ハ結局条約改正交渉ニ際シ討議セラルルコトト思ハルル処仏国公使ノ所謂警告カ果シテ実効ヲ齎スヘキヤ否ヤニ付テハ疑無キ能ハスト述ヘ次ニ米国公使ハ自分モ亦本件附加税ニ対シテハ抗議スヘキ条約上ノ根拠無キモノト思考シ居リ仮令外交団ヨリ支那側ニ対シ抗議又ハ警告ヲ発スルモ先方ハ結局之ヲ無視スルコトトナルヘシト述ヘ其ノ他丁抹代理公使ヨリ閣下宛機密第二九七号堀代理公使往信哈爾賓ニ起リタル問題ニ関聯シ外交部ト往復シタル顛末ヲ説明シタル外意見ヲ述フル者無カリシヲ以テ結局首席公使ハ仏国側ノ提議ニ対シテハ各国公使トモ餘リ熱心ナラサル模様ナルニ付此ノ際ハ外交団ニ於テ何等措置ヲ執ラサルコトトシ度シト述ヘ一同之ニ賛成シ仏国公使自身モ自分トシテモ之以上主張スルノ意無ク唯同僚ヨリ可否ノ意見ヲ聞クコトヲ以テ満足スト述ヘタリ
上海、南京、奉天、天津ヘ転電セリ

647　昭和4年9月(13)日　在上海重光総領事より幣原外務大臣宛(電報)

**国民政府は財源難より関税率引上との情報について**

上海　発
本省　9月13日後着

第一〇九三号
国民政府カ最近各方面ノ財源ヲ漁リ尽シ居ルコトハ御承知ノ通ニテ其ノ結果更ニ関税率ノ引上ヲモ計画スルニ至ルヘク往電第一〇二九号綿糸ニ対スル輸入税附加提案ノ如キモ事実上右計画実現ノ一端トモ観ルヲ得ヘキ処最近丁士源南下シ国民政府各方面ト接触ノ結果齎シタル情報ニ依レハ同政府ハ明年二月ヲ期シ関税率引上ヲ断行セムトノ計画アリ其ノ増収ノ一部ヲ債務整理ニ充ツルコトヲ条件トシテ列国ノ承認ヲ求メムトシ居レルモノノ如シトノ趣ナリ何等御参考迄
支、南京ヘ転電セリ

648　昭和4年9月13日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛(電報)

**王外交部長より公文にて佐分利公使任命に対**

し日中国交の増進のため歓迎するとの回答越しについて

南京 9月13日後発
本省 9月14日前着

第九五一号

本官発北平宛電報第八七〇号

外交部長ヨリ十三日附貴官宛公文ヲ以テ「佐分利貞男在支特命全権公使ニ任命セラレタル趣九月五日附ヲ以テ御申越ノ次第閲悉セリ佐分利君ノ声望学識ハ元ヨリ欽佩スル処ニシテ今回命ヲ奉シ来支セラレムカ必スヤ善ク貴我両国ノ邦交ヲシテ益々厚睦ヲ増進セラルヘク本部長ハ極メテ歓迎ノ意ヲ表スル」旨回答越セリ公文郵送ス

外務大臣、上海ニ転電ス

649 昭和4年9月13日

幣原外務大臣より
在中国堀臨時代理公使、在奉天林総領事、在天津岡本総領事、在上海重光総領事、在漢口桑島総領事、在広東矢野総領事、在南京上村領事、在外各大使及佐藤聯盟事務局長宛

**治外法権問題その他に関する張継との会談について**

付記一 谷亜細亜局第一課長「日支関係ノ改善策ニ関スル件」

二 有田亜細亜局長「日支関係改善ニ就イテノ或種ノ考察ヲ評ス」

亜一機密合第九九三号

昭和四年九月十三日

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎

在中国堀臨時代理公使、在奉天林総領事、在天津岡本総領事、在上海重光総領事、在漢口桑島総領事、在広東矢野総領事、在南京上村領事、在外各大使及佐藤聯盟事務局長宛

治外法権問題其他ニ関スル張継トノ会談ニ関スル件本月五日本大臣来朝中ノ国民政府司法院副院長張継ト会談ノ要領別紙ノ通ニ付右御参考迄送付ス

（別紙）

幣原外務大臣張継会談要領

（昭和四年九月五日於外務大臣私邸）





九月五日、張継汪支那公使同伴外務大臣ヲ其ノ私邸ニ訪ヒタルカ其際張継ヨリ今回ノ渡日ハ特別ナル使命ヲ有スルニ非スシテ政府並ニ民政党ノ重ナル人々ニ面会シテ其ノ対支意見ヲ聴カム為ニ過キスト前提シ先ツ治外法権撤廃ニ対スル政府若クハ貴大臣個人ノ意見承知致シ度シト云ヘルニ大臣ハ、王寵恵氏ノ如キハ外交団ノ人々其他ニ対シテ本年中ニ法典ヲ完備シテ来年一月一日ヨリ治外法権撤廃ヲ断行スル決心ナル旨語レル由ナルカ果シテ然ラハ自分ハ同意スル能ハス我国ノ治外法権撤発ノ事情ニ徴スルモ先ツ初メニ「ボアソナード」ノ法典アリ後其ニ改正ヲ加ヘテ外国人ノ権利義務ニ関係アル総則債権及物権規定等ヲ制定シ且其ノ公布後約三ケ年ヲ経テ初メテ治外法権ヲ撤廃セル次第ナリ然ルニ今支那カ法典ヲ完成スルモ直ニ之ヲ実施セムトセハ一般人民ハ勿論司法官自身如何ニシテ新法ニ通暁シ以テ其ノ運用ノ完キヲ期スルヲ得ヘキ、仮ニ司法官ノ学識材能ニ於テ問然スル所ナシトスルモ最モ肝要ナル司法権ノ独立無ク司法官カ其地位ヲ保タムカ為ニハ動モスレハ行政官憲又ハ軍閥ノ意ヲ迎ヘサルヲ得サルカ如キ状況ナル以上外国人トシテ支那ノ法権ニ不安ヲ感スルハ当然ナルヘク其ノ情態ニ於テ治外法権即時撤廃ノ如キハ思ヒモヨラサルトコロナリ、独逸ハ曩ニ治外法権ノ撤廃ヲ承諾セリト雖聞ク所ニ依レハ事実上独逸人関係ノ刑事事件極メテ稀ニシテ又民事商事事件モ多クハ支那法廷ノ判決ヲ求ムル代リニ仲裁和解ノ方法ニ依リ解決スルノ現状ナリト云フ之レ支那法廷ニ対スル不信ノ念ヲ反映スルモノニハ非サルカ、畢竟治外法権撤廃条件トシテハ法権委員会ノ報告ヲ基礎トスルノ外ナク同報告中勧告ノ一節ハ王寵恵氏カ無留保ニテ署名シ居レルニ拘ラス今日該勧告ヲ全然無視セントスルハ支那ノ為ニモトラサルトコロナリト信ス然レトモ治外法権撤廃問題ニ就テハ支那ニ希望ヲ持タシムルコトヲ必要トシ的確ナル希望ヲ与ヘラレサル者ハ自ラ自暴自棄ニ陥ルヲ免レス自分ハ常ニ此事理ヲ在京外交団ニモ説キツツアリ従テ我国トシテ本問題ノ解決ヲ無期限ニ延サントスルモノニ非ス、英米等ノ本問題ニ対スル態度ノ如キハ最近新聞紙上ニ発表セラレタル対支那政府回答書ニ見ルモ我国ヨリモ遙ニ保守的ニシテ其ノ本意ハ寧ロ現状継続ニ在ルモノノ如シ我国ハ一定ノ期限内ニハ支那ノ要望ヲ達セシメント考ヘ居ル次第ナルモ期限其物ニ就テハ未タ確定意見ヲ有セス、是等ノ問題ハ条約改

訂交渉ノ際ニトクト商議シタキ考ナリト述ヘタルトコロ、張ヨリ治外法権ハ土耳古、波斯等ニ於テモ既ニ撤廃セラレ今ヤ残存セルハ支那一国トナレルニ支那ニ対シテノミ猶之ヲ維持セントスルハ不公平ニ非スヤト云ヘルニ、大臣ハ自分ハ必スシモ斯ク考ヘス支那ニ於テハコノ十数年来内乱ニ内乱ヲ重ネテ形式上一応ノ統一ヲ見タルモ漸ク昨年ノ事ナリ、然ルニ土耳古ニスルモ又波斯ニスルモ司法制度ノ整備ニ付テハ固ヨリ満足ナラスト雖兎ニ角中央ノ権力ハ夙ニ確立シ威令国内ニ汎キ点ニ於テ支那ト同一ニ論スルヲ得サルヘシト答ヘタリ

次ニ汪公使ヨリ治外法権撤廃ノ問題ハ寧ロ第二義ノ問題ニシテ茲ニ重要ナルハ満洲問題ナリト信ズ、之ニ対スル政府ノ意見ヲ承知シタシト述ベタルヲ以テ、大臣ハ満洲問題トハ如何ナルコトヲ意味セラルルヤ知ラザルモ若シ關東州租借地ノ返還トカ或ハ満鉄ノ回収トカヲ意味ストセバ我国ハ絶対ニ之ヲ問題トスルコトヲ得ス独リ現内閣ノミナラズ如何ナル政府ニ於テモ斯カル要求ヲ考量スルノ餘地ナキハ先ヅ明瞭ニ諒解セラレムコトヲ望ムト述ベタルニ、汪公使ハ自分モ同様ニ観測シ居レリ唯若シ無産党ガ政局ニ立ツニ至ラバ或ハ異ナリタル態度ヲ執ルヤモ知レズトテ哄笑セリ大臣ハ数十年後ナラバイザ知ラズ近キ将来ニ於テハ仮令無産党ガ政権ヲ掌握ストモ国民ノ輿論ノタメ本問題ハ如何トモスル能ハザルベシト信ズト答ヘタリ、張繼ヨリ更ニ最近満洲ヲ視察シ「ハルピン」迄至レルガ在満支那人ノ対日感情ハ極メテ悪ク恐ラク貴大臣ノ想像以外ナルベシトテ種々ノ事ヲ述ベ又汪公使ヨリ前内閣時代ノ対満方針ヲ種々批評セル上一時ハ田中内閣ノ政策ガ満洲侵略ノ意図ヲ有スルニ非ズヤトノ印象ヲ支那国民間ニ与ヘルコトアリタリト述ベタルニ依リ大臣ハ自分ハ田中内閣トテモ何等侵略政策ヲ執リタルモノニ非ズト信ズ就テハ若シ支那ニシテ我国ノ満洲侵略ニ付キテ幾分ナリトモ危懼セラルルコトアリトセバ日支関係上之ヲ除去スルノ方法ヲ講ズルコト極メテ必要ナルベシ尚支那側ニ於テハ日本ノ侵略政策ヲ危懼スルモノアルト同時ニ日本側ニ於テハ支那人ノ排日排貨ニ対シ一般ニ深ク憤慨シ居レルコトハ之亦蔽フベカラザル事実ナリ支那人ガ対日要求ヲ貫徹セムカ為ニ「ボイコット」ノ方法ヲ以テ日本ニ圧迫ヲ加ヘムトスルハ従来ノ常套手段ニシテ之カ為本邦ニ於テ単ニ対支貿易業者ノミナラズ一般国民ノ感情ヲ甚

（欄外記入）

（編注一）

（編注二）





シク刺戟スルハ当然ノ勢ト謂ハザルベカラズ支那ニ於テ真ニ日支ノ親交ニ重キヲ置ク以上ハ「ボーイコット」ノ如キ人民ノ直接行動ヲ取締ルノ決心ト実力トヲ示スコトヲ要スト述ベタル処張繼ハ頻リニ一昨年来ノ対日「ボーイコット」ガ山東出兵ニヨリ促サレタル所以ヲ述ベタルニ付キ大臣ハ山東出兵ノ是非ハ別トシテ支那政府ガ我政府ノ政策ニ反対シ政府トシテ抗議其他ノ外交措置ニ出ツルハ致シ方ナキモ国民個人ノ直接行動ニ至ツテハ政府カ有効ナル取締ノ手段ヲ執ラザルハ怠慢又ハ不誠意ト謂フノ外ナク若シ又政府ガ取締ラントスルモ能ハザルモノトスレバ政府ノ威令行ハレザルコトヲ証スルモノナリ政府ノ威令行ハレズシテ治外法権ノ撤廃ヲ要求スルハ主張ニ矛盾アルヲ認メザルヲ得ズ支那人ハ今日列国中外国人ニ治外法権ヲ許スモノ唯支那一国アルノミトテ憤慨スルモ之ト同時ニ列国中「ボーイコツト」ノ取締ヲ怠ルモノ唯支那アルニ止マルハ亦奇異ナル現象ナリ之ヲ要スルニ我々ハ十年二十年ノ前途ヲ考フレハ日支両国カ政治上ニモ経済上ニモ互ニ提携協力セザルベカラザルコトハ極メテ明瞭ナル事理ニシテ自分ハ不肖乍ラ前々内閣ノ時ニモ之ヲ以テ対支方針ノ基調トシテ其ノ実行ニ努力セリ即チ関税会議当時ノ如キ我国ハ各国間ヲ斡旋シ卒先シテ支那ノ要望ノ達成ニ尽力セルカ突如支那国内政変ノ為支那委員姿ヲ匿シ為ニ会議中止ノ已ムナキニ至レル次第ニテ其後間モ無ク支那ハ二分五厘ノ関税増徴方一方的ニ断行セルカ右ハ如何ナル事情ニ依ルモ条約違反タルコト争フベカラザルトコロニシテ引続キテ南京事件ナルモノ発生セリ是ニ於テ日本ノ公正ナル政策行動ハ支那ノ為ニ裏切ラレ我々ハ恩ヲ怨ニ依リ報ヒラレタルノ姿トナレリ我方トシテハ今後ト雖モ同様支那ニ対シ公正ノ態度ヲ以テ進ム考ナルモ我々ノ方針カ我国内ニ於テ国民ノ同情ヲ得テ遺憾ナク実行セラレムガ為ニハ支那ニ於テモ日本ニ報ユルニ等シク公正ノ態度ヲ示スコト絶対ニ必要ナリト述ベタリ張繼ハ深ク之ニ同感ノ意ヲ表スルト共ニ関税増徴並南京事件ガ何等日本ニ対スル非友誼的意向ニ出デタルモノニ非ザルコトヲ弁疎セリ

（欄外記入）

此ノ部分在外公館ニ送付ノモノ即チ本紙ハ原会談要領ト多少ノ相異アリ原会談要領参照

**編注一**　前記欄外記入に対し、原会談要領より、「之ハ単ナル自個ノ思付ニシテ未タ研究ヲ加ヘ居ル次第ニ非ザルモ」が削除されている。

**編注二**　原会談要領より、「其為ニハ例ヘバ両国ガ何等カノ形ニ於テ相互的ニ其ノ領土権ノ不可侵ヲ約束スルコトトセバ如何カト思ハルト云ヘルニ汪公使ハ右ハ確ニ両国国交上有益ナルベシト云ヒ、張モ甚ダ面白キ案ナルニ付研究スベシト述ベタリ」が削除されている。

**（付記一）**

日支関係ノ改善策ニ関スル件

日支関係ノ不満足ナル現状ニ顧ミ之カ調整ヲ計ラムカ為種々ノ考慮アルカ中ニ来ル日支通商条約改訂商議ト雁行シテ両国間ニ一種ノ政治条約ヲ締結シ其ノ中ニ相互的ニ(イ)領土不可侵(ロ)紛争ノ平和的解決(ハ)各領域内ニ於ケル他方ノ権益ノ尊重(ニ)両国民ノ合法的経済活動ノ擁護ノ趣旨ヲ規定セムトスル考案ハ其ノ性質極メテ重大ニシテ此ノ際之ヲ各方面ヨリ検討シ置クノ要アリト思考スルカ故ニ今右考究ノ結（欄外記入）



果ヲ摘記スルニ左ノ如シ

先ツ右考案ノ内容ハ之ヲ日支関係ノ実際ニ当嵌メ端的ニ云ヘハ要スルニ日本側ニ於テ支那ニ対シ何等侵略的行動ニ出テサルヘキコトヲ約スル代リニ支那側ニ於テ同国ニ於ケル日本ノ条約上其ノ他ノ権益ヲ尊重スルト共ニ「ボイコット」等ノ不法行為ニ出テサルヘキコトヲ約セシメムトスルモノニシテ極メテ時宜ニ適シ若シ斯ル協定ニシテ支那側ノ同意ヲ得且同国ニ於テ之ヲ恪守スルノ誠意ヲ示ストセムカ日支関係ノ憂慮スヘキ傾向ハ一朝ニシテ之ヲ転回シ得ヘシト云フモ過言ニアラス然レトモ国民政府ノ現状ヲ以テスルニ果シテ斯ル重大ナル政治協定ヲ締結スルノ実力ヲ有スルヤ否ヤ頗ル疑ハシキモノアリ

第一、本件協定ニ依リ日本側ヨリ支那側ニ与ヘムトスルモノハ支那ノ領土不可侵従テ日支間紛争ノ平和的解決ノ約束ニ在ル処此ノ約束ニシテ当然支那側ヨリ要求スヘシト想像セラルルカ如ク絶対ノ不出兵ヲ含ムモノトスレハ国内殊ニ軍部方面ノ意向ヲ取纏ルニ相当ノ困難ヲ豫想セサルヘカラス而シテ仮ニ此ノ困難ヲ突破シ得タリトスルモ右約束カ国民政府ニ取リ果シテ幾何ノ誘因トナリ得ヘキヤ疑ナキ能ハ



ス元来支那ノ如ク原則トシテ自ラ国内ノ治安ヲ維持シ得サル国ニ対シテハ居留民保護ノ為メ当該国ニ於テ軍艦派遣、出兵其ノ他必要ノ自衛措置ニ出ツルヲ得ヘキコト一般ニ国際法上容認セラルル所ナルモ国民政府ノ立場ヨリ云ヘハ出兵ハ如何ナル場合ニ於テモ国際違反ニシテ今更出兵セスト約スルモ当然為スヘカラサルコトヲ為サスト約スルモノニシテ何等新ナル利益ヲ提供スルモノニ非スト主張スルコトアルヘク又之ヲ実際問題トシテ考フルモ近クハ済南事件ノ実例ニモ顧ミ日本ハ内外輿論ノ手前将又財政上ノ理由ニ依リ永キニ亘リ支那ニ出兵シ得サルコト国民政府当路者ノ確信シ居ル所ニシテ彼等トシテハ日本ノ出兵ニ対シテハ外国際聯盟、不戦条約ノ関係等ヲ利用シ内激烈ナル「ボイコット」ヲ施セハ足レリト為スモノナルコト殆ント疑ナキモノノ如シ

第二ニ我方カ右不可侵ノ対償トシテ支那側ヲシテ尊重セシメムトスル条約上ノ権益其ノ他ハ仮ニ来ル日支通商条約改訂交渉成立スト見テ其ノ前后何レノ時機ニ於ケルモノヲ指スヤ一見明ナラサル処右交渉前ノ事態ヲ指スモノニ非サルコトハ疑ノ餘地ナカルヘシ蓋シ右交渉ニ依リ正ニ何者カヲ得ムト期待シツツアル支那ニ対シ現在ニ於ケル我在支権益ノ尊重ヲ求ムルモ先方ノ同意ヲ得ルノ餘地ナキコト明瞭ナルヲ以テナリ又不幸ニシテ該交渉不調ニ終レル場合ヲ想像セムニ本件権益カ右不調ノ事態ニ於ケル権益ヲ指スモノニアラサルコトモ亦疑問ノ餘地ナカルヘシ蓋シ通商条約交渉不調ニ終リタル場合ハ支那カ再ヒ混乱ニ陥リテ交渉ノ相手方ナキニ至リタル場合ナルカ或ハ国民政府ニ於テ結局我方ノ主張ト妥協シ得サリシ不満ノ場合ニ外ナラサルヲ以テ此ノ不満ノ事態ヲ確認セムトスル提議ニ対シ支那側ニ於テ応諾スルヲ得サルヘキハ明ナルヲ以テナリ従テ問題トナリ得ヘキハ通商条約改訂商議兎モ角モ成立シ日支ノ関係或程度ノ局面展開ヲ見タル場合ナルヘキ処此ノ場合ニ於ケル日本ノ在支権益ヲ想像スルニ關東州満鉄附属地ノ如キ政治的権益ハ勿論経済上ニ於テモ或程度迄我重要権益ヲ保留シ居ルモノト見サルヘカラス然ルニ支那側ヨリ之ヲ見ルニ此ノ事態殊ニ前記政治上ノ権益ハ之ヲ永久的状態トシテ確認シ得ヘキモノナリヤ否ヤ仮ニ楽観的見解ニ従ヒ支那側ノ責任アル政治家ハ旅大若ハ満鉄回収ノ如キハ真面目ニ之ヲ考ヘ居ラスト仮定スルモ少クトモ之等ノ権益ヲ国権回復ノ目標ヨ

リ明白ニ除外スルカ如キ協定ニハ如何ナル支那政治家ト雖モ同意シ得サルヘキコト想像ニ難カラス此点差当リ旅大等ノ抛棄ヲ問題トシ得サル我為政家ノ立場ト恰モ正反対ナリト云フヲ得ヘシ

第三ニ更ニ我方カ対償トシテ求メントスル「ボイコット」ノ抛棄問題如何ト云フニ此ノ手段ハ支那ニ於テハ経済的手段ニアラスシテ政治的方便ナリ最近支那側カ外国ニ施シテ明ニ勝算アルコトヲ確信スルニ至レル唯一ノ武器ナリ即チ此ノ武器ハ支那ニ取リテハ国家防衛ノ手段タルト同時ニ国権回復ノ要具ナリ故ニ支那カ其ノ国権回復ノ宿望ヲ遂ケ諸外国ト平等ノ関係ニ立ツニ至レル暁ハイザ知ラス其ノ以前ニ於テ名実共ニ斯ル貴重ナル武器ヲ抛棄スヘシトハ到底想像シ得ラレサル所ナリ

要之支那側トシテハ本件協定ニ依リ我方カ収メムトスル所カ之ニ対シ与ヘムトスル所ニ比シ餘リニ多大ナリトノ主張ヲ為スヘク旁々本件協定ハ支那側ノ応諾ヲ得ルコト極メテ困難ナルヘシト思考セラル尤モ右ハ支那側ノ立場ヨリ見タル主張ニシテ公平ナル第三者ノ立場ヨリ考フルニ仮令我方ノ与ヘムトスル不可侵ノ約束カ当然ノ事柄ナリトスルモ支





ニ至リテハ特ニ之カ締結ノ必要ニ迫ラレ居ル事情アルニアラス従テ之ヲ開談スルノ利害得失ニ就テハ豫メ十分考量スルノ要アルコト勿論ナル処本件協定ハ前述ノ如ク支那現下ノ政情ニ鑑ミ成立ノ望極メテ乏シキノミナラス動モスレハ我方ノ求メムトスル権益尊重ヲ切掛ニ旅大回収乃至満洲問題ニ関スル論議ヲ誘発スルノ危険ナシトセス従テ通商条約ノ商議比較的満足ノ効果ヲ収メタル場合ニ於テモ本件開談ノ得失ニ付テハ更ニ一段ノ考究ヲ遂クルノ要アリト思考セラル

但シ本件ノ如ク重要ナル政治的効果ヲ収メムコトヲ期スルヲ止メ単ニ日支関係改善ノ一助トシテ日支通商条約改訂成立ノ暁両国間ニ不戦条約ノ精神ヲ一層高調シ両国間和親修好ノ趣旨ヲ両国民ニ徹底セシムルノ目的ヲ以テ一ノ共同宣言ヲ発スルカ如キハ支那現下ノ政状ニ徴スルモ敢テ紛糾ヲ醸ス恐ナカルヘキノミナラス之カ為齎シ得ヘキ精神的効果ニ至リテハ軽視スヘカラサルモノアルヘシ

（欄外記入）
為参考保存

昭和五年十二月谷亜細亜局長下ケ、昭和四年九月五日幣原外務大臣張継会談中ノ不侵略協定云々ニモ関係アリ当時ノ谷亜細亜第一課長執筆ニ係ルモノト認メラル

（欄外記入）

**（付記二）**

日支関係改善ニ就イテノ或種ノ考案ヲ評ス

日支関係ノ不満足ナル現状ニ顧ミ之レガ匡正ヲ計ランガ為種々ノ考案アルトコロ日支関係ヲ不満足不安且険悪ナラシメツツアル原因ハ種々アルベキガ重ナル原因トシテハ左ノ三ツヲ挙グルヲ得ベシ

㈠所謂満洲問題ナルモノノ存在スルコト

㈡支那カ事アル毎ニ排日排貨ノ行為ニ出ツルコト

㈢支那カ我国ノ領土的侵略的野心ヲ恐レ居ルコト

従テ右ノ中一又ハ二若クハ全部ヲ取入レ日支間ニ何等カノ協定ヲ締結シ以テ其ノ険悪ナル現状ノ改善ヲ試ミルコト肝要ナリトノ意見少ナカラス

㈠所謂満洲問題ナルモノノ実体如何ニツキテハ人ニ依リテ其ノ見解ヲ異ニスルモ何レノ見解ヲ執ルトスルモ其ノ解決ハ極メテ困難ニシテ満洲問題ハ実ニ日支関係ノ癌ナリ

ト称スルモ過言ニアラス關東州租借地並ニ滿鉄ノ期限延長問題ハ商租権問題並ニ南滿洲内地居住営業等ノ問題ト共ニ大正四年ノ日支条約ニ依リ決定セラレタルトコロナルカ支那ハ該条約ノ効力ヲ争ヒ商租ノ実行ヲ妨害シ我国民ノ内地居住営業ヲ不可能ナラシムルハ勿論關東州租借地並ニ滿鉄ノ回収ヲモ機会アル毎ニ論議シツツアリ現ニ滿洲ニテハ内地居住ノ本邦人及ヒ朝鮮人ヲ直接又ハ間接ニ圧迫シ立退キヲ迫リ又ハ其ノ支那人ヨリ賃借セル土地ニ対シテ圧迫ヲ加フルコト等ヨリ発生スル紛議頗ル多キノミナラス關東州租借地並ニ滿鉄回収問題トハ別ニ支那ハ我国ノ附属地行政権ヲ争ヒ最近ニハ亦附属地内我郵便局撤退問題ヲモ再燃セシメントスル模様アリ加之我国民ニシテ滿鉄附属地外ニ支那人ト共ニ鉱山ヲ経営シ支那人ヲ通シテ森林事業ニ投資セルモノ頗ル多ク之レハ我国ト滿洲トノ特殊ノ関係上已ムヲ得サルトコロナルニ此等ニ対シテモ着々圧迫ヲ加ヘ居ル外支那側ハ明治三十八年北京ニ於ケル日清交渉会議録所載ノ支那全権ノ声明ヲ無視シ近来盛ニ滿鉄ニ対スル併行線ヲ建設シ居レリ要之支那ハ利権回収ノ見地ヨリ我国ノ滿洲ニ於ケル特権ハ勿論経



済的利益ヲモ挙ケテ之レヲ回収セムトシ漸次ニ積極的行動ニ出テツツアルモノナルカ我国トシテハ我国ト滿洲トノ地理的歴史的及ビ経済的ノ関係ヨリ支那ノ此ノ態度ヲ無条件ニ忍容スルコトヲ得サル立場ニ在ルカ故ニ我国ト支那トハ此等ノ滿洲問題ヲ中心トシテ現ニ争闘ヲナシ此争闘ハ将来益々重大性ヲ帯ヒ来ルヘキ危険有リ於之識者ノ中ニハ所謂滿洲問題中如何ニスルモ我方ニ於テ譲リ得サル限度ヲ決定シ之レニ対スル決心ノ程ハ初メヨリ端的ニ之レヲ支那側ニ知ラシメ置クヲ要シ此限度以外ハ支那トノ間ニ交譲妥協シ以テ滿洲問題ノ解決ヲ遂ケ若ハ紛糾ノ度ヲ軽減セサルヘカラストノ議論ヲ為ス者アリ而シテ譲歩シ得サル最少限度ヲ何レニ置クヘキヤニツキテハ議論必スシモ一ナラサルヘキモ租借地並ニ滿鉄ノ保留ヲ以テ此限度ト為サムトスルモノ少カラサルカ如シ然レトモ他ノ一部ニハ単ニ租借地ト滿鉄ノ保留ノミニテハ我国ノ滿洲ニ於ケル経済発展ハ之レヲ期スルヲ得サルカ故ニ租借地並ニ滿鉄ノ期限延長ハ勿論少クトモ大正四年ノ日支条約ニ規定セラルルトコロノモノハ何等カノ形ニ於テ支那ヲシテ之レヲ認メシメサルヘカラスト為スモノアリ上記何レノ場合ニ於テモ問題ノ取扱方ニツキテハ二様ノ考ヘ方有リ即チ進ンテ問題ノ解決ニ向ツテ進マントスルモノト此等ノ問題ハ何レモ至難ニシテ到底解決ハ期シ得ラレサルヘキモ之レヲ此儘ニ放置スルニ於テハ日支ノ関係ヲ極メテ険悪ナラシムヘキカ故ニ此等ノ問題ハ其ノ儘蓋ヲシテ置クコトシテ一時ヲ糊塗スヘシト為スモノト之レナリ

解決ノ方針ニテ進ムトスルモ元来租借地及滿鉄期限延長ノ事ハ商租其ノ他ノ問題ト共ニ所謂二十一ヶ条問題ト関聯セル日支条約ノ規定スルトコロナルヲ以テ之レヲ支那ニ認メシムルコトハ殆ント不可能ニシテ殊ニ近来ノ如キ利権回収観念ノ旺盛ナル時期ニ於テ之レヲ承諾セシムルコト至難ナリトス之レ前記第二案ノ如キ蓋ヲスル案ノ生スル所以ナルガ蓋ヲスルト云フコトハ実行サルルトスレハ畢竟本問題ニ関スル論議ヲ避ケ支那側ノ利権回収活動ヲ中止セシムルコトヲ意味スルコトトナルヘキトコロ滿洲ニ於ケルカ如ク日支関係錯雑シ紛乱セル事態ニ対シ蓋ヲスルト云フカ如キコトハ言フヘクシテ行フヘカラサルコトニハアラサルカ蓋ヲスルト云フコトヲ支那側トノ間ニ約セントスル形式トシテ例ヘハ

「締約国ノ一方ハ其ノ領域内ニ於テ他方ノ有スル条約上其ノ他ノ権利利益ヲ尊重スルコトヲ確認シ之レヲ完全ニ擁護スヘキコトヲ約ス」

ト云フカ如キコトヲ考ヘ得ベシ然レドモ支那ニシテ日支条約ノ効力ヲ争ヒ居ル限リ上記ノ如キ規定ヲ設クルトスルモ互ニ尊重スヘキ権利及ビ利益ノ範囲明瞭ヲ缺キ何等事態ヲ安定スルノ効果無カルヘク而カモ「条約上云々」ノ意義ヲ明確ニスル為メ例ヘハ大正四年ノ日支条約ヲ支那側ヲシテ認メシムトセハ之レ全然不可能ノ事ナルヘシ所謂「蓋ヲスル」ト云フ観念ハ現状維持ト云フカ如キ語ヲ以テ表示セハ可ナラムトノ論モ有之ヘキモ現状維持トハ国境ノ如キ明瞭ナルモノニ対シ将来之レヲ変更セサルヘキコトヲ約スルカ如キ場合ニハ極メテ適切ナル語ナルモ本問題ノ如キ紛乱セル而カモ現ニ争ハレツツアル事態ニ対シテハ適用困難ニシテ要スルニ先ヅ何カ現状ナルカヲ明白ニスルヲ要スベク而シテ之レヲ定義スルコト自体既ニ困難ナリ

(二)支那ニ於ケル対日「ボイコット」ハ我国ニ取リ甚タ不利

益ナルノミナラス日支国交ノ大局ヨリ見ルモ甚タ危険ナルモノナルヲ以テ日支関係ヲ顧念スルモノハ之レヲ終止セシムルコトニツキテ何等カノ方策ナキヤニ苦心シツツアリ而シテ一部ニハ前項満洲問題ト共ニ或ハ独立シテ例ヘハ

「締約国ノ一方ハ其ノ領域内ニ於テ他方ノ国民ノ商業上又ハ経済上ノ合法的ナル行動ヲ阻害セサルコトヲ約ス

締約国ノ一方ノ国民ノ生命及財産ハ他方ノ領域内ニ於テ不可侵ニシテ如何ナル個人又ハ団体ノ不当ノ侵害ヨリモ完全ニ保護セラルヘキモノトス」

ト云フカ如キ取極ヲ日支間ニ締結セムトスル者有リ然ルニ「ボイコツト」ナル手段ハ最近支那カ外国殊ニ我国ニ対シ明ニ勝算アルコトヲ確信スルニ至レル唯一ノ武器ナリ即チ該武器ハ支那ニトリテハ国家防衛ノ手段タルト同時ニ国権回復ノ要具ナルヲ以テ支那カ其ノ国権回復ノ宿望ヲ遂ケ諸外国ト平等ノ関係ニ立ツニ至レル暁ナラハイザ知ラス其ノ以前ニ於テ之レヲ放棄スヘシトハ到底想像シ得サルトコロナリ尤モ極メテ曖昧ナル用語ヲ以テスレハ何トカ協定ニ達スル途アルヘキモ如此場合ニハ文字ニテ表示スルノミニシテ何等ノ実効ハ期待シ得ヘカラス支那ノ「ボイコツト」ニ於ケルハ恰モ「ソビエツト」露西亜ノ宣伝ニ於ケルニ等シ、宣伝カ「ソビエツト」露西亜ノ主義伝播ノ唯一ノ武器ナルカ如ク「ボイコツト」ハ支那ニトリ国権回復ノ唯一ノ武器ニシテ、宣伝カ「ソビエツト」露西亜ト各国トノ間ノ条約協定ニ於テハ禁止セラレ居ルニ係ラス実際ニ於テ其ノ効果ナキ如ク例ヘ支那ト我国トノ間ニ「ボイコツト」禁止ノ協定成立スルトスルモ（此事望無キハ前述ノ如シ）差シタル効果ナキコト疑ヲ容レス

(三)我国カ支那殊ニ東三省ニ対シ領土的野心ヲ有スルトハ支那側ノ常ニ口ニスルトコロニシテ日支関係ヲ険悪ナラシメツツアル一原因ト認メラルルヲ以テ一部ニハ日支関係ノ極メテ険悪ナル此際相互ニ領土ノ保全及政治上ノ独立ノ尊重ヲ約スルコトハ大局上有益ナリト考フル者有リ

然ルニ支那ガ我国ノ領土的野心ヲ危懼セリト云フハ果シテ如何ナル程度ノモノナリヤニツイテハ多少疑問ノ余地無キニアラス支那ガ従来凡ユル機会ヲ利用シ我国ガ支那殊ニ東三省ニ領土的野心ヲ有スルカ如ク宣伝シ来リタルハ事実ナルモ我国歴代ノ政府ハ機会有ル毎ニ支那ノ領土保全ニ関スル意思ヲ表明シ居ルノミナラス九国条約ノ如キハ最モ明白ニ之レヲ規定シ居レリ加之近時国際聯盟カ漸次国際間ニ重キヲ為シ来リ最近又不戦条約カ効力ヲ発生スルニ至レル如キ世界的趨勢ハ支那トシテモ明瞭ニ之レヲ認識シ居ルトコロナルヘケレハ同国カ真実ニ我国ノ領土的野心ヲ恐レツツアリヤ否ヤニツキテハ相当ノ疑問有リ即チ支那カ我国ノ領土的野心ヲ云々スルハ之レヲ以テ我国ノ民力カ支那殊ニ満洲ニ進出スルコトヲ抵制セムトスル宣伝ノ目的ニ出テ必スシモ衷心ヨリ之レヲ危懼スルモノト認メラレサル節有リ固ヨリ領土不可侵ノ如キハ我国トシテ何度ニテモ繰返シテ之レヲ約束スルニ異議アルヘキ筈ナキノミナラス之レニヨリテ多少ナリトモ支那ニ安心ヲ与フル効果有リトスレハ決シテ之レカ約束ヲ為スニ躊躇スヘキニアラスト雖トモ之レノミニテハ日支間ノ険悪ナル感情ヲ融和スル上ニ多キヲ期待スルコト能ハサルヘシ

若シ夫レ領土不可侵ノ約束ニヨリテ上述ノ満洲ノ現状維持及「ボイコツト」ノ禁止ノ二若ハ一ヲ支那ヲシテ約束セシメムト考フルモノアラハ右ハ蟲ノヨキ考ヘニシテ支那トシテハ領土不可侵ノ約束位ノ対償ニテハ何等実質有ル約束ヲ我国ニ与ヘザルヘシ

要スルニ日支ノ険悪ナル関係ハ極メテ憂慮スヘキモノ有リテ何等カ之レガ調整ノ方法ヲ案出スルノ要有リト雖トモ公平ナル第三者若ハ日支関係ノ大局ヲ顧念スル者ノ当然ト信スル調整ノ方法モ何等顧ミラルル事無キトコロニ支那ノ現状有リ従ツテ我国トシテハ此際ハ寧ロ重要ナル政治的効果ヲ目的トスルカ如キ政治的協約又ハ取極ノ如キモノノ締結ヲ考ヘス時ニ応シ機ニ臨ミ過渡的弁法ヲ以テ事態ノ悪化ヲ緩和シ以テ状勢鎮静ニ向ヒ国民党乃至国民政府ノ態度穏健トナルヲ待ツカ若ハ事態ガ愈々益々悪化シ国民政府ハ勿論国民党部其ノ他一般民衆モ其ノ重大ヲ自覚スルカ如キ状況ニ立至ルニ及ヒ例ヘハ我国ヨリ特派全権大使ヲ派シテ大局上ヨリ問題ノ解決ヲ計ルヨリ外ナカルヘシ

（欄外記入）
為参考保存
昭和五年十二月谷亜細亜局長下ケ

昭和四年九月五日幣原外務大臣張継会談中ノ不侵略協定云々ニモ関係アリ当時ノ有田亜細亜局長執筆ニ係ルモノト認メラル

〰〰〰

サレト吾人ハ新公使ニ対シ短期間ニ種々ノ懸案ヲ解決スヘシト求ムルモノニアラス望ム処ハ前述ノ如ク日本ヲシテ先ス根本的ニ支那ヲ了解セシムルニ力ムルニアリ。日本カ之ヲ了解スルニ於テハ幾多ノ懸案ハ期セスシテ解決セラルヘシ。

本信写送付先　在支公使、在上海、奉天各総領事、南京領事

651　昭和4年9月25日　幣原外務大臣より　在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

**法院改革に際しては租界の治安維持に影響を及ぼさないことを主眼に関係国および中国側に対処方訓令**

本省　9月25日後3時40分発

第三〇六号（至急）

貴電第一〇五九号㈡ニ関シ

我方トシテハ本件ニ関シ支那側ノ意嚮トシテ伝ヘラルルカ如キ急激ナル変革ニ対シテハ之ヲ斥クル一方法院改革ノ結果租界ノ治安維持ニ影響ヲ及ボシ又ハ租界行政ニ支那側ノ干渉ヲ見ルガ如キコトトナラザル範囲ニ於テ支那側ノ要求ヲ容レ且之ト同時ニ新法院ノ権限手続等ヲ成ルヘク明確ナラシメ将来無用ノ紛議ヲ避クル様致度意嚮ナリ之レカ為関係国側ト歩調ヲ一ニスルト共ニ本件支那側ノ要望ニ対シテモ相当ノ考慮ヲ払ヒ治外法権撤廃問題ニ対スルト同様ノ同情的立場ヲ採ルコト必要ナリ従テ「デピューテイー」側ノ意見（機密第六三五号貴信）ノ如キハ臨時法院ノ権限ヲ明確ナラシメ無用ノ紛議ヲ避ケントスル点ニ於テ大ニ見ルヘキ点アルモ支那側ノ要望ヲ無視セルモノト称スルモ過言ニ非サルヲ以テ其儘ニテハ本件解決ノ基礎トシテ不適当ナルヲ免カレス而シテ之カ解決案トシテハ技術上ヨリ云フモ種々考案アルヘク我方トシテハ目下大体上海来電第七八四号ノ案ヲ基礎トシテ具体案講究中ナルニ付右御含置ノ上可然御措置相成度シ

上海、南京ヘ転電アリ度シ

652　昭和4年10月4日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

**西原借款は認めていない旨の王外交部長談話について**

南京　10月4日後発
本省　10月5日前着

第一〇二五号

王正廷ハ四日外交部ニ於ケル記者団トノ会見中西原借款ニ関シ特ニ左ノ通声明セル趣ナリ

国民政府ハ済南事件解決ニ当リ西原借款ヲ承認セル旨外間伝ヘラルル処済案解決ノ際国民政府ハ西原借款ヲ承認セサリシノミナラス双方共本件ヲ持出シタルコトナキヲ今日茲ニ鄭重ニ声明ス本件ニ関シテハ中央政治会議及中央党部ヨリ曩ニ公文ヲ以テ問合セアリタルニ付外交部ハ正式ニ之カ否認ノ回答ヲ発シタルカ此ノ種外間ノ謡言ハ一笑ニ値セス云々

支、上海、奉天ニ転電セリ

653　昭和4年10月8日　在上海重光総領事より　幣原外務大臣宛

**中国側の輸入税則善後章程改正に対し我が方は関税自主権を承認していないため領事官会議に訂正を提議について**

機密第一一七一号　（10月12日接受）

昭和四年十月八日

在上海
総領事　重光　葵〔印〕

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

税率査定申請委員会ニ関スル件

本件ニ関シ八月十四日附普通第九三七号拙信ヲ以テ及報告置キタル処客月中当地聯合商業会議所会頭ヨリ首席領事宛本件規則ハ領事団ノ承認ヲ経タルヤ否ヤ若シ承認ヲ経タリトスレハ其効力ニ於テ溯及シ得ルモノナリヤ問合セアリ九月二十六日首席領事ヨリ本官ニ対シ右ニ関シ外交団ニ請訓方可然トノ意見ナルカトテ首席公使宛書翰案ヲ内示シ来レルカ其内容ハ「支那側委員会ノ設置ハ関税自主ノ自然的結果ナルヤニ認メラルルヲ以テ其旨商業会議所ニ回答シ差支ヘナカルヘキヤ並ニ此種関税ニ関スル規則ヲ関税自主ノ時迄溯及セシムルコトヲ得ルヤ否ヤ外交団ノ意見ヲ承知致シ度ク又本件ニ付支那側ヨリ領事団ニ何等豫告ナカリシモ此種規則ノ変更ニ付テハ支那側ニ於テ相当ノ豫告ヲ与フヘキ

モノト思考セラル客年十月二十七日附首席領事宛首席公使書翰（客年十一月一日附北平発本省宛機密第一二〇三号添付）ニ依レハ外交団ハ新税率実施ニ付支那側ヲシテ相当期間ノ豫告ヲ与ヘシムル様尽力スヘキ旨言明セラレタルカ右ハ果シテ成功セリヤ否ヤ又右ノ相当期間ノ豫告ヲ与フヘシトノ原則ヲ税率ノミナラス此種手続ノ変更ニモ援用スルコトヲ得サルヤ否ヤ併セテ外交団ノ意向ヲ伺ヒ度シ」ト謂フニ在リテハ関税自主ヲ承認シ居ラサル我方トシテハ承認シ得サル節アリシヲ以テ我方ニ於テハ尚支那ノ関税自主ヲ認メ居ラサルコトヲ述ヘ之カ訂正方提議シ置キタルカ本月七日首席領事ヨリ本月四日附ヲ以テ結局何等「コメント」ヲ附セス前記商業会議所書翰写ヲ首席公使宛送付シ外交団ノ考慮ヲ求ムルコトトセル旨通知越セリ

右報告ス

本信写送付先　北平　南京

## 654

昭和4年10月(18)日　在中国堀内臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

**法院回収に関する専門委員会案に対する我が方修正意見回示方請訓**

北平　発
本省　10月18日前着

第一一四九号

往(1)電第一一四五号ニ関シ

(一)専門委員提出ノ両案内容ヲ検討スルニ

(イ)a案ハ支那側ニ取リテハ臨時法院回収ヲ建前トシ居レル面子上受容レ易カルヘシト認メラレ又列国側ヨリ之ヲ見ルモ本案カ全然新ナル見地ヨリ発シタル根本的改造案ナルニ拘ラス領事裁判制度ニハ何等ノ影響ヲ及ホササル点ハ本案受諾ヲ容易ナラシムルモノト言フヘク加之本案ハ上海発閣下宛機密第七七七号公信長谷川副領事意見末段ノ改造案ト行キ方ヲ略同シクシ得ルヤニ認メラルル次第モアリ我方トシテ主張上之カ採用ニ決定シ差支ヘナキヤニ認メラル

唯(二)項判決等ハ総テ外支判事三名ノ意見一致ヲ効力発生ノ条件トスル処前例ニ鑑ミルモ意見一致セサル場合相当アルヘク其ノ調節方法タル追加「サジエスチョン」(四)ニテハ事実ヲ瞞化(ママ)スル嫌アルニ付一層適切ナル方法ヲ更ニ





講スルノ必要アリ又(五)項支那行政官憲ノ圧迫ヲ事実上防止取締方法ヲ講シ置ク要アルヘシ

(ロ)b案ハ刑事事件ニ付テハ上海発閣下宛電報第七八四号末段最後案ニ一歩ヲ進メタル程度ノ譲歩案ナリト言ヒ得ヘキモ大体ニ於テ此ノ程度ノ案ニ依リ解決スルモ差支ナカルヘキヤニ思考セラレ殊ニ本案中段外国人判事ノ傭聘案ニ依リ進ムニ於テハ之(2)ニ成功セハ列国側ニ於テ相当強キ保障ヲ取付ケ得ル次第ニテ妙案ナリト認メラル乍併交渉ノ模様ニ依リ譲歩スヘキ諸点トシテ掲ケラレタル中(二)乃至(四)ノ趣旨殊ニ民事事件ニ関シテハ貴電第三〇六号ノ御趣旨ニ鑑ミルモ稍譲歩ニ過クル嫌アリト言フヘシ

(二)前記ノ次第ナルニ付ａｂ両案何レニ対シテモ我方ヨリ適当ノ修正ヲ提議スル必要アルヤニモ思考セラルル処若シ修正意見ヲ提示ストセハ五国公使非公式会合又ハ専門委員会ニ対シ早目ニ之ヲ為スコト然ルヘク本訓令案一旦外交団本会議ニ上提(程カ)セラルルニ至リテ後提出スルモ我方主張ヲ貫クコト困難ナルヘキニ付テハ右御含ノ上何分ノ御意見至急御回訓相成様致シタシ

(三)尚我方ヨリ詳細ナル修正意見ヲ提出スル場合ニハ関係国公使乃至専門委員会ニ説明ノ必要モ起ルヘキニ付テハ豫テ御承認ヲ経置キタル清水長谷川両副領事ノ中一名至急当地ニ出張方御配慮アリタシ

上海、南京、奉天ヘ転電セリ

## 655

昭和4年10月(20)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

**日中通商条約改訂交渉準備のため佐分利公使王外交部長と諸問題に関し懇談について**

上海　発
本省　10月20日後着

第※一二一九号

佐分利公使ヨリ

一、本使今回南京滞在中ハ条約改訂交渉ニ入ラサルハ勿論具体的問題ノ解決ヲモ企図セス主トシテ両国間ノ感情ヲ融和シ一般空気ヲ良好ニ導ク事ヲ目的ト為シタル処蔣主席各院長王外交部長其ノ他国民政府及中央党部ノ首脳等各方面ノ要人ト接触ヲ計リ其ノ間殆ト連日宴席上ノ交歓

モアリ何レモ極メテ打解ケタル友好的空気ノ裡ニ終始スル事ヲ得タリ尚上海着以来今日迄当方面支那新聞記事モ大体良好ニシテ別段差支アリト認ムヘキモノモ見当ラス

二、右ノ如キ具体的交渉ニ入ルヲ避ケタルモ王外交部長トハ将来ニ於ケル条約交渉ノ準備トシテ前後数回ニ亘リ会見シ又特ニ九日、十四日、十五日ニハ長時間会談ス互ニ将来ヲ「コンミツト」セサル諒解ノ下ニ全然個人ノ資格ニ於テ下記ノ諸問題ニ付懇談ヲ重ネタリ

本使ハ先ツ今回ハ条約改訂交渉ニ入ラス一度北平ニ赴キ大連奉天等ヲ経由シテ帰国シ十一月中ニ再ヒ上海ニ帰来シタル上之カ交渉ヲ開始スル事ト致シ度キ旨ヲ述ヘタル処王ハ充分諒解シ且条約交渉開始遅延ニ依リ起ル事有リ得ヘキ支那輿論ノ不満ヲモ防遏スル事ニ努ムヘキ旨ヲ約束セリ

三、王正廷ト最初一、二回ノ会見ニ際シ本使ハ両国間ノ懸案中解決ノ容易ナラサルモノアリ固ヨリ可能ノ範囲内ニ於テ諸問題解決ノ為最善ヲ尽スヘキモ不可能ノコトハ始ヨリ之ヲ試ミサルコト緊要ナル旨ヲ強ク述ヘ置キタル処九日会見ノ節王ハ稍改マリタル口調ニテ満洲ニ関スル問題ハ一切提議セサルヘシト述ヘタル後尤モ此処ニ小問題ナルカ附属地郵便局撤廃及鉄道用以外ノ電信線ノ件アリテ交通部ヨリ之カ解決ヲ督促シ居ルニ付此ノ際急速ノ解決ヲ迫ルモノニ非サルモ斯ル問題ノ存スルコト丈ハ記憶シ置カレタシト述ヘ其ノ後モ王ハ会談中満洲問題ハ現在解決不可能ノ問題ナレハ之ニ触レサル旨ヲ述ヘタルコト再三アリタリ

四、排日排貨問題ニ付テハ本使ハ特殊ノ問題トシテ之ニ言及スルコトヲ避ケ他ノ問題ノ談話中夫レトナク之ニ触レ「ボイコツト」ノ不法性、之カ日本国民ノ対支感情ニ及ホシタル重大ナル影響ヲ述ヘ日本ノ一部ニ於テハ今回ノ本使来任ヲ機トシ支那側ニ於テハ条約交渉ノ駈引ニ利用セント企ツヘシトノ噂サヘアリタルコト又「ボイコツト」ハ国民政府ニ於テ抑圧スルノ意思アルモ其ノ能力ナキカ将又其ノ能力アルモ之カ意思ナキカ若シ前者ナラハ現政府ハ鞏固ナル政府ト言ヒ難カルヘク又若シ後者ナラハ之ト条約ヲ締結スルモ何時ニテモ人民ノ行為ニ依リ其ノ効力ヲ破壊セラレ結局無用ノモノナルヘシトノ説ヲ為スモノアルコト等ヲ説述シタルニ王ハ「ボイコツト」ハ





元来人民ノ感情ノ発露ニシテ政府機関ハ猥リニ抑圧スルヲ得サル事情アリ過般ノ「ボイコツト」ハ第二山東出兵ニ激発セラレ遂ニ深刻ナルモノトナリタルモ最近日本政府ノ対支政策一変シタル結果漸次鎮静ニ帰シ今尚幾分残存スルモノアルモ颱風一過後ノ餘波ニ過キス両国ノ関係円満ニ進マハ遠カラス終熄スルニ至ルヘシト述ヘタルニ付本使ハ「ボイコツト」ノ両国ノ親交ニ重大ナル悪影響アルコトヲ反覆強調シ置キタリ

五、日支両国間不可侵条約締結問題ニ付テハ蔣介石、王正廷ハ勿論何人ヨリモ申出ツルコト無カリシヲ以テ本使モ之ニ言及セス

六、通商条約改訂ニ関シテハ先ツ本使ハ本件ハ極メテ困難ナル問題ナルカ目下只管考究中ニシテ何等具体的解決案ヲ有スルノ域ニ達セス従テ先ツ果シテ本問題ノ解決ニ資スヘキ「ベーシス」アリヤ又現在支那側ニ於テ条約ニ関スル具体的問題ニ付如何ニ考ヘ居ルヤヲ承知シ度シト前置シ全然友人間ノ談トシテ関税、法権、内水航行、労働者入国等重要問題ニ付意見ノ交換ヲ試ミタリ要点以下数項ノ通

七、関税問題ニ付本使ハ支那ノ関税自主権回復ヲ承認スルト共ニ互恵税率ヲ設クルノ要アルコトヲ述ヘタルニ王部長ハ政府部内ニ於テ互恵税率問題ヲ篤ト考究シタルカ日本向支那商品ハ原料食料品ニシテ無税ナルニ反シ支那向日本商品ハ工業品ニシテ有税ナルカ故ニ税率ノ協定ヲ為スモ互恵ト言フヲ得ス支那国民ハ必スヤ虚偽ノ互恵ナリトテ反対スヘシ然レ共支那ハ政治的ニ日本ノ援助ヲ受クヘキカ故ニ其ノ対償トシテ経済的利益ヲ日本ニ与フル覚悟アリ依テ支那カ一方的ニ特定商品（品目ハ極度ニ限定スル積リノ如シ）ニ付一定ノ期間（特ニ一年ト言ヒ時ニ二、三年ト述ヘタリ）現行税率ヲ据置クコトト為スヘク其ノ形式トシテハ或ハ外部ニ公表セサル往復文書ニ依ルカ或ハ支那ニ於テ自発的ニ品目ト期限トヲ特定シテ据置ヲ決定シ其ノ旨ヲ日本ニ通告スルノ方法ヲ採ルコトヲ得ヘシ何レニスルモ所謂互恵税率ノ協定ハ実行困難ナリトノ意見ナリト述ヘタリ之ニ対シ本使ハ日支関税協定ノ例ヲモ引キ関税問題ニ対スル日本側ノ意嚮ハ北京会議以来終始一貫変ラサルモノニシテ今日ニ於テモ互恵税率締結ノ必要ヲ認メ居ルモノナルコトヲ述ヘ置キタリ

右ニ関聯シ王ハ陸境税率ノ廃止、大連、安東ニ於ケル輸出附加税ニ言及シ前者ニ付テハ華盛頓条約ニ依リ決定セラレ居ル事項ナルヲ以テ英仏ト共ニ速ニ実施シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ海陸一律ニスルコトハ必要ナルヘキモ地方的特殊利益ニモ鑑ミ之カ実施ニ至ル迄相当ノ猶豫期間ヲ設クル必要アルヘク又欧洲接壌国間ノ例ニ依リ一定ノ地域ヲ限リ一定ノ商品ニ付互恵的取極ヲ為スノ可否ニ付テモ考究中ナリト述ヘタル処王ハ貴説ノ如キ取極ヲ為スコトハ考量シ差支ナキモ右ハ一旦自主権ヲ回復シタル後ニ於テ設クルコトト致シタシト言ヒ尚二分五厘附加税ハ支那各地ニ於テ実施徴収セラレ居ルニ拘ラス大連安東ニ於テハ日本ノ実力ニ依リ之カ徴収ヲ阻止セラレ居ル処成ルヘク速ニ実施シ得ル様取計ハレ度シト述ヘタリ

八、本使ハ治外法権問題ニ付テハ日本ハ法権委員会ノ報告書ヲ基礎トシテ之ヲ処理スヘキモノト思考ス然ルニ伝ヘラルル所ニ依レハ支那ハ本年中ニ法典ヲ完成シ来年初ヨリ法権撤廃ヲ企図セル由ナルモ右ノ如キコトハ常識ヲ以テ殆ト想像シ得サル所ナリ本問題ニ対スル英米ノ態度ハ頗ル強硬ナルカ如キモ日本ハ英米ト支那トノ中間ニ於テ



合理的解決策ヲ案出シ英米等モ安心シテ各国一律ニ撤廃ヲ為スニ至ル様仕向クルコト日本ノ進ムヘキ正道ナリト思惟スト述ヘタルニ対シ王ハ支那側ハ法権委員会ノ勧告ヲ基礎トシテ本問題ヲ考ヘサルカ故ニ来年一月一日ヨリ法権撤廃ヲ実行スルヲ其ノ方針ト為セリト述ヘ自分ノ諒解ニ依レハ英米ハ来年一月ヨリ支那ノ開放地以外ノ内地ニ於ケル法権撤廃ニ異存ナキカ如シ

日支両国ハ特殊ノ関係アルヲ以テ支那トシテハ政治問題ノ対償トシテ経済問題ニ付日本ニ好意ヲ表示セント欲スルモノナルヲ以テ法権問題ニ付テハ是非共列国ヲ「リード」シテ之カ撤廃ヲ実行セラレン事ヲ希望シテ熄マスト述タリ本使ハ英米ノ態度ハ頗ル強硬ナリト諒解スルモ仮ニ貴説ノ通内地ニ於ケル法権ヲ撤廃スルトシテ開放地租界等ハ如何ニスル考ナルヘキヤト反問シタルニ王ハ支那ハ来年初ヨリ撤廃スル事ヲ方針トスルヲ以テ之ニ関聯スル暫行弁法ノ如キハ一切外国側ヨリ提議スヘキモノニシテ英国等ニ対シテモ之カ条件提出方ヲ申入レアルモ未タ提案ナシ又本年中ニ法権ヲ片付ケタル後租界ノ問題ハ来年中ニ之ヲ解決セントスルモノナリト述ヘ開放地トハ何

ラ指スヤトノ本使ノ問ニ対シ右ハ明瞭ナラサルモ条約ニ基ク開放地ヲ云フモノナルヘシト答ヘタルカ更ニ其ノ後ノ会見ノ節王ハ開放地ニ於テモ全然法権ヲ維持スルノ趣旨ニ非スシテ開放地ニ於テ起ル同一国籍ノ外国人間ノ事件ハ外国人顧問ヲ有スル特殊ノ裁判所ノ管轄トシ其ノ他異国籍人間ノ混合事件ハ支那ノ通常裁判所ノ管轄トスルモノナリト云ヒ又更ニ其ノ後ノ会見ニ於テ王ハ同一国籍人間ノ事件ハ支那ノ領域外ニ在ル当事者ノ本国ノ裁判所ニ繋属セシムル案ナラハ支那側ニ於テ好意的考慮ヲ加フヘシト述ヘ要スルニ具体的方法ニ付テハ深ク研究シ居ラサルモノノ如シ

九、次ニ本使ハ法権委員会ノ勧告ニ依レハ法権撤廃ト共ニ内地ハ当然開放セラルヘキ事トナレル処支那ニ於テハ昨年締結セラレタル数ケ国トノ条約ニ於テ右ノ趣旨ノ規定アリタルニ拘ラス国民政府部内ニ内地開放ニ対シ反対アル趣ナル処事実ナリヤト質問シタルニ王ハ一部ニ反対アリタル事ハ事実ナルモ約一ケ月ニ亘リ之ト論争シタル結果内地開放ヲ認ムル事トナリタリト答ヘタルヲ以テ本使ハ内地開放トハ如何ナル事ヲ意味スルヤト聞キタルニ王

ハ外国人ノ居住営業ヲ為シ得ル事ニシテ又工場倉庫ノ如キヲ設立スル為土地ヲ利用スル事ハ差支無ク外国人ノ工場ノ設置ハ歓迎スル処ナルモ支那ハ農業国ナルカ故ニ農業ノ為土地ヲ利用スル事ハ外国人ニ許ササル方針ナリト答ヘタルヲ以テ本使ハ支那ノ内地カ開放セラルル場合ニ於テ外国人ニ対シ土地ノ利用権ヲ与ヘラルルヤ否ヤハ最重要視スル所ナル旨ヲ強調シ更ニ苟モ外国人ニ私権ノ享有ヲ認メタル以上農業ノ為ニスル土地利用権ヲ制限セントスルハ広大ナル領土ヲ有スル支那ニ取リ無用ノ事ナルノミナラス法権問題ノ解決ニ障礙トナルヘキヲ怖ル御承知ノ如ク満洲ニ於テハ商租権ノ問題久シク懸案トナレルカ若シ支那ニシテ法権撤廃ノ当然ノ結果トシテ内地ニ於ケル外国人土地利用権ヲ認ムル事トナラハ右ノ懸案モ不知不識ノ間ニ解決セラルヘシト述ヘタルニ王ハ満洲問題ニハ一切触レサルヲ緊要トスヘク商租権ノ問題ハ所謂二十一ケ条ニ起原シ之ニ触ルル事極メテ危険ナリト答ヘタルヲ以テ本使ハ満洲ニ於ケル商租ノ問題トシテ取上クル時ハ面倒ナルヘキモ支那ノ領域ニ於ケル法権撤廃ニ伴フ一般内地開放ノ問題トシテ解決スレハ何等ノ困難ヲ惹起

スル事ナカルヘシト述ヘ置キタリ

其ノ後ノ会見ニ於テ王ハ自分ハ内地開放ハ白耳義等トノ条約ノ示ス如ク支那カ全然対等ノ関係トナリタルトキニ始メテ実行スヘキモノニシテ既ニ右ノ条約ニ於テ此ノ主義ヲ明カニ認メタル以上日本トノ関係ニ於テモ此ノ点ヲ動カスコトヲ得ス日本ニ付テ言ヘハ租界ノ外租借地等ヲ還付セラレタル後ニ至リ始メテ相互対等ノ関係トナリ内地開放カ可能トナル譯ナリトノ議論ヲ為シタルカ本使ハ之ニ対シ租借地鉄道等満洲ノ問題ハ之ヲ提起スルモ無用ナルヲ以テ之ニ触レサル諒解ナルカ他ノ問題ヲ議スルニ当リテ満洲ノ権益ノ還付ヲ前提トスルカ如キコトハ固ヨリ考フルコトヲ得ス故ニ内地開放ト満洲問題トハ全然別個独立ニ考察シテ解決ヲ企図スヘキモノナリト述ヘタルカ王ハ或ハ支那トシテハ二十一ケ条ヲ認メサルカ故ニ租借期限ハ原約ノ期限ニ従ヒ消滅シタルモノナリト言ヒ或ハ東支鉄道問題解決後日本ノ鉄道守備隊ノ撤退アリタク斯クスレハ内地開放問題ノ解決ニ当リ幾分カ困難ヲ除キ得ヘシ等ト述ヘ相当機微ノ問題ニ論及シタルモ本使ハ前者ノ問題ハ原約ノ期限ノ到来シタル際既ニ終了シタル問題ニシテ又大正四年ノ条約ノ有効ナルコトモ今更議論ノ餘地ナシ又鉄道守備兵ノコトハ満洲問題ノ一部ニシテ全然問題トシ得ス殊ニ秩序観念ハ支那ト日本トニ於テ大イニ異ナル日本ニ於テハ満洲ノ現状ヲ以テ完全ナル秩序アリト思惟スルコト能ハサルモノナリト述ヘ置キタリ

十、法権撤廃ノ保障ニ付テハ本使ハ法権撤廃ハ何時之ヲ行フヘキヤノ問題ハ暫ク之ヲ別トシ支那ノ司法制度ノ実状ニ顧ミ何レノ途撤廃ハ尚早ノ時期ニ之ヲ実行スルコトト成ルヘキヲ以テ適当ノ保障ヲ設クルコト絶対ニ必要ナリ而シテ其ノ具体的方法ニ付テハ目下攻究中ナル処二三気付ノ点ヲ挙クレハ例ヘハ一定数ノ主要都市ニ出来得ル限リ整備セル特殊ノ裁判所ヲ設置シ之ニ外国人ノ顧問ヲ置キ外国人ニ関スル事件ハ此ノ裁判所ヲシテ審理セシメ又一ノ裁判所ノ為シタル裁判ニシテ公正ナラサルトキハ同一審級ノ他ノ裁判所ノ再審ニ附スルコトヲ認ムルコト又外国人ノ弁護人及通訳ノ帯同ヲ認ムルコト民事拘留ニ関スル規程又ハ特定ノ支那法規ヲ外国人ニ適用セサルカ如キコト等ヲ考察シ得ヘシト述ヘタルニ王ハ特定ノ裁判所ヲ設ケ顧問ヲ置クコトハ差支無カルヘシト言ヒ又弁護士



ニ付テハ日本ニ於テモ外国人弁護士ノ出廷ハ認メラレサルニ非スヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ右ハ永久ノ措置トシテ要求スルニ非ス過渡的弁法ナレハ差支無カルヘシト答ヘ置キタリ尚之等ノ保障条件ヲ一ツ書キトシテ貰ヘマシキヤト申出タルモ本使ハ未タ其ノ時期ニ非スト認メ其ノ儘ト為シ置キタリ

十一、内水航行問題ニ関シテハ王ハ英国側ニ於テハ国内沿岸貿易ヲ外国ニ開放セサルヲ以テ支那トノ条約ニ於テ相互主義ニ於テ認容スルノ規程ヲ設クレハ可ナリト言ヒ居ルモ右ハ有名無実ノ相互主義ナルカ故ニ支那トシテハ之ヲ応諾スルコトヲ得ス

尤モ支那側トシテモ日本ノ利益ヲ尊重スル次第ナルヲ以テ之カ解決案トシテハ内水航行権ヲ支那ニ回復スルノ主義ヲ認メ経過的便法トシテ日支合弁ノ会社ヲ組織シ（支那側持株ヲ五十一「パーセント」トス）支那国旗ヲ掲揚シテ航行ニ従事セシムルカ又ハ特許制度ニ依リ航行ヲ認ムルカノ二案アル処日本側ニ於テ如何ニ考ヘルヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本側ニ於テハ目下攻究中ナルモ右英国側ノ意見ト同様相互主義ニ依リ開放スルヲ適当トストノ議論ヲナスモノアリ又日本ノ関係当業者ハ合弁制度特許制度ノ何レニ対シテモ絶対反対ノ意見ヲ有スト述ヘタリ之ニ対シ王ハ支那トシテハ必要アル場合ニ於テハ是等ノ外国人企業ヲ買収スヘク之カ為約一億円位ハ海外華僑ヨリ醵出セシムルコト決シテ難事ニ非スト思惟スルモ日清汽船等ノ利益ヲ考慮シ合弁又ハ特許ノ辦法ヲ考慮シ居ル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ現在ノ支那ノ事態ノ下ニ於テハ支那ノ会社トシテハ其ノ経営困難トナルヘキハ勿論支那ノ国旗ヲ掲クル船舶ハ随所ニ抑留徴発等ノ処分ニ遭ヒ円満ナル運用ヲナスコト能ハサルヘク結局支那ノ通商ヲ阻害シ支那国民ニ対シテ莫大ナル損失ヲ及ホスヘキコトヲ述ヘ之ニ応酬シ置キタリ

十二、本使ハ通商条約問題ニ関聯シ注意ヲ喚起シ度キコトアリトテ支那労働者入国問題ニ言及シ日本ニ於テハ支那労働者ノ入国ヲ許容シ難キ経済上絶対ノ必要アリテ右ハ日本ニ於テ重要視シ居ル問題ナルコトヲ御含置カレ度シト述ヘタルニ王ハ之ヲ諒承シタルカ其ノ後ノ会見ノ節王ハ右ノ解決案トシテハ旅券制度ヲ設ケ労働者ニ旅券ヲ下附セサルコトトセハ可ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本官ハ

最近国際間ニ於テハ成ルヘク旅券制度ヲ撤廃スルノ方向ニ向ヒツツアルカ故ニ如斯制度ニ逆転スル案ハ賛同シ難シト答ヘ置キタリ

十三、条約問題ニ関スル支那側ノ意向ハ前述ノ如ク法権内水航行等ノ主要問題ニ付テハ単ニ主権回復ノ主義ニ囚ハレ撤廃ノ原則ヲ考ヘ居ルニ止リ具体的措置案ニ付テハ餘リ研究シ居ラサルコト明瞭トナリタリ尚蔣介石ト会談ノ節来年一月一日ヨリ法権ヲ撤廃ストノ説アルモ如何ニモ突飛ニテ信スルヲ得サル次第ナルカ本問題ニ付テハ果シテ如何ナル考ヘヲ有スルヤト問ヒタルニ蔣ハ簡単ニ来年一月一日ヨリ撤廃シ得サル理無シト答ヘタルコトアリ又諸般ノ情報ヲ綜合スルニ来年初メヨリ法権撤廃云々ノコトハ王正廷カ其ノ従来ノ言質上最モ熱心ニ考ヘ居ルモノノ如ク愈ノ場合ニマサカ無謀ノ挙ニ出ツルコト無カルヘシト思考セラルルモ今後ノ外国ノ態度並ニ内政上ノ状勢如何ニ依リテハ捨鉢的ニ紛糾ヲ惹起スルコト無シト限ラス

且又本使トノ会談中王ハ他国トノ条約ハ別トシ日本トノ条約ハ既ニ失効セリト認メ居ル旨ヲ二三回夫レトナク仄カシタルコトアルニ顧ミ（尤モ其ノ都度王ハ日本側ニ於テハ之ヲ容認セラレサルモノト註釈ヲ附セリ）或ハ列国中日本ノミヲ「シングルアウト」スルノ措置ニ出ツルカ如キコトモ万々之ナシトハ保シ難キ処何レニスルモ我方ヨリハ其ノ対案ヲ提示シテ支那側ニ当ルコト得策ナルヘシト思考ス固ヨリ政局ノ将来ハ今日豫測スルコト困難ナルモ其ノ如何ニ拘ラス之等諸問題ノ研究ヲ進メ置クコト緊要ナリト思考セラル

尚王正廷ハ最初ノ会見並最後ノ会見ノ際本使ニ対シ打明ケテ言ヘハ支那国民ハ日本ハ支那ヲ hurt スルモノナリト思込ミ居レルニ付其ノ然ラスシテ help スルモノナルコトヲ国民ニ感セシメ得ル何等カノ措置ヲ日本側ニ於テ執ラレ度ク大使館昇館、治外法権其ノ他如何ナルモノニテモ可ナリ左スレハ両国ノ関係ハ好転シ諸般ノ交渉ニモ大イニ資スル処アルヘキ旨ヲ熱心ニ述ヘタリ

本電ハ特ニ転電ヲ見合セタリ

656
昭和4年10月(21)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）





## 相互理解によって懸案交渉に臨むことで王外交部長と一致との佐分利公使報告

上海　発
本省　10月21日後着

第※一二二一号

往電第一二一九号追加左ノ通

佐分利公使ヨリ

一三、尚会談中本使ハ王ニ対シ双方ノ主張及考方ニハ尚大ナル距離アル処互ニ自己ノ立場ト他ノ立場ト併セテ考ヘ合理的解決案ヲ見出スコト吾人ノ任務ナリト説キタルニ王モ同感ノ意ヲ表シタル上極メテ卒直ニ言ヘハ支那主権ニ対スル外国ノ尊重（「レスペクト」）ハ「ベツグ」スルモ到底之ヲ得ルノ便ナシ従テ之ヲ「フオウス」スルノ外策ナシト信シ居ル旨ヲ例ノ口調ニテ附言シタリ依テ本使ハ列国カ最近一、二年支那ノ要求ニ対シテ譲歩ニ譲歩ヲ重ネ今ヤ支那ノ限リナキ要求ニ対シ対抗ノ態度ヲ執ルコトカ支那国民全般ノ利益ナリトサヘ考ヘ始メタルカ如ク日本ニ於テモ排日貨等ニ依リ著シク人心ヲ刺戟シタル結果部ノ間ニ右ト同様ノ心理状態ヲ醸成シ居ル実状ナルヲ以テ日支関係モ極メテ重大ナル岐路ニ立テルノ感ナキヲ得ス此ノ機微ナ時機ヲ円満ニ推移セシムルコトハ即チ両国共通ノ利益ヲ思フモノノ務ナリ之カ為終始忍耐ト冷静ノ態度ヲ持スルヲ要スル旨ヲ述タルニ王モ其ノ意ヲ諒トスト答ヘタリ

657
昭和4年10月(22)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

## 佐分利公使より関税自主権回復にあたって互恵税率の協定と債務整理を必要とする旨宋子文財政部長と会談について

付記　年月日不明
「関税事項方針案」

上海　発
本省　10月22日後着

第※一二二八号

佐分利公使ヨリ

本使南京滞在中宋子文ト会談ノ節彼ヨリ関税自主ノ問題ヲ成ルヘク速ニ解決方尽力アリタキ旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ

右ハ当然ノコトナルカ同時ニ互恵税率ヲ協定スル必要アルハ御承知ノ通リナリト答ヘタルニ彼ハ日本ノ要求セラルル品目ハ余リニ多数ニ過グルニ付可成制限セラレ度シト言ヘルノミニテ往電第一二一九号王正廷談話ノ如ク互恵ノ形式ヲ採ルコト不可ナルコトニハ言及スルコト無カリシカ二十一日当地ニ於テ宋ト会談ノ節本使ハ北京会議以来ノ成行ヲ説明シ互恵条約締結ニ付テハ北京支那政府ト公文交換アリ王ハ当地外交総長ナリシコトヲモ注意シ日英関税協定ノ例ヲモ語リタル処宋ハ英国ハ同様ノ協定ヲ為サンコトヲ支那ニ申入レタルコトアリシモ拒絶シタルコトヲ述ヘ且ツ日本トノ間ニモ互恵条約ヲ締結スルコトハ全然不可能ナリ然レトモ日本ノ貿易及工業ニ対シテ相当ノ保障ヲ与フルコトハ異存ナキニ付成ルヘク品目ヲ制限セラレタシト言ヘリ依テ品目ハ成ルヘク限定スルノ要アルコトハ諒解シタルモ日本ノ商工業者中支那ノ貿易ニ依リ生活セル者多数アリ之等ノ者ノ保護ノコトヲ考慮セサルヘカラサルコトヲ記憶シ置カレ度シト述ヘタルニ彼ハ之等雑貨類ハ小額ノモノナルモ之ヲ列挙スルコトハ外交部ニ対シテ大ナル譲歩ヲ為シタルカ如ク見エ頗ル困却セル問題ナリト云ヘリ

次ニ債務整理ニ付宋ハ豫テ協定シタル五百万元ニ付テハ間違ナク銀行ニ供託シアリ又一般債務整理問題ニ付テハ従来ノ債務ヲ整理セサレハ建設ニ必要ナル新シキ借款ヲ起スコト絶対ニ不可能ナルコト愈々明カトナリタルヲ以テ財源ノ許ス範囲内ニ於テ整理ヲ実行スル覚悟ナリ而シテ政府ニ対スル債務整理ハ余リ急ヲ要セサルヤニ解セラルルヲ以テ私人ニ対スル債務ヨリ整理ヲ始メ又問題アル債務ヲ後ニシテ問題ナキ債務ヨリ整理スルコト得策ナルヘシト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタリ

尚二十二日「ケメラー・コムミツシヨン」ニ於テ債務整理ヲ担当シ居ル「ヤング」博士ノ談ニ拠レハ十二月半頃ニ債務整理ノ案ヲ作リ上クル積リナル趣ナリ

**（付　記）**

※（編注）関税事項方針案

関税事項ニ付テハ左記方針ニ依ルコト

一、日本国ハ支那国ノ関税自主ノ原則ヲ認ムルコト

尚支那国ヲシテ現行輸出税ハ新条約実施後成ルベク速ニ廃止スベキコト及右廃止ニ至ル迄ハ現行輸出税率ヲ変更





セザルベキコトヲ約セシムルコト

二、支那国ヲシテ日本国ヨリ支那国ヘノ輸出品中附属別表一ニ掲グル品目ニ対スル支那国現行輸入税率ノ新条約有効期間中据置クベキコトヲ約セシメ之ニ対シ日本国ハ支那国ヨリ日本国ヘノ輸出品中附属別表二ニ掲グル品目ニ対スル日本国現行輸入税率ヲ新条約有効期間中据置クベキコト約（ママ）スルコト尤モ右協定品目ニ付テハ必要ニ応シ附属別表一中ヨリ赤印ヲ施セル分ヲ削除スルト共ニ附属別表二ニ付テハ新ニ附属別表三ヲ追加スルコトトシ差支無ク又右協定期間ハ条約有効期間ト引離シ之ヲ五年トシ差支無キコト

三、締約国ノ一方ノ国民ガ他ノ一方ノ領域内ニ於テ輸入又ハ輸出スル物品又ハ締約国ノ一方ノ物品ニシテ他ノ一方ニ輸入又ハ輸出セラルルモノニ対スル関税其ノ他右関税ニ関スル一切ノ事項ニ付即時且無条件ノ最恵国待遇及内国待遇ヲ与フル旨ノ相互的規定ヲ設クルコト

四、締約国ノ一方ニ輸入セラレタル他ノ一方ノ物品ハ其ノ輸入国ニ於テ締約国ノ一方ノ物品ニシテ他ノ一方ニ輸出セラルルモノハ其ノ輸出国ニ於テ名称ノ如何ヲ問ハス一切ノ内地通過税ヲ免除セラルベキ旨ノ相互的規定ヲ設クルコト

五、原則トシテ物品ノ輸出入ニ対シ禁止又ハ制限ヲ加ヘザルコト但シ(イ)公安(ロ)公共衛生及有用ノ動植物ノ保護(ハ)兵器弾薬軍用材料又ハ非常時ノ軍需品(ニ)国民生活必需食糧品、(ホ)金、銀、又ハ貨幣(ヘ)道徳又ハ人道(ママ)(ト)国内生産品ニ関スル生産、販売運搬ニ付加フル禁止制限ト同様ノ禁止制限(チ)専売ニ関スル場合ニハ列国一般又ハ同一条件ノ下ニ在ル列国一般ニ適用スベキコトヲ例外トシテ（但シ(ハ)ヲ除ク）禁止制限ヲ為シ得ルコトヲ相互ニ約スルコト

六、満鮮陸境関税ニ付テハ現行軽減制度ヲ向フ三年間維持スルコト尚之ガ為ニハ軽減適用品目ヲ減少スルモ差支ナキコト

**編注**　昭和四年十一月から十二月の間に通商局で作成されたと思われる。

658　昭和4年10月(25)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

**法院回収に関する専門委員会案につき列国協調によって我方深入りし将来の行動束縛せぬよう配慮方意見具申**

上海　発
本省　10月25日前着

第一二三六号（極秘）

貴電(1)第四九六号ニ関シ

一、臨時法院問題ニ対スル当方意見ハ北平宛往電第八八〇号及閣下宛往電第一二一八号末段ニ依リ大体御承知ノ通我方ハ支那政府ト別個ニ談合ヲ遂ケルノ外無カルヘク而シテ条約満期ヲ口実トスル日本人関係民事事件不審理ノ現状ヲ覆ヘシ原状ニ復スルコトハ目下ノ状況ニテハ或ハ望ミナキ様ニ感セラル

元来臨時法院制度ノ基礎タル会審権ハ条約上支那ト列国カ相互的ニ共有シ居ル訳ニテ会審制度ヲ維持セムトスル列国側ノ一方的主張ハ鞏固ナルモノト謂ヒ得サルト共ニ会審制度ハ現在唯上海及厦門ニ於テ異例トシテ実施セラレ居ルニ過キス且事実上現在ノ会審制度ハ外国人ノ利益擁護上果シテ幾何ノ効果アリヤ甚タ疑ハシク特ニ民事ニ付テ事実会審権ヲ喪失セリトセハ刑事ノミニ付テ之ヲ維持スルノ価値大ナルヲ見ス従テ今後事態ノ発展如何ニ依リテハ会審権ノ抛棄ヲ声明スルコトヲ得策トスル事態ニ立至ルヤモ計ラレス

二、依テa、b両案ノ取扱ヒニ当リテモ右我方ノ行方ニ付故障トナラサル様ニ処置スルヲ要スヘク先ツa案ハ臨時法院ヲ純然タル支那法院ニスルト共ニ外国人判事ヲ入レ外人ノ利益ヲ擁護セシメムトスルモノナル処外人判事ノ採用ハ到底支那側ニ於テ承認セサルヘシト認メラルルモ兎ニ角本案ハ少クトモ名義上純然タル支那法院ニ改ムル点ニ於テ主権回収ヲ云云スル支那側主張ヲ満足セシムルモノナルカ

若シ(2)支那カA案ノ外人裁判官ノ点ヲ認ムルニ於テハ将来列国カ法権ヲ撤廃シタル後該裁判所ハ有力ナル務ヲ為スヘク従テ右外人ノ勢力モ重要視スヘキモノナルニ付是非共日本人ノ参加ノ途ヲ開カシメ置クヲ要ス故ニ若シ他国側ニ於テ本案ヲ採用セムトスル場合ニハ日本人判事ノ採用ヲ主張シ殊ニ(七)ノ点ニ日本側カ治外法権ヲ単独ニ撤廃スル場合ニ備フルカ為治外法権ノ有無ニ拘ラス租界ニ重大ナル関係ヲ有スル国人中ヨリ判事ヲ任命セシムル旨ヲ明カニシ置ク要アルヘシ

次ニB案ハ臨時法院制度維持ヲ主眼トシ唯現在ヨリ支那側権限ヲ拡張セムトスルモノナルヲ以テA案ニ対スル非難ハ無ク又或ル点ニ於テ往電第八八〇号当方意見以上ニ譲歩セル処アルモ素々右当方意見ハ地方的見地ヨリ実際的利益ノ維持ヲ目的トスルニ過キス敢テ飽迄之カ実施ヲ企図スル次第ニ非サルヲ以テ大局上B案ニ同意シ何等差支無カルヘク更ニ修正案提出ノ要無カルヘシ

三、要スルニ本件交渉ニ関シ我方ニ不利益無キ様他国側ト聯絡ヲ執ル以外ニ餘リ深入シ我方ヨリ込入リタル修正案等ヲ提出シ其ノ結果日本ノ責任ヲ重クシ将来ノ我カ行動ヲ束縛セラルルカ如キ羽目ニ立至ラサル様注意ノ要アリト思考セラル（本電佐分利公使トモ協議済）

支へ転電セリ

659　昭和4年10月(28)日　在中国佐分利(貞男)公使より
幣原外務大臣宛(電報)

**法院回収問題には列国協調をもって交渉原案修正には問題なき旨意見具申**

北平　発
本省　10月28日前着

第一一七七号（極秘）

上海発閣下宛電報第一二三六号ニ関シ

当地外交団側トノ接触ニ依リ得タル印象ニ基キ卑見御参考迄左ニ申進ス

(一)本件ニ関シ外交団ニ於テ考究シツツアルハ主トシテ臨時法院ノ「ステータス」乃至機能ヲ必要ニ変改スルコト可然キヤノ点ニ関スルモノニシテ我国トシテモ現行法院成立ノ経緯ニ鑑ミルモ矢張列国トノ協調ニ依リ支那側ト交渉シテ之カ解決ヲ計ルノ外ナカルヘク日本単独ノ交渉ニ依リ別個ノ解決ヲ期スルカ如キ至難ノコトナルヤニ思ハル

(二)将又列国側トシテハ此ノ際何等カノ解決案ニ依リ支那側ト妥協ヲ策スルニ非レハ結局支那側ハ臨時法院ヲ完全ニ

回収シ純然タル支那裁判所トナスニ至ルヘキヲ懼レ居ル次第ナル処云フ迄モナク列国ハ租界ヲ維持スル以上到底之ヲ承認シ得サル処ナルカ故ニ何等カノ形ニ於テ相当信頼シ得ヘキ租界ノ秩序維持機関ヲ協定センコトヲ期シツツアル次第ナリ従テ日本カ近キ将来ニ治外法権ヲ放棄スルヤ否ヤノ問題ニ付テハ差当リ別個ノ問題トシテ本件対策ヲ講スルノ要アルヘシ

(三)殊ニ日本カ仮令治外法権ノ一部又ハ全部ノ放棄ヲナスコトトナル場合ニ於テモ上海共同租界カ一種ノ特殊的地位ヲ保有スル限リハ之カ重要機関ノ構成運用ニ対シ日本モ亦充分ノ発言権ヲ有スルハ極メテ肝要ノコトト思考ス

(四)累次拙電ニ依リ御承知ノ通英米仏国等ノ主要国ハ対支交渉ノ原案トシテ大体A案採用ヲ可トスルニ傾キ居ル処同案ノ内容中我方ニトリ不利益ナル点又ハ一層我方ノ利益トナルヘキ点ニ付テハ我方ヨリ修正案ヲ提出シ置クコト必要ナルヘク殊ニ往電第一一四九号修正ニ関スル本官意見乃至冒頭上海電報中段日本人判事参加方確保ノ点等ハ特ニ御考慮ヲ煩度シ

(五)而シテ日本人関係民事事件不審理ノ原状回復ノ問題ハ(一)ノ「ステータス」決定ノ問題トハ別ニ我方ノ単独ニテ支那側ト交渉ヲナスヘキ性質ノモノナルヘク今之カ為列国側交渉原案ニ対スル修正案ノ提出ヲ差控フル必要毫モナキノミナラス却テ之カ提出ニ依リ将来我方ノ立場ヲ擁護スル連鎖ヲ築キ得ルコトトナルヘシ

上海へ転電セリ

660

昭和4年10月29日　幣原外務大臣より在中国堀内臨時代理公使宛(電報)

**我が方は中国の関税自主権不承認のため輸入税則善後章程の改正は容認できない旨訓令**

本省　10月29日前11時50分発

第三二八号

貴電第一一六三号ニ関シ

本件章程改正事項中従来ノ五分税引上ケニ伴フ課税額ノ算出方式ノ修正ニ関シテハ右引上ケヲ承認シタル我方トシテ異議ナキモ(一)仲裁委員会ノ規定ヲ廃止シ之ニ代フルニ国内機関タル税率査定委員会ヲ設置シ(二)匿税行為ト認メラレタル場合ノ制裁ヲ重クシ(三)ソノ他輸入品評価ニ関スル税関ノ





権限ヲ拡張シタルコトノ三点ハ従来ト異ナル重要ナル変更ト謂フヘク旁未タ関税自主権ヲ承認スルニ至ラサル我方ノ容認スル能ハサル所ナリ尚前記(一)ハ米支関税条約第一条第一項ノ如キ規定ニ依ルモ諸外国ノ認メタル支那関税自主権ノ範囲内ニ在ルヤ疑問ノ餘地ナシトセス旁本件外交団会議ニ於テハ此点ニ関スル列国ノ解釈等ヲ確メラレタル上列国カ本件章程ヲ承認セサル場合ニハ列国側ト可然協調セラレ差支ナキモ其儘之ヲ承認スル意嚮ナル場合ニハ我方トシテハ右趣旨ノ決議ニハ参加セス我方ノ立場ヲ明カニスルコトニ致度シ

本電貴電第一一六三号ト共ニ上海、南京、漢口及天津ヘ転電アリタシ

661

昭和4年10月(31)日　在中国佐分利公使より幣原外務大臣宛(電報)

**上海臨時法院回収に関する外交団第三次回答は単に交渉開始同意にとどめ交渉委員構成を日英米仏蘭とする旨の非公式会合の決定について**

別電　十月三十一日着在中国佐分利公使より幣原外務大臣宛第一一八八号

右外交団第三次回答案

北平　発

本省　10月31日後着

第一一八七号

往電(1)第一一八一号ニ関シ

三十日前回同様ノ非公式会合催サレ本使堀内同伴出席ス

(一)先ツ英国公使ヨリ冒頭往電本国政府訓令ノ趣旨ニ付意見ヲ交換シ度キ旨ヲ告ケ結局問題ハ交渉委員ニ対シ単ニ交渉上ノ指針トシテA、B両案ヲ示スニ止メ支那側ニ対スル今回ノ公文中ニハ何等関係国側ノ案ヲ示ササルコトトナスノ可否如何ニ帰着スト述ヘタル処米国公使ハ支那側ハ之迄我方ノ要求ニ拘ラス豫メ具体案ヲ示ス模様ナク而モ列国側ヨリ何等解決案ノ大綱スラ示スコト無クムハ折角双方ノ委員会合スルモ恐ラク直ニ物別レトナルヘキニ付若シ英国側ニ於テA案ノ趣旨ヲ豫メ支那側ニ示スコトニ絶対反対ナルニ於テハ或ハ各国別々ニ公文ヲ送ルコトトシ之ヲ希望スル国ニ於テA案ノ大綱ヲ交渉ノ基礎トシ

テ記載スルコトトセハ如何ト述ヘタルカ蘭、仏両国公使ハ右ハ支那側ノ臨時法院無条件撤廃ノ提議ヲ牽制スル点ニ於テ相当効果アルヘキモ他方ニ於テ支那側ヲシテ各国ニ対スル個別的交渉ニ向ハシムルノ危険アルニ付矢張リ関係国ハ従来通一団トナリテ交渉スル態度ヲ維持シ殊ニ支那側ニ対シ日本其ノ他ノ交渉参加ニ対スル反対ノ機会ヲ与ヘサル様ナスコト得策ナルヘシト説キ結局今回ノ公文モ首席公使ノ名ニ於テ之ヲ発送スルト共ニ単ニ交渉開始ノ用意アルコトヲ支那側ニ通告スルニ止メ解決案[2]ノ内容ニハ全ク触レサルコトトシ英国公使ノ起草ニ係ル別電第一一八八号ノ案ヲ採用スルコトニ一致セリ

(二)外交団ノ本問題委員会即チ往電第一〇四三号(二)ノB委員会ハ其ノ後開会セラレス諾威及伯剌西爾両代理公使ハA、B両案ノ内容スラ承知セサル次第ナルニ付一応形式的ニモ右委員会ヲ開催スルコト適当ナルヘシトノ意見モ出テタルカ支那側ニ対スル確答モ大分遅延シ居ル事情ニ鑑ミ明三十一日直ニ外交団本会議ヲ開キ単ニ先般来専門委員会ノ手ニ於テ研究中ノ交渉基礎案モ一先ツ出来上リタルニ依リ前記英国公使案ニ依リ至急回答スヘキ旨ヲ諮ルニ止メ置クコトニ打合セタリ

(三)交渉委員ノ構成ニ関シテハ先ツ日、英、米、仏、蘭ノ五国ヨリ委員ヲ出スコトトシ諾威及伯剌西爾ハ若シ希望アラハ之カ参加ヲ認ムルノ外無カルヘキモ伊、白両国ハ条約上既ニ主義トシテ法権撤廃ニ同意シ居ル特殊ノ地位ニ鑑ミ之カ参加ヲ許ササルコトト為スコト然ルヘシト言フニ一致セリ尤モ日本委員ノ参加ニ対シテハ各公使共之ヲ希望スルモ万一支那側ニ於テ其ノ参加ニ反対スルカ如キ場合ニハ之カ解決ニハ日本自ラ当ラレ度シトノ意嚮ヲ漏ラセリ而シテ各国委員ノ顔触ハ各関係国公使ノ言フ所ニ依レハ大体左ノ通決定セラルヘキ模様ナリ

英国上海総領事「ガースチン」及南京総領事「ヒューブツト」又ハ「エベリング」書記官ノ二名
米国上海総領事同副領事及「バクネル」書記官ノ三名
仏国上海総領事及判事「ツーサン」ノ二名
和蘭上海総領事
別電ト共ニ上海、南京、奉天ヘ転電セリ

(別電)





北平　発
本省　10月31日後着

第一一八八号

Peiping,
Rec'd., Oct. 31st, p. m., 1929.

Gaimudaijin, Tokio.
No. 1188.

I have the honour to refer Your Excellency to my Note of September 19th on the subject of the proposed negotiations regarding the reform of the provisional Court in the International Settlement at Shanghai, in which I informed Your Excellency that the interested Heads of Legation were examining the position and that they expected to make a further communication on the subject in due course.

I am desired by my Colleagues, the interested Heads of Legation, to inform Your Excellency that, having completed their preliminary study of the subject, they are now ready to open the negotiations in question, through their representatives to be appointed for the purpose, at such time and place as may be convenient to the Chinese Government.

Saburi.

662

昭和4年11月1日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

**佐分利公使が在留官民の歓迎会席上で行なった演説の一部が曲解されていることに関して王外交部長に演説の趣旨を説明し不都合な点を指摘したことについて**

付記　十一月二十八日付佐分利貞男より南京首都国民廃除不平等条約促進会宛書翰写

日本は市場として中国を重要視するも何等同国民を蔑視することなき旨諒解ありたいことについて

上海　11月1日後発
本省　11月2日後着

第一二六七号

去月二十一日当地在留官民ノ佐分利公使歓迎ノ席上同公使ノ為シタル演説ノ一部ヲ曲解シテ「日本公使真意ヲ暴露ス」等ノ表題ヲ附シテ支那新聞ニ訳載セラレ之ニ関聯シ南京ニ於ケル廃約会ハ同公使ノ召還ヲ要求スル旨ノ決議ヲ為シタル趣同地新聞ニ報セラレタルコトアリ又此ノ事実ハ最近着ノ日本新聞ニモ掲載セラレアリタリ

本一日王部長ニ面会ノ際序ヲ以テ同公使ノ演説ノ趣旨ヲ説明シタル上斯ル悪意アル新聞ノ掲載振及廃約会ノ決議ノ甚タ不都合ナルコトヲ指摘シタルニ同部長ハ之ヲ肯定シ少数極端分子ノ行動ニハ寔ニ困惑ストテ佐分利公使ノ真意ニ付テハ自分モ好ク承知シ且一般ニ於テモ何等誤解等ナキ次第ナルニ付此ノ点ハ充分御諒解ヲ願ヒタシト答ヘタリ為念

（付　記）

昭和四年十一月二十八日　　於東京　佐分利貞男

南京

首都国民廃除不平等条約促進会宛

拝啓陳者去ル十月二十一日在上海日本人倶楽部ニ於ケル小生ノ演説ニ関シ本月一日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣敬承仕候小生今回命ヲ受ケテ貴国ニ駐剳スルコトトナリタルニ付テハ貴見ノ通両国親善関係ノ増進ニ微力ノ最善ヲ竭スヘク自然貴国国民ノ支持ヲ切望シ居ル次第ニ有之貴翰ニ引用セラレタル小生演説ノ一節ニ付テハ当時ノ上海邦字新聞ニモ登載セラレタル如ク小生ハ日本ノ人口問題ハ移民ノ保護奨励ニ依リ辛フシテ毎年一万人ノ移民ヲ出シ得ルニ過キサルカ如キ移民政策ニ依リテハ解決不可能ナレハ日本トシテハ須ク国内ノ産業化ヲ国策トシ出来得ル限リ多クノ商品ヲ海外ニ輸出セサルヘカラス之カ為ニハ広大ナル中国ノ市場ハ極メテ重要視スヘク中国市場ニ日本商品ヲ多ク売ルカ為ニハ中国ノ国民的要求ニ同情シテ両国親善ノ関係ヲ増進スルコト絶対ニ必要ナル旨ヲ説示シタル次第ニ有之何等貴国々民ヲ蔑視スルカ如キ言辞ヲ用ヒタル次第ニ無之候ニ付右様御諒解被下度候

右回答申進旁茲ニ貴会ノ隆昌ヲ祈上候　敬具

663

昭和4年11月(13)日　在中国佐分利公使より
幣原外務大臣宛（電報）





## 関税・法権問題等に関し在中国各国公使と意見および情報交換について

北平　発
本省　11月13日前着

第一二二三号

本使当地滞在中各国公使ト意見及情報ノ交換ヲ為シタル中条約問題ニ関シ御参考トナルヘキモノノ要領左ノ通リ

一、関税ニ関シ英国公使ノ内話ニ依レハ曩ニ王正廷ヨリ書面ヲ以テ協定税率ニ関スル約束ヲ取付ケ居リタルモ其ノ後実際交渉ノ際宋子文ノ反対アリ且英国政府ニ於テモ之ヲ強要セサル方針ヲ取リタル趣ナリ（右王正廷ノ書類写及本件経過ヲ略述セル英国公使書面ハ既ニ郵送済ナリ）

又英国側カ協定ヲ希望シタル品目ノ種類ハ　1. cotton manufactures　2. woolen manufactures　3. iron and steel manufactures　4. machinery ナルカ右ハ正式ニ支那側ニ提出スル迄ニハ至ラサリシトノ事ナリ

二、法権

（イ）来年一月一日ヨリ支那カ自主的ニ法権撤廃ヲ声明スルヤ否ヤノ豫想ニ付テハ英国公使ハ本使着後第一ノ会見ノ際其ノ危険アリト認ムルトノ意見ナリシカ其ノ後法権ニ関スル第二次回答ヲ発シタル後右ノ危険一層増大シタリト認メ居レリ従テ同公使ハ法権ニ関シ本年内ニ支那ト交渉ヲ開始シ置ク事有利ナルヘシトノ意見ニテ右第二回回答ヲ発スルト同時ニ南京ニ於テ「エブリング」ヲシテ王正廷ニ対シ同公使ハ本年内ニ南下シ商議ヲ開始シ差支無キ意向ヲ有シ居ル事ヲ口頭ニテ通告セシメ居ル趣ナリ尚英国側トシテハ条約期限到来シ居ラサルノミナラス南京ニ於テ「エブリング」王トノ十月末頃ノ談話ニ於テ王ハ来年一月一日ヨリ廃止ノ事ニ決定シ居ルモ単純且無条件ニ廃止出来サルハ承知ニテ modus vivendi ヲ考慮スルノ意アル事ヲ述ヘ居レル由ニテ英国公使ハ一方実際撤廃ヲ声明スル事トナルモ其ノ具体的影響ハ必スシモ之ヲ重大視シ居ル次第ニ非サルカ如クニシテ米国公使モ支那ハ来年一月一日ヨリ撤廃ヲ声明スヘシトノ推測ヲ為シ居レリ尤モ之カ為多少ノ紛糾ヲ来ス事アルヘキモ支那ハ実際ニ之ヲ強行スルノ態度ニ出ツル事ハ無カルヘキカ故ニ其ノ結果ハ重大トハ成ラサルヘシ結局支那ハ右声明ニ依リテ一ノ

既成事実ヲ作リ之ヲ其礎トシテ外国トノ交渉ヲ有利ニ導カントスルモノト思ハルトノ意見ナリ

（ロ）撤廃ノ方法ニ関シ本使南京滞在中王正廷ハ本使ニ対シ内地ニ於ケル法権撤廃ニ対シテハ英米トモ既ニ同意ノ意嚮ヲ有スルコトヲ明カニ承知シ居ル旨ヲ述ヘタルカ其ノ際本使ハ右ハ一ノ駈引上ノ話カト想像シ居リタル次第ナルモ為念当地ニ於テ夫トナク英、米両公使ニ問質シタルニ孰レモ左様ノ趣旨ヲ支那側ニ通シタルコト全然無之ノミナラス英、米両公使共未タ本件ニ関スル本国政府ノ意嚮ヲ知ラサリシ次第ナルヲ以テ此点ニ付何等ノ意嚮ヲ表明スル筈モナカリシ次第ナリ然ルに事本使和蘭公使ト談話中同公使ハ法権撤廃ニ関スル其ノ私案（往電第四七五号）ヲ支那側ニ与ヘタルコトアル旨ヲ内話セル次第ナリ就テハ王正廷ニ於テ首席公使ノ右案ハ英、米等ニ於テモ大体同意シ居ルモノトノ誤解ヲ抱キ居ルヤモ計ラレスト思考セラル孰レニスルモ和蘭公使カ其ノ案ヲ支那ニ知ラシメ居ルコトニ付テハ英米公使モ大体想像シ居リ両人共心中密ニ和蘭公使ノ行為ヲ以テ機宜ヲ失セル措置ト認メ居レリ尚英国公使等ノ内話ニ依レハ和蘭公使ハ自分ノ案ニ付大ニ得意ナリトノ趣ナリ

尚九日英国公使ト会談ノ際同公使ハ王正廷ニ於テハ民事丈ニ関スル撤廃ハ之ヲ実現シ得ルモノト考ヘ居ルコトヲ極メテ確カナル筋ヨリ知リ得タリ（此ノコトハ極秘中ノ極秘ナリト断レリ）ト内話セリ

（ハ）法権撤廃ノ条件ニ付各両公使ノ意見ハ大体往電第一二一三号及第一二一七号ノ通ナル処外国側トシテハ孰レモ外国人ノ裁判官ヲ傭聘セシムルコトニ重キヲ置クト同時ニ支那カ之ニ応スルヤ否ヤニ付疑問ヲ有スルノ実情ナリ英国公使ハ従来「エブリング」ト王トノ会談ニ依リテ第一審ハ支那ノ裁判官ノミニ依リテ裁判シ第二審ニ至リテ外国人裁判官ヲ加フルノ案位ナラハ支那ニ於テ承諾スルヤモ知レストノ感ヲ抱キ居リ又外国人顧問ナラハ確カニ支那ニ於テ承諾スヘシト認メ居レリ（英国公使ヨリ此ノ辺ノ話モ極秘ニセラレタシトノ注文アリタリ）本使南京滞在中「パドウ」氏ヨリ治外法権撤廃ニ関シ仲裁制度ニ関スル条項ヲ挿入スルコト有効ナリトノ話アリ当地着後独逸公使ト話合ノ節右ニ



言及シタルニ在支独逸人ノ経験ニ鑑ミ非常ニ有益ナルヘシト言ヘリ一方仏国公使ノ話ニ依レハ波蘭ト支那トノ条約ノ草案中ニハ仲裁ノ規定アリテ一度支那政府ハ承認シ居リタルニ拘ラス今回ノ条約中ヨリ右規定ヲ削除セルヲ以テ見レハ南京政府ハ之ニ反対ナルヤモ知レサルモ之ヲ挿入スルコトハ有利ナルヘシトノ意見ナリ

（ニ）内地ニ於ケル外国人ノ居住営業ノ私権享有ニ付テハ各国共利害ヲ感スルコト少ク極メテ冷淡ナル態度ヲ有スルノミナラス米国公使ノ如キハ本使ト会談中内地ヲ開放セシメ外国人カ深ク入込ムトキハ却テ外国人ハ耐難キ取扱ヲ受ケ結局支那ト外国トノ間ニ重大ナル事態ヲ醸ス虞アルヘキ旨ヲ述ヘタル位ナルヲ以テ一応我方ノ態度ニ付注意ヲ喚起シ置クコト有益ト認メ九日同公使ト面会ノ節日本トシテハ種々ノ関係ヨリ法権撤廃ニ関聯シ内地ニ於ケル居住営業私権ノ享有等所謂内地開放ノ問題ヲ提起スルノ要アルヘク（尤モ法権委員会ノ勧告ノ趣旨ニ依リ当然ノ事項トシテ要求スルモノナルコトヲ断リ置キタリ）之カ為米国ニ迷惑ヲ掛クルカ如キコトハ無キ筈ト信スル処貴見如何ト問ヒタルニ同公使ハ自分ノ方ハ勿論内地開放ニ利害ヲ感スル訳ニハ非サルモ米国ノ根本政策トシテ支那ニ於テ他国ト均等ノ待遇ヲ受ケルコトヲ主張スル関係上内地ニ於テ日本ノ得ル権利ニハ米国モ均霑シ得ルコトヲ必要トスヘク其ノ点サヘ故障ナクハ米国側ニ於テ何等迷惑ヲ感スルカ如キコト無キハ勿論ナリト答ヘタリ尚同日英国公使トノ会談ノ際本使ヨリ米国公使ニ対スルト同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ同公使ハ日本カ内地ノ開放ヲ要求スルニ素ヨリ異存アル筈無キ旨ヲ明カニシ尚語ヲ続ケテ米国ニ於テモ場合ニヨリテハ同様ノ要求ヲナスコトトナルヤモ知ルヘカラスト言ヘリ

## 三、内水航行

本問題ニ付テハ英国公使ト両三回会談シタルカ同公使ハ英国ハ支那ニ対シ相互開放主義ヲ以テ臨ミタルモ支那ハ到底承諾ノ望ナキモノノ如ク而シテ支那ハ外支合弁ノ会社（支那側持株五十一「パーセント」外国側四十九「パーセント」トス）及特許制度ノ両案ヲ有ス之ニ関スル英国政府ノ対案ハ未タ承知セス又当業者トモ相談シタルコトナキモ自分限リノ私案トシテハ内水航行ヲ「オウシャ

ン、ゴウイング」ノ船舶ノ航行シ得ル場所ニ限リ宜昌重慶間（此ノ線ハ支那トノ競争ノ為兎角問題ヲ生スルノ虞レアル由）及長沙航路ノ如キ feeder line ハ之ヲ放棄スルモ差支ナカルヘク又支那ノ両案中合弁会社ハ船舶カ支那ノ国旗ヲ掲クルコトトナルヲ以テ実行不能ナルヘク特許制度ハ考慮ノ餘地アルヤモ知レストノ意嚮ナリト言ヘリ

右ニ対シ本使ハ支那ハ自ラ内水航行ニ従事スルノ実力ヲ有セサルノミナラス此ノ問題ハ人及物ノ運般丈ケノ問題ニ非スシテ一般通商ノ盛衰及在支外国人ノ安全等一層大ナル問題ヲモ包含スルモノナルヲ以テ現在投資者ノ利益ノ善後策ノミヲ考ヘテ軽々ニ取扱フコトヲ得ス日本ノ当業者ハ右支那側ノ両案ニ対シ何レモ反対シ居リ又其ノ言フ所ニ依レハ英国ノ当業者モ両案ニ反対ノ趣ナルカ所謂「ライセンス・システム」ニ付テハ支那側ニ於テ如何ナル具体案ヲ有スルヤト質問シタルニ同公使ハ右ハ承知セサルモ一両年前漢口交渉員 Gang（ママ）ナル者当地ニテ同公使ヲ来駁ノ際特許ノ期限ハ三十年トセハ如何ト述ヘタルコトアルモ右ハ果シテ真面目ナル話ナルヤ否ヤ不明ナリ又自分ノ考ニテハ個々ノ船ニ付特許ヲ与ヘス会社ニ対シ特許ヲ与フルコトトセハ可ナルヘキカト考ヘ居ルモ詳細ノ具体案ニ付未タ定見ヲ有スル次第ニ非スト述ヘタリ

四、個々ノ問題ヲ離レ具体論ニ付キテ言ヘハ当地各国公使ハ支那ノ現状ニ付キテ非常ニ悲観的ニシテ和蘭公使及米国公使ノ如キ従来支那ニ比較的同情ヲ有シタル者モ失望ノ結果却テ反動的意嚮ヲ有シ米国公使ハ結局支那ノ企図セル所ハ外国人ヲ支那ヨリ駆逐スルニ在ルト考ヘ居リ又和蘭公使ノ如キモ今日ノ状態ニテ推移セハ結局支那ト列国トノ間ニ益々紛議ヲ多クシ法権撤廃ノ暁ニハ支那ト外国トノ間ニ結局重大ナル事端ヲ醸スカ如キコトニ立至ルヘキコトヲ虞ルト述ヘ居ル次第ナリ此ノ間ニ在リテ英国公使ハ独リ比較的楽観ノ態度ヲ以テ諸問題ヲ処理セムト努メ居リ前途ノ波瀾多ク困難ノ尋常ナラサルコトヲ覚悟シツツモ絶ヘス機宜ノ対策ヲ案出シテ此ノ難局ニ善処セムト企画シ居ルカ如シ

664

昭和4年11月(17)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）





## 法権回復は明年一月一日に目標を置きそれに全力を尽す旨王外交部長言明について

上海　発
本省　11月17日後着
第※一三二一号

往電第一三二〇号墨西哥ノ法権撤廃ノ問題ニ引続キ条約問題ヲ主トシテ日支ノ関係ニ言及シタル王部長トノ会談（十六日）ハ最近ノ支那側意向トシテ御参考迄要領左ノ通

一、法権ノ撤廃ヲ承諾セルモノハ最近ノ墨西哥ハ元ヨリ伊、白其ノ他暫定条約ヲ有スル諸国ヲ算スル処伊白以下ノ国ハ他国ノ法権撤廃ヲ条件トスルモ主義ニ於テ既ニ承諾セルコトニテモアリ且ツ撤廃期ハ明年一月一日タルコトニ目標ヲ置キタリ

一方国民政府ニ於テハ法権撤廃問題ニ全力ヲ注キ所期ノ通本年一杯ニ之カ準備ヲ完了センコトヲ急キ居リ自分モ対外交渉ニ於テハ同様ニ法権撤廃ニ全勢力ヲ傾倒シ日夜奮闘シ居ル次第ナリ外国側ハ是迄兎角支那ノ実情ヲ理解セス只法権撤廃ニ対スル恐怖心ノミヲ以テ本問題ニ対シ居ルカ如キモ事実ハ左程心配スル程ノコトニ非ス支那ニ於テモ立派ナル法律家ガ少クトモ百名ハアルニ付各地ニ五、六個所ノ特別法院ヲ設ケテ是等ノモノヲ配置セハ法権撤廃ノ後ト雖モ外国人ノ裁判ニ付何等不公平ノコトナキ筈ナリ各国モ漸次事態ヲ諒解シ残餘ノ条約改締ノ到来セサル英、米、仏、蘭ノ諸国モ少クトモ法権問題ニ付テハ近々其ノ交渉ヲ開始スルコトヲ承認セル有様ニテ特ニ英国ハ条約全般ニ亘リテ交渉ヲ開始シ居ルハ御承知ノ通ナリ自分ハ昨十五日鎮江英国租界引渡ノ儀式ニ列シタル後来滬シタルカ租界モ既ニ天津ニ於ケル白耳義租界ハ勿論漢口、九江、鎮江ノ英国租界ノ回収モ完了セル訳ナル処元来租界及租借地ノ問題ハ法権問題解決后ニ譲ル考ヘナリシカ偶々適当ノ機会アリタル為以上ノ租界ノ問題ハ円満ナル解決ヲ見タルモノナリ依テ持ニ上海ヲ除キ爾餘ノ各国租界ニ付テモ法権問題解決后即チ明年ヨリ之カ回収ニ着手スル積リナリ

右ノ如キ諸外国ノ態度カ急速度ヲ以テ展開シツツアル事ハ争フヘカラス特ニ英国ノ如キハ頗ル機敏ニシテ前述ノ通条約期限ノ到来前ニ於テモ進ンデ之カ改訂ヲ行ハムトシ又其ノ租界モ不心要ノモノヨリ逐次還付ヲ実行スル有

様ニテ着々事ヲ如実ニ示シ行ク関係上反英派ト雖其ノ間何等乗スル隙ヲ見出シ得サル実情ナリ各国ノ態度斯ノ如クナルノミナラス支那側ノ決心亦頗ル強固ニシテ且的確ナル「プログラム」ヲ以テ進ミツツアル次第ナルカ此ノ際自分ハ単純ニ支那側ノ利益ノ為ト云フ丈デナク日支双方ノ一層融和センカ為日本側ニ於テ何等カ具体的ニ和親ノ表示ヲ為シ呉ル事出来間敷カ斯ル具体的ノ表示ナクシテハ如何ニスルモ支那民衆ニ日本ノ友情ヲ充分理解セシムル事困難ナリト述ヘ種々私見ヲ交換セルカ

二、尚本官ハ日支関係融和ノ為ノ具体的ノ表示ニ付今日貴部長ハ何ヲ考ヘ居ラルル次第ナリヤト試問シタルニ王ハ例ヘハ条約改正ノ問題ノ如キ双方ノ誠意サヘアラハ何等超ユヘカラサル障礙ナク極メテ実際的ニ取扱フヘキ事ト考ヘ居レリ政治的ノ問題例ヘハ満洲問題特ニ關東州租借地及満鉄ノ問題ノ如キハ勿論租界ノ問題ハ差当リ除外シテ可ナルヘク結局「タリフ」、治外法権、沿岸及内水航行ノ問題トナル右ノ中日本政府トシテ恐ラク最困難ヲ感セラルルハ航行権問題ナルヘキカ之トテ結局支那ノ全権ヲ認メサルヘカラサル事サヘ理解セハ実際的方法ヲ案出スル事ハ困難ナシト思考ス斯ル次第ナレハ条約改正ノ問題ニ付テモ日本ハ他国ニ機会ヲ譲ル事ナク速ニ着手セラルル事適当ト認メラルルニモ拘ラス曩ニハ本年七月初旬開始サルル事トナリ居タルモ其ノ後公使ノ更迭ニ依リ遷延セラレタルハ已ムヲ得ストスルモ更ニ九月上旬ニハ開始ノ運トナル事ヲ期待シ居タルカ之モ実現セス遂ニ今日ニ及ヒタル次第ニテ

佐分利公使ハ今般再ヒ日本ニ帰ヘラルル事ハ承知シ居ルモ其ノ際餘リ賛成セサリシ次第ナリ兎ニ角問題ヲ長ク遷延セシムルカ如キ事アリテハ甚タ時機ヲ失スルモノナル様感セラルト述ヘタルニ付本官ハ日本側ニ於テハ毫モ遷延策ヲ講シ居ル次第ニ非ス特ニ佐分利公使カ日本ニ帰ヘラルルハ却テ事ヲ促進スル結果トナルヤモ知レスト説明シタル処

王ハ右ハ或ハ然ランモ一般民衆ヲシテ此ヲ理解セシムル事ハ頗ル困難ナリ前述ノ通リ自分ハ日本カ常ニ他国ニ取残サルルカ如キ事態トナラサランコトヲ衷心ヨリ望ムモノナリ云々ト述ヘ更ニ大使昇格問題ノ如キモ東洋ニ於ケル両国ノ関係ニ顧ミレハ日支間ニ大使ヲ交換スルハ当然



ノコトニシテ何人モ此ヲ怪シム者ナカルヘシ而モ日本ハ既ニ数年来豫算モトリ居ラルル様ノ状況ナルカ支那トシテモ本問題ハ非常ニ重キヲ置キ居ル次第ナレハ日本サヘ決心セラルレハ直ニ実現シ得ル事柄ナラスヤ本件ニ付テハ芳澤公使ニモ佐分利公使ニモ度々説明シ置キタリ若シ日本側ヨリ具体的ノ表示ヲ得ハ自分等カ一般民衆ヲ指導スル上ニ於テ極メテ好都合ナリト思ヒ居レリ云々ト熱心ニ説キ居タリ

三、同時ニ王部長ハ最近ノ戦況ニモ言及シ蔣介石ハ曩ニ南昌ニ於テ孫傳芳軍ヲ撃破セルト同様ノ作戦ヲ以テ今回モ敵ヲ手許ニ引寄セタル上一挙ニ此ヲ撃滅センコトヲ計画シ目下着々成功シ既ニ四路総攻撃ニ出テ居ルヲ以テ遠カラスシテ西北軍ハ再ヒ立ツ能ハサル事態ニ立至ルヘク又最近「ルーター」等カ蔣介石ハ漢口ニアリト真シヤカニ伝フルモ右ハ全ク虚報ニシテ蔣ヨリ政府宛電報ニヨリ明カナル通リ今日迄ノ処鄭州、許昌間ニ在リテ軍ヲ指揮シ居レリ

右ノ如キ状況ナレハ若シ戦局ノ変化ニ依リ政局ニ変動アルヘキコトヲ豫想スルモノアラハ右ハ大ナル誤算ナリト極メテ楽観的態度ヲ持シ居タリ

在支公使、南京、奉天ヘ転電セリ

665

昭和4年11月(17)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

## 中央政治会議において日中通商条約改訂が三箇月以内に成立せねば臨時弁法を適用方王外交部長に命令との情報について

上海　発
本省　11月17日後着

第※一三二二号

十四日ノ南京ニ於ケル中央政治会議ニ於テ日支通商条約改訂カ三箇月以内ニ完了セサルニ於テハ旧条約廃棄ヲ正式ニ声明シ臨時弁法ノ適用ヲ実行スヘキ旨ヲ王部長ニ命令スルコトトナリタリトノ情報アリ右ハ例ノ通支那側極端分子ノ宣伝ト思ハルルモ支那ニ於テハ時局カ複雑トナレハナル程国民ノ思潮ヲ対外関係ニ転セン但外国中ノ或ルモノニ対シ反感ヲ唆ルコトニ努メタル従来ノ事例モ鮮カラス法権問題及条約改正交渉ニ関スル各国ノ態度ニ鑑ミ日本側ノ遅延ヲ

指摘シテ宣伝スル者漸次増加シ来リタルハ注意ヲ要スヘシ
北平、南京、奉天ヘ転電セリ

666
昭和4年11月18日　幣原外務大臣より
在上海重光総領事宛（電報）

**法院回収問題に関する中国側態度は通商条約改訂交渉時の覚書に反するをもって法院回収共同交渉への我が方参加につき王外交部長説得方訓令**

本　省　11月18日後2時15分発

第五二九号（至急極秘）
貴電第一二九二号及一二九五号ニ関シ
一、王正廷ハ臨時法院ノ問題ニ関シ日本ヲ英米仏ト同一ノ立場ニ置キテ交渉スルコトトナラハ日支条約ハ既ニ失効セリトノ支那側ノ立場ヲ覆ス結果トナルト云フモ右ハ必スシモ然リト云フヲ得サルノミナラス仮リニ支那側ノ此ノ議論ヲ肯定シ日本側ニ於テ共同交渉ニ参加セストセハ日支条約ハ未タ失効セズトスル日本側ノ立場ハ其レタケ毀損セラルル次第ニシテ支那側ノ主張ハ全ク日本ノ立場ヲ無視セルモノト謂ハサルベカラズ
二、昨年条約廃棄問題ノ当時日本側ニ於テハ堅ク其ノ主張ノ正当ニシテ枉クヘカラサルヲ信シタルモ互ニ主張ヲ固執スルニ於テハ両国ノ関係ヲ調整ス可キ日支条約改訂交渉ノ開始全然望無キニ至ル虞アリタルニヨリ本年四月二十六日外交部ト公使館トノ間ニ覚書ヲ交換シ「新条約ノ完全ニ成立スル迄ハ現行条約ノ条項ニ依リ両国関係ヲ律セムトスル」コトトシ以テ所謂条約廃棄問題ニ一段落ヲ付ケタルモノナルコトハ王正廷ノ熟知セル通リナリ尤モ支那側其後ノ態度ヲ見ルニ前記解決ノ精神ヲ無視セルカ如キ事実ナキニアラス例ヘハ臨時法院カ日本人関係民事事件ヲ審理セスシテ放置シ居ルカ如キ又上海支那官憲カ日本人ヲ捕ヘテ政治犯ナルヤ否ヤヲ確ムル迄ハ引渡スヲ得スト称シテ四十餘日ニ亘リ之レヲ拘留シ置キタルカ如キハ其ノ顕著ナル事例ナルモ日本側ハ条約交渉ノ開始カ間近ニ迫リツツアル際如此事件ヲ荒立ツルニ於テハ再ヒ条約廃棄問題ノ論争ヲ繰返ササルヘカラサルコトトナリ折角好転シツツアル日支ノ感情ヲ刺戟シ惹テハ条約交渉ノ開始ニモ累ヲ及ホスコトトナルヘキヲ慮リ態ト問題トヲ無視セルモノト謂ハサルベカラズ



ナスコトヲ差控ヘ居リタル次第ナリ
三、臨時法院問題ニ至リテハ性質上共同処置ヲ必要トスルコト明白ニシテ又日本カ重要ナル利害ヲ有スル租界ノ地位ニ関スル所極メテ大ナルカ故ニ帝国政府トシテハ支那側カ条約ノ効力問題ヲ振リカサス主張ニ対シ譲歩ノ態度ヲ以テ共同交渉ニ参加ヲ見合ハスカ如キハ到底忍ヒ難キ立場ニ在ルモノナリ支那側カ今更斯カル主張ヲ以テ我ニ臨ムニ於テハ近ク開始セラルヘキ日支条約交渉ノ前途ニモ陰影ヲ投スルモノト謂ハサルヘカラス
四、王正廷ハ佐分利公使カ改訂交渉ヲナスニ当リテハ臨時法院問題モ交渉ノ一題目タル訳ナリト云ヒ居レルモ臨時法院ノ問題ハ其ノ性質上共同交渉ヲ必要トスルモノニシテ又事実上単独交渉ノ不可能ナル位ノコトハ王ト雖モ充分承知シ居ルトコロナルヘシ従テ臨時法院ノ問題ヲ日本トノ間ニ交渉スル意思アルコト同人ノ云フトコロノ如シトスレハ此際各国トノ交渉ニ当リ日本ヲ除外スルノ理由アルヘカラズ、且支那側ノ利害ヨリ見ルモ列国トノ交渉ニ日本ノ参加スルハ先年ノ北京関税会議ニ於ケルカ如ク、交渉ノ進行ニ調和的勢力ヲ加フル所以ニシテ寧ロ之ヲ歓迎スヘキ筋合ト信ス
五、今回臨時法院問題ニ関スル支那側ノ態度ハ前述日支条約問題ニ関スル本年四月二十六日附覚書ノ趣旨ト両立セサルモノニシテ結局支那自身ノ実質的利益ニモ反スル所アルヲ認メサルヲ得ズ若シ支那側カ斯クノ如キ態度ヲ執ルハ単ニ日支条約ノ失効論ヲ留保セムトスルニ出テタルモノナリトセバ自ラ他ニ其方法ナキニ非サルベク列国トノ交渉ニ日本ヲ除外セムトスルカ如キ主張ヲナスハ日支国交ノ前途ヲ念フニ於テ本大臣ノ失望ヲ禁スル能ハサル所ナリ
六、就テハ貴官ハ前述ノ次第ヲ本大臣ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ篤ト王正廷ニ申入レラレ其ノ反省ヲ促サルル様致度尚ホ王ハ従来法院問題ノ交渉ハ法権国トノ間ニノミ之ヲ行フトノ立前ヲ持シ来リタルカ如キモ此際法院問題ハ上海租界ニ重大ナル利害関係ヲ有シ又現ニ臨時法院ト関係ヲ有スル重ナル国トノ間ニ改正ヲ商議スルモノナリトノ立前ヲ取リ日本ヲ加ヘタル共同委員トノ交渉ヲ為スコトトスルモ支那側ノ立場ヲ毀損スルコト無カルヘキノミナラス白伊ヲ除外スルニ於テモ差シテ困難ナカルヘシト思考

セラルルニ付右ハ貴官ノ意見トシテ王正廷ニ「サジエスト」セラレ王ヲシテ其ノ主張ヲ変更スルニ困難ヲ感セシメサル様仕向ケラレ度シ
南京ヘ転電アリ度

667 昭和4年11月(19)日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

**法院回収交渉への我が方参加に関する王外交部長への説得不成功の旨重光総領事報告**

南京 発
本省 11月19日後着

第一一六二号（至急、極秘）
重光総領事ヨリ
貴電第五二九号ニ関シ
十九日午後本官上村領事同伴王部長ヲ其ノ官邸ニ往訪シ御訓令ノ次第ヲ委曲ヲ尽シテ申入レ時餘ニ亘リテ各方面ヨリ論議説得ニ努メタルモ王ハ支那側ノ従来ノ態度ヲ変更セス結局右ハ充分ニ考慮セル結果ニシテ日支ノ関係ニ付テハ自分モ篤ト注意シ居ル次第ナルモ本件ニ関シ意見ヲ飜スコトハ絶対ニ不可能ナルニ付乍遺憾右幣原外務大臣ニ於テ御承知ヲ願ヒタキ旨ヲ繰返セリ不取敢
本官守屋、草野ト共ニ今夜行ニテ上海ニ帰任ス
上海ヘ暗送セリ

668 昭和4年11月(20)日 在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

**日中通商条約の効力問題および法院回収交渉への我が方参加などに関する王外交部長との会談につき報告**

上海 発
本省 11月20日後着

第一三三四号（至急、極秘）
南京発往電第一一五〇号ニ関シ(1)
会談要領左ノ通
本官ハ日本ノ臨時法院問題交渉参加ニ関シ本国政府ヨリ訓令ニ接シタリ過日本件ニ関シ貴部長トノ会談ノ内容ハ外務大臣ニ取次キ置キタルカ日本政府ハ以下述フルカ如キ理由ニ依リ日本ノ参加ヲ要求スルモノナリトテ貴電第五二九号





ノ一点ヨリ五点迄ヲ豫メ英訳シ逐一読ミ聞カセ先方ノ考量ヲ促シタリ右ニ対シ王部長ハ本件ニ対スル支那ノ態度ハ熟考ノ上確定シ居ルモノニシテ変更シ難キ次第ナルカ今日本政府ノ理由トセラルル所ヲ承ハルニ首肯シ難キ点アリ特ニ第二点ニ付テ日本ハ条約ノ効力存続ヲ前提トセラレ居ルカ如キモ此ノ点ハ事実ニ反ス特ニ現行条約ノ条項ニ依リ両国ノ関係ヲ律セントス云々ハ四月二十六日ノ覚書交換ノ際日本側ノ覚書ニ記シアルモ支那側ハ殊更之ヲ避ケ条約効力ハ既ニ無キモノトノ建前ヲ変更シ居ラス若シ然ラストセハ右覚書交換ハ成立セサリシ筈ナリ但シ斯ル議論ヲ継続スルノ不得策ナル為現状ヲ承認シ以テ其ノ上ニ立チテ実際的ニ条約改正ノ交渉ヲ促進スルノ方法ニ出テタルモノナリ故ニ今日ニ於テ尚条約有効論ヲ維持セラルヘキモ支那ハ条約無効論ヲ維持ス或ハ日本ハ再ヒ此ノ機会ニ条約ノ効力承認ニ向ヒテ一歩ヲ進メントスルニ非スヤトモ認メラル
御(2)承知ノ通自分ハ過去五ケ年来条約ノ問題ニ付テハ一定不変ノ方針ヲ樹テ変ル事ナシ其ノ根本ハ期限到来ノ条約ハ其ノ効力ヲ認メサル事トシ先ツ北平ニ於テ仏国関係ノ条約ヨリ之ニ着手シタリ日本ハ之ニ対シテ強硬ナル態度ヲ持セラレ其ノ主張ハ自分モ良ク諒解シ居レルモ今日迄両者ノ意見合致セス密接ナル日支ノ関係ニ於テ此ノ儘放置シ難キニ付実際政治家トシテ已ムヲ得ス自分ハ現状維持ヲ承認シ而シテ之ヲ基礎トシテ交渉ヲ急ク事ニ両者ノ意見一致セルハ前述ノ通四月二十六日ノ覚書交換ニ依リ明カナリ現状維持トハ自分ノ解スル所ニ依レハ実際条約以上ノ場合モアリ又以下ノ場合モアリ得ヘシ（上海ノ租界ハ純然タル支那ノ領土ニシテ之ニ外国ノ警察ヲ存置スルハ未タ曾テ支那ノ認メタル所ニ非サルモ之ハ現状トシテ認メサルヲ得ス）併シ如何ナル場合ニ於テモ条約ノ効力其ノモノヲ承認シタル建前ニ非ス若シ日本ノ要求ヲ容レレハ支那従来ノ立場ヲ変更スル事トナリ少クトモ支那輿論ハ斯ノ如ク之ヲ做シ妓ニ輿論ノ沸騰ヲ見ルニ至ルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ四月二十六日ノ覚書交換ノ趣旨ハ日本ハ貴説トハ異ナリ前ニ読ミ上ケタル第二点ノ通リ解シ居レル次第ヲ説明シタル上
兎(3)モ角現状維持ハ如何ナル意味ナルニセヨ貴方ノ明ニ承認スル所ナリ即チ日本カ現ニ臨時法院惹イテ共同租界ニ有スル重大ナル利害関係ハ貴方ノ明カニ承認スル所ナルニ依リ之ニ対スル交渉ハ最モ実際的ニ之ヲ行ヒ各国共同スルコト

便ナラスヤ又共同交渉ハ日本ノ主張ヲ承認スルコトトナルト云ハルルモ此ノ点ハ今読上ケタル第一点ノ通リニテ支那側立場ヲ明カニスル方法ハ別ニアルヘク若シ貴方ノ説ノ如クハ共同交渉ニ参加セサルトキハ日本ノ立場ハ反対ニ悪シクナル次第ナラスヤ日本ハ此ノ機会ニ条約効力問題ノ主張ヲ承認セシメントスルカ如キ特別意思ナク条約ニ関スル議論ハ解釈如何ハ別トスルモ覚書交換ニ依リ明カニシテ我方ハ右覚書ニ依リ実際的ニ条約交渉ヲ促進スルノ趣旨ニ依リ此ノ交渉ニ参加シ寧ロ交渉ノ促進ニ役ニ立タントスル趣旨ニ外ナラスト説キタルニ王ハ日本ノ条約問題ニ対スル立場ヲ諒解スルカ故ニ「ハーフウエー」ニ「ミート」スル趣旨ヲ以テ日本トハ別ニ交渉ニ応シ何等差支ナキ意思ヲ表示シタル次第ナリト答ヘタルニ付余ハ貴下ノ提案カ果シテ「ハーフウエー」ニ「ミート」セラルルコトトナルヤ疑問ナルカ法理論ヲ幾度繰リ返スモ同シコトナルカ故ニ我々ハ之ヲ打切リ今少シ実際的ニ考ヘラレテハ如何即チ法院ト云フ一ノモノニ付支那ハ他ノ六国ト交渉スルコトトナリ

又[4]日本トモ交渉スルノ用意アル際同一ノモノニ付テ如何ニシテ時ヲ異ニシ場所ヲ異ニシテ他ノ利益ヲ害スルコト無クシテ相談シ得ルヤ右ハ殆ト不可能ノコトナリ又実ニ不便至極ノコトニ非スヤ此ノ点ニ付テハ日本トシテモ日支関係ヲ顧慮シ条約交渉其ノ他ニ付充分促進ノ意嚮ヲ有スルコト御承知ノ通ニ付必スヤ有用ナル役目ヲ勤メ得ヘシト信スル趣旨ヲ述ヘタルニ王部長ハ此ノ問題ニ付キテモ別々ニ交渉出来ルト信スルノミナラス前述ノ通条約改正ニ対スル五年以来ノ自分ノ計画ハ確定的ニ定マリ其ノコトハ政府内外周知ノコトニシテ若シ日本ノ要求ヲ容ルルニ於テハ自分ハ従来ノ立場ヲ犠牲ニシ輿論ノ攻撃ヲ受ケ到底之ニ堪ユル能ハストテ各方面ヨリスル本官ノ説得ニハ遂ニ耳ヲ傾ケス本官ヨリ再考スル能ハストセハ尚少シ時間ヲ経テ考量ノ上回答セラレテハ如何ト言ヘルニ対シテモ此ノ点ニ対スル支那側ノ態度ハ確定的ニ変更スルコト能ハサルニ付外務大臣ノ要求ニ応シ難キヲ遺憾トスト述ヘ尚日支ノ関係ニ付テハ充分ニ考量ヲ要スルニ付本件ノ如キカ世間ニ論議セラルルハ不幸ナル結果ヲ齎スヘキニ付自分ハ公ニ成ラサル様努ムル方針ナリト述ヘタリ

北平ヘ転電シ南京ヘ暗送セリ





669　昭和4年11月22日　幣原外務大臣より　在上海横竹商務参事官　在ニューヨーク首藤（安人）商務書記官　宛（電報）

## 金解禁による財界への影響は余り大きくないとの予想について

本省　11月22日後発

合第六九一号

商電第一二号

財政ノ緊縮及国民消費節約ノ徹底ニ依リ貿易ハ十一月中旬迄ノ入超累計七千万円殖民地入超ヲモ加ヘ本年ノ入超額ハ貿易外受取勘定ヲ以テ相殺シ得ル程度ニ達シ為替好転、物価低落、事業緊縮、海外金利低下等内外ノ状勢ハ金輸出解禁実行ニ著ルシク好都合ト認メラレタルニ付二十一日政府ハ昭和五年一月十一日以降金銀輸出禁止ニ関スル大正六年大蔵省令第二六号同第二八号並同七年大蔵省令第三八号ヲ廃止スル旨ノ大蔵省令ヲ公布セリ。

政府及日銀所有ノ在外正貨十九日二億三千二百万円十二月末迄ノ受入豫定高ヲ併セ今後自由ニ処分シ得可キ在外資金ハ三億四百万円ニ達ス可ク外ニ正金ヲシテ英米両国ニ於テ合計一億円ノ「クレデイツト」ヲ設定セシメ正貨流出ニ対スル十分ノ手当ヲ行ヘリ。貿易ノ現状ヨリ観テ差当リ貿易尻決済資金ノ需要及為替思惑資金ノ回収セラル可キモノ左程大ナラサル可ク他方民間銀行ハ内地資金ノ海外流出抑制ニ関スル申合ヲ為セルヲ以テ海外金利ノ低下傾向モアリ今後巨額ノ正貨流出シ内地金利ノ昂騰スルカ如キ懼無カル可シ。

670　昭和4年11月24日　幣原外務大臣より　在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

## 今後の日中通商条約交渉等への影響もあり法院回収交渉参加問題については日中間で交渉する旨関係国代表へ通知方訓令

本省　11月24日後7時発

第三四二号（至急、極秘）

貴電第一二八〇号ニ関シ

王正廷ノ態度ハ上海発本大臣宛電報

第一三三四号ノ通ナルニ付此ノ際条約ノ効力問題ニ対スル支那側ノ反省ヲ求ムルハ法院ノ問題ハ兎ニ角条約交渉等将

来ノ為極メテ必要ト認ムルニ付之ガ為必要ナル交渉ヲ継続セザルヲ得ザルトコロ右交渉ハ相当長引クベキコト豫想ニ難カラザルニ付関係国ヲシテ支那側トノ交渉ヲ此ノ上遷延セシムルガ如キコトアルニ於テハ万一関係国ト支那トノ交渉思ハシカラザルニ至レル場合ニハ其ノ責任恰モ日本ニ在ルガ如ク誤キラルル恐無シトセズ

加之治外法権問題ニ付テハ英米ト日本トノ方針必ズシモ一致セザルモノアリ日本トシテハ或ハ独自ノ方針ニテ進マザルベカラザルヤモ知レザルニ依リ若シ法院問題ニテ此ノ際我ヨリ英米諸国ニ対シ強テ我ト歩調ヲ一ニセシメムトシテ其支援ヲ求ムルニ於テハ他日法権問題ニ付キ此等諸国ヨリ我方ヲシテ亦歩調ヲ一ニセシメムコトヲ求ムル場合我方トシテ甚シク困難ナル破目ニ陥ルコト無シトセズ就テハ貴官ハ関係国公使ニ対シ従来ノ好意ヲ謝スルト共ニ

「法院問題ノ支那側トノ交渉ニハ問題ノ性質上日本モ参加スルコト至当ト認メ日本ヨリモ交渉委員ヲ出スコトニ関係国ノ同意ヲ得其ノ旨首席公使ヲ経テ王正廷ニ通知スルコトトナリタルトコロ其ノ後ノ状況ハ時々内報シタル通ニシテ支那側ハ日本ノ参加ヲ峻拒シ居ル状況ナルニ付日本トシテハ関係国トノ当初ノ了解ニ基キ日本加入ノ問題ハ以後日支間ノ問題トシテ交渉ヲ継続スル覚悟ナルモ日支ノ此ノ交渉ノ為ニ累ヲ関係国ニ及スガ如キコト無キヲ希望スルニ付貴電第一二七二号ノ共同回答ニ対シ支那側ヨリ再ヒ日本ノ参加ヲ峻拒シ来ル場合ニハ日本トシテハ関係国ガ日本ト支那トノ交渉ニ顧慮スルコト無ク其ノ適当ト認メラルル措置ニ出テラルルニ対シ何等ノ異議無キ旨申述ベ置カレ度

上海、南京、奉天ニ転電セリ

671

昭和4年11月(24)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

**法権撤廃、内水航行権、租界回収等の中国側方針につき対抗策を講じ特に満洲確保のための警戒と用意が必要について**

上海　発
本省　11月24日後着
第*一三五二号

最近王外交部長トノ会談其ノ他ニ依リテ得タル所ヲ綜合シ主トシテ条約問題ニ関スル支那側ノ態度及王正廷ノ計画ニ





付左ノ通御参考ニ供ス

一、支那ハ相手国ヲ(a)条約未満期国（英米仏等六ケ国）(b)現状ヲ基礎トシテ事実上ノ交渉ヲ約束セル日本(c)来年一月一日ヨリ主義上ノ法権撤廃ヲ承認シ及平等条約ノ締結ヲ約束セル伊白等ノ五国（但シ本年一杯ハ法権ヲ認メ居ルモノ）(d)全然平等条約ヲ承認セル諸国トニ区別シ(c) class ノ諸国ニ対スル平等条約ハ最恵国約款ノ関係上ヨリ餘リニ条約締結ヲ急カス（最恵国約款ヲ無クスルカ少クトモ条件附約款トスルコトニ努力ス）全力ヲ挙ケテ(a)及(b) class ノ諸国トノ条約改正ニ当リ居ル処王正廷ノ計画トシテハ先ツ法権撤廃ニ全力ヲ注キ次ニ明年度ノ事業トシテ租界（上海ヲ除ク）ヲ回収シ内河航行権ヲ恢復シ更ニ進ンテ租借地（上海租界ヲ含ム）ノ回収ヲ企図シ居ルコト彼カ度々ノ口約ヲ声明及本官等ニ対スル談話ニ依リ明瞭ナル処

二、彼カ如何ナル手段ニ依リテ之ヲ遂行セントスルカ其ノ従来ノ遣口等ヨリ推測スルニ先ツ一方的ニ出来得ル丈広ク条約上ノ権利ヲ否認シ例ヘハ改訂期限到来ノ条約又ハ上海基礎法及臨時法院取極ハ勿論所謂二十一ケ条トシテノ日支条約（更ニ進ンテ或ハ北支事件諸条約及政治借款契約ノ如キモ其ノ形勢ノ推移如何ニ依リテハ同様手段ニ出スルヤモ計ラレス）ノ如シ之ニ対シ相手国ノ強硬ナル態度ニ逢フ時ハ其ノ鉾ヲ避クル為所謂事実問題トシテ現状維持ヲ承認シ之ヲ基礎トシ交渉ヲ急ク事ヲ要求シツツ或ハ自己ニ利益ナル場合ニハ自ラ交渉ヲ遅延セシメ（例ヘハ上海租界外道路問題）然ラサレハ遅延ノ責任ヲ他ニ転嫁シ自ラ「現状」ニ対シテハ自己ノ有利ニ絶ヘス事実上ノ変更ヲ加ヘント期シツツアル次第ナリ

三、法権撤廃ニ全力ヲ注キ居ル関係上昨今頻リニ明年ヨリ其ノ廃止ノ声明ヲ為ス事ヲ表示シテ一ノ探リヲ入レ居ルカ如キ処列国ニシテ不一致又ハ軟弱ノ態度ヲ採ルニ於テハ或ハ之ヲ実行シ一気ニ交渉ヲ有利ニ導カン事ヲ期スヘク若シ列国ノ態度強硬ナルニ於テハ法権問題交渉継続中ハ或ハ右ノ声明ヲ為スニ躊躇スヘキモ常ニ既成事実ヲ作リテ有利ノ立場ノ展開ヲ計ルハ明カニシテ又日本トノ交渉ニハ重キヲ置キ居ルハ事実ニシテ何トカシテ之ヲ成功セント総ユル苦肉ノ策ヲ講スルモ想像ニ難カラス

尚支那カ法権撤廃ニ付テ可成リ急進的計画ヲ持シ居ル関

係上臨時法院問題ニ付テモ容易ニ緩和シタル案ヲ認容スル事無カルヘシ

四、租借地及満鉄等ノ問題ニ付テハ差当リ条約問題ニ関聯シテ之ヲ討議セントノ意嚮ナキカ如キモ条約問題解決ヨリ延ヒテ租界問題ノ解決ヲ見ル等漸次所謂主権回復ノ事業進行スルニ於テハ必スヤ其ノ延長トシテ将来之等ノ問題モ提起セラルヘク之ニ対シテモ支那ハ他ノ問題ト同様ノ遣口ヲ以テ進ミ即チ条約無効論ヲ基礎トシ悪辣ナル宣伝等ニ依リ四囲ノ状況ヲ自己ニ有利ニ展開スルト共ニ常ニ既成事業ヲ自己ニ有利ニ拡張スルノ手段ニ訴フル事今後一層甚タシキヲ加フヘシ之ニ対シテ日本側トシテハ単ニ条約有効論ノミニ依ル事ナク更ニ進テ種々ノ対抗策ヲ講シ外国ヲシテ事態ヲ諒解セシムル為一層努力シ特ニ満洲ニ於テ支那側ニ種々ノ口実ヲ与ヘサル為今ヨリ充分ノ警戒及用意ヲ要スヘシ

五、上海租界ニ対シテモ根本法ヲ承認シ居ラサルヲ理由トシテ漸次実際的ニ（租界外道路其ノ他ノ如シ）「エンクローチ」シツツアルハ屢次報告ノ通ニテ又支那側ハ租界内印花税局ノ設置ノ如キ其ノ他所有ル手段ヲ以テ実権ヲ租界内ニ浸透シ事実上ノ蚕食ニ依リテ租界ノ回収ニ資セントシツツアル次第ナリ

672

昭和4年12月1日　藤田（謙一）日本商工会議所会頭より幣原外務大臣宛

## 産業貿易助長促進に関する建議について

日商発第三五三号　（昭和5年1月15日接受）

産業貿易助長促進ニ関スル建議

産業貿易ノ基礎ヲ確立シ其ノ発達振興ヲ図ル為メ之カ助長促進ノ方策ヲ樹テルコトノ緊要ナルハ多言ヲ待タズ今ヤ金解禁準備ノ一トシテ政府ヲ始メ民間各方面ニ於テモ公私経済ノ緊縮ニ鋭意シツツアルハ寔ニ機宜ノ措置ニシテ吾人ノ深ク共鳴スル所ナリト雖モ同時ニ産業及貿易ノ助長促進ニ関スル施設ニ努力スルコト又最モ肝要ナリ而シテ産業貿易ノ助長促進ニ関スル方策ハ多岐多端ニシテ或ハ政府ノ施設ニ待ツモノアリ或ハ地方自治体若クハ経済団体産業団体ノ施設ニ待ツモノアリ或ハ当業者自身ノ努力ヲ要スルモノアリ冀クハ官民一致夫々其ノ施設ニ努メ以テ我国産業貿易ノ発達振興ヲ期スル為メ左記方策中関係事項ノ実施ニ努メラ





レンコトヲ要望ス

第一部　輸出関係国トノ親善増進ノ方策

輸出貿易ノ振興発達ヲ図ラントスルニハ其ノ対手国トノ親善関係ヲ保持増進スルコトヲ緊要トスルヲ以テ左記各項ノ方策ヲ実行スルコト

第一、一般輸出関係国トノ親善増進ニ関スル方策

㈠政府当局ニ於テハ一般輸出関係国トノ親善増進ノ為メ領事官、商務官等ニ関シ左ノ方策ヲ実行セラレタキコト

一、我国輸出貿易ニ密接ナル関係ヲ有スル諸国ニ対スル領事官及商務官等ハ貿易進展上豊富ナル智識経験ヲ有スル適材ヲ厳選任用シ長ク同一地方ニ駐在セシメ且適当ナル豫算ヲ計上シ積極的ニ有力ナル外商ト親交ヲ結ヒ彼我緊要ナル経済上ノ意見ノ交換、意思ノ疎通ニ遺憾ナカラシメ以テ輸出取引ノ保護進展最善ヲ期セシメラレタキコト

二、現ニ輸出貿易上重要ナル関係ヲ有シ若クハ将来輸出販路ノ開拓上重要ナル関係ヲ有スル諸国ニシテ本邦領事官及商務官ノ配置ヲ缺ク地方ナキニアラス是等ノ諸地方ニ対シテハ適宜其ノ増設ヲ図ラレタキコト特ニ南北米西海岸、南阿、「バルカン」、南洋等ノ主要市場及奉天ニ商務官又ハ之ニ代ルヘキ機関ヲ設置セラレタキコト

㈡各商工会議所ニ於テハ一般輸出機関国トノ親善増進ノ為メ前記政府ノ施設ト相呼応シテ左ノ方策ヲ実行スルコト

一、駐日各国大公使、領事、商務官ヲ始メ其ノ他有力ナル貿易関係ノ外商ト懇談会ヲ催シ相互ノ理解ヲ図リ彼我両国ノ貿易促進ニ努ムルコト

二、会議所自ラ視察団ヲ組織シ若クハ同業組合其ノ他ノ実業団体ニ対シテ視察団ノ組織ヲ斡旋シ時々海外各地ニ派遣シ貿易促進上必要ナル智識ノ修得並ニ彼我両国実業家ノ交驩了解ニ努ムルコト

第二、日支両国ノ親善増進ニ関スル方策

日支両国ノ経済的利害ハ唇歯輔車ノ関係ニアルヲ以テ対支貿易乃至経済ニ関シテハ特ニ慎重考慮ノ上左ノ各項ヲ実行スルコト

㈠政府当局ニ於テハ対支経済及貿易上特ニ左ノ方策ヲ実行セラレタキコト

一、我国対支外交ヲシテ政争圏外ニ超越セシメ国策上ノ

見地ヨリ其ノ根本方針ヲ確立シ各政党及全国民ノ後援ヲ得テ終始一貫其ノ達成ヲ図ルコトニ努力セラレタキコト

二、東三省ハ我国ト特殊関係存スルヲ以テ之カ経済上ノ権益ヲ確得スル為メ挙国一致ノ後援協力ヲ促進シ之カ開発進展ニ遺憾ナキヲ期セラレタキコト

三、支那各地ニ於ケル暴力ニ依ル排日貨運動ハ最近一時終熄ヲ見タルモ国民党本部ハ更ニ日支通商条約ノ改訂商議ヲ有利ニ転回セシメンカ為メ日貨排斥ノ常套手段ニ出デントスル形勢アリト伝ヘラル不幸ニシテ排貨運動再燃センカ或ハ外交上重大危機ニ陥ルノ虞レナシトセズ彼等排日団体ノ暴状ニ至リテハ国際的戦争以上ニ相互国民ノ生命、財産ニ対スル危害損失甚大ナルモノアリ且ツ日支両国相互ノ産業貿易ノ発達ヲ阻止スルノミナラズ国際正義ニ反スル不法行為タルカ故ニ世界永遠ノ平和確保ト国際通商自由障礙除去ノ精神ニ依リ是等暴的行動ノ絶滅ヲ期セラレタキコト

(二)各商工会議所ニ於テハ対支経済的提携ノ根底ハ共存共栄ヲ基調トシ日本自身ノ為メニモ将又支那自身ノ為メニモ其ノ実現ハ相互ニ有利且緊切ナル所以ヲ特ニ支那要路並ニ有力実業家ニ理解セシムル為メ絶ヘス適当ナル機会ヲ利用シ前記政府ノ施設ト相呼応シテ左記ノ方法ニ依リ合理的ニ之カ徹底ヲ期スルコト

一、支那訪問実業団ヲ組織シ派遣スルコト

二、上海其ノ他各地ノ有力実業家ヨリ成ル日本訪問実業団ヲ迎フルコト

三、実業家、青年学生並ニ宗教家等ヲ以テ相互訪問ノ聯宜団ヲ設クルコト

第二部　輸出品工業ノ発達並ニ海外市場開拓ノ方策

第一、政府当局ニ於テハ輸出品工業ノ発達ト海外市場ノ開拓トニ資セシムル為メ左記各項ノ方策ヲ実行セラレタキコト

(一)海外市場ニ於ケル顧客ノ欲求、嗜好、流行ノ変遷及需要商品ノ用途ニ関スル周到適確ナル研究ヲ遂ゲ以テ輸出品ノ生産及販売ニ関シ常ニ是等各地ニ対スル需給ノ実際ニ適応シ得ル為メ政府当局ニ於テハ左ノ方策ヲ実行セラレタキコト

一、政府派遣ノ貿易通信員カ漸次海外各地ニ増員サレツツアルハ最モ機宜ヲ得タル措置ナリト雖モ更ニ必要ニ応ジテ業種別通信員ヲ各地ニ増置シテ貿易ノ立体的通信網ヲ充実セシメ以テ海外市場関係地ノ一般的経済事情及其ノ統計資料、本邦品ノ需要関係、商品取引関係、外国製品トノ競争関係、新販路ノ開拓方法等ニツキ商機ヲ逸セザル様適切緊要ナル報告ヲ関係当業者ニ向ツテ為サシメ且ツ営業者ノ希望ニ依リ商取引ノ仲介ヲモ為サシメラレタキコト

二、貿易振興上ニ必要ナル実務知識ヲ有スル人材極メテ稀ナル事実ニ鑑ミ此際各関係学校ノ教授法及教科目ヲ改善シ適当ナル人材ノ養成ニ留意セラレタキコト

(二)不正品ノ絶滅ヲ期スル為メ輸出商品ニ対シテハ必ズ商標ヲ附セシメ且公ノ検査所ニ於テ検査ヲ受ケシムルコト、シ同時ニ信用確実ナル商標ヲ附セル優良商品ニ対シテハ商品検査ノ手数ヲ省略シテ良品輸出奨励ノ目的ニ合致スル商標検査制度ニ依ルベキ除外例ヲ設ケ其ノ責任ノ所在ヲ明確ニシテ以テ輸出手続ノ円滑ヲ図ラレタキコト

(三)政府当局ニ於テハ国際見本市、海上展覧会、巡回展覧会等ヲ適宜ニ開催シ且海外諸国ニ於ケル国際見本市ニ参加スルノ方法ニ依リ優良邦品ノ宣伝並ニ販売上ニ有効ナラシムルト共ニ又海外日本品陳列所日本商品館ノ内容ヲ益々充実改善シ常ニ最新製品ヲ網羅セシメ且取引ノ仲介商品ノ宣伝等ニ対シ一層積極的ニ尽力斡旋セシメラレタキコト

(四)輸出商品ニ関シ十分ナル知識ト経験ヲ有シ且ツ語学ニ熟達セル旅商ヲ其ノ関係商品未開拓ノ地方ニ派遣スルハ邦品ノ紹介並ニ販路獲得上効果顕著ナルモノアルベキモ従来ノ方法ニテハ遺憾ノ点ナキニアラズ依テ日本商工会議所ハ各地商工会議所ト協力シテ将来適当ナル地域及ビ実際販路拡張ヲ希望スル実力アル当業者ノ店員中ヨリ適当ナル派遣員ヲ厳選ノ上推薦スルコト、シ政府当局ニ於テハ之ニ対シ相当ノ旅費補助ノ方法ニ依ル旅商派遣ノ制度ヲ復活セラレタキコト

(五)産業貿易関係者ニ対シ新聞雑誌其他ノ印刷物等ニ依リ虚構ノ記事ヲ捏造シ以テ当業者ノ商取引上重大ナル信用ヲ毀損シ不慮ノ損失ヲ与ヘントスル如キ不正悪徳行為ヲ防止スル為メ適切ナル取締方法ヲ実施セラレタキコト

(六)産業振興ノ為メ将又失業防止ノ為メ此際輸出貿易促進ニ

緊要ナル関係ヲ有スル各省貿易機関ヲ統一シテ其ノ充実ヲ図ルト共ニ更ニ各主要府県ニ産業貿易部ヲ新設シ此際中央地方相呼応シテ官民一致ノ下ニ其ノ目的達成ニ努メラレタキコト

(七)現在ニ於ケル重要輸出品ハ勿論将来輸出増加ノ見込アル商品ニ対シテモ官民一致ノ下ニ特ニ詳細ナル調査ヲ遂ゲ以テ其ノ生産及輸出ノ振興ニ関スル方策ヲ確立セラレタキコト

第二、各商工会議所ニ於テハ輸出品工業ノ発達並ニ海外市場ノ開拓ヲ図ル為メ前記政府ノ施設ト相呼応シテ左ノ方策ヲ実行スルコト

(一)優良品廉価生産ヲ行ヒ輸入ヲ防止シ輸出ヲ促進スル為メ凡テノ冗費ヲ省除シ生産並ニ販売ノ合理化ヲ徹底セシムル必要アルヲ以テ之カ組織及ビ経営管理ノ改善ニツキ各商工会議所ハ関係当業者ノ注意ヲ喚起スルコト

(二)同業者相互ノ信用ヲ尊重シ取引上ノ妨害行為ヲ戒メ国家的見地ヨリ市場開拓ニ相互密接ニ協力援助スルコトヲ各関係団体ニ勧奨スルト共ニ必要ノ場合ハ更ニ一層積極的ニ紛議調停及協力促進ニ有効ナル手段ヲ採ルコト

(三)各商工会議所ハ府県市ト協力シテ金融業者ト商工業者（生産、販売両業者）ノ懇談会ヲ時々開催シ輸出促進上ノ意見ヲ交換シ又生産者ト貿易業者原料供給者ト輸出品生産者トノ各懇談会ヲモ随時開催シ一致協力ノ下ニ適当ナル輸出促進ノ具体的実行案ヲ作成スルコト

(四)海外販路調査ハ之ヲ政府又ハ専門通信関係者ノ努力ニ俟ツコト大ナルハ勿論ナルモ実業家自身又独自ノ立場ヨリ頻繁ニ輸出関係地ノ実況ヲ視察シ以テ販路ノ維持並ニ拡張ニ資セシメ尚ホ各商工会議所ヨリモ時々議員、職員中ヨリ若干名ヲ主ナル貿易関係地ニ派遣スルコト

右本会議所総会ノ決議ニ依リ建議仕候也

昭和四年十二月一日

日本商工会議所

会頭　藤田　謙一〔印〕

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

673

昭和4年12月19日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

**中国の輸入税則善後章程改正を列国は承認日本は単独交渉を余儀なくされたるについて**

北平　12月19日後発

本省　12月19日後着

第一三三八号

本月十日附機密第一一三四号拙信ニ関シ

(一)其ノ後外交団回章第一六九ニ対シ米国代理公使ハ嚮ニ本国政府ニ対シ改正規則ノ(一)(五)(六)(九)ノ各項ニ付請訓シタルニ対シ本国政府ヨリ新規則ノ実施ニ抗議スルノ理由ヲ見出シ得ストノ趣旨ノ回訓アリタルニ顧ミ(三)(四)項ニ対スル米国政府ノ態度モ恐ラク右ト同様ナルヤニ認メラルトノ「オブザーベーション」ヲ附記シタルカ

(二)十七日首席公使ヨリ上海首席領事ニ対スル回訓案ヲ作成シ先ツ本官ヘ回覧ニ附シ来レル処其ノ要領ハ(イ)列国中大部分ハ支那ノ関税自主権ヲ承認シタルニ鑑ミ此ノ際外交団ヨリ支那政府ニ何等申入ヲ為スモ有効ナル結果ヲ収メ得ヘキヤ疑ハシク(ロ)殊ニ支那海関ハ所有ル場合ニ改正規則ヲ厳格ニ適用セムトスル意嚮トハ認メラレス単ニ他国ノ一般取扱振リ同様或ル場合ニ限リ之カ実施ノ権限ヲ留保シ居ルニ過キサルヘシト認メラルト云フニアリ

(三)本官ハ前顕(イ)中関税自主権云云ノ文字ヲ我方ノ立場ト両立セサルモノアルヤニ思考シタルニ付之ヲ削除セシメ単ニ「同僚ノ大部分ハ此ノ際外交団ヨリ支那政府ニ何等申入ヲ為スモ有効ナル結果ヲ収メ得ヘキヤ疑ハシク思考ス」ト修正方首席公使ニ内談ノ結果右ニ修正済ミノ回章十八日改メテ回覧ニ接シタルニ付回訓案ニ同意ノ旨附記シ置ケリ

(四)貴電第三二八号御訓令ノ趣旨ハ回章第一六九ニ対スル「オブザーベーション」ヲ以テ既ニ之ヲ明示シタル次第ニテ本件ニ関シテハ之以上列国ト共同措置ノ見込ナキ状態トナリタルニ付テハ我方トシテハ今後単独ニ総税務司ニ対シ何等カノ措置ヲ採ルノ外無キヤニ存セラル

上海、南京、天津、漢口へ転電セリ

674

昭和4年12月24日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛

**内河航行権回収等に関する王外交部長演説要旨について**

機密送第八七六号

昭和四年十二月二十四日

在南京
領事　上村　伸一

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

内河航行権回収其他ニ関スル王正廷ノ演説要旨報告ノ件

十二月二十三日外交部ニ於テ開催シタル外交紀念週席上王正廷ハ内河航行権回収、露支交渉問題並其他ニ関シナセル演説ノ大要ハ不取敢往電第一二八六号ヲ以テ及報告置タル処詳細左ノ通

記

一、内河航行権及租界租借地ノ回収並外国駐屯軍ノ撤廃実行ハ民国十九年度ニ於ケル外交部ノ重要工作ニシテ其中

（一）内河航行権問題ノ最モ深キ関係ヲ有スルハ日英両国ナル処日本トノ協約ハ既ニ満期ニ到達シ居ルノミナラス英国側ヨリハ早クヨリ改訂ヲ声明シ居レハ右両国共同シクサシタル問題ナク解決スルモノト思考セラル（二）租界租借地ノ回収ニ関シテハ天津、漢口、厦門等ノ各地ニ於ケルモノハ外人ノ利害関係比較的少キタメ回収実現モ左程難事トハ思ハレサルモ只上海公共租界ノ回収ハ旅順、大連及南満鉄路沿線附属地ト同様甚タシク複雑困難ナルヲ免レサルカ如シ従テ吾人ハ将ニ統一ノ思想ト統一ノ精神トヲ以テ一々右ノ目的達成ニ猛進スルコトヲ期セサルヘカラス

又威海衛、広州灣等ノ租借地回収ハ前記天津其他ニ於ケルト同シク容易ナリ尚（三）外国駐屯軍ノ撤去実行ハ北京政府カ既ニ南京ニ遷リ駐屯ノ根本理由ヲ失ヒタル今日速ニ撤退セラルヘキ性質ノモノニシテ此点ハ米国カ日英仏等各国ニ卒先シテ僅カニ公使館保衛隊ヲ除キタル大部分ヲ撤兵シタルカ如キ正ニ列国ノ取ルヘキ範タルヲ失ハサルナリ云々

二、本年度（民国十八年）ニ於ケル最モ困難且ツ重大ナル工作ハ即領事裁判権ノ撤廃ニシテ之カ為国内同志カ能ク一致シ傾注シタル誠心努力ハソノ功空カラス明年一月一日ヨリハ必ラス何等具体的効果トナリテ現ハルヘク中国カ総理ノ所謂次殖民地ヨリ完全ナル独立国家ノ地位ヲ確保シ得ル第一段ノ階程モ近ク実現セラルニ至ルヘシ

三、日本電報通信社ノ懲罰ニ付テハ同社カ久シク反動派ノ宣伝ニ従事シ徒ラニ治安ヲ紊ス報道ヲ弄フヲ以テ曾テ本部ヨリ日本領事ニ非正式抗議ヲ申込ムト同時ニ駐日汪公使ヲ通シ取締方日本政府当局ニ申入レシメタルコトアリ何レノ国ト雖モ内乱陰謀者ハ之ヲ齎（斉カ）シク処罰スルト同時ニ一方之カ助長者ヲ一律ニ相当処分スルハ通例トスル所ニシテ何等ノ異例無シ仍テ本部ハ電通社ニ対シテ今回政府所有ノ有線電信及電話ニ依ル発信ヲ拒絶スルコトトシタル次第ナリ

四、各省特派交渉員ハ二三特別ノ事情アル省ノ撤去ヲ延期スル外一律ニ十二月末日限リ撤廃スルコト豫定ノ通リナルカ撤廃機関ノ職員ニ付テハ夫々各方面ニ適宜地位ヲ与フルコトニ努力中ナリ

五、露支交渉ニ関シ世間或ハ奉露単独交渉ナルカ如ク誤解スル向アル処右ハ勿論中央ノ指示ヲ一々遵守シ居リ殊ニ張學良ハ既ニ国民政府委員ニ列シ大義ニ明ク国情ヲ悉ニシ東三省ハ中国ノ一部ナルコト従テ露支交渉ハ全国的問題ニシテ地方的問題ニ非サルコトヲ知悉シ居レハ素々単独交渉等ト謂フカ如キ説ノ出ツル筈無キ事情ニ在リ誤解無キコトヲ望ム次第ナリ云々

右報告ス

本信写送付先　公使　各総領事　杭州　蘇州　長沙　九江
重慶　汕頭　厦門

675

昭和4年12月30日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

## 中国国定税率問題等に関する宋財政部長との会談について

上　海　12月30日後発
本　省　12月31日前着

第一四八九号

三十日大村ノ報告ニ依レハ同人宋子文ト会見ノ際国定税率問題ニ付尋ネタル処宋ハ実ハ国定税率草案ハ既ニ作成済ナルカ之カ実施ニ付テハ是非トモ日本側トモ協議スルヲ要スル次第ニテ自分トシテモ之ヲ希望シ居レリ然ルニ他方若シ目下ノ状態ニテ進マハ結局二月一日トナリテ自分ニ於テ右国定税率ヲ実行セサルヘカラサル羽目ニ強制セラルルコトトナルハ明カナルカ故ニ自分ハ当分中央ノ会議ニモ出席セサル積リニシ居レリト語リタルニ付大村ヨリ本問題ニ付テ

ハ出来ル丈ケ速ニ日支間ニ話ヲ始ムルコトヲ要スル処支那側ハ斯カル話ノ出来サルカ如キ事態ヲ作リタル次第ナルカ公使任命ノ問題ハ支那側ニ於テ結局如何ニ処理スル考ナリヤトテ其ノ思付ニ依リ尋ネタルニ宋ハ公使ノ問題ハ既ニ挽回スルノ望殆トナキ様自分ハ思ヒ居ルモ税率ノ問題等ニ付テハ何等カ非公式ニテモ交渉ヲ行フ様ナ方法ナキモノナリヤト語リ居タル趣ナリ

奉天、南京、在支公使へ転電セリ





## 付一　綿糸統一税問題

676

昭和4年8月(27)日　在上海重光総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

### 宋財政部長より船津に対し在華紡製品に統税賦課方直接依頼について

上海　発
本省　8月27日後着

第一〇一七号

一、最近宋子文ヨリ船津ニ対シ日本ノ在支紡績会社ノ製品ニ対シ英米煙草会社ト同様ノ趣旨ヲ以テ出場税ヲ課シタキニ付税額ヲ適当ニ折合ヒテ承諾シ呉レ間敷キヤト再三申出アリタルニ付船津英米煙草会社ノ例ニ付反問セル処宋ハ其ノ概略ヲ説明シ詳細ハ同会社ニ就キ取調アリタシト述ヘタルヲ以テ船津ハ自分トシテハ先ツ総領事ト相談シ篤ト研究シタル上御答スヘシト答ヘタルニ宋ハ総領事ヤ公使ニ相談セハ承認セラレヌコト明白ナリ然ラハ支那側トシテハ已ムヲ得ス適当ト信スル課税ヲ定ムルノ外ナキニ至ルヲ以テ夫レヨリモ直接当業者方面ト協議シテ税額モ適当ニ折合ヒタキ意嚮ニテ斯ク御相談スル次第ナリト語リタル由ナリ

二、船津ハ其ノ後英米煙草ニ就キ取調ヘタル処同社ハ本件ニ関シ支那政府ト詳細ナル取極ヲ為シ居ルコト判明セルカ右ニ依レハ課税額及課税方法等ニ付テモ明細ナル規定アリ同社ハ之ニ基キ目下毎月二百万弗ヲ支出シツツアリ且同社ハ右出場税ノ納付ニ依リ南京政府ノ威令行ハルル限リノ支那何レノ地ニ於テモ釐金其ノ他ノ諸税課徴ヲ免セラルルコトトナリ居リ又会社ト支那政府トノ関係極メテ密接トナリ「ストライキ」其ノ他労働争議ノ発生ニ依リ会社側ニ不利益ヲ来ス場合ハ直接支那政府ノ収入ニ悪影響ヲ及ホス関係上同社ノ経営特ニ支那人労働者ニ対スル関係等ハ極メテ具合ヨク取運ハレツツアルコトヲ確カメ得タル趣ナリ

三、右ニ関シ二十六日当地関係当業者会合ノ上右ハ日本側不承諾ノ為支那政府ニ於テ一方的ニ課税ヲ為シ結局抗議附ニテ納付スルヨリモ種々ノ点ニ於テ利益アルコトヲ考慮シ一応支那側ノ具体的希望案ヲ承知シタキ旨宋子文ニ申入ルルコトトナリタル由ナリ